

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第135集

開<sup>かい</sup>戸<sup>と</sup>田<sup>だ</sup>遺跡 跡  
樋<sup>ひ</sup>村<sup>むら</sup>遺跡 跡Ⅲ  
扇<sup>おうぎ</sup>田<sup>だ</sup>遺跡 跡

長野県佐久市平賀開戸田遺跡・樋村遺跡Ⅲ発掘調査報告書  
内山扇田遺跡発掘調査報告書

2006.3

佐久建設事務所  
佐久市教育委員会

かい 戸 だ 遺 跡  
ひ 村 遺 跡 III  
おうぎ 田 遺 跡

長野県佐久市平賀開戸田遺跡・樋村遺跡Ⅲ発掘調査報告書  
内山扇田遺跡発掘調査報告書

2006.3

佐久建設事務所  
佐久市教育委員会



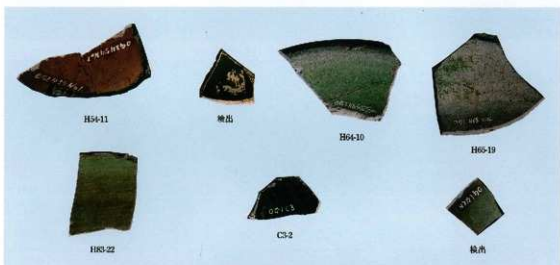
佐久市周辺航空写真（南から） ●左から額村道終点・関戸田道跡、扇田道跡は僅かに写真枠外



周辺航空写真 ●左から関戸田道跡・扇田道跡



扇田遺跡出土緑釉陶器（外面）



扇田遺跡出土緑釉陶器（内面）



扇田遺跡H77号住居址出土線刻土器（外面）



扇田遺跡H77号住居址出土線刻土器（内面）



## 例 言

- 1 本書は佐久建設事務所による国補道路改築（国）254号佐久平賀バイパス事業に伴う開戸田遺跡・極村遺跡Ⅲ・扇田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市跡部65-1 佐久建設事務所
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会  
教育長 高柳 勉（平成14～16年度）  
三石 昌彦（平成17年度）
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地  
開戸田遺跡（HK I）  
佐久市平賀字開戸田  
極村遺跡群 極村遺跡Ⅲ（HHMⅢ）  
佐久市平賀字極村  
扇田遺跡（OG I）  
佐久市内山字扇田
- 5 調査担当者 現場作業 平成14年度 上原 学 富沢 一明 平成15・16年度 上原 学  
平成17年度 上原 学 小林 眞寿 佐々木宗昭  
整理作業 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。  
H－竪穴住居址 F－掘立柱建物址 M－溝状遺構 D－土坑 P－ピット TO－特殊遺構  
C－炭・鍛冶関連遺構
- 2 スクリーントーン表示は以下の通りである。



- 3 挿図の縮尺は以下の通りである。  
遺 構 竪穴住居址・掘立柱建物址 1/80 溝状遺構 1/240・1/80 ピット 1/100  
特殊遺構 1/80・1/40 畝状遺構 1/160  
遺 物 土師器・須恵器 1/4 石器 1/6・1/4・1/2・1/1 玉類 1/1 鉄製品 1/4
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 6 土層・遺物の色調は「新版 標準土色帖」による。
- 7 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
- 8 住居址の区割りは上を北とし、北東隅から逆時計回りである。

# 目 次

## 例言・凡例

## 目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯			
第1節 立地と経過	1		
第2節 調査体制	2		
第3節 遺跡の概要	2		
第Ⅱ章 遺跡の環境			
第1節 自然環境	7		
第2節 周辺遺跡	10		
第3節 基本層序	14		
第Ⅲ章 開戸田遺跡			
第1節 竪穴住居址 (H)			
H 1号住居址	15	H 2号住居址	18
H 4号住居址	22	H 5号住居址	24
H 7号住居址	28	H 8号住居址	30
H 10号住居址	33	H 11号住居址	34
H 13号住居址	38	H 14号住居址	40
H 16号住居址	42	H 17号住居址	43
H 19号住居址	46	H 20号住居址	50
H 3号住居址		H 6号住居址	25
H 9号住居址		H 12号住居址	31
H 15号住居址		H 18号住居址	44
第2節 掘立柱建物址 (F)			
F 1号掘立柱建物址	51	F 2号掘立柱建物址	52
F 3号掘立柱建物址			52
第3節 特殊遺構 (TO)			53
第4節 溝跡 (M)			
M 1号溝跡	55	M 2号溝跡	55
M 4号溝跡	56	M 5号溝跡	56
M 3号溝跡		M 6号溝跡	58
第5節 ビット (P)			59
第6節 畝状遺構			61
第7節 遺構外遺物			61
第8節 トレンチ調査出土遺物 (包含層)			63
第Ⅳ章 樋村遺跡Ⅲ			
第1節 竪穴住居址 (H)			
H 1号住居址	65	H 25号住居址	67
H 36号住居址	69	H 31号住居址	68
第2節 上坑 (D)			
D 1・2・3号土坑			69
第Ⅴ章 扇田遺跡			
第1節 竪穴住居址 (H)			
H 1号住居址	70	H 2号住居址	71
H 3号住居址			72

H 4 号住居址	74	H 5 号住居址	74	H 6 号住居址	77
H 7 号住居址	78	H 8 号住居址	79	H 9 号住居址	80
H 10 号住居址	80	H 11 号住居址	81	H 12 号住居址	83
H 13 号住居址	85	H 14 号住居址	86	H 15 号住居址	87
H 16 号住居址	87	H 17 号住居址	89	H 18 号住居址	90
H 19 号住居址	91	H 20 号住居址	92	H 21 号住居址	94
H 22 号住居址	94	H 23 号住居址	95	H 24 号住居址	95
H 25 号住居址	97	H 26 号住居址	98	H 27 号住居址	99
H 28 号住居址	100	H 29 号住居址	101	H 30 号住居址	103
H 31 号住居址	104	H 32 号住居址	107	H 33 号住居址	107
H 34 号住居址	108	H 35 号住居址	109	H 36 号住居址	110
H 37 号住居址	111	H 38 号住居址	112	H 39 号住居址	112
H 40 号住居址	113	H 41 号住居址	114	H 42 号住居址	115
H 44 号住居址	115	H 45 号住居址	116	H 46 号住居址	117
H 47 号住居址	118	H 48 号住居址	119	H 49 号住居址	120
H 52 号住居址	121	H 53 号住居址	122	H 54 号住居址	123
H 55 号住居址	124	H 56 号住居址	125	H 57 号住居址	126
H 58 号住居址	127	H 59 号住居址	128	H 60 号住居址	129
H 61 号住居址	130	H 62 号住居址	130	H 63 号住居址	131
H 64 号住居址	134	H 65 号住居址	135	H 66 号住居址	136
H 68 号住居址	139	H 70 号住居址	140	H 71 号住居址	141
H 72 号住居址	141	H 73 号住居址	142	H 74 号住居址	143
H 75 号住居址	143	H 76 号住居址	147	H 77 号住居址	148
H 78 号住居址	149	H 79 号住居址	150	H 80 号住居址	150
H 81 号住居址	151	H 83 号住居址	152	H 84 号住居址	154
H 85 号住居址	154	H 86 号住居址	155	H 87 号住居址	155
H 88 号住居址	155	H 89 号住居址	157	H 91 号住居址	158
H 92 号住居址	159	H 93 号住居址	160	H 94 号住居址	160
H 95 号住居址	161	H 96 号住居址	162	H 97 号住居址	162
H 98 号住居址	162				

## 第2節 掘立柱建物址 (F)

F 1 号掘立柱建物址	163	F 2 号掘立柱建物址	163	F 3 号掘立柱建物址	164
F 4 号掘立柱建物址	164	F 5 号掘立柱建物址	165	F 6 号掘立柱建物址	165

## 第3節 炭・鍛冶関連遺構 (C)

C 1 号炭関連遺構	165	C 2 号鍛冶関連遺構	166	C 3 号鍛冶関連遺構	166
C 4 号鍛冶関連遺構	166				

## 第4節 上坑 (D)

D 1～D 8 号上坑	167	D 9～D 15 号上坑	168	D 16～D 24 号上坑	169
D 25～D 30 号上坑	170				

## 第5節 溝跡 (M)

M 1 号溝跡	173	M 2 号溝跡	173
---------	-----	---------	-----

## 第6節 ビット (P)

					176
--	--	--	--	--	-----

## 第7節 遺構外遺物

					177
--	--	--	--	--	-----

まとめ

第1図	発掘調査位置図(1:100,000)	1	第74図	D1・2・3号土坑実測図	69
第2図	南戸田遺跡・扇田遺跡調査区全体図	3	第75図	H1号住居址実測図	70
第3図	南戸田遺跡・扇田遺跡調査位置図	5	第76図	H1号住居址遺物実測図(1)	70
第4図	下川川橋合図	9	第77図	H1号住居址遺物実測図(2)	71
第5図	造跡周辺の地図	9	第78図	H2号住居址実測図	71
第6図	周辺遺跡地図(1)	12	第79図	H2号住居址遺物実測図	72
第7図	周辺遺跡地図(2)	13	第80図	H3号住居址実測図	73
第8図	基本原子様式図	14	第81図	H3号住居址遺物実測図	73
第9図	南戸田遺跡		第82図	H3号住居址実測図	74
第10図	H1号住居址遺物実測図(1)	15	第83図	H3号住居址実測図	75
第11図	H1号住居址遺物実測図(2)	16	第84図	H5号住居址遺物実測図(1)	75
第12図	H2号住居址・遺物実測図	17	第85図	H5号住居址遺物実測図(2)	76
第13図	H2号住居址・遺物実測図	18	第86図	H6号住居址実測図	77
第14図	H3号住居址遺物実測図	18	第87図	H6号住居址遺物実測図	78
第15図	H4号住居址実測図(1)	22	第88図	H7号住居址実測図	78
第16図	H4号住居址実測図(2)	23	第89図	H7号住居址遺物実測図	79
第17図	H4号住居址遺物実測図	23	第90図	H8号住居址・遺物実測図	79
第18図	H5号住居址実測図	24	第91図	H9号住居址・遺物実測図	80
第19図	H5号住居址遺物実測図	25	第92図	H10号住居址実測図	81
第20図	H6号住居址実測図	26	第93図	H10号住居址遺物実測図	81
第21図	H6号住居址遺物実測図	27	第94図	H11号住居址実測図	82
第22図	H7号住居址実測図	28	第95図	H11号住居址遺物実測図(1)	82
第23図	H7号住居址遺物実測図	29	第96図	H11号住居址遺物実測図(2)	83
第24図	H8号住居址実測図	30	第97図	H12号住居址実測図	84
第25図	H8号住居址遺物実測図	31	第98図	H12号住居址遺物実測図(1)	84
第26図	H9号住居址・遺物実測図	32	第99図	H12号住居址遺物実測図(2)	85
第27図	H9号住居址遺物実測図	33	第100図	H13号住居址実測図	85
第28図	H10号住居址・遺物実測図	34	第101図	H13号住居址遺物実測図	86
第29図	H11号住居址実測図	35	第102図	H14号住居址・遺物実測図	87
第30図	H11号住居址遺物実測図(1)	35	第103図	H15号住居址・遺物実測図	87
第31図	H11号住居址遺物実測図(2)	36	第104図	H16号住居址・遺物実測図	88
第32図	H12号住居址・遺物実測図	37	第105図	H17号住居址実測図	89
第33図	H13号住居址・遺物実測図	38	第106図	H17号住居址遺物実測図	89
第34図	H13号住居址遺物実測図	39	第107図	H18号住居址実測図	90
第35図	H14号住居址・遺物実測図	39	第108図	H18号住居址遺物実測図	91
第36図	H15号住居址実測図	40	第109図	H19号住居址実測図	91
第37図	H15号住居址遺物実測図(1)	41	第110図	H19号住居址遺物実測図	92
第38図	H15号住居址遺物実測図(2)	42	第111図	H20号住居址・遺物実測図	93
第39図	H16号住居址・遺物実測図	43	第112図	H21号住居址実測図	94
第40図	H17号住居址・遺物実測図	44	第113図	H22号住居址実測図	94
第41図	H18号住居址実測図	45	第114図	H22号住居址遺物実測図	95
第42図	H18号住居址遺物実測図	46	第115図	H23号住居址実測図	95
第43図	H19号住居址実測図	47	第116図	H24号住居址実測図	96
第44図	H19号住居址遺物実測図(1)	48	第117図	H24号住居址遺物実測図	96
第45図	H19号住居址遺物実測図(2)	49	第118図	H25号住居址・遺物実測図	97
第46図	H20号住居址・遺物実測図	50	第119図	H25号住居址・遺物実測図	98
第47図	H20号住居址遺物実測図	51	第120図	H27号住居址実測図	99
第48図	F1号孤立柱建物址実測図	51	第121図	H27号住居址遺物実測図	100
第49図	F1号遺物実測図	51	第122図	H28号住居址・遺物実測図	100
第50図	F2号孤立柱建物址実測図	52	第123図	H29号住居址実測図	101
第51図	F3号孤立柱建物址実測図	52	第124図	H29号住居址遺物実測図	102
第52図	T01号特殊遺構実測図	53	第125図	H30号住居址実測図	103
第53図	T01号特殊遺構臺石	54	第126図	H31号住居址実測図	104
第54図	M1・2・3号溝跡・M3号溝跡遺物実測図	55	第127図	H31号住居址遺物実測図(1)	105
第55図	M4・5号溝跡・底地実測図	56	第128図	H31号住居址遺物実測図(2)	106
第56図	M4・5号溝跡遺物実測図	57	第129図	H32号住居址・遺物実測図	107
第57図	M6号溝跡・遺物実測図	58	第130図	H33号住居址実測図	107
第58図	ピット・遺物実測図	59	第131図	H33号住居址遺物実測図	108
第59図	ピット・遺物実測図	60	第132図	H34号住居址・遺物実測図	109
第60図	竈状遺構実測図	61	第133図	H35号住居址実測図	109
第61図	遺構外遺物実測図	61	第134図	H35号住居址遺物実測図	110
第62図	遺構外石器実測図	62	第135図	H36号住居址・遺物実測図	110
第63図	遺構外鉄器実測図	63	第136図	H37号住居址実測図	111
第64図	トレンチ調査遺物実測図	63	第137図	H37号住居址遺物実測図	111
第65図	トレンチ調査石器実測図	64	第138図	H38号住居址実測図	112
	礎石遺跡跡		第139図	H39号住居址実測図	112
第66図	礎村遺跡並遺構配置図(1:250)	65	第140図	H39号住居址遺物実測図	113
第67図	H1号住居址実測図	66	第141図	H40号住居址・遺物実測図(1)	113
第68図	H1号住居址遺物実測図	66	第142図	H40号住居址遺物実測図(2)	114
第69図	H1号住居址石器実測図	67	第143図	H41号住居址・遺物実測図	114
第70図	H25号住居址実測図	67	第144図	H42号住居址・遺物実測図	115
第71図	H25号住居址遺物実測図	68	第145図	H44号住居址・遺物実測図	116
第72図	H31号住居址・遺物実測図	68	第146図	H45号住居址・遺物実測図	117
第73図	H36号住居址・遺物実測図	69	第147図	H46号住居址実測図	117

第148回	H46号住居址遺物実測図	118
第149回	H47号住居址実測図	118
第150回	H47号住居址遺物実測図	119
第151回	H48号住居址実測図	120
第152回	H49号住居址実測図	120
第153回	H49号住居址遺物実測図	121
第154回	H52号住居址遺物実測図	122
第155回	H53号住居址実測図	123
第156回	H54号住居址実測図	123
第157回	H54号住居址遺物実測図 (1)	124
第158回	H54号住居址遺物実測図 (2)	124
第159回	H55号住居址実測図	124
第160回	H55号住居址遺物実測図	125
第161回	H56号住居址実測図	125
第162回	H56号住居址遺物実測図	126
第163回	H57号住居址実測図	126
第164回	H57号住居址遺物実測図	127
第165回	H58号住居址実測図	127
第166回	H58号住居址遺物実測図	128
第167回	H59号住居址実測図	128
第168回	H60号住居址実測図	129
第169回	H60号住居址遺物実測図	129
第170回	H61号住居址遺物実測図	130
第171回	H62号住居址実測図	130
第172回	H62号住居址遺物実測図	131
第173回	H63号住居址実測図	131
第174回	H63号住居址カマド実測図	132
第175回	H63号住居址遺物実測図 (1)	132
第176回	H63号住居址遺物実測図 (2)	133
第177回	H64号住居址実測図	134
第178回	H64号住居址遺物実測図	134
第179回	H65号住居址遺物実測図	135
第180回	H65号住居址遺物実測図	136
第181回	H66号住居址実測図	137
第182回	H66号住居址遺物実測図 (1)	137
第183回	H66号住居址遺物実測図 (2)	138
第184回	H68号住居址実測図	139
第185回	H68号住居址遺物実測図 (1)	139
第186回	H68号住居址遺物実測図 (2)	140
第187回	H70号住居址実測図	140
第188回	H70号住居址遺物実測図	141
第189回	H71号住居址実測図	141
第190回	H72号住居址遺物実測図	142
第191回	H73号住居址遺物実測図	142
第192回	H74号住居址実測図	143
第193回	H75号住居址実測図	144
第194回	H75号住居址遺物実測図 (1)	145
第195回	H75号住居址遺物実測図 (2)	146
第196回	H76号住居址実測図	147
第197回	H76号住居址遺物実測図	147
第198回	H77号住居址実測図	148
第199回	H77号住居址遺物実測図	149
第200回	H78号住居址遺物実測図	149
第201回	H79号住居址遺物実測図	150
第202回	H80号住居址実測図 (1)	150
第204回	H80号住居址遺物実測図 (2)	151
第205回	H81号住居址遺物実測図	151
第206回	H83号住居址実測図	152
第207回	H83号住居址遺物実測図 (1)	152
第208回	H83号住居址遺物実測図 (2)	153
第209回	H84号住居址実測図	154
第210回	H85号住居址実測図	154
第211回	H86号住居址実測図	155
第212回	H87号住居址実測図	155
第213回	H88号住居址実測図	156
第214回	H88号住居址遺物実測図 (1)	156
第215回	H88号住居址遺物実測図 (2)	157
第216回	H89号住居址遺物実測図	158
第217回	H91号住居址遺物実測図	159
第218回	H92号住居址遺物実測図	159
第219回	H93号住居址実測図	160
第220回	H94号住居址遺物実測図	160
第221回	H95号住居址遺物実測図	161
第222回	H96号住居址実測図	162
第223回	H97号住居址実測図	162
第224回	H98号住居址遺物実測図	163

第225回	F1号掘建柱建物址実測図	163
第226回	F2号掘建柱建物址実測図	163
第227回	F3号掘建柱建物址実測図	164
第228回	F4号掘建柱建物址実測図	164
第229回	F5・6号掘建柱建物址実測図	165
第230回	C1号炭田遺物実測図	165
第231回	C2・3・4号炭田遺物実測図 C2・3号出土遺物実測図	166
第232回	C4号炭田遺物実測図	167
第233回	D1→D8号土坑遺物実測図	167
第234回	D9→D15号土坑遺物実測図	168
第235回	D16→D24号土坑遺物実測図	169
第236回	D25→D30号土坑遺物実測図	170
第237回	M1・2号溝跡、M1号溝跡遺物実測図	173
第238回	M1号溝跡遺物実測図	174
第239回	M1号溝跡遺物実測図	175
第240回	ビッド実測図	177
第241回	遺構外遺物実測図 (1)	177
第242回	遺構外遺物実測図 (2)	178
第243回	遺文土実測図	178
第244回	弥生土実測図 (1)	178
第245回	弥生土実測図 (2)	179
第246回	石器実測図	179
第247回	開戸遺跡、扇形遺跡土器分類図 (1)	191
第248回	開戸遺跡、扇形遺跡土器分類図 (2)	192
第249回	開戸遺跡、扇形遺跡土器分類図 (3)	193
第250回	開戸遺跡土器編年図 (1)	194
第251回	開戸遺跡土器編年図 (2)	195
第252回	扇形遺跡土器編年図 (1)	196
第253回	扇形遺跡土器編年図 (2)	197
第254回	扇形遺跡土器編年図 (3)	198
第255回	扇形遺跡土器編年図 (4)	199
第256回	扇形遺跡土器編年図 (5)	200

表目次

開戸遺跡

第1表	開戸遺跡表	11
第2表	H1号住居址遺物観察表 (1)	17
第3表	H1号住居址遺物観察表 (2)	18
第4表	H2号住居址遺物観察表	19
第5表	H13号住居址遺物観察表 (1)	21
第6表	H3号住居址遺物観察表 (2)	22
第7表	H4号住居址遺物観察表 (1)	23
第8表	H4号住居址遺物観察表 (2)	24
第9表	H5号住居址遺物観察表	25
第10表	H6号住居址遺物観察表	28
第11表	H7号住居址遺物観察表	30
第12表	H8号住居址遺物観察表	31
第13表	H9号住居址遺物観察表	33
第14表	H10号住居址遺物観察表	34
第15表	H11号住居址遺物観察表 (1)	36
第16表	H11号住居址遺物観察表 (2)	37
第17表	H12号住居址遺物観察表	38
第18表	H13号住居址遺物観察表 (1)	39
第19表	H14号住居址遺物観察表 (2)	40
第20表	H15号住居址遺物観察表	40
第21表	H16号住居址遺物観察表	42
第22表	H16号住居址遺物観察表	43
第23表	H17号住居址遺物観察表	44
第24表	H18号住居址遺物観察表	46
第25表	H19号住居址遺物観察表 (1)	49
第26表	H19号住居址遺物観察表 (2)	50
第27表	H20号住居址遺物観察表	51
第28表	F1号掘立柱建物址遺物観察表	51
第29表	T01号特殊遺構遺物観察表 (1)	54
第30表	T01号特殊遺構遺物観察表 (2)	55
第31表	M3号溝跡遺物観察表	56
第32表	M4号溝跡遺物観察表	57
第33表	M5号溝跡遺物観察表	58
第34表	M6号溝跡遺物観察表	57
第35表	ビッド遺物観察表	61
第36表	遺構外遺物観察表 (1)	61
第37表	遺構外遺物観察表 (2)	62
第38表	遺構外石器観察表 (1)	62
第39表	遺構外石器観察表 (2)	63
第40表	遺構外鉄器観察表	63
第41表	トレンチ溝跡遺物観察表	64

第42表	トレンチ調査遺物観察表	65
	補付遺物	
第43表	H11号住居址遺物観察表	67
第44表	H1号住居址不審観察表	67
第45表	H25号住居址遺物観察表	68
第46表	H36号住居址遺物観察表	69
	扇田遺跡	
第47表	H1号住居址遺物観察表	71
第48表	H2号住居址遺物観察表	72
第49表	H3号住居址遺物観察表	74
第50表	H5号住居址遺物観察表 (1)	76
第51表	H5号住居址遺物観察表 (2)	77
第52表	H6号住居址遺物観察表	78
第53表	H7号住居址遺物観察表	79
第54表	H8号住居址遺物観察表	80
第55表	H9号住居址遺物観察表	80
第56表	H10号住居址遺物観察表	81
第57表	H11号住居址遺物観察表	83
第58表	H12号住居址遺物観察表	85
第59表	H13号住居址遺物観察表	86
第60表	H14号住居址遺物観察表	87
第61表	H15号住居址遺物観察表	87
第62表	H16号住居址遺物観察表	89
第63表	H17号住居址遺物観察表	90
第64表	H18号住居址遺物観察表	91
第65表	H19号住居址遺物観察表	92
第66表	H20号住居址遺物観察表	93
第67表	H22号住居址遺物観察表	95
第68表	H24号住居址遺物観察表	97
第69表	H25号住居址遺物観察表	98
第70表	H26号住居址遺物観察表	99
第71表	H27号住居址遺物観察表	100
第72表	H28号住居址遺物観察表	101
第73表	H29号住居址遺物観察表 (1)	102
第74表	H29号住居址遺物観察表 (2)	103
第75表	H31号住居址遺物観察表	106
第76表	H32号住居址遺物観察表	107
第77表	H33号住居址遺物観察表	108
第78表	H34号住居址遺物観察表	109
第79表	H35号住居址遺物観察表	110
第80表	H36号住居址遺物観察表	111
第81表	H37号住居址遺物観察表	112
第82表	H39号住居址遺物観察表	113
第83表	H40号住居址遺物観察表	114
第84表	H41号住居址遺物観察表	114
第85表	H42号住居址遺物観察表	115
第86表	H44号住居址遺物観察表	116
第87表	H45号住居址遺物観察表	117
第88表	H46号住居址遺物観察表	118
第89表	H47号住居址遺物観察表	119
第90表	H49号住居址遺物観察表	121
第91表	H52号住居址遺物観察表	122
第92表	H54号住居址遺物観察表	124
第93表	H55号住居址遺物観察表	125
第94表	H56号住居址遺物観察表	126
第95表	H57号住居址遺物観察表	127
第96表	H58号住居址遺物観察表	128
第97表	H60号住居址遺物観察表	129
第98表	H61号住居址遺物観察表	130
第99表	H62号住居址遺物観察表	131
第100表	H63号住居址遺物観察表	133
第101表	H64号住居址遺物観察表	134
第102表	H65号住居址遺物観察表	136
第103表	H66号住居址遺物観察表	138
第104表	H68号住居址遺物観察表	140
第105表	H70号住居址遺物観察表	141
第106表	H72号住居址遺物観察表	142
第107表	H73号住居址遺物観察表	142
第108表	H75号住居址遺物観察表	146
第109表	H76号住居址遺物観察表	148
第110表	H77号住居址遺物観察表	149
第111表	H78号住居址遺物観察表	149
第112表	H79号住居址遺物観察表	150
第113表	H80号住居址遺物観察表	151
第114表	H81号住居址遺物観察表	151
第115表	H83号住居址遺物観察表 (1)	153
第116表	H83号住居址遺物観察表 (2)	154

第117表	H88号住居址遺物観察表	157
第118表	H89号住居址遺物観察表	158
第119表	H91号住居址遺物観察表	159
第120表	H92号住居址遺物観察表	160
第121表	H94号住居址遺物観察表	161
第122表	H95号住居址遺物観察表	162
第123表	H98号住居址遺物観察表	163
第124表	土坑観察表	171
第125表	炭 薪の清選遺構 土坑観察表	171
第126表	土坑遺物観察表	172
第127表	H1号住居址遺物観察表	176
第128表	ピット計測表	176
第129表	遺構外遺物観察表	178
第130表	縄文土器観察表	178
第131表	弥生土器観察表	179
第132表	石器観察表	179
第133表	関戸田遺跡年代表	180
第134表	扇田遺跡住居址年代表	182

#### 目次

#### 図版1

関戸田遺跡周辺地形写真 (西から)

関戸田遺跡東地区全景 (東から)

#### 図版2

関戸田遺跡東地区調査風景 (内から)

関戸田遺跡西地区全景 (西から)

#### 図版3

平成15年度関戸田遺跡調査区全景 (東から)

平成15年度関戸田遺跡調査風景 (東から)

平成15年度関戸田遺跡調査風景 (東から)

東地区土坑除去作業 (南西から)

西地区土坑除去作業 (内から)

西地区掘削作業 (東から)

調査区埋め戻し作業 (東から)

#### 図版4

H1号住居址全景 (西から)

H1号住居址炭化材・石料出土状況 (南東から)

H1号住居址炭化材・石料出土状況 (南から)

H1号住居址炭化材出土状況 (西から)

H1号住居址カマド (西から)

H1号住居址カマド焚口大石除去状態 (南から)

H1号住居址炭化材・石料除去状況 (内から)

H2号住居址全景 (西から)

#### 図版5

H2号住居址カマド全景 (西から)

H2号住居址カマド全景 (北西から)

H2号住居址カマド庭方 (西から)

H2号住居址庭方全景 (東から)

H3号住居址全景 (東から)

H3号住居址全景 (西から)

H3号住居址カマド (東から)

H3号住居址カマド庭方 (南東から)

#### 図版6

H3号住居址遺物出土状況 (1)

H3号住居址遺物出土状況 (2)

H3号住居址庭方全景 (西から)

H4号住居址全景 (西から)

H4号住居址炭化材出土状況 (東から)

H4号住居址炭化材出土状況 (北東コーナー付近)

H4号住居址カマド (西から)

H4号住居址遺物出土状況 (カマド南補付近)

#### 図版7

H4号住居址カマド炭化材除去状況 (南から)

H4号住居址土坑 (南東コーナー付近)

H4号住居址遺物出土状況 (南東コーナー土坑内)

H4号住居址庭方全景 (西から)

H5号住居址全景 (南西から)

H5号住居址遺物出土状況 (北壁付近)

H5号住居址土坑 (南東コーナー付近)

H5号住居址庭方全景 (東から)

#### 図版8

H6号住居址全景 (西から) 簡易調査によって東側拡大

H6号住居址遺物出土状況 (1)

H6号住居址遺物出土状況 (2)

H6号住居址遺物出土状況 (3)

H6号住居址遺物出土状況 (4)

H6号住居址遺物出土状況 (5)

- H 6号住居址遺物出土状況 (6)
  - H 6号住居址欒製鋸先出土状況
- 図版9
- H 6号住居址竊み物出土状況
  - H 6号住居址東方全景 (西から)
  - H 7号住居址全景 (西から)
  - H 8号住居址全景 (西から)
  - H 8号住居址地上築地掘り下げ状況
  - H 9号住居址全景 (南から)
  - H 11号住居址全景 (西から) 中央をH2に切られる
  - H 11号住居址遺物出土状況

- 図版10
- H 11号住居址東方全景 (西から)
  - H 12号住居址全景 (南から)
  - H 13号住居址全景 (南東から)
  - H 13号住居址カマド (西から)
  - H 13号住居址カマド全景 (西から)
  - H 13号住居址遺物出土状況 (1)
  - H 13号住居址遺物出土状況 (2)
  - H 13号住居址遺物出土状況 (3)

- 図版11
- H 13号住居址遺物出土状況 (4)
  - H 13号住居址東方全景 (西から)
  - H 13号住居址東方全景 (南西から)
  - H 14号住居址全景 (西から)
  - H 14号住居址東方全景 (南西から)
  - H 15号住居址全景 (西から)
  - H 15号住居址カマド (西から)

- 図版12
- H 15号住居址カマド東方 (西から)
  - H 15号住居址東方全景 (西から)
  - H 16号住居址全景 (西から)
  - H 16号住居址東方 - 焼土散布周辺
  - H 16号住居址遺物出土状況 (1)
  - H 16号住居址遺物出土状況 (2) 北東コーナー周溝内
  - H 16号住居址東方全景 (南から)
  - H 17号住居址全景 (西から)

- 図版13
- H 17号住居址東方全景 (西から)
  - H 18号住居址全景 (南から)
  - H 18号住居址カマド (南から)
  - H 18号住居址カマド美き口周辺状況 (南から)
  - H 18号住居址カマド犬井石除去状況 (南から)
  - H 18号住居址カマド東方 (南から)

- 図版14
- H 18号住居址遺物出土状況
  - H 18号住居址東方全景 (南から)
  - H 19号住居址全景 (南から)
  - H 19号住居址カマド (南から)
  - H 19号住居址遺物出土状況(1)
  - H 19号住居址遺物出土状況(2)
  - H 19号住居址カマド遺物除去後全景 (南から)
  - H 19号住居址竊み物確認状況

- 図版15
- H 19号住居址カマド東方 (南から)
  - H 19号住居址東方全景 (南から)
  - H 20号住居址全景 (東から)
  - H 20号住居址カマド (南から)
  - H 20号住居址カマド東方 (南から)
  - H 20号住居址東方全景 (東から)
  - F 1号掘礎柱建物址全景 (西から)
  - F 2号掘礎柱建物址全景 (東から)

- 図版16
- M 1号溝跡全景 (西から)
  - M 2号溝跡全景 (西から)
  - M 3号溝跡全景 (西から)
  - M 4号溝跡全景 (南から)

- 図版17
- M 5号溝跡・低地帯全景 (東から)
  - M 6号溝跡全景 (南から)
  - T 01号特殊遺構全景 (西から)

- 図版18
- T 01号特殊遺構基石周壁確認状況
  - T 01号特殊遺構清浄確認状況
  - T 01号特殊遺構基石中央7状況
  - T 01号特殊遺構基石上部埋込土除去後状況
  - T 01号特殊遺構基石全景

- 図版19
- T 01号特殊遺構基石上部除去後状況
  - T 01号特殊遺構基石中央部状況
  - T 01号特殊遺構基石中央7状況
  - T 01号特殊遺構中央7除去状況
  - T 01号特殊遺構北側溝全景 (西から)

- 図版20
- T 01号特殊遺構東側溝全景 (南から)
  - T 01号特殊遺構南側溝全景 (西から)
  - T 01号特殊遺構北側上部覆土内遺物出土状況
  - T 01号特殊遺構北側溝上部覆土内遺物出土状況
  - 樋村遺跡Ⅲ (道路下) 調査区全景 (南から)
  - 樋村遺跡Ⅲ調査風景 (南から)
  - 樋村遺跡Ⅲ平成11年度調査区 (右道路下) が今調査区
  - 樋村遺跡Ⅲ平成12年度調査区全景 (西から)

- 図版21
- H 1号住居址全景 (東から)
  - H 1号住居址遺物出土状況
  - H 1号住居址東方全景 (東から)
  - H 1号住居址平成11年度調査区全景 (西から)
  - H 1号住居址平成11年度調査区カマド埋込写真
  - H 25号住居址カマド (東から)
  - H 25号住居址カマド (東から)

- 図版22
- H 25号住居址カマド東方 (西から)
  - H 25号住居址平成11年度調査区 (北から)
  - H 31号住居址全景 (西から)
  - H 31号住居址東方全景 (西から)
  - H 31号住居址平成12年度調査区全景 (南から)
  - H 31号住居址平成12年度調査区カマド全景 (南東から)
  - H 36号住居址全景 (西から)
  - H 36号住居址東方全景 (北西から)

- 図版23
- 開戸田遺跡 H 1号住居址遺物

- 図版24
- 開戸田遺跡 H 1・2号住居址遺物

- 図版25
- 開戸田遺跡 H 2・3号住居址遺物

- 図版26
- 開戸田遺跡 H 3・4号住居址遺物

- 図版27
- 開戸田遺跡 H 4・5号住居址遺物

- 図版28
- 開戸田遺跡 H 5・6号住居址遺物

- 図版29
- 開戸田遺跡 H 6・7号住居址遺物

- 図版30
- 開戸田遺跡 H 7号住居址遺物

- 図版31
- 開戸田遺跡 H 7・8号住居址遺物

- 図版32
- 開戸田遺跡 H 9・10号住居址遺物

- 図版33
- 開戸田遺跡 H 11号住居址遺物

- 図版34
- 開戸田遺跡 H 11・12・13号住居址遺物

- 図版35
- 開戸田遺跡 H 14・15・16号住居址遺物

- 図版36
- 開戸田遺跡 H 16・17・18号住居址遺物

- 図版37
- 開戸田遺跡 H 18・19号住居址遺物

- 図版38
- 開戸田遺跡 H 19号住居址遺物

- 図版39
- 開戸田遺跡 H 19・20号住居址・F 1号掘立柱建物址・T 01号特殊遺構遺物

- 図版40
- 開戸田遺跡 T 01号特殊遺構・M 3・4・5号溝跡遺物

- 図版41
- 開戸田遺跡 M 6号溝跡・ピット・遺構外遺物

- 図版42
- 開戸田遺跡溝外・トレンチ調査遺物

- 図版43
- 開戸田遺跡トレンチ調査遺物・開戸田遺跡王塚

- 図版44
- 樋村遺跡Ⅲ遺物

図版45

- 福田遺跡西側調査区全景(西から)
- 福田遺跡平成16年度調査区調査風景(西から)
- 福田遺跡平成16年度調査区調査風景(西から)
- 福田遺跡平成16年度調査区グッド動作(南西から)
- 福田遺跡平成16年度西側調査区表1除去作業(西から)

図版46

- 福田遺跡平成16年度東側調査区全景(西から)
- 福田遺跡平成16年度東側調査区調査風景(西から)
- 福田遺跡平成16年度東側調査区調査風景(東から)
- 福田遺跡調査区土層断面
- 福田遺跡平成16年度東側調査区表1除去作業(東から)

図版47

- 福田遺跡平成17年度北側調査区全景(西から)
- 福田遺跡平成17年度北側調査区全景(西から)
- 福田遺跡平成17年度南側調査区全景(西から)
- 福田遺跡平成17年度南側調査区全景(東から)

図版48

- 福田遺跡平成17年度北側調査区表1除去作業(東から)
- 福田遺跡平成17年度北側調査区調査風景(東から)
- 福田遺跡平成17年度北側調査区調査風景(西から)
- 福田遺跡平成17年度南側調査区表1除去作業(西から)
- 福田遺跡平成17年度南側調査区調査風景(西から)
- 福田遺跡平成17年度南側調査区調査風景(東から)
- 福田遺跡平成17年度南側調査区調査風景(東から)

図版49

- H1 1号住居址全景(南から)
- H1 1号住居址遺物出土状況
- H1 1号住居址遺物出土状況
- H1 1号住居址カマド
- H1 1号住居址掘方全景(南から)
- H2 2号住居址全景(西から)
- H2 2号住居址カマド(西から)
- H2 2号住居址カマド掘方

図版50

- H2 2号住居址掘方全景(北から)
- H3 3号住居址炭化物確認状況全景(西から)
- H3 3号住居址北東コーナー炭化物確認状況(北西から)
- H3 3号住居址炭化物除去後全景(東から)
- H3 3号住居址カマド(南から)
- H3 3号住居址掘方全景(西から)
- H4 4号住居址全景(北東から)
- H4 4号住居址カマド火床全景(南東から)

図版51

- H4 4号住居址火床掘り下り状況(東から)
- H5 5号住居址全景(北西から)
- H5 5号住居址南壁際遺物出土状況(北から)
- H5 5号住居址北東コーナー土坑周辺遺物出土状況
- H5 5号住居址北東コーナー土坑
- H5 5号住居址カマド(南から)
- H5 5号住居址掘方全景(南西から)
- H6 6号住居址全景(南から)

図版52

- H6 6号住居址カマド(南から)
- H6 6号住居址カマド掘方(南から)
- H7 7号住居址全景(西から)
- H7 7号住居址掘方全景(西から)
- H8 8号住居址全景(西から)
- H8 8号住居址カマド(南から)
- H8 8号住居址全景(西から)
- H9 9号住居址カマド(南から)

図版53

- H9 9号住居址カマド掘方
- H10 10号住居址全景(西から)
- H10 10号住居址カマド(南西から)
- H10 10号住居址カマド掘方(南から)
- H10 10号住居址掘方全景(西から)
- H11 11号住居址全景(西から)
- H11 11号住居址カマド(西から)
- H11 11号住居址遺物出土状況

図版54

- H11 11号住居址炉跡(断面還元状態)
- H11 11号住居址カマド散乱石材除去後(西から)
- H11 11号住居址カマド掘方(西から)
- H11 11号住居址掘方全景(南から)
- H12 12号住居址平成16年度調査区全景(西から)
- H12 12号住居址平成17年度調査区全景(東から)

H12 12号住居址カマド(西から)

図版55

- H12 12号住居址カマド焚口大石片除去後(東から)
- H12 12号住居址カマド掘方(東から)
- H12 12号住居址平成17年度調査掘方全景(東から)
- H13 13号住居址全景(西から)
- H13 13号住居址カマド(西から)
- H13 13号住居址掘方全景(西から)
- H14 14号住居址全景(西から)
- H15 15号住居址全景(南から)

図版56

- H15 15号住居址カマド(奥張り出し部)
- H16 16号住居址全景(西から)
- H16 16号住居址カマド(南西から)
- H16 16号住居址カマド掘方(南から)
- H16 16号住居址カマド掘方
- H16 16号住居址掘方全景(北東から)
- H17 17号住居址全景(南から)
- H17 17号住居址掘方全景(西から)

図版57

- H18 18号住居址全景(北西から)
- H18 18号住居址掘方全景(北東から)
- H19 19号住居址全景(南から)
- H19 19号住居址カマド(南から)
- H19 19号住居址北東コーナー土坑(南から)
- H19 19号住居址カマド掘方(南から)
- H19 19号住居址掘方全景(南から)
- H20 20号住居址全景(東から)

図版58

- H20 20号住居址カマド(南から)
- H20 20号住居址カマド掘方(南から)
- H21 21号住居址全景(西から)
- H21 21号住居址掘方全景(東から)
- H22 22号住居址全景(西から)
- H22 22号住居址カマド(南東から)
- H22 22号住居址カマド掘方(南から)
- H22 22号住居址掘方全景(西から)

図版59

- H23 23号住居址全景(南から)
- H24 24号住居址全景(南から)
- H24 24号住居址カマド(南から)
- H24 24号住居址遺物出土状況
- H24 24号住居址カマド掘方(南から)
- H24 24号住居址掘方全景(南から)
- H25 25号住居址全景(南から)
- H25 25号住居址遺物出土状況

図版60

- H25 25号住居址掘方全景(南から)
- H26 26号住居址全景(南から)
- H26 26号住居址掘方全景(南から)
- H27 27号住居址全景(南から)
- H27 27号住居址カマド(南から)
- H27 27号住居址掘方全景(南から)
- H28 28号住居址全景(南から)
- H29 29号住居址全景(南から)

図版61

- H29 29号住居址遺物出土状況
- H29 29号住居址遺物出土状況
- H29 29号住居址遺物出土状況
- H29 29号住居址遺物出土状況
- H29 29号住居址掘方全景(南から)
- H30 30号住居址北側調査区全景(西から)
- H30 30号住居址南側調査区全景(南から)
- H30 30号住居址カマド(南から)

図版62

- H30 30号住居址カマド掘方(南から)
- H31 31号住居址全景(南から)
- H31 31号住居址カマド(南から)
- H31 31号住居址カマド掘方(南から)
- H31 31号住居址掘方(南から)
- H32 32号住居址全景(南から)
- H33 33号住居址全景(西から)
- H33 33号住居址掘方全景(西から)

図版63

- H33 33号住居址遺物出土状況
- H34 34号住居址掘方全景(西から)
- H34 34号住居址全景(南から)



- H35号住居跡全景 (南西から)  
 H35号住居跡カマド (南から)  
 H35号住居跡遺物出土状況 (南から)  
 H35号住居跡カド掘方 (南から)  
 H35号住居跡掘方全景 (南西から)
- 図版64  
 H36号住居跡全景 (南から)  
 H36号住居跡北東コーナー遺物出土状況 (南から)  
 H36号住居跡カマド全景 (南から)  
 H37号住居跡全景 (西から)  
 H37号住居跡遺物出土状況  
 H37号住居跡掘方全景 (西から)  
 H38号住居跡全景 (南から)  
 H38号住居跡カマド (北から)
- 図版65  
 H39号住居跡全景 (西から)  
 H39号住居跡カマド (南から)  
 H39号住居跡掘方全景 (南から)  
 H40号住居跡全景 (南から)  
 H40号住居跡カマド (南から)  
 H40号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H40号住居跡掘方全景 (南から)  
 H41号住居跡全景 (東から)

- 図版66  
 H42号住居跡全景 (南から)  
 H42号住居跡カマド (南から)  
 H42号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H42号住居跡掘方全景 (南から)  
 H44号住居跡全景 (西から)  
 H44号住居跡カマド (南西から)  
 H44号住居跡掘方全景 (西から)  
 H45号住居跡全景 (西から)
- 図版67  
 H45号住居跡掘方全景 (西から)  
 H46号住居跡全景 (南から)  
 H46号住居跡掘方全景 (南から)  
 H47号住居跡カマド横遺物出土状況 (西から)  
 H47号住居跡東壁カマド (西から)  
 H47号住居跡カマド石材使用状況 (西から)  
 H47号住居跡東壁カマド掘方 (西から)

- 図版68  
 H47号住居跡西壁カマド (東から)  
 H47号住居跡西壁カマド掘方 (東から)  
 H47号住居跡掘方 (北西から)  
 H48号住居跡全景 (南から)  
 H48号住居跡カマド (南から)  
 H48号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H49号住居跡全景 (南西から)  
 H49号住居跡カマド東遺物出土状況 (北東から)

- 図版69  
 H49号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H49号住居跡掘方全景 (南東から)  
 H52号住居跡全景 (南西から)  
 H52号住居跡掘方全景 (南南から)  
 H53号住居跡全景 (東から)  
 H53号住居跡カマド火床 (南から)  
 H53号住居跡掘方全景 (西から)  
 H54号住居跡掘方全景 (南から)

- 図版70  
 H54号住居跡掘方全景 (南から)  
 H55号住居跡全景 (南から)  
 H55号住居跡南壁際石列状況 (西から)  
 H55号住居跡カマド (南から)  
 H55号住居跡掘方全景 (南から)  
 H56号住居跡掘方全景 (南から)  
 H56号住居跡掘方全景 (南から)  
 H57号住居跡全景 (南から)

- 図版71  
 H57号住居跡床面焼土除去状況  
 H57号住居跡掘方全景 (南から)  
 H58号住居跡全景 (南から)  
 H58号住居跡遺物出土状況  
 H58号住居跡カマド (南から)  
 H58号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H58号住居跡掘方全景 (南から)  
 H59号住居跡掘方全景 (南から)

- 図版72  
 H60号住居跡全景 (北西から)  
 H60号住居跡掘方全景 (北西から)  
 H61号住居跡掘方全景 (北西から)  
 H61号住居跡掘方全景 (北から)  
 H62号住居跡掘方全景 (西から)  
 H62号住居跡カマド (南から)  
 H62号住居跡掘方全景 (北西から)  
 H63号住居跡掘方全景 (北西から)

- 図版73  
 H63号住居跡カマド (東から)  
 H63号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H63号住居跡掘方全景 (西から)  
 H64号住居跡掘方全景 (北西から)  
 H64号住居跡カマド (西から)  
 H64号住居跡カマド掘方 (西から)  
 H64号住居跡掘方全景 (北西から)  
 H65号住居跡掘方全景 (南から)

- 図版74  
 H65号住居跡カマド (南から)  
 H65号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H65号住居跡掘方全景 (南から)  
 H66号住居跡掘方全景 (西から)  
 H66号住居跡カマド (南から)  
 H66号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H68号住居跡掘方全景 (南から)  
 H68号住居跡北西コーナー遺物出土状況

- 図版75  
 H68号住居跡カマド (南から)  
 H68号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H68号住居跡掘方全景 (南から)  
 H70号住居跡掘方全景 (西から)  
 H70号住居跡カマド (北東から)  
 H70号住居跡掘方全景 (南東から)  
 H71号住居跡掘方全景 (東から)  
 H71号住居跡掘方全景 (南から)

- 図版76  
 H72号住居跡掘方全景 (南から)  
 H72号住居跡掘方掘方全景 (南から)  
 H73号住居跡掘方 (南から)  
 H73号住居跡カマド (南から)  
 H74号住居跡掘方 (南から)  
 H74号住居跡掘方全景 (南から)  
 H75号住居跡掘方 (西から)  
 H75号住居跡カマド (南から)

- 図版77  
 H75号住居跡カマド掘方 (南から)  
 H75号住居跡掘方掘方全景 (東から)  
 H76号住居跡掘方 (北西から)  
 H76号住居跡南東コーナー遺物出土状況  
 H76号住居跡掘方掘方全景 (南から)  
 H77号住居跡掘方 (南から)  
 H77号住居跡カマド (西から)  
 H77号住居跡カマド石材除去状況 (西から)

- 図版78  
 H77号住居跡カマド掘方 (西から)  
 H78号住居跡掘方 (南から)  
 H78号住居跡掘方掘方全景 (南から)  
 H79号住居跡掘方 (北東から)  
 H79号住居跡掘方掘方全景 (北東から)  
 H80号住居跡掘方 (北東から)  
 H80号住居跡掘方掘方 (北東から)  
 H81号住居跡南側調査全景 (東から)

- 図版79  
 H81号住居跡掘方 (東から)  
 H83号住居跡掘方 (北から)  
 H83号住居跡遺物出土状況  
 H83号住居跡遺物出土状況  
 H83号住居跡カマド (北から)  
 H83号住居跡カマド周辺石材除去状況 (北から)  
 H83号住居跡カマド掘方 (北から)  
 H83号住居跡掘方掘方全景 (北から)

- 図版80  
 H84号住居跡掘方全景 (南西から)  
 H84号住居跡掘方掘方全景 (西から)  
 H85号住居跡火床掘方掘方全景 (東から)  
 H86号住居跡掘方 (南から)

H87号住居址全景 (南から)  
H188号住居址全景 (南から)  
H88号住居址北西コーナー遺物出土状況 (南から)  
H88号住居址カマド (南から)

図版81

H188号住居址カマド割方 (南から)  
H188号住居址掘方全景 (南から)  
H89号住居址全景 (南から)  
H89号住居址遺物出土状況  
H89号住居址カマド (南から)  
H189号住居址カマド割方 (南から)  
H89号住居址掘方全景 (南から)  
H191号住居址全景 (西から)

図版82

H191号住居址南東コーナー遺物出土状況 (北から)  
H91号住居址カマド (西から)  
H91号住居址カマド掘方 (西から)  
H91号住居址掘方全景 (北西から)  
H92号住居址全景 (北から)  
H92号住居址掘方全景 (北から)  
H93号住居址全景 (南から)  
H94号住居址全景 (南から)

図版83

H194号住居址遺物出土状況  
H95号住居址全景 (南から)  
H95号住居址掘方全景 (南から)  
H96号住居址全景 (南から)  
H97号住居址全景 (南から)  
H98号住居址全景 (西から)  
H98号住居址遺物出土状況 (南から)  
H98号住居址掘方全景 (西から)

図版84

F 1号竪立柱建物址全景 (南から)  
F 2号竪立柱建物址全景 (西から)  
F 3号竪立柱建物址全景 (西から)  
F 4号竪立柱建物址全景 (西から)  
F 5号竪立柱建物址全景 (南から)  
F 6号竪立柱建物址全景 (南から)

図版85

C 1号銅泡閘連遺構全景 (西から)  
C 2号銅泡閘連遺構全景 (南から)  
C 3号銅泡閘連遺構全景 (東から)  
C 4号銅泡閘連遺構全景 (南から)  
D 1号土坑全景 (西から)  
D 2号土坑全景 (西から)  
D 3号土坑全景 (北西から)  
D 4号土坑全景 (南から)

図版86

D 5・6号土坑全景 (西から)  
D 7号土坑全景 (南から)  
D 8号土坑全景 (北から)  
D 9号土坑遺物出土状況 (南から)  
D 9号土坑全景 (南から)  
D 10号土坑全景 (南から)  
D 11号土坑全景 (南から)  
D 12号土坑全景 (南から)

図版87

D 13・14号土坑全景 (南から)  
D 15号土坑全景 (東から)  
D 16号土坑全景 (東から)  
D 17号土坑全景 (南から)  
D 18号土坑全景 (南から)  
D 19号土坑全景 (東から)  
D 20号土坑全景 (東から)  
D 21号土坑全景 (南西から)

図版88

D 22号土坑全景 (東から)  
D 23号土坑全景 (北東から)  
D 24号土坑全景 (南から)  
D 25号土坑全景 (南から)  
D 26号土坑全景 (東から)  
D 27号土坑全景 (南から)  
D 28号土坑全景 (南から)  
D 29号土坑全景 (南から)

図版89

D 30号土坑全景 (東から)

M 1号溝跡全景 (西から)  
M 1号溝跡遺物出土状況 (東から)  
M 1号溝跡遺物出土状況  
M 1号溝跡遺物出土状況  
M 1号溝跡遺物出土状況  
M 1号溝跡遺物出土状況  
M 1号溝跡遺物出土状況

図版90

M 2号溝跡全景 (西から)  
調査区東端周辺ピット群 (南東から)  
調査区東端周辺ピット群 (南から)  
堀田遺跡 I 事後状況 (東から)

図版91

堀田遺跡 H 1・2・3号住居址遺物

図版92

堀田遺跡 H 3・5号住居址遺物

図版93

堀田遺跡 H 5・6・7・8号住居址遺物

図版94

堀田遺跡 H 8・9・10・11・12号住居址遺物

図版95

堀田遺跡 H 12・13・14・15・16号住居址遺物

図版96

堀田遺跡 H 17・18・19・20・22号住居址遺物

図版97

堀田遺跡 H 22・24・25・26号住居址遺物

図版98

堀田遺跡 H 27・28・29・31号住居址遺物

図版99

堀田遺跡 H 31号住居址遺物

図版100

堀田遺跡 H 31・32・33・34・35号住居址遺物

図版101

堀田遺跡 H 36・37・39・40・41・42号住居址遺物

図版102

堀田遺跡 H 44・45・46・47号住居址遺物

図版103

堀田遺跡 H 47・49・52・54号住居址遺物

図版104

堀田遺跡 H 54・55・56・57号住居址遺物

図版105

堀田遺跡 H 58・60・61・62・63号住居址遺物

図版106

堀田遺跡 H 63・64・65号住居址遺物

図版107

堀田遺跡 H 65・66号住居址遺物

図版108

堀田遺跡 H 66・68・70・72・73・75号住居址遺物

図版109

堀田遺跡 H 75号住居址遺物

図版110

堀田遺跡 H 75・76・77・78号住居址遺物

図版111

堀田遺跡 H 78・79・80・81・83号住居址遺物

図版112

堀田遺跡 H 83・88・89・91号住居址遺物

図版113

堀田遺跡 H 92・94・95・98号住居址・C 3・4号銅泡閘連遺構・D 1・2・9号土坑遺物

図版114

堀田遺跡 D 9・15・16・17・20・22・24・26・30号土坑遺物

図版115

堀田遺跡 D 30号土坑・M 1号溝跡遺物

図版116

堀田遺跡 M 1号溝跡遺物

図版117

堀田遺跡 M 1号溝跡・遺構外遺物

図版118

堀田遺跡縄文土器 (J)、弥生土器 (Y)、石器

図版119

堀田遺跡 H 29号住居址黒書土器、H 27・75号住居址刻書土器

図版120

堀田遺跡鉄製品

図版121

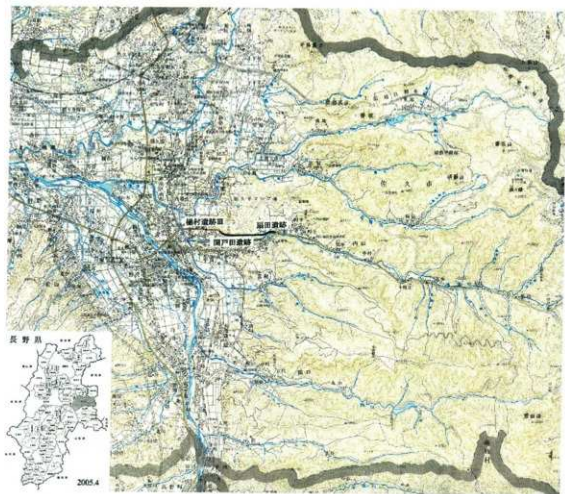
堀田遺跡 C 2・3・4号銅泡閘連遺構線図  
堀田遺跡 H 20号住居址銅線草、H 29・83号住居址管状土鎌

## 第I章 発掘調査の経緯

### 第1節 立地と経過

開戸田遺跡・榑村遺跡・扇田遺跡は、佐久市東方の群馬県境をなす北関東山地から西流する滑津川右岸、標高682m～709mを測る台地上に展開し、周辺は地盤が河床礫層と沖積粘土層地帯であることから、比較的安定した土地で、広く水田として利用されている。付近の調査例としては、北方の丘陵上に展開する後家山遺跡Ⅰ・Ⅱ、宮田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、東久保遺跡Ⅰ・Ⅱ、西方の水田地帯に所在する榑村遺跡Ⅰ・Ⅱ、北側丘陵山腹の東久保古墳群1号墳、鉄剣等を出土した長峯古墳群をあげることができる。

今回、佐久建設事務所による、滑津川右岸を東西に走る道路改築事業が行われることとなり、調査対象地内の試掘調査を実施した。その結果、開戸田遺跡及び扇田遺跡からは古墳から平安時代の住居址及び遺物包含層が確認されたため、佐久建設事務所から委託を受けた佐久市教育委員会が主体となり、記録保存を目的とした発掘調査を行う運びとなった。榑村遺跡Ⅱについては平成11年度に実施した榑村遺跡Ⅱの調査に際し、遺構の存在は明確であったが、生活道路として使用していたことから未調査となった地域で工事開始に伴い調査を行った。



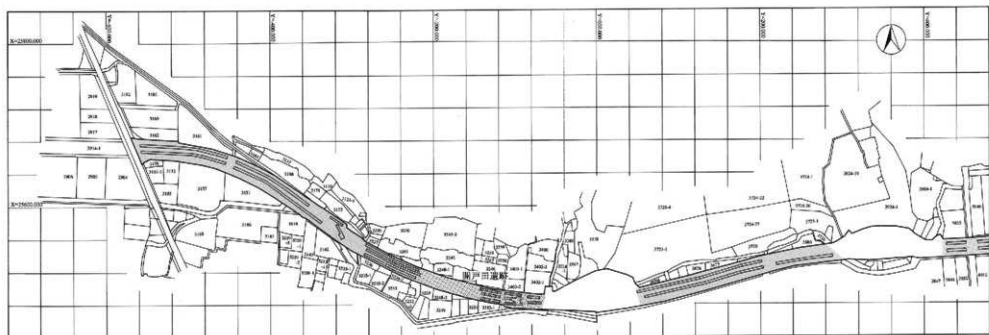
第1図 発掘調査位置図 (1:100,000)

## 第2節 調査体制

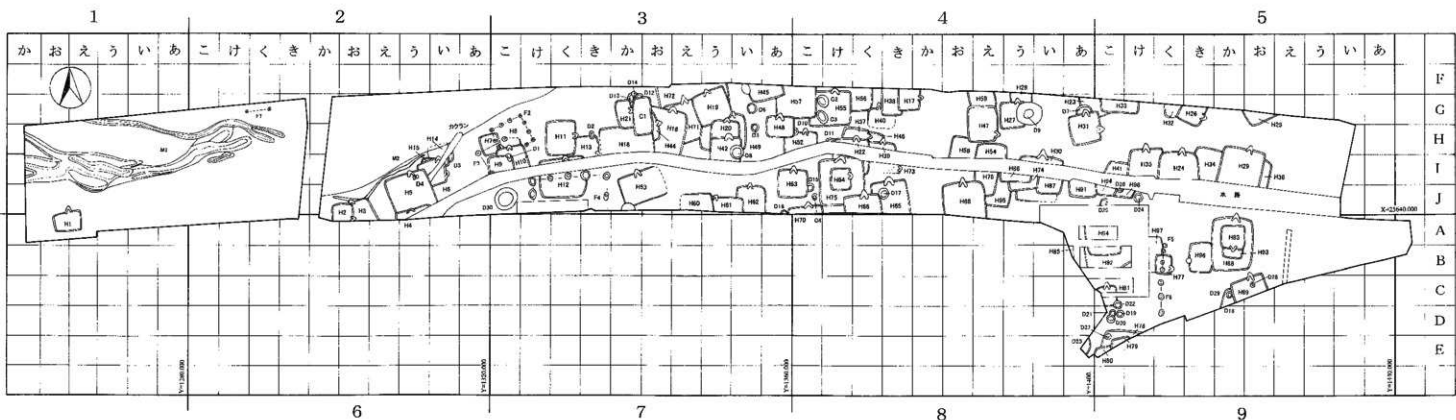
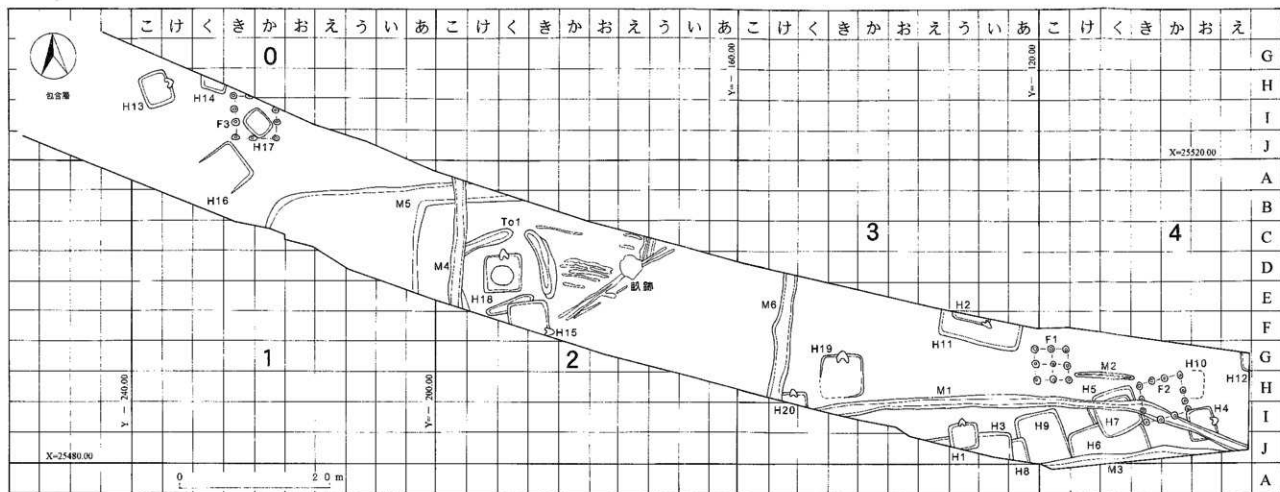
教 育 長	高柳 勉 (平成14・15・16年度)
	三石 昌彦 (平成17年度)
教 育 次 長	黒沢 俊彦 (平成14年度)
	赤羽根寿文 (平成15・16年度)
	柳沢 健一 (平成17年度)
文 化 財 課 長	嶋崎 節夫 (平成14・15年度)
	小林 正衛 (平成16年度)
	中山 悟 (平成17年度)
文 化 財 係 長	森角 吉晴 (平成14年度)
	高村 博文 (平成15・16年度)
文化財保護係長	高村 博文 (平成17年度)
文化財調査係長	高柳 正人 (平成17年度)
文 化 財 係	林 幸彦、三石 宗一 (平成14・15年度)、須藤 隆司、小林 眞寿、 羽田卓也 (平成16年度～)、富沢 一明、神津 格 (平成17年10月～)、 上原 学、山本 秀典 (平成14年度)、赤羽根太郎 (平成15～17年9月)、 出澤 力
調 査 主 任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調 査 担 当 者	上原 学、小林 眞寿、富沢 一明、佐々木宗昭
調 査 員	浅沼ノブ江、阿部 和人、市川 昭、岩崎 重子、岩下 友子、碓氷 知子、 上原 幸子、小幡 弘子、堺 益子、佐藤志げ子、沢井 早月、 柏木 貞夫、柏木 義雄、柏原 松枝、加藤 美雪、木内 節夫、 菊池 喜重、小須田サクエ、小林喜久子、小林 幸子、小林 妙子、小山 功、 小林百合子、佐々木 正、佐々木久子、島田 幹子、高橋 好春、田中ひさ子、 中島とも子、中嶋フクジ、中嶋 良造、萩原 宮子、橋詰 勝子、橋詰 信子、 花岡美津子、林 美智子、比田井久美子、平林 泰、綱蓋ミスズ、堀籠 滋子、 宮川百合子、真嶋 保子、武者 幸彦、百瀬 秋男、柳沢 孝子、柳沢千賀子、 山浦 豊子、山田 和子、渡辺久美子、渡辺 長子

## 第3節 遺跡の概要

遺 跡 名	開戸田遺跡 (HKI)
所 在 地	佐久市平賀340-2, 3253, 3247-2, 3247-3, 3248-2, 3229, 3230, 3231, 3234-1, 3234-2, 3158-1, 3954, 3669-1外 (国) 254号 平賀バイパス内
調 査 期 間	平成14年10月22日～平成14年12月28日 (現場) 平成15年4月1日～平成15年5月19日 (現場) 平成14年10月22日～平成18年3月28日 (整理)
調 査 面 積	面的調査2,900㎡ トレンチ調査 (包含層) 約2,100㎡



第2図 開戸田道跡・扇田道跡調査区全体図 (1:4,000)



第3図 開戸甲遺跡・扇出遺跡遺構配置図(1:500)

調査遺構	竪穴住居址 古墳時代15軒、平安時代5軒。 掘立柱建物址、溝跡、特殊遺構、ピット
出土遺物	土師器（坏・甕・壺・甔・高坏）、須恵器（坏・甕）、手づくね土器 玉類（滑石製白玉）、石製品・石器（紡錘車・搗臼・打製石斧） 鉄製品（短刀・鋤先・角釘）
遺跡名	種村遺跡群 種村遺跡Ⅲ（H H MⅢ）
所在地	佐久市平賀字種村2934-3（国）254号 平賀バイパス内
調査期間	平成15年2月14日～平成15年2月18日（現場） 平成15年2月19日～平成18年3月28日（整理）
調査面積	85㎡
調査遺構	竪穴住居址、土坑。
出土遺物	土師器（坏・甕・壺・小壺・甔）、石器（敲石・すり石・剥片）、鉄製品（角釘）
遺跡名	扇田遺跡（O G I）
所在地	佐久市内山字扇田7118-2、7119-2、7120、7124、7125-2、7095-1外 （国）254号 平賀バイパス内
調査期間	平成16年7月5日～平成18年6月17日（現場） 平成16年12月21日～平成18年3月28日（整理）
調査面積	2,400㎡
調査遺構	竪穴住居址、古墳時代14軒、奈良時代12軒、平安時代54軒、不明11軒 掘立柱建物址、溝跡、炭・鍛冶関連遺構、土坑、ピット
出土遺物	土師器（坏・甕・壺・甔・高坏）、須恵器（坏・甕・高坏・蓋・壺・甔）、手づくね 土器、玉類（滑石製白玉・管玉）、石製品・石器（紡錘車・搗臼・敲石・すり石・打 製石斧）、鉄製品（釘・刀子・紡錘車・斧）

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北方には現在も時折噴煙を立ち上らせる浅間山が聳える。南には蓼科山、東は浅間山と蓼科山をつなぐように北関東山地が存在し、群馬県との県境をなす。西は御牧ヶ原・八重原といった台地が広がり、蓼科山北端の裾野と接している。

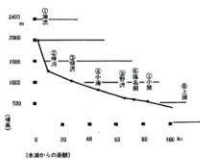
佐久平における水系の代表は千曲川で、源は南の川上谷に発し、南佐久から北流しながら途中、沢庵から



遺跡周辺航空写真（南西から）●左から種村遺跡Ⅲ・開戸遺跡・扇田遺跡

の支流を集めつつ水量を増し佐久平に入る。その後、野沢付近まで北流し、そこから流れを若干北西に変え、立科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の東麓に源を發す湯川、関東山地からの支流である田子川、志賀川などを集めた滑津川といった河川と合流する。

このように佐久地域は周囲を山地に囲まれ、水にも恵まれた一つの盆地であり、総称して佐久平と称しているが、地質学的には南北に大きく二分される。この境界は、佐久平のほぼ中央である志賀川が滑津川と合流して千曲川に注ぐ東西線を境とし、河川の北側段丘上は680m、南側は660mを測り、20m内外の比高差の断崖を認めることができる。北部地域は、北に聳える浅間山（黒斑山・前掛山・中央釜山からなる三重式成層火山）の山麓末端部の平坦な台地である。浅間山の噴火によって台地に堆積した火砕流軽石流及び降下火山灰土は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間の麓から放射状に幾筋にも浸食谷（田切り地形）を形成し、その切り立った断崖により台地を細長く分



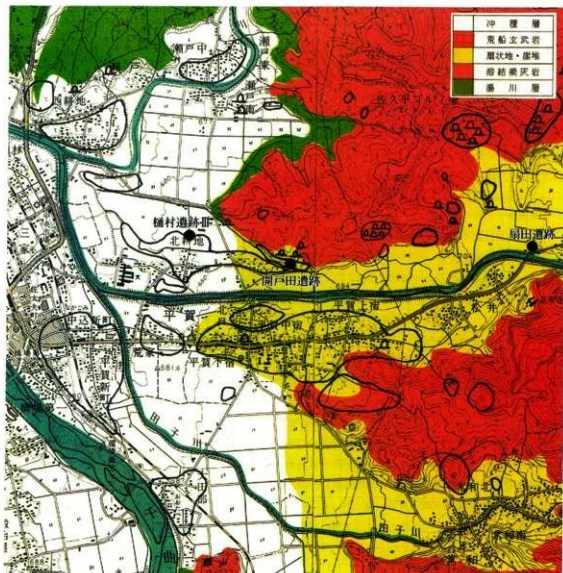
第4図 千曲川概念図  
報告書1985「榑村遺跡Ⅲ、遺跡の環境」転載



遺跡周辺航空写真（東から）●上から榑村遺跡Ⅲ・榑村遺跡・榑村遺跡



断している。これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地及び滑津川の谷口扇状地で、地表下は川床礫層と沖積粘土層地帯となる。また、周辺は地下水位も高く安定した土地であることから南部一帯は広く水田として利用されている。今回調査を行った開戸田遺跡・樋村遺跡Ⅲ・扇田遺跡は、佐久市南部地域に所在する。遺跡の東方は、秩父多摩国立公園が長野県界を越えて佐久地方に入り込む関東山脈の最西北端部と妙義・荒船佐久高原国定公園の接点にあたる群馬・長野両県境分水嶺が連なり、西方の佐久平に向かって幾筋もの尾根状支脈をのびている。この尾根の谷間には滑津川（内山川）、志賀川などの河川が西流し、佐久平南部の開けた氾濫源沖積地にて千曲川と合流する。扇田遺跡、開戸田遺跡は西流する滑津川右岸の河川と尾根状支脈である低丘陵に扶まれた台地上に、樋村遺跡Ⅲは尾根先端に広がった沖積地に立地する。（参考・北佐久郡志 第一巻 自然編、佐久市教育委員会 長峰古墳群 長峰古墳群附近の自然環境）



第5図 遺跡周辺の地質図 (1:20,000) (佐久市埋蔵文化財調査報告書「樋村遺跡Ⅱ、遺跡の環境」転載)

## 第2節 周辺遺跡

開戸田遺跡、扇田遺跡周辺における遺跡を時代ごとにみると縄文時代では北方の丘陵地に寄山遺跡群が存在する。遺跡群からは、中期の住居址が多数発見された。遺物は縄文石器に加え2,000点にも及ぶ多量の打製石斧が出土している。佐久市内における縄文時代遺跡の立地は、これまで寄山遺跡同様、丘陵地、谷状地形の緩斜面あるいは高所の台地上から発見される場合が多かったが、平成15、16年度に調査を行った南方の大奈良遺跡は、千曲川右岸の背後に独立丘陵を背負ったほぼ平坦な段丘上に位置している。時期は、縄文中期中葉後半から後期初頭にかけての遺構・遺物が発見され、中でも打製石斧は寄山遺跡を上回る3,498点が出土している。今後の調査では、沖積地上に営まれた集落の発見数が増すと思われる。

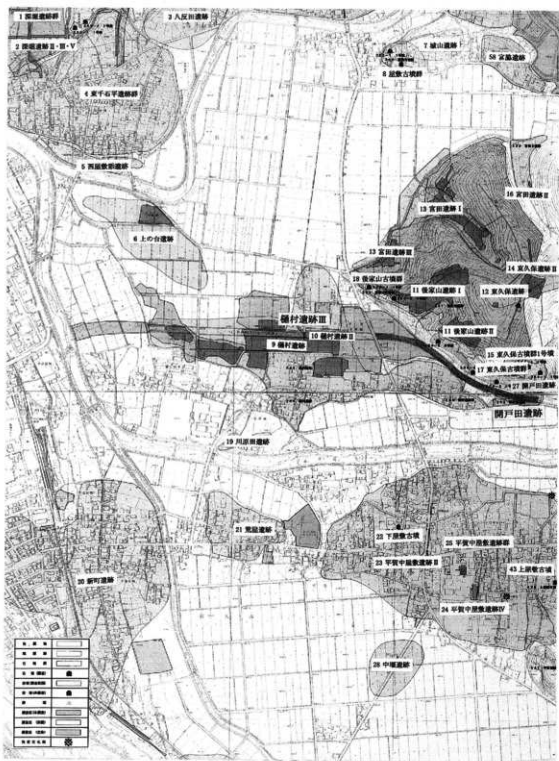
弥生時代は開戸田遺跡の北に接するように東方から延びる後家山丘陵尾根上の比較的平坦で開けた緩斜面上に後家山遺跡・東久保遺跡が存在する。平成13、14年の調査によって中期後半栗林期の住居址及び後期箱清水期を中心とする住居址が80軒以上発見され、後家山遺跡では一部の住居址の周囲を取り囲むように溝が巡っていることから高地性集落的性格が高いと考えられている。佐久市における弥生時代の調査例がこれまで千曲川左岸の尾根先端付近で発見された後沢遺跡等の一部を除き、河川沿いの平坦な台地上に集中する傾向が認められたため、後家山遺跡の丘陵上に広く展開する集落の発見は貴重な調査であった。遺物は全国的にも珍しい異型の螺旋状銅をつなぎ合わせた鉄銅が木棺墓と思われる土坑内からガラス製小玉と伴って出土した他、住居址内から炭化した獣先と考えられる木製品が出土している。また開戸田遺跡の西側には樋村遺跡群が存在し、中期栗林期5軒、後期17軒が遺跡群東端から集中して発見されているが、こちらは低地である滑津川右岸に広がる氾濫源沖積地上に営まれている。ほぼ同一地域において存在する遺跡の立地の違いが、いかなる理由であるかは今後の課題の一つである。このほか僅かだが南の平賀中屋敷で1軒（後期）、北西の深堀遺跡で4軒（中期後半）の住居址が調査されている。

古墳時代では前半の遺跡として開戸田遺跡の北西に広がる一段高い台地上に深堀遺跡が存在し、深堀遺跡Ⅳでは古墳時代前期後葉の住居址が9軒発見されている。後期になると深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、深堀遺跡Ⅳから4軒、開戸田遺跡西方の沖積地上で行われた樋村遺跡、樋村遺跡Ⅱにおける2度の調査によって、300軒以上の住居址が発見されている。また、開戸田、扇田遺跡両遺跡の北方の低丘陵縁辺には多数の古墳群が存在しており、これらの古墳と周辺集落との関係が興味深い。古墳の調査例としては、昭和49年開戸田遺跡北西に位置する丘陵西端の後家山古墳1号墳において残存した石室の調査が（7世紀代）、昭和62年には扇田遺跡北の長峯古墳1・5・6・7・8号墳（7世紀末～8世紀前半頃）、近年では平成13年に後家山古墳2号墳（5世紀後半～6世紀前半）、東久保古墳群1号墳（7世紀中葉～7世紀末）の調査が行われている。

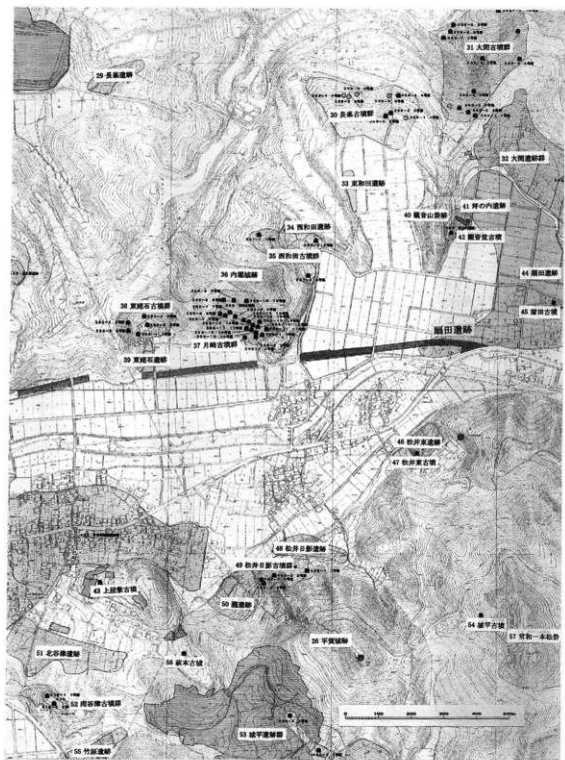
奈良・平安時代は開戸田遺跡西の樋村遺跡から11軒、南の平賀中屋敷遺跡から10世紀後半以降が数軒、北西の深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴでは9世紀～10世紀前半が61軒、深堀遺跡Ⅳでは9世紀前半～10世紀前半が40軒発見されている。樋村遺跡は前代の古墳時代後期の住居址が300軒を越すのに対して、11軒と激減する。逆に地形の高い深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、深堀遺跡Ⅳでは古墳時代後期の住居址が4軒であるのに対して平安時代の住居址が増大する。特徴的な遺物は深堀遺跡Ⅳの鍛冶関連遺構（鍛冶址）から出土した鉄滓・羽口、住居址内から出土した鉄製品（鎌・刀子・鎌・釘・斧・紡錘車）、暗文を伴う多数の土師器杯、京朝十二銭9番目の『長年大寶』（848年）1枚等が出土した他、深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴの住居址内から三累頭環柄頭、「蛙」の形状を線刻した土師器杯が出土している。

№	遺跡名	所在地	国	調	次	占	屋	中	分	備考
1	津和野遺跡	瀬戸市成見・高塚・高塚・下原外		○	○	○	○	○		510・47年調査
2	深草遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	瀬戸市深草・高塚・高塚・下原外		○	○	○	○	○		ⅠⅠ・12年度調査 ⅡⅡ～ⅢⅢ24年度 ⅡⅠ・12年度調査 ⅢⅢ～ⅣⅣ50年度
3	八反山遺跡	瀬戸市八反山								
4	木下平遺跡	瀬戸市木下平・高千早・西原敷跡								○
5	内島敷遺跡	瀬戸市内島敷跡								○
6	上の台遺跡	瀬戸市上の台・天神前		○	○	○	○	○		S58調査
7	城山城跡	瀬戸市城								○
8	戸敷古墳群	瀬戸市戸敷								○
9	樋川遺跡	平賀字樋川		○	○	○	○	○		
10	樋川遺跡Ⅱ	平賀字樋川		○	○	○	○	○		
11	横山遺跡Ⅰ・Ⅱ	平賀字横山								○
12	末久保遺跡	平賀字末久保・瀬戸市末久保								○
13	百津遺跡Ⅰ・Ⅱ	瀬戸市百津								○
14	末久保遺跡Ⅱ	平賀字末久保								○
15	末久保遺跡Ⅲ	平賀字末久保								○
16	末久保遺跡Ⅳ	平賀字末久保								○
17	末久保遺跡Ⅴ	平賀字末久保								○
18	末久保遺跡Ⅵ	平賀字末久保								○
19	末久保遺跡Ⅶ	平賀字末久保								○
20	末久保遺跡Ⅷ	平賀字末久保								○
21	末久保遺跡Ⅸ	平賀字末久保								○
22	末久保遺跡Ⅹ	平賀字末久保								○
23	末久保遺跡Ⅺ	平賀字末久保								○
24	末久保遺跡Ⅻ	平賀字末久保								○
25	末久保遺跡Ⅼ	平賀字末久保								○
26	末久保遺跡Ⅽ	平賀字末久保								○
27	末久保遺跡Ⅾ	平賀字末久保								○
28	末久保遺跡Ⅿ	平賀字末久保								○
29	末久保遺跡ⅰ	平賀字末久保								○
30	末久保遺跡ⅱ	平賀字末久保								○
31	末久保遺跡ⅲ	平賀字末久保								○
32	末久保遺跡ⅳ	平賀字末久保								○
33	末久保遺跡ⅴ	平賀字末久保								○
34	末久保遺跡ⅵ	平賀字末久保								○
35	末久保遺跡ⅶ	平賀字末久保								○
36	末久保遺跡ⅷ	平賀字末久保								○
37	末久保遺跡ⅸ	平賀字末久保								○
38	末久保遺跡ⅹ	平賀字末久保								○
39	末久保遺跡ⅺ	平賀字末久保								○
40	末久保遺跡ⅻ	平賀字末久保								○
41	末久保遺跡ⅼ	平賀字末久保								○
42	末久保遺跡ⅽ	平賀字末久保								○
43	末久保遺跡ⅾ	平賀字末久保								○
44	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
45	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
46	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
47	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
48	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
49	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
50	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
51	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
52	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
53	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
54	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
55	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
56	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
57	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
58	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
59	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
60	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
61	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
62	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
63	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
64	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
65	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
66	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
67	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
68	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
69	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
70	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
71	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
72	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
73	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
74	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
75	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
76	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
77	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
78	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
79	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
80	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
81	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
82	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
83	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
84	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
85	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
86	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
87	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
88	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
89	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
90	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
91	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
92	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
93	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
94	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
95	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
96	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
97	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
98	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
99	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○
100	末久保遺跡ⅿ	平賀字末久保								○

第1表 周辺遺跡表



第6図 周辺遺跡地図(1)

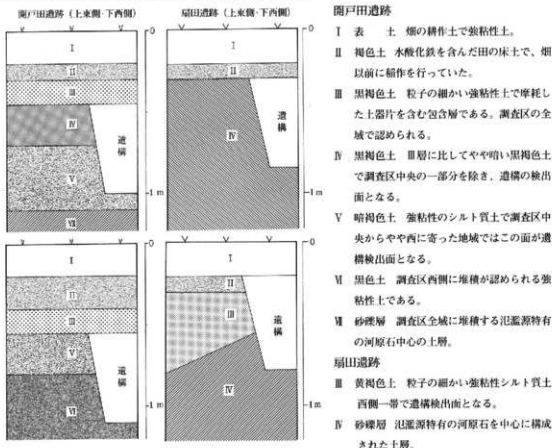


第7図 周辺遺跡地図(2)

### 第3節 基本層序

開戸田遺跡は滑津川右岸の氾濫源沖積地よりやや高い東方から延びる後家山丘陵南の裾野部に立地する。今回調査を行った地域の土層は、Ⅰ層は畑の耕作土で、雨天時に水はけが非常に悪い強粘性土である。Ⅱ層は調査区西側のみ確認できた褐色土の田の床土である。Ⅲ層は強粘性の黒褐色土で調査区全体に認められる。Ⅳ層はⅢ層に比して暗い黒褐色土で摩耗した土器片を多く含む。この上面にて古墳・平安時代の住居址が確認できたが、古墳時代については覆土が同一であるため、若干Ⅳ層上部を下げ検出を行った。Ⅴ層は強粘性シルト質暗褐色土で、調査区中央の西寄りではⅤ層上面にて遺構確認を行った。しかし、浅い平安時代の住居址は上部を削りとばす可能性がある。Ⅵ層は調査区西側地域に認められ、強粘性の黒色土である。Ⅶ層は調査区の全域に認められ、河原石を多量に含む砂礫層が堆積していた。このことから開戸田遺跡一帯のやや高い丘陵裾野部も古くは河川の影響を受けた氾濫源であったと考えられる。

扇田遺跡は開戸田遺跡から滑津川を遡った、右岸の台地上に立地し、基本的には色の違いはあるが、開戸田遺跡と同じく、氾濫源沖積地特有の砂礫に強粘性シルト層が堆積した状態となる。Ⅰ層は表土で畑、又は田の耕土である。Ⅱ層は畑下も以前は水田であったことから褐色土の水田床土となる。Ⅲ層は西側では黄褐色の強粘性シルトとなり東側是水田によって削られたためか確認できなかった。Ⅳ層は大小の礫が堆積した砂礫層である。遺構確認は西側Ⅲ層、東側Ⅳ層上面で行った。



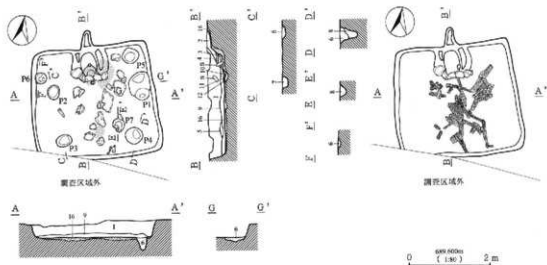
第8図 基本層序模式図

### 第三章 開戸田遺跡

#### 第1節 竪穴住居址 (H)

##### H1号住居址

遺構は3ーローIグリッドに位置し、H3を切る。規模は南北2.8m、東西3.1mと小型で、床面までの深さは40cmを測る。平面形は方形である。覆土内に多量の炭化物、焼土が含まれ、床面上には多量の炭化材、石が積み重なるように出土し、付近から土器の破片が多数出土した。覆土は焼土、炭化物、土器片を多く含む黒褐色土の単層である。床面は粘土質で固く平坦で、ピットは7個認められたが、いずれが主柱穴であるかの判断はできなかった。カマドは北壁の中央に構築され、両袖は北壁から住居内に60cm程度延び、先端部に焚口部の補強として石材が埋め込まれていた。上部に細長い天井石が認められ、中央付近から2分されていた。火床部には厚さ4cmの焼土が堆積し、中央には支脚石が埋め込まれていた。煙道は北壁付近で急激に立ち上がった後やや深さを持ち、住居外50cm付近に立ち上がる。掘方は14cm程度の厚みで上部に焼土混じり

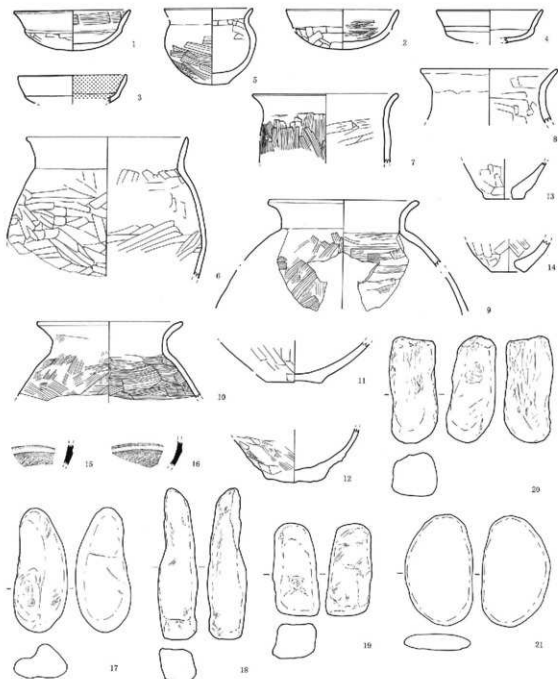


第9図 H1号住居址実測図

の黒褐色土が、下部にやや混じりの少ない軟質の黒褐色土が埋め込まれていた。

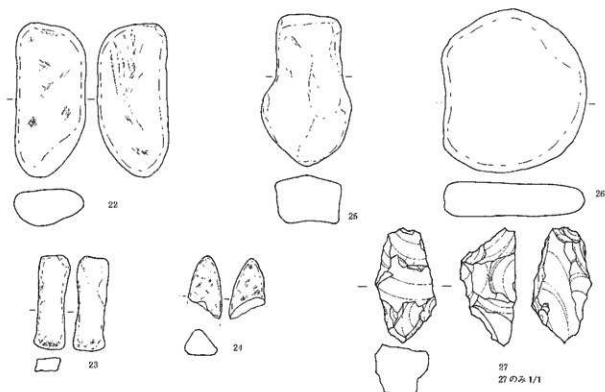
遺物は、土師器の坏、甕、甗、須恵器、編物石等が出土した。図示したのは27点である。1~4は体部途中に明瞭な稜を有する坏で内外面にミガキを施すが表面の摩耗が著しい。5は小型の甕で外面に櫛目状の調整痕が残る。6~12は甕で7・8は胴部の張りが緩く、他は口縁に比べ張りが強い。7・8・

9・10の外面には櫛目状の調整痕が残る。13・14は瓶底部の破片でいずれも径1.8cm程度の単孔である。17～26は編物石（一部すり石併用）、すり石、支脚石、台石である。27は黒曜石の剥片である。木住居址は、壊の形状、頸部から直線的な胴部を持つ甕の存在から6世紀中葉～7世紀初頭、古墳時代後期と考えられる。



第10図 H1号住居址遺物実測図(1)





第11図 H1号住居址遺物実測図(2)

番号	種類	形状	口径cm	底径cm	軸長cm	特徴・文様	出土層・部位	状況	色調(外面)
1	土師器	杯	13.8	丸底	4.9	口縁外側ナゲ 外面ヘラケズリ 口縁内面ハケ目・ナゲ	65	良	7.517/7 緑・棕色
2	土師器	杯	13.7	丸底	4.9	口縁内外有リガキ 外面ヘラケズリ底ナゲ・ミガキ	60	良	7.517/7 緑・棕色
3	土師器	杯	13.3	丸底	-	口縁内外有リガキ 内面黒色地肌	口縁部片	良	10186/6 厚黒褐色
4	土師器	杯	12.0	丸底	-	口縁内外有リナゲ 外側ヘラケズリ	口縁部片	良	7.517/4 緑・棕色
5	土師器	小口甕	10.5	4.2	9.4	口縁内外有リナゲ 外面有リナゲ 内面ヘラナゲ	70	良	7.517/7 緑・棕色
6	土師器	甕	19.7	-	-	口縁ナゲ 外面ヘラケズリ底一笠ナゲ 内面ヘラナゲ	50	良	5187/6 明褐色
7	土師器	甕	17.8	-	-	口縁ナゲ 外面段縁ナゲ 内面段縁ナゲ	口縁部	良	5187/6 緑色
8	土師器	甕	16.8	-	-	口縁外面ナゲ 内面ハケ目 外面ヘラケズリ 内面ナゲ	口縁部	良	7.517/6 褐色
9	土師器	甕	18.0	-	-	口縁内外有リナゲ 外面段縁ナゲ 内面段縁ナゲ	口縁20 部片1・2部破片	良	7.517/6 褐色
10	土師器	甕	15.1	-	-	口縁内外有リナゲ 外面段縁ナゲ 内面段縁ナゲ	口縁30	良	7.517/6 緑・棕色
11	土師器	甕	-	6.7	-	外面ヘラケズリ 内面ナゲ	口径100 胴下部破片	良	7.517/4 緑・棕色
12	土師器	甕	-	7.6	-	外面段縁ナゲ(寄物) 内面ナゲ 裏面木炭目(寄物)	口径100 胴下部	良	7.517/4 褐色
13	土師器	瓶	-	4.6	-	外面ヘラケズリ 内面ナゲ 底部径1.6cm内外の孔	口径50 底部	良	2.5186/6 褐色
14	土師器	瓶	-	4.3	-	外面ヘラケズリ 内面ナゲ 底部径1.6cm内外の孔	口径50 底部下半	良	5187/4 緑い棕色
15	土師器	不倒	-	-	-	外面段縁文	破片	良	10186/1 褐色
16	土師器	不倒	-	-	-	外面段縁文	破片	良	10186/7 褐色

番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
17	陶物片	15.3	6.5	4.7	796	釜山川
18	陶器・陶物片	18.2	5	4	880	釜山川

第2表 H1号住居址遺物観察表(1)

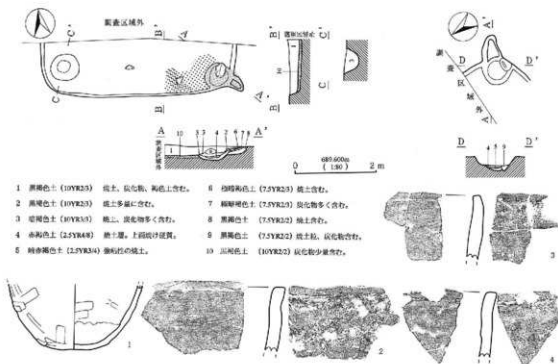
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
19	燻物石・すり石	11.4	5.2	4.3	406	器面と器面あり
20	燻物石・すり石	13.2	6.1	5.4	588	
21	燻物石	13.9	8.4	1.9	290	反口部
22	すり石	16.3	7.9	4.2	765	
23	すり石	16	3.4	1.5	189	器が壊れあり 安山岩
24	すり石	6.6	3.3	2.7	55	磨り減り面 安山岩
25	支脚石	16	9.8	3.3	1,220	安山岩
26	支石	17.3	15.5	3.7	1,460	安山岩
27	燻石	3.1	1.6	1.4	6	燻物石

第3表 H1号住居址遺物観察表(2)

## H2号住居址

遺構は3-ウ-フグリッドに位置し、H11を切る。規模は北側が調査区外であるため南北は調査規模となり、東西4.8m、南北1.4m、床面までの深さは25cmを測る。平面形は隅丸の方形と考えられる。覆土は焼土、炭化物、褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。床面は粘土質で堅く平坦だが、西側は床下が礫層であるため凹凸感がある。壁際の周溝は認められず、南西コーナーに径65cm、深さ35cmの上坑が存在した。カマドは南東コーナーに位置し、両袖はすでに破壊され、火床及び煙道のみ残存していた。火床から煙道にかけては熱により焼土化し焼けしまっていた。床下は粘土質の土が薄く敷き詰められていた。

遺物はカマド周辺から同一個体と思われる口縁面取りした土師器口縁部破片と土師器甕が出土した。時期はカマドが住居址の南東に構築され、遺物の出土量が少なく、口縁面取りした羽釜の口縁に類似する形状の土器が出土したことから11世紀以降の平安時代としたい。



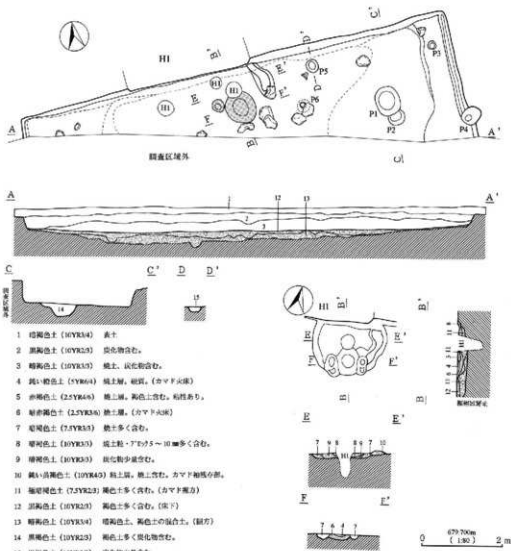
第12図 H2号住居址・遺物実測図

番号	形種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	測 量・文 様	残存率・部位	構成	色説(外面)
1	土埴器	壺	—	8.0	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ	遺部100 胴部下部	良	7.5YR7/2 濃い棕色
2	土埴器	不明	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ 3・4と同一体	口縁	良	7.5YR6/4 濃い棕色
3	土埴器	不明	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ 2・4と同一体	口縁	良	7.5YR6/4 濃い棕色
4	土埴器	不明	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ 2・3と同一体	口縁	良	7.5YR6/4 濃い棕色

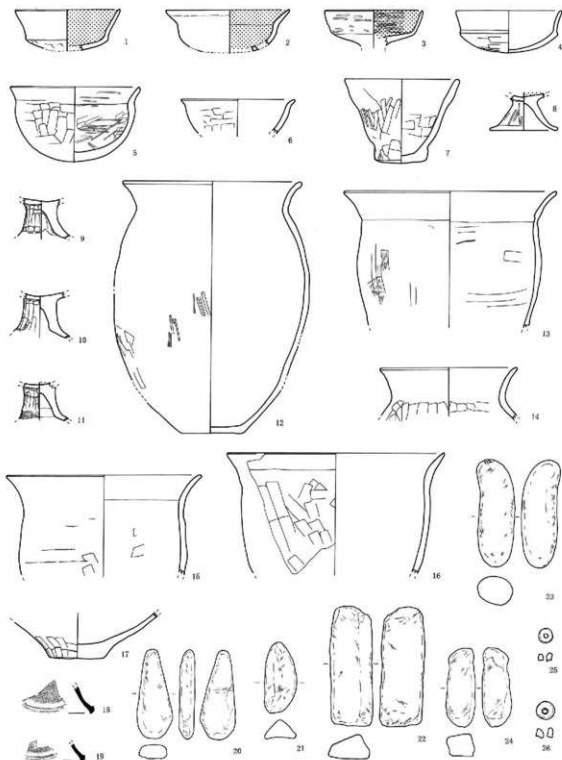
第4表 H2号住居址遺物観察表

### H3号住居址

遺構は3—i—Jグリッドに位置し、北壁中央付近をH1に切られる。規模は東西10.7m、南北は確認規模の最大で3.2mを測る。確認状況から一辺10mを越す大型の住居址と考えられる。床面までの深さは最深で56cmを測り、平面形は方形あるいは長方形と考えられる。覆上は上層に炭化物、土器片を含む黒褐色土、下



第13図 H3号住居址実測図



第14图 H 3号住居址遗物实测图

層に焼上、炭化物、土器片を多く含む暗褐色土が水平に堆積している。床面は全体に固く貼り床され、東壁際1m内外は床面より一段高いベットの状を呈していた。東壁際には北壁から2.5mまで幅12cm、深さ10cm程の周溝があり、この南端には溝柱穴と思われるP4が存在した。ピットは6個認められP1が支柱穴と思われる。カマドはH1に破壊された北壁中央付近に、円形状の焼上の堆積及び周辺から粘土の散布が認められた。よって、本体は北壁中央に構築されていたが、H1によって破壊されたものと考えられる。円形の焼土は径80cm、深さ12cmを測る。カマドの火床部で、掘方のみ調査可能であった。火床の規模から住居址同様の大型のカマドと考えられる。掘方は東西壁際が4cm程度とやや薄く、中央にゆくほど厚みを増してゆき、もっとも厚いところでは26cmを測る。覆上は床面付近は黒褐色土の硬質で、その下層は暗褐色と褐色土の混合で、やや堅さを持つ。

遺物は土師器の坏、鉢、高坏、甕、甌、須恵器の高坏、白玉、石器が出土した。図示したのは26点である。1・2・4は坏で1は稜から長く外傾気味に開きながら口縁に至り、身は浅い。2は体部途中から大きく外反し口縁に至る。4は稜から直線気味に外傾する。5～6は鉢で5は半球状で口縁端部に外に開く。6は口縁付近の破片だが形状は5と同様である。7は底部から傾斜を持ち、直線的に口縁部に立ち上がる。内外面の調整が雑で凹凸感が強い。3・8～11は高坏で3は坏部で他は脚部である。いずれも背の低い形状と思われる。12～17は甕で12の他は部分的な破片となる。12は胴部中央付近に最大径を有する。13・15・16は底部が残存していないが形状から甌の可能性もある。ともに外傾気味に立ち上がり、口縁付近で僅かに外反する。18・19は透かしを有する須恵器の高坏である。25・26は小型の白玉で25は径4.2mm、長さ2.0mmで26は径5.8mm、長さ3.0mmを測る。20～24は砥石、すり石、敲石である。

本住居址は九底の端部が外反する坏、高坏の坏部の形状、胴の張る甕の存在から6世前葉～中葉、古墳時代後期としたい。

番号	器名	品名	口径cm	口径cm	高さcm	説明	数量・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	12.7	12.6	—	口縁外側ナデ後ミガキ 外周ケズリ 内面ミガキ 褐色処理	40	良	7.5YR3/3 淡黄褐色
2	土師器	坏	15.1	15.1	—	口縁内外面ナデ 外周ケズリ後ナデ 内面黒色処理	50	良	5YR3/3 淡褐色
3	土師器	高坏	[11.8]	—	—	外周口縁外側後ミガキ 外周ケズリ後ミガキ 内面黒色処理 ミガキ	坏部破片	良	10YR6/4 褐色
4	土師器	坏	[13.0]	13.0	5.2	口縁内外面ナデ 外周ヘラケズリ	30	良	5YR6/6 褐色
5	土師器	鉢	16.8	16.8	9.2	口縁ナデ 外周ヘラケズリ 内面ナデ後ミガキ	50	良	2.5YR3/3 黄い赤褐色
6	土師器	鉢	[14.0]	—	—	外周ケズリ 内面ナデ 内外面ともに摩耗強い	口縁～体部破片	良	5YR6/6 褐色
7	土師器	鉢	14	6.3	10.5	外周縦ヘラナデ 内面縦・糸めヘラナデ	40	良	7.5YR3/3 黄い褐色
8	土師器	高坏	—	8.4	—	胴部外周後ミガキ 胴部ナデ 胴部内面黒色処理 内面黒色処理	脚部100	良	7.5YR3/3 淡黄褐色
9	土師器	高坏	—	—	—	胴部外周縦ヘラケズリ 内面ヘラナデ 胴部内面黒色処理	脚部60	良	5YR7/6 褐色
10	土師器	高坏	—	—	—	胴部外周縦ヘラケズリ 内面ヘラナデ 胴部内面黒色処理	脚部60	良	5YR7/6 褐色
11	土師器	高坏	—	—	—	胴部外周縦ヘラケズリ 胴部外周ミガキ 内面ナデ 胴部黒色処理	脚部50	良	2.5YR7/6 褐色
12	土師器	甕	22	7.5	30.9	口縁ナデ 外周ヘラケズリ後ナデ・ミガキ 内面ヘラナデ	60	良	7.5YR6/4 淡黄褐色
13	土師器	甕	[26.0]	—	—	口縁横ナデ 外周縦ヘラケズリ・ハケ縦横 内面ヘラナデ	胴部30 胴上部破片	良	5YR6/6 褐色
14	土師器	甕	[18.0]	—	—	口縁横ナデ 外周ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部20 胴上部破片	良	2.5YR7/9 褐色
15	土師器	甕	[19.6]	—	—	口縁横ナデ 外周縦ヘラケズリ 胴部縦横 内面ヘラナデ	胴部～胴部破片	良	7.5YR6/4 淡黄褐色
16	土師器	甕?	[26.6]	—	—	口縁横ナデ 外周縦ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部～胴部破片	良	5YR7/6 褐色

第5表 H3号住居址遺物観察表(1)

番号	品名	形状	口径cm	高さcm	厚さcm	調査・文書	保存率・部位	状態	色調(外装)
17	土師器	甕	—	6.6	—	外面ケズリ 内面ナブ 内外面ともに厚肌強い	底部100 胴部下	片	2.5YR4/6 赤褐色
18	灰土器	高杯ノ	—	—	—	口縁ナブ 透かし	胴部破片	良好	M4/0 灰色
19	灰土器	高杯ノ	—	—	—	口縁ナブ 透かし	胴部破片	良好	10YR5/1 褐色

番号	品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
20	砥石	11	4.4	1.8	112	安山岩
21	すり石	8.7	3.8	3.1	100	安山岩
22	すり石	14.6	5.5	3	392	安山岩
23	すり石	13.2	4.8	3.6	281	両面に磨り肌
24	すり石	9.7	3.7	2.8	162	安山岩

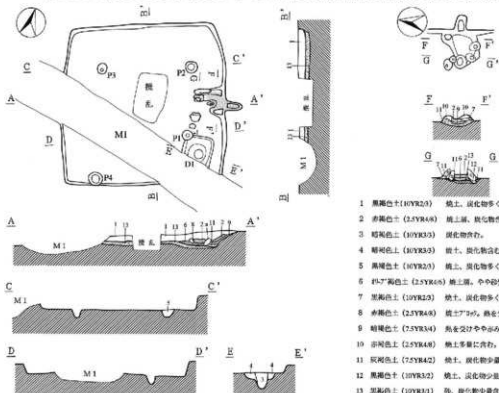
  

番号	出土位置	種別	長さ(mm)	径(mm)	孔径(mm)	重さ(g)	材質	色調
25	I区	白玉	2.3	4	1	0.08	滑石	暗緑灰色
26	I区	白玉	3	6	2	0.15	滑石	明褐色

第6表 H3号住居址遺物観察表(2)

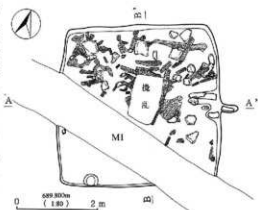
#### H4号住居址

遺構は4ーおーIグリッドに位置し、南壁から西壁にかけてM1に切られ、中央は最近の掘直しによって床下まで破壊されている。規模は東西4.1m、南北3.95m、床面までの深さ40cm内外を測る。平面形は方形である。覆土は焼土・炭化物を含む強粘性の黒褐色土で床面上には多量の炭化材が認められた。床面は固く貼床され、ピットは4個確認できた。P1～3が4個中3個の主柱穴であり、1個はM1に破壊されていると思われる。南東コーナーには方形で中央部はさらに円形に掘り込まれた土坑が存在し、土師器の甕が出土した。カマドは東壁中央に構築され大きく破壊されていた。残存した袖は粘土を利用し、東壁から住居内に北袖は

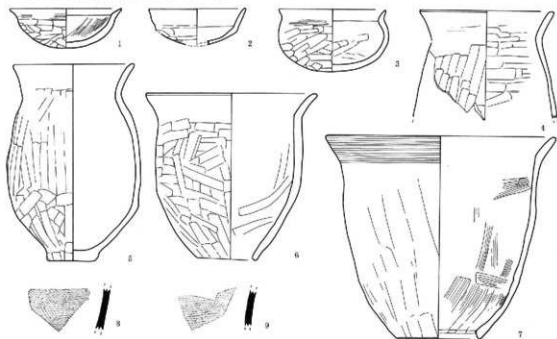


第15図 H4号住居址実測図(1)

70cm、南袖は30cm程度延び、北袖には先端及び内側に石材が、南袖は先端に石材が埋め込まれ、内側の石材が抜き取られたと思われる位置には完形に近い土師器甕が横たわっていた。火床には焼土の堆積があり、中央に自然の川原石を利用した支脚が埋め込まれていた。床下には全体に8cm程度の厚みで黒褐色土が敷き詰められ固くしまっていた。遺物は土師器の坏・鉢・甕・甗、須恵器の甕片が出土した。図示したのは9点である。1・2は丸底の坏で体部途中で稜を持ち1の口縁端部は強く外反する。2は稜から外傾気味に口縁に至る。3は鉢で丸底の底部から立ち上がり口縁端部で外反する。4・5は甕で、5は胴部下半に最大を有する下膨れである。6・7は甗で6は径6.5cm内外の孔を持つ底抜けの底部で胴部下半はやや丸みを持ち、口縁は外反する。7は9.5cm内外の孔を持つ底抜けの底部で胴部下半はやや丸みをもち、口縁は外反し、広口である。8・9は外面に叩き痕を残す。本住居址は口縁が外に大きく開く坏、丸底で口縁端部が僅かに外反する坏、下膨れの甕の存在から6世紀前葉～中葉、古墳時代後期と考えられる。



第16図 H4号住居址実測図(2)



第17図 H4号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	検出層・部位	状況	色調(外面)
1	土師器	坏	13.7	丸底	4.9	白縁ナダ 外面ヘラケズリ 内面ミダキ 内外面磨耗激しい	90	良	10YR5/6 赤褐色
2	土師器	坏	11.8	丸底	-	白縁ナダ 外面ヘラケズリ 内面ナダ 摩耗激しい	50	良	2.5YR5/6 紅色
3	土師器	鉢	13.1	丸底	7.6	口縁内外面磨ミダキ 外面ヘラケズリ後ナダ 内面ミダキ	90	良	2.5YR7/6 褐色

第7表 H4号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調・文・装	検出中・部位	形状	色相(外面)
4	土師器	長胴甕	16.5	—	—	口縁横ナデ 外面縦ヘラケズリ 内面横ヘラナデ	口縁100 胴上破砕片	片	2.5YR5/6 褐色
5	土師器	長胴甕	14.8	6	24	口縁横ナデ 外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナデ	98	片	2.5YR5/8 褐色
6	土師器	甕	20.9	7	28.4	口縁横ナデ 外面縦・斜めヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面底縁付単孔	98	片	7.5YR5/4 暗い褐色
7	土師器	甕	[28.2]	10.2	24.8	口縁ヘラ目 外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面 底縁付単孔	50	片	7.5YR7/3 暗い褐色
8	須恵器	甕	—	—	—	外面平行切込	破片	片持	5Y6/1 灰色
9	須恵器	甕	—	—	—	外面平行切込	破片	片持	2.5YR 黄褐色

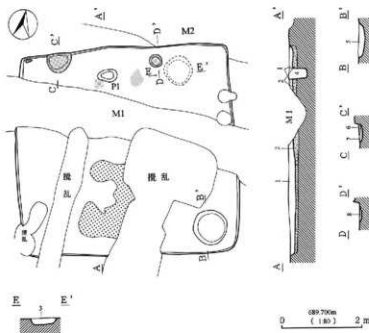
第8表 H4号住居址遺物観察表(2)

### H5号住居址

遺構は4ーくーHグリッドに位置し、東壁から西壁にかけてM1に、北壁をM2に切られ、H6・7を切る。住居址の中央から南側には2カ所の攪乱があり、床下まで大きく破壊されている。平面形態は方形である。覆土は焼土、炭化物を多く含む黒褐色土の単層である。床面は固く平坦で、中央から南にかけて薄い炭層が認められた。ピットは主柱穴と断定できるものは確認できなかったが、南東コーナーには径80cm、深さ15cmと浅い土坑が存在した。カマド本体は認められなかったが、北壁の東寄りから粘土及び円形の焼土の堆積が確認でき、土器片が集中していることからカマドが存在した可能性が考えられた。この他北壁沿い3箇所に性格不明の焼土範囲が存在した。床下には焼土、炭化物を含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の鉢、小型甕、甎、甕、石器が出土した。図示したのは14点である。1は深みがあり、鉢ともとれるが甎とした。2～6は小型の甕で、2は肩部に稜をもちやや反りながら口縁に至る。3の肩部は丸みを持ち、反り気味に口縁に至る。4は最大径が口縁部にあり、頸部は緩やかに反り口縁に至る。5・6は底部周辺の破片である。7・8は小型の甎で、底部単孔の底部から直線的に開きながら口縁に至る。8の底部周辺はやや厚みがある。9・10は長胴甕である。最大径は胴部にある。13は混入品で打製石斧、14はすり石である。

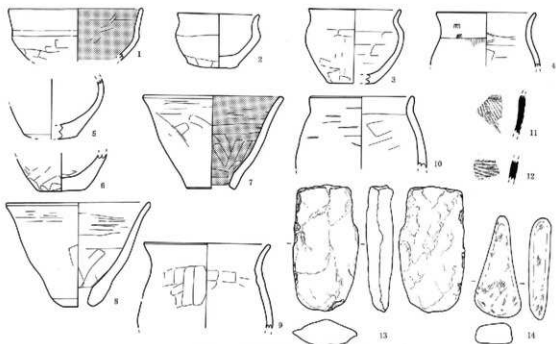
本住居址は胴中央付近に最大径を有する甕の存在、環の形状から6世紀中葉～7世紀初頭、古墳時代後期としたい。



- |                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色土(5YR2/3) 焼土、炭化物含む。         | 5 黒褐色土(5YR2/2) 褐色土含む。     |
| 2 黒褐色土(5YR2/3) 焼土、炭化物少量含む、褐色土含む。 | 6 暗赤褐色土(2.5YR3/5) 焼土層。    |
| 3 黒褐色土(5YR3/2) 焼土、炭化物、灰少量含む。     | 7 暗赤褐色土(5YR2/4) 焼土、炭化物含む。 |
| 4 暗褐色土(5YR3/4) 遊動土。              | 8 赤褐色土(2.5YR4/8) 焼土層。     |

第18図 H5号住居址実測図





第19図 H5号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	器型・文様	残存率・部位	出土	発掘(内面)
1	土師器	杯	[16.0]	—	—	口縁横ナズ 外面ヘラケズリ 内面黒色	口縁破片	良	5YR6/7 褐色
2	土師器	小型壺	10	6	6.6	口縁横ナズ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナダ 内外面ともに厚粒塵しい	50	良	5YR7/4 緑い褐色
3	土師器	小型壺	11.3	5.8	9.1	口縁横ナズ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナダ 内外面ともに厚粒塵しい	70	良	2.5YR6/6 褐色
4	土師器	小型壺	[12.2]	—	—	口縁横ナズ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナダ 内外面ともに厚粒塵しい	口縁へ割布上半	良	2.5YR6/6 明赤褐色
5	土師器	小型壺	—	5.5	—	外面ヘラケズリ 内面ナダ 内外面厚粒塵しい	底辺50～割部	良	2.5YR6/6 褐色
6	土師器	小型壺	—	5.3	—	外面ヘラケズリ 内面ナダ 内外面厚粒塵しい	底辺50～割部	良	2.5YR6/6 褐色
7	土師器	瓶	17.2	5.8	11.4	口縁横ナズ 外面ヘラケズリ 内面上半横ナズ・下部縦ナズ 内面黒色	40	良	5YR6/6 褐色
8	土師器	瓶	17.8	4	12.7	口縁横ナズ 外面ヘラケズリ 内面上半横ナズ・下部縦ナズ	50	良	5YR6/6 褐色
9	土師器	長頸壺	15.5	—	—	口縁横ナズ 外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナダ	口縁60 割部上半	良	7.5YR7/5 埋色
10	土師器	長頸壺	[15.0]	—	—	口縁横ナズ 外面縦ヘラケズリ 内面横ヘラナダ	口縁 割部上半	良	5YR6/6 褐色
11	灰土器	壺	—	—	—	外面平行印き	破片	良好	10YR7/1 灰白色
12	灰土器	壺	—	—	—	外面平行印き	破片	良好	10YR3/1 灰褐色

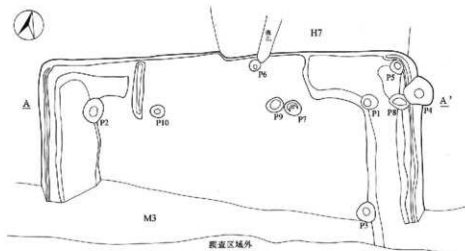
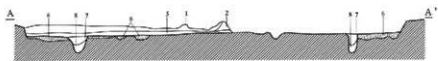
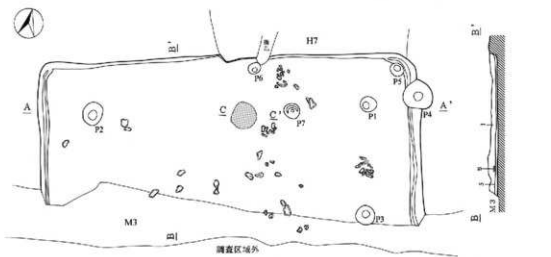
  

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
13	打製石斧	15.5	8.1	3.3	530	古い割傷摩耗と新しい割傷あり 安山岩
14	すり石	8.7	3.9	3.1	105	安山岩

第9表 H5号住居址遺物観察表

### H6号住居址

遺構は4ーくーJグリッドに位置し、北壁の東側をH7に、南側をM3に切られる。南側は遺構の形態からさらに広がるが、地形がすでに落ち込んでいることから、掘削されていると思われる。規模は東西9.3mを測り、H3同様、大型の住居址で平面形は方形または長方形と考えられる。覆土は炭化物を含む黒褐色土



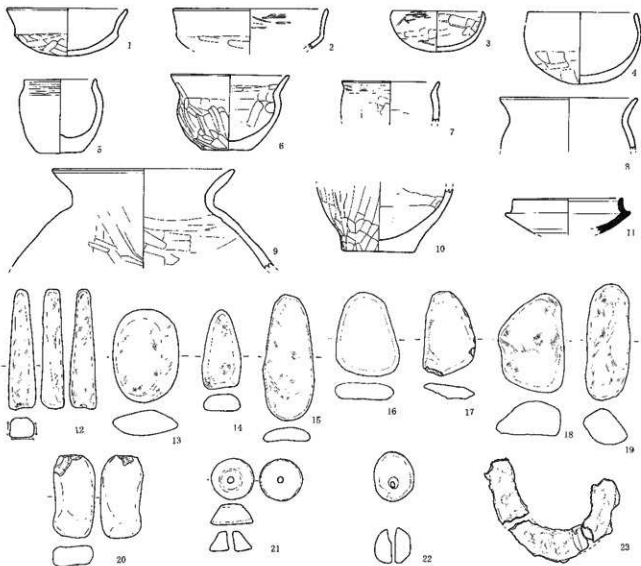
- 1 黒褐色土 (10YR2/5) 粘土、炭化物少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/5) 粘土、炭化物多く含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/5) 粘土、炭化物含む (2<3)
- 4 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 粘土層。
- 5 暗赤褐色土 (10YR2/5) 炭化物、粘土少量含む、上面硬質。
- 6 黒色土 (10YR2/5) 炭化物、砂を含む。
- 7 黒色土 (10YR2/5) 炭化物含み多量含む、主柱穴。
- 8 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物含み多量含む、主柱穴。

0 889.600m  
(180) 2 m

第20図 H6号住居址実測図

の単層である。南北は残存規模の最大で4.2m、床面までの深さは40cm内外を測る。床面は両く平坦だが、北壁中央から南にかけては地山が氾濫源の砂礫層であることから凹凸感がある。東壁及び西壁際に周溝が存在した。ピットは床面上で7個認められP1・P2が主柱穴と考えられる。カマド本体は確認できなかったが北壁中央の内側に円形の焼土の堆積が認められることから、カマドはH7によって破壊されたと考えられる。床下は全体に薄暗赤褐色上が薄く敷き詰められ、その下層には西、東壁際から北壁の一部にかけてL字状に深く掘り込まれ黒色土が埋め込まれていた。床下から3個のピットが認められた。性格は不明である。

遺物は土師器の坏、鉢、甕、須恵器の坏、土玉、石製品等が出土した。図示したのは23点である。1・2は丸底の体部に明瞭な稜を有する坏で1は外反気味に、2は直線的に口縁に至る。3は半球状で口縁は僅かに内彎する。4は深みのある半球状であることから鉢とした。5～8は小型甕で5・7は口縁が短く反る。6・8は外に大きく開き最大径は口縁部にある。9は球胴甕の破片である。10は胴部の張る長胴甕底部と考えられる。11は須恵器の坏、12～21は石器で砥石、すり石、敲石、20は礫器、21は紡錘車である。22は上製丸玉、23は鉄製の鋤先と思われる。本住居址は外反する土師器坏、半球状の坏、須恵器の形状から6世紀前葉～中葉、古墳時代後期とした。



第21図 H6号住居址遺物実測図

番号	器種	器高	口径cm	底径cm	胎土cm	胎色	製造地	裏面・室	内面	外周	高さ(cm)	色調
1	土師器	杯	12.8	丸底	5	丸底	5	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面灰色胎土 内面厚化粧		80	長	7.516/0 褐色
2	土師器	杯	[18.3]	丸底	—	丸底	—	口縁横ナゲ 裏ミガキ 外面ヘラケズリ 内面厚化粧		口縁破片	長	7.937/4 褐色・黒色
3	土師器	杯	9.5	丸底	4.3	丸底	4.3	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 裏ナゲ・ミガキ 内面ヘラケズリ		90	長	7.912/0 褐色・黒色
4	土師器	鉢	11.5	丸底	7.6	丸底	7.6	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ 内周厚化粧		70	長	7.517/0 褐色
5	土師器	小形壺	7.9	4.8	2.7	4.8	2.7	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ		80	長	6.925/4 褐色・黒色
6	土師器	小形壺	12.6	5	8	5	8	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ		70	長	2.512/0 褐色・黒色
7	土師器	小形壺	[10.4]	—	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ		口縁破片	長	7.516/4 褐色・黒色
8	土師器	小形壺	[14.6]	—	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ		口縁破片	長	5.926/0 褐色・黒色
9	土師器	壺	[19.2]	—	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ		口縁破片	長	7.516/0 褐色
10	土師器	壺	—	7.6	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ		底部・胴部下	良	6.925/0 褐色・黒色
11	須恵器	片	[11.7]	丸底	—	丸底	—	口縁口横ナゲ 外面厚化粧ヘラケズリ		30	良好	2.512/0 褐色・黒色

番号	器種	長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
12	磁石	12.8	3	2.1	120	安山岩
13	サリ石	9.9	7	2.8	260	安山岩
14	サリ石	8.4	6.1	1.8	94	安山岩
15	サリ石	13.3	5.4	1.6	133	安山岩
16	サリ石	13.3	5.4	1.6	133	安山岩
17	サリ石	9	5.2	1.7	95	安山岩
18	サリ石	10.5	7.1	3.3	309	
19	サリ石	12.4	4.8	4	250	安山岩
20	磁石	8.8	4.6	2.3	141	安山岩
21	砂礫石	径-4.4	—	2.2	26	初期に制作時のミガキあり 安山岩

番号	出土位置	種別	長さ(mm)	径(mm)	孔径(mm)	取さ(g)	材質	色調
22	礎土	丸瓦	9	11	3	1.24	土師	灰褐色

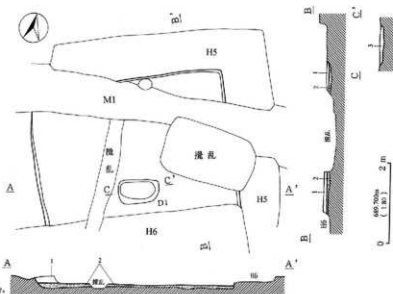
番号	器種	出土位置	長さ	厚さcm	厚さcm	重量g	備考
23	磁瓦	東壁際	11.2	3	0.9	135.7	

第10表 H 6号住居址遺物観察表

### H 7号住居址

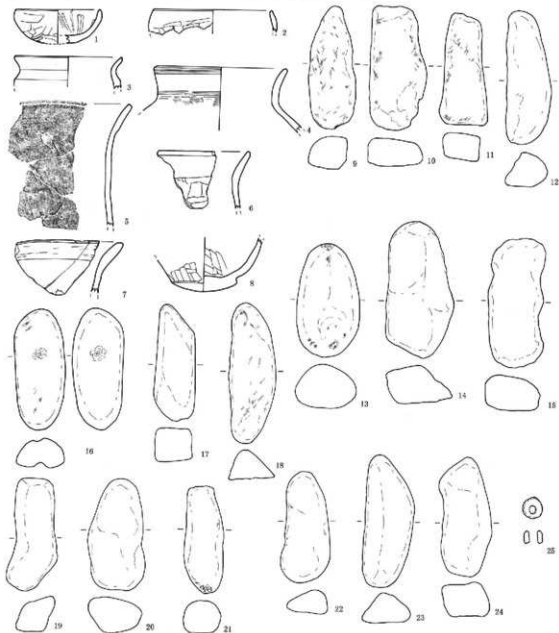
遺構は4-1-1グリッドに位置し、遺構上部の大半はH 5に、南側はH 6に床下まで破壊され、北壁付近はM 1に切られる。確認できたのは北側3分の2程度の覆土及び床面、掘方である。平面形態は方形と考えられる。覆土は床面に近いこともあり、焼土、炭化物、土器片を多く含む。規模は東西4.8m、南北は残存規模で3.4m、床面までの

- 1 黒褐色土 (30YR2/3) 炭化物、褐色土を含む。
- 2 黒褐色土 (30YR2/3) 炭化物少量含む。
- 3 黒褐色土 (30YR2/3) 褐色土、赤色土多く含む。



第22図 H 7号住居址実測図

深さは4cm内外と浅い。床面上で土坑が1基確認できた他、ピット、カマド等の施設は認められなかった。遺物は土師器の坏、甕、白玉、編物石等の石器が出土した。図示したのは25点である。1は丸底坏の破片である。2は深みのある半球状の鉢口縁部、3は小型甕の口縁破片で、4は球胴の甕口縁部である。5～7は底部が残存していないが口縁部の形状から甕である可能性がある。8は甕の底部で、25は小型の白玉である。9～24は編物石、すり石、敲石、穿石であり、大半が編物石である。本住居址は遺物が僅かだが、6世紀前半のH5に切られることから5世後半～6世紀初頭、古墳時代としたい。



第23図 H7号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	口径cm	高さcm	器體・文様	残存部・部位	産地	色調(外面)
1	土師器	杯	[10.4]	丸底	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ 内面放射状スガキ	口縁破片	良	2.5305/0 褐色
2	土師器	鉢	[14.4]	—	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ	口縁30	良	5326/0 褐色
3	土師器	小壺	[13.2]	—	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ	口縁・器身破片	良	5327/0 褐色
4	土師器	皿	[16.3]	—	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ	口縁100	良	5328/0 暗赤褐色
5	土師器	瓶?	—	—	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ 5と同一	口縁・頸部破片	良	7.5329/1 黒褐色
6	土師器	瓶?	—	—	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ 5と同一	口縁・頸部破片	良	7.5330/1 黒褐色
7	土師器	瓶?	—	—	—	口縁横ナブ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ 5と同一	口縁破片	良	7.5332/2 暗い褐色
8	土師器	壺	—	8	—	外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナブ	底部100	良	2.5336/4 褐色

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
9	礫物石・ナリ石	15.2	5.9	4	529	安山岩
10	礫物石・ナリ石	15.3	7	3.5	588	安山岩
11	礫物石・ナリ石	13.8	6	3.6	496	安山岩
12	礫物石・ナリ石	16.5	5.7	4.3	446	安山岩
13	礫物石	14	7.7	5.4	606	安山岩
14	礫物石	16.9	8.3	4.8	806	安山岩
15	礫物石	19	8.1	4.5	725	安山岩
16	礫物石・圓石	15	6.3	3.7	418	西面に凹みあり 安山岩
17	礫物石	14.1	5	4.3	516	安山岩
18	礫物石・ナリ石	17.3	5.8	3.8	386	ナリ石に転用 安山岩
19	礫物石	12.9	6.2	4.5	475	安山岩
20	礫物石	13.6	7	4.6	560	安山岩
21	礫物石・燧石	13.1	5	4	355	
22	礫物石	13.6	6.1	3.1	278	安山岩
23	礫物石	16.2	6.2	3.9	429	安山岩
24	礫物石	14.7	6.4	4.2	625	安山岩

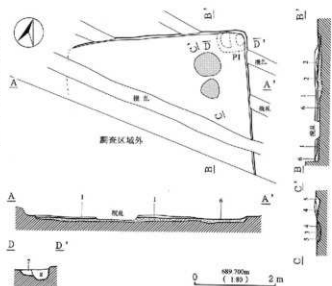
番号	出土位置	器種	長さ(mm)	径(mm)	孔径(mm)	重量(g)	材質	色調
25	礎上	白瓦	3	6	2	0.19	滑石	灰白色

第11表 H7号住居址遺物観察表

### H 8号住居址

遺構は3ーあーJグリッドに位置し、南側の大半は調査区外となる。規模は東西5.4m、南北は調査規模の最大で3.4m、床面までの深さは5cmを測るが、検出段階で部分的に床面が露出した状態である。平面形は残存状況から方形と考えられる。

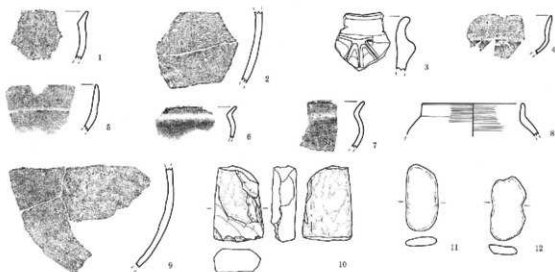
- 1 灰褐色土 (10YR2/3) 焼土粒、炭化物含む。
- 2 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。
- 3 暗赤褐色土 (2.5YR3/8) 焼土層。
- 4 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。
- 5 暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土粒、炭化物含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量含む。
- 7 暗褐色土 (10YR3/5) 焼土粒、炭化物含む。
- 8 灰褐色土 (10YR3/2) 焼土粒、炭化物含む。



第24図 H 8号住居址実測図

床面は平坦で、円形の焼土の堆積が2箇所確認できた。カマドが認められなかったことから炉址である可能性が考えられる。床面上ではピットは認められなかったが、掘方で北東コーナー付近にピット1個を確認した。床下は薄く炭化物混じりの暗褐色土が敷き詰められていた。遺物は土師器の坏、甕及び混入として縄文土器片が出上したがいずれも破片である。この他、敲石、編物石が出土した。図示したのは12点である。

本住居址は、口縁端部が僅かに外反する土器、丸底手持ちヘラケズリの体部に稜を有する坏から、5世紀後半～6世紀初頭、古墳時代とした。



第25図 H 8号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	説明・文様	保存・部位	出土	色澤(外面)
1	土師器	坏	-	-	-	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面横ヘラナゲ	口縁破片	良	5793/6 褐色
2	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	胴部破片	良	10785/2 浅黄褐色
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面磨石貼り付け	口縁破片	不良	10785/4 黒い黄褐色
4	土師器	坏	-	-	-	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面横ヘラナゲ	口縁破片	良	7,537/6 褐色
5	土師器	坏	-	-	-	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面横ヘラナゲ	口縁破片	良	5793/6 褐色
6	土師器	坏	-	-	-	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面横ヘラナゲ・褐色貼	口縁破片	良	7,537/4 黄い褐色
7	土師器	鉢	-	-	-	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	口縁・胴部破片	良	2,3306/6 褐色
8	土師器	甕	[12.5]	-	-	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	口縁破片	良	10785/4 黄い黄褐色
9	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	胴部破片	良	7,537/3 黄い褐色
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考			
10	石器	9.2	6.2	3.2	272	笠山石			
11	編物石	8.1	4	1	51	笠山石			
12	編物石・ナラ石	8	4.3	1.3	94	笠山石			

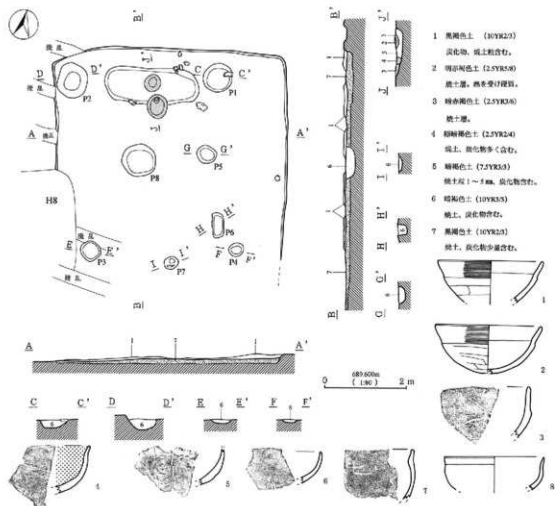
第12表 H 8号住居址遺物観察表

#### H 9号住居址

遺構は4-C-Jグリッドに位置し、西壁をH 8に切られる。規模は東西5.7m、南北は南側の壁の立ち上がり確認できなかったため床面の確認範囲で6.4m、床面までの深さは北壁付近の最大で6cmと浅く、検

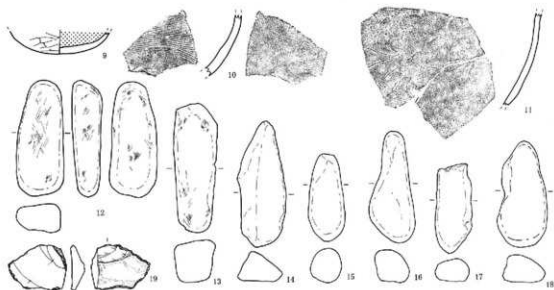
出段階で部分的に床面が露出していた。平面形はやや南北に長い方形と考えられる。覆土は炭化物、焼土粒、土器片を含む黒褐色土の単層である。床面は固く平坦だが、東西方向の相竈によって幾筋も攪乱を受けている。ピットは床面上で8個認められたが確実に主柱穴と断定できるものはなかった。カマドは存在せず、床面中央の北壁寄りに円形の焼土の堆積が2箇所認められ、炉址と考えられる。炉址周辺に東西2.3m、深さ20cmを測る楕円形の土坑が存在したが、本住居址とは別遺構と思われる。床下は8cm程度の厚みで炭化物を含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、鉢、甕、石器が出土した。図示したのは19点である。1～6・9は丸底の坏で、1・2は稜を有する丸底で接合点はないが同一個体の可能性がある。9は底部周辺の破片で、他は口縁付近の破片である。7は深みがあることから鉢とし、口縁付近で僅かに外反する。10は球胴甕の底部周辺の破片で内面ハケ目が認められる。11は甕の胴部破片である。12～18は編物石が大平を占め、一部敷き、すり石として併用している。19はスクレーパーで混入品である。本住居址は5世紀後半～6世紀初頭としたH8に切られることから、5世紀後半、古墳時代中期としたい。



第26図 H9号住居址・遺物実測図





第27図 H9号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	口縁cm	高さcm	腹径・文様	残存部・部位	構成	色調(内面)
1	土師器	杯	[13.1]	丸底	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 2と同一か	口縁・体部破片	片	5YR5/6 褐色
2	土師器	杯	[13.2]	丸底	5.9	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 1と同一か	口縁・体部破片	片	5YR5/6 褐色
3	土師器	杯	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	口縁・体部破片	片	7.5YR7/6 褐色
4	土師器	杯	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ・黒色粘り	口縁・体部破片	片	5YR5/6 褐色
5	土師器	杯	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラナゲ 内面ヘラナゲ黒色粘り状とどき	口縁・体部破片	片	5YR1/3 黒い・赤褐色
6	土師器	杯	—	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	口縁・体部破片	片	2.5YR5/6 赤褐色
7	土師器	鉢	—	—	—	口縁横ナゲ狭くガキ 外面ヘラケズリ極ナゲ 内面斜めりガキ	口縁・体部破片	片	10YR5/9 赤色
8	土師器	鉢	[12.2]	—	—	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	口縁・体部破片	片	5YR5/6 褐色
9	土師器	杯	—	丸底	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ・黒色粘り	体部破片	片	2.5YR5/6 褐色
10	土師器	壺	—	—	—	外底流路用辺横ヘラケズリ 外面縦條状工具痕 内面傾斜状工具痕	頸下部破片	片	2.5YR1/4 黒い・赤褐色
11	土師器	壺	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	頸部破片	片	7.5YR5/6 褐色

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
12	編物・すり・磁石	14.2	5.8	3.8	438	
13	編物石	15.9	5.5	5.4	630	磨り面あり
14	編物石	15.6	6.1	3.7	372	安山岩
15	編物石	19.8	6.5	4.3	399	安山岩
16	編物石	13.8	5.5	4	310	安山岩
17	編物石	11	6.5	2.8	196	
18	編物石	13.1	6.1	3.3	329	
19	スタレインバー	3.6	7.1	1.6	61.3	安山岩

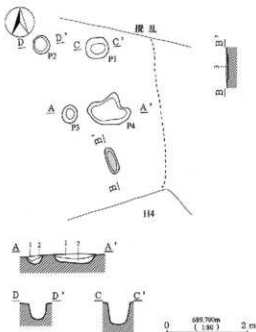
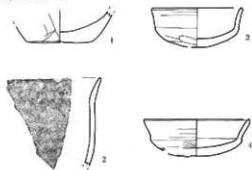
第13表 H9号住居址遺物観察表

### H10号住居址

遺構は4ーケーHグリッドに位置し、南側はH4に切られると思われる。周辺には土器片多数及び焼土、炭化層が存在し、周囲に比して覆土が異なることから、住居址と考えられたが、壁の立ち上がりは認められ

ず、僅かに東壁の推定線が確認できた。推定線西側には1箇所の焼土堆積が認められが址であった可能性が考えられる。周辺からは4個のピットが認められたが主柱穴とは確定できない。

遺物は土師器の坏、甗、甕が出土した。1は甗の底部破片である。2は口縁の形状から甗片である可能性が高い。3・4は稜を有する丸底の坏で、稜からやや外傾し口縁に至る。本遺構は住居址と断定はできないが、体部に明瞭な段を伴う丸底坏の存在から6世紀中葉～7世紀初頭、古墳時代後期とした。



1 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物含む。  
2 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量含む。  
3 黒褐色同色土 (2.5YR2/4) 焼土質。

第28図 H10号住居址・遺物実測図

番号	器名	器形	口縁cm	底径cm	高さcm	調査位置	調査面	調査深度	出土層	出土量	色調(外表面)
1	土師器	甗	-	8	-	外面ヘラケズリ	内面ヘラナゲ		底面	長	2.5YR4/9 赤褐色
2	土師器	甗	-	-	-	外面ヘラケズリ	内面ヘラナゲ	口縁破片ナゲ	口縁～胴部狭口	長	7.5YR4/4 赤褐色
3	土師器	坏	[11.2]	丸底	4.8	外面ヘラケズリ	内面ヘラナゲ	口縁破片ナゲ	20	長	2.5YR6/9 暗褐色
4	土師器	坏	[13.6]	丸底	4.6	外面ヘラケズリ	内面ヘラナゲ	口縁破片ナゲ	50	長	5YR7/6 暗褐色

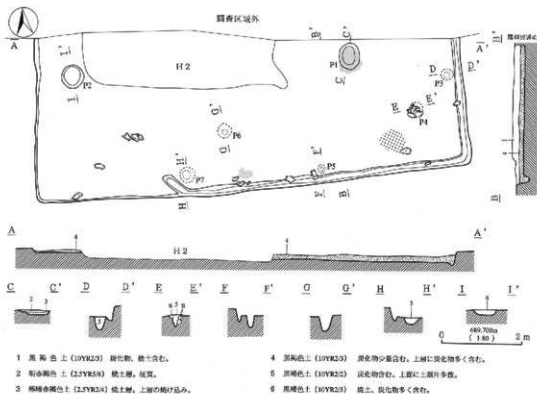
第14表 H10号住居址遺物観察表

### H11号住居址

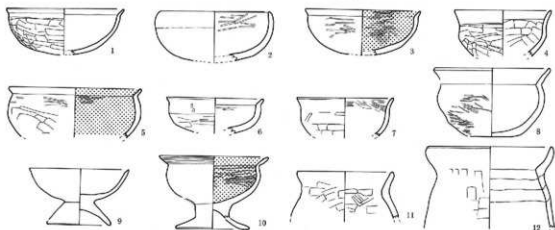
遺構は3～ラードグリッドに位置し、中央をH2に切られ、北側の大半は調査区外となる。規模は東西10.7mとH3・6同様大型の住居址と考えられる。南北は調査規模の最大で4m、床面までの深さは20cm内外を測る。平面形は方形または長方形と考えられる。覆土は焼土、炭化物、土器片を含む黒褐色土の単層である。床面は平坦で固く、東壁から南壁にかけて周溝が存在した。ピットは床面上から2個認められ、南側2個の主柱穴と考えられる。P1周辺及び南壁際中央付近に焼土の堆積が認められた。カマドは調査地域内には認められなかった。掘方の厚さは、東側で10cm前後を測り、西側では地山が砂礫層であるため浅く、ともに強粘性の黒褐色土が埋め込まれていた。掘方によって5個のピットが確認できた。

遺物は土師器の坏、鉢、高坏、甗、甗、甗、白玉、石器が出土した。図示したのは41点である。1～7は丸底の坏で、鉢ともとれる形状のものもあるが坏とした。1・3～7は口縁が僅かに外反する。2は半球状である。7は口縁付近の破片である。8は口縁部に最大径を有する小型甗である。9・10は高坏で脚部は短い。9の坏部は半球状で、脚部は「ハ」の字状に開く。10の坏部は湾曲しながら立ち上がり口縁端部は外に大き

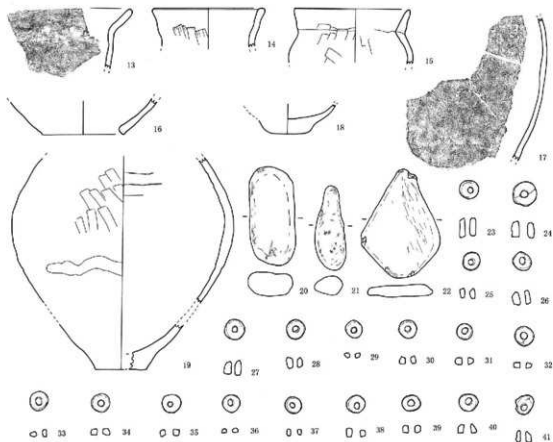
く開く。11～15、17・18・19は甕で11・14・15は小型で口縁の破片である。19は同一個体と考えられる多数の破片が出土したが部分的な接合にとどまった。16は瓶の底部開口部の破片で、底抜けの単孔式である。23～41は小型の円玉で南東コーナー付近から集中して出土した。20は敲き、すり石の併用品、21、22はすり石である。本住居址は、高環の形状、口縁端部が僅かに外反する丸底環が主体であることから5世紀後半、古墳時代中期としたい。



第29図 H11号住居址実測図



第30図 H11号住居址遺物実測図(1)



第31図 H11号住居址遺物実測図(2)

番号	器名	器形	口径cm	直径cm	器高cm	特徴・文様	発見層・部位	数量	色調(外面)
1	土師器	杯	14.2	丸底	5.6	外面ヘラケズリ 内面ナデ 口縁横ナデ	90	良	5YR7/3 褐色
2	土師器	杯	[13.0]	丸底	-	外面ヘラケズリ横ナデ 内面ミガキ	口縁へ体部破片	良	2.5YR6/6 褐色
3	土師器	杯	[14.0]	丸底	-	外面ヘラケズリ横ミガキ 内面ミガキ 黒色地肌	口縁へ体部破片	良	2.5YR6/6 褐色
4	土師器	杯	[11.8]	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁横ナデ	口縁へ体部破片	良	7.5YR7/6 褐色
5	土師器	杯	[16.0]	-	-	外面ヘラケズリ横ミガキ 内面ミガキ 黒色地肌	口縁へ体部破片	良	7.5YR7/4 褐色
6	土師器	杯	11.8	-	-	外面ヘラケズリ横ミガキ 内面ミガキ	口縁へ体部破片	良	5YR5/8 明赤褐色
7	土師器	杯	[11.8]	-	-	外面ヘラケズリ 内面ナデ 口縁ハケ	口縁へ体部破片	良	2.5YR6/8 明赤褐色
8	土師器	小壺	14.4	6	8.4	外面ヘラケズリ横ミガキ 内面ヘラナデ 口縁横ナデ	70	良	5YR6/6 褐色
9	土師器	高杯	12.1	7.8	6.9	外面ヘラナデ 摩耗著しい	90	良	5YR6/6 褐色
10	土師器	高杯	[13.4]	[8.0]	9	外面ヘラナデ 口縁内面ミガキ 黒色地肌	60	良	2.5YR6/6 褐色
11	土師器	壺	[11.3]	-	-	外面ヘラケズリ 内面ナデ 口縁横ナデ	口縁へ体部破片	良	7.5YR7/3 褐色
12	土師器	壺	[16.4]	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 輪襷	口縁へ体部破片	良	5YR6/6 褐色
13	土師器	壺	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁へ体部破片	良	10YR7/3 褐色

第15表 H11号住居址遺物観察表(1)

品号	器種	数量	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	保存・部位	形状	色調(外面)
14	土師器	壺	[13.0]	—	—	口縁外出反ナブ アシナブ 内面模ナブ	口縁破片	片	7.5YR7/6 褐色
15	土師器	壺	[13.0]	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ 口縁模ナブ	口縁・胴部破片	片	7.5YR7/6 褐色
16	土師器	壺	—	[13.0]	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ	胴部破片	片	7.5YR7/6 褐色 黄い褐色
17	土師器	壺	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ	胴部破片	片	7.5YR7/4 黄い褐色
18	土師器	壺	—	5.5	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ	底部	片	5YR6/4 褐色
19	土師器	壺	—	[6.2]	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナブ	底部・胴部	片	5YR4/4 黄い赤褐色

品号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
20	オリーブ・磨石	12.2	5.8	3.2	316	安山岩
21	オリーブ	10.3	3.9	2.3	161	安山岩
22	オリーブ	13.4	6.9	1.5	266	安山岩

番号	出土位置	種別	長さ(mm)	径(mm)	孔径(mm)	重さ(g)	材質	色調
23	南東コーナー	白玉	5.5	6	1	0.27	滑石	灰白色
24	南東コーナー	白玉	5	8	2.5	0.41	滑石	灰白色
25	南東コーナー	白玉	3	5	2	0.15	滑石	明緑灰色
26	南東コーナー	白玉	4	5.5	2	0.24	滑石	明緑灰色
27	南東コーナー	白玉	4.5	6	1.5	0.25	滑石	灰色
28	南東コーナー	白玉	3	5	1.5	0.14	滑石	暗赤灰色
29	南東コーナー	白玉	1.5	5	1.5	0.07	滑石	棕-ア 灰色
30	南東コーナー	白玉	2.45	5	1	0.11	滑石	棕-ア 灰色
31	南東コーナー	白玉	2	5	1.5	0.1	滑石	棕-ア 灰色
32	南東コーナー	白玉	1.5	6	2	0.08	滑石	灰白色
33	南東コーナー	白玉	2	5	2	0.09	滑石	棕-ア 灰色
34	南東コーナー	白玉	2	6	2	0.1	滑石	棕-ア 灰色
35	南東コーナー	白玉	1.5	6	1	0.08	滑石	灰白色
36	南東コーナー	白玉	1	5.5	1	0.04	滑石	棕-ア 灰色
37	南東コーナー	白玉	2	5	1	0.1	滑石	緑灰色
38	南東コーナー	白玉	3	6	1.5	0.08	滑石	棕-ア 灰色
39	南東コーナー	白玉	2	5	2	0.09	滑石	明緑灰色
40	南東コーナー	白玉	2.5	5.5	2.2	0.11	滑石	灰白1色
41	南東コーナー	白玉	3.5	6	2	0.18	滑石	灰色

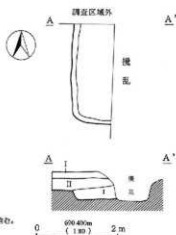
第16表 H11号住居址遺物観察表(2)

### H12号住居址

遺構は調査区4-エ-Gグリッドに位置し、北は調査区外、東は水路等により、すでに破壊されている。確認できたのは南西コーナーの一部で、規模は調査規模となり、東西1.1m、南北2.5m、床面までの深さ30cm内外を測る。覆土は強粘性の暗褐色土の単層で炭化物、土器片を含む。床面は平坦である。遺物は丸底の口縁が僅かに外反する土師器片が出上した。遺物が僅かなため時期の断定はできないが、出土した遺物の特徴は古墳時代に属すると思われる。



- I 基本層序  
II 基本層序  
I 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量、砂を含む。



第32図 H12号住居址・遺物実測図

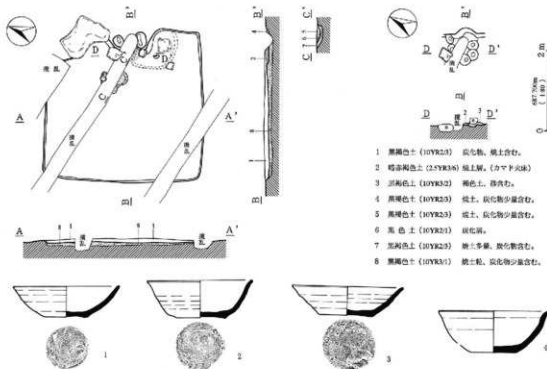
番号	品名	器種	口径cm	底径cm	高さcm	陶 器・文 様	埋蔵層・部位	出土	色澤(断面)
1	土師器	杯	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナブ	口縁破片	片	1.5197/3 黒い褐色

第17表 H12号住居址遺物観察表

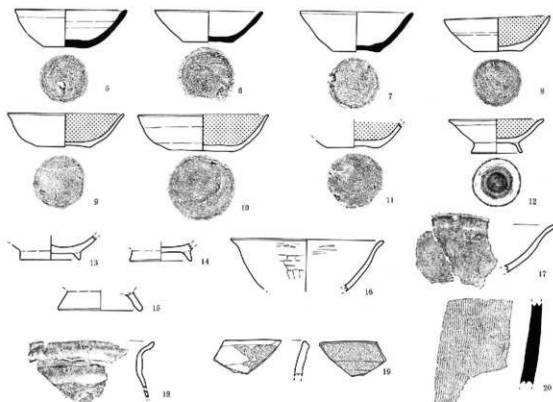
### H13号住居址

遺構は0—Hグリッドに位置し、部分的に畑畝による攪乱によって破壊されている。規模は東西3.8m、南北3.9m、床面までの深さ13cm内外を測る。平面形は方形である。覆上は炭化物、焼土を含む黒褐色上の単層である。床面は固く平坦で、ピットは確認できなかった。カマドは東壁中央に構築されているが大平を攪乱によって破壊されている。僅かに火床と南袖の一部が残存していた。火床には焼土が堆積し、袖先端付近には石材が認められた。床面上からは比較的原型をとどめる土師器・須恵器杯が多数出土した。床下は10cm前後の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の杯、碗、鉢、甕、須恵器の杯、高台付杯、甕が出土した。図示したのは20点である。1—7は須恵器杯で底部回転糸切り後未調整、胎上は小石を多く含む、粗雑感がある。8—11は土師器の杯で9のみ底部ヘラケズリの他は底部回転糸切り、内面黒色処理を施す。10は口径が大きく内面に暗文を施した痕跡が認められるが摩耗し全体の模様は不明である。12—15は土師器の碗である。12の口縁内面の緑辺にアスファルト状の付着物が認められることから灯明目的に使用された可能性が考えられる。他は高台付近の破片である。16・17は土師器杯又は碗の口縁破片、18は口縁付近が「コ」の字状をした土師器甕(武蔵甕)の破片である。19は灰軸陶器、20は須恵器甕の破片である。

本住居址は底部回転糸切り後未調整の須恵器杯、土師器杯、碗、口縁「コ」の字状の土師器甕(武蔵甕)が存在し、須恵器杯が多く認められることから9世紀前半、平安時代としたい。



第33図 H13号住居址・遺物実測図



第34図 H13号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	組成	色調(内面)
1	灰土器	杯	12.9	5.3	3.3	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り 火だすき	100	真	5187/6 棕色
2	灰土器	杯	13	6	4.6	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り	90	真	5677/1 明灰ナデ 灰色
3	灰土器	杯	13.5	6.4	3.5	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り	79	真	7.5187/1 明灰土器
4	灰土器	杯	[13.2]	5.2	5.1	ロクロ横ナデ 底面ヘラケズリ	50	真	7.5187/1 明灰土器
5	灰土器	杯	[13.5]	5.6	4.5	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り	50	真	5177/2 底白色
6	灰土器	杯	[13.2]	6	3.8	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り	40	真	5191/1 棕色
7	灰土器	杯	[13.9]	5.6	4.8	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り	40	真	10936/2 鈍い黄棕色
8	土師器	杯	12.9	5.9	4.1	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り 内面黒色地埋	80	真	5195/9 明赤褐色
9	土師器	杯	14.1	6.4	3.9	ロクロ横ナデ 底面回転糸切り 内面黒色地埋	79	真	7.5187/4 鈍い褐色
10	土師器	杯	16	7.7	4.4	ロクロ横ナデ 碎文(摩耗著しい) 黒色地埋	80	真	1678/3 鈍い黄褐色
11	土師器	杯	—	6.6	—	ロクロ横ナデ 内面ナデ 黒色地埋	90	真	5186/6 褐色
12	土師器	碗	11.7	6.2	4.2	非泥ロクロ横ナデ 内面黒色地埋 付着物(不明)として使用のヤ 高台取り付け	90	真	5186/6 褐色
13	土師器	碗	—	7.4	—	ロクロ横ナデ 内面くがき 高台取り付け	底面・高台	真	10977/3 鈍い黄棕色
14	土師器	碗	—	7.6	—	ロクロ横ナデ 内面ナデ 高台取り付け	底面・高台	真	7.5187/4 鈍い褐色
15	土師器	碗	—	10.4	—	高台横ナデ	高台	真	5196/4 鈍い褐色

第18表 H13号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	埋存率・部位	地質	色調(断面)
16	土器器	ボコ物	[16.7]	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ 口縁内外面横ヒダキ	口縁破片	良	2.5YR5/2 黒褐色
17	土器器	ボコ物	—	—	—	口縁横ナデ 表面摩耗	口縁破片	良	10YR5/4 赤色
18	土器器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ 口縁「コ」の字状武庫線	口縁破片	良	2.5YR5/4 赤褐色
19	灰釉陶器	甕	—	—	—	内外面磨光面	口縁破片	良	5Y7/1 灰白色
20	須恵器	甕	—	—	—	外面平行線キズ 内面ナデ	破片	良	2.5YR7/1 灰褐色

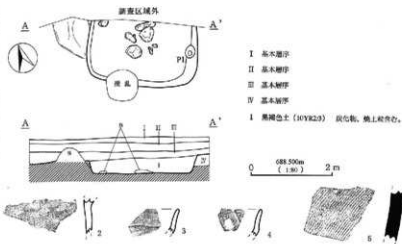
第19表 H13号住居址遺物観察表(2)

#### H14号住居址

遺構は0-1-Hグリッドに位置し、北側は調査区外となり、南側は一部掘乱に破壊されている。規模は東西2.7m、南北は調査規模の最大で1.6m、床面までの深さは36cm内外と小型の住居址である。平面形態は隅丸の方形と考えられる。覆土は炭化物、焼土を含む黒褐色土の単層である。床面は固く、平坦で中央付近に自然石が散在し、ピットは東壁際に1個認められた。カマド、炉などの施設は調査区内からは確認できなかった。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器甕が出土した。図示したのは5点だがいずれも小破片である。

本住居址出土の遺物は、出土量が僅かで、小破片だが、ほぼ同一の時期であることから古墳時代後期としたい。



第35図 H14号住居址・遺物実測図

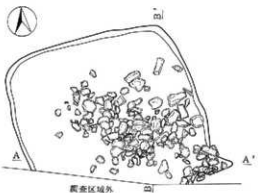
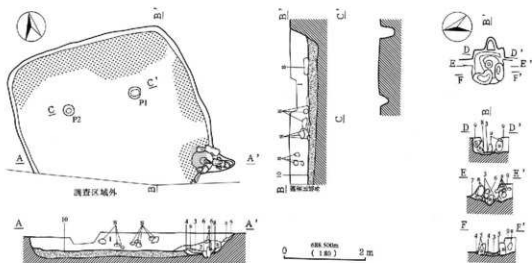
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	埋存率・部位	地質	色調(断面)
1	土器器	坏	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ 口縁横ナデ	口縁破片	良	5YR5/4 棕色
2	土器器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁破片	良	5Y7/1 褐色
3	土器器	坏	—	—	—	口縁横ナデ	口縁破片	良	2.5YR2/4 鈍い棕色
4	土器器	ボ	—	—	—	口縁横ナデ	口縁破片	良	2.5YR2/4 鈍い棕色
5	須恵器	甕	—	—	—	外面平行線キズ 内面横ナデ	破片	良好	10YR6/1 暗灰色

第20表 H14号住居址遺物観察表

#### H15号住居址

遺構は2-1-Fグリッドに位置し、To1を切り、南側は一部調査区外となる。規模は東西4.5m、南北は推定4.0m、床面までの深さは45cm内外を測る。平面形態は隅丸の方形と考えられる。覆土は焼土・炭化物を多く含む黒褐色土の単層で、土器はほとんど含まない。床面は、固く平坦で北側に炭化層が認められた。当時使用された敷物である可能性が伺える。床面上には拳大から30cm大の石が多量に散在していた。ピットは2個認められた。カマドは南東コーナーに構築され、石材を壁面に多用し構築されていた。火床部分は多



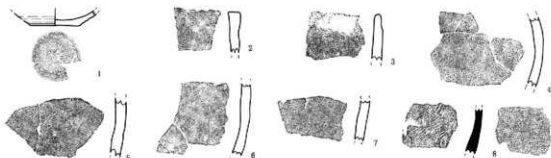


- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒、焼土塊多く、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多く、焼土を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 焼土層、やや砂質。(元土)
- 4 褐色土 (7.5YR4/3) 砂質、焼土少量含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物少量含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土多く含む。
- 7 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黒褐色土を含む。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) 多量に比べ特に黒色。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒、炭化物、黒褐色土を含む。
- 10 褐色土 (10YR4/6) 炭化物を含む、やや砂質。(副土)

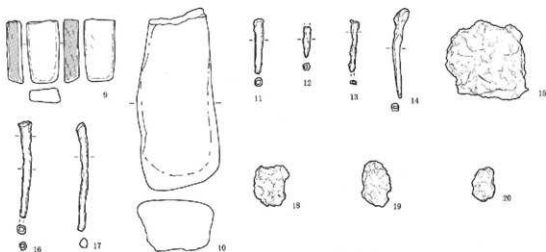
第36図 H15号住居址実測図

量の焼土が堆積し、中央に自然石を利用した支脚が存在した。床下は砂質気味の炭化物を含む褐色土が埋め込まれていた。遺物はカマド周辺から僅かに厚手の口縁面取りした羽釜の口縁付近と類似する土器片、内面同心円、外面平行印き痕を残す須恵器甕片、底部回転糸切りの土師器坏底部破片、砥石、支脚石、角釘が出土した。角釘はTo1号特殊遺構の混入品と思われる。

時期はカマドの位置及び土器の出土量、口縁面取りされた土器の出土から11世紀以降としたい。



第37図 H15号住居址遺物実測図(1)



第38図 H15号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	説明・文様	残存率・部位	形状	位置(外面)
1	土師器	片	—	6.1	—	コクロ横ナブ 底深の糸未切	底部	長	3Y8/1 黄灰色
2	土師器	不明	—	—	—	外面ハケズリ横ナブ 内面ナブ	口縁破片	長	3Y8/4 黄い赤褐色
3	土師器	不明	—	—	—	外面ハケズリ横ナブ 内面ナブ	口縁破片	長	3Y8/4 黄赤褐色
4	土師器	不明	—	—	—	外面ハケズリ横ナブ 内面ナブ	破片	長	7.5Y5/4 黄褐色
5	土師器	不明	—	—	—	外面ハケズリ横ナブ 内面ナブ	破片	長	3Y8/4 黄褐色
6	土師器	不明	—	—	—	外面ハケズリ横ナブ 内面ナブ	破片	長	7.5Y5/4 黄褐色
7	土師器	不明	—	—	—	外面ハケズリ横ナブ 内面ナブ	破片	長	7.5Y5/4 黄褐色
8	土師器	片	—	—	—	外面平行線き 内面同心円線き	破片	角形	2.5Y6/1 黄褐色

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
9	磁石	17.8	4.1	1.9	59.8	安山岩
10	文庫石	22.2	16.2	6.5	2,220	

番号	器種	出土位置cm	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
11	鉄釘	覆土上層	6.8	1.2	0.6	13.4	T=1遺物の埋入か?
12	鉄釘	覆土上層	3.8	1	0.3	4.2	T=1遺物の埋入か? 上部欠損
13	鉄釘	覆土上層	6.5	1	0.3	6.5	T=1遺物の埋入か? 先端欠損
14	鉄釘	覆土上層	10.9	1.7	0.4	20.1	T=1遺物の埋入か?
15	鉄釘	覆土上層	9.4	5.6	—	210	T=1遺物の埋入か?
16	鉄釘	覆土上層	11.8	1.6	0.5	18.6	T=1遺物の埋入か? 先端欠損
17	鉄釘	覆土上層	13.3	1.1	0.5	18.9	T=1遺物の埋入か?
18	粘土塊	覆土上層	5	4.3	—	42.2	T=1遺物の埋入か? 焼けている
19	粘土塊	覆土上層	5.4	3.4	—	22.7	T=1遺物の埋入か? 焼けている
20	粘土塊	覆土上層	4.3	2.3	—	16.5	T=1遺物の埋入か? 焼けている

第21表 H15号住居址遺物観察表

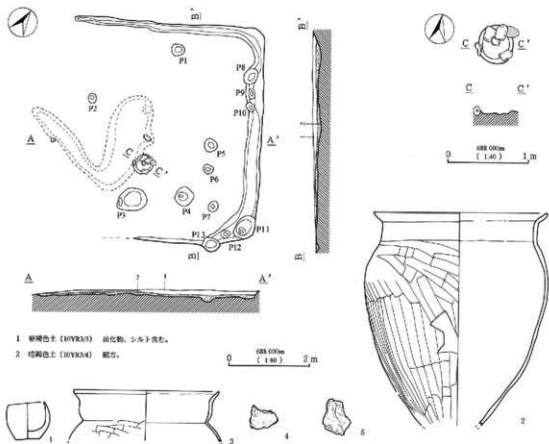
#### H16号住居址

遺構は0-1mグリッドに位置する。規模は南北5.4m、東西は壁の立ち上がりが確認できないことから床面の残存で5.3m内外、床面までの深さは東壁の最深部で10cmと浅い。平面形は西側が不明だが残存状況から方形と考えられる。覆土は炭化物を含む暗褐色土の単層である。床面は固く平坦で東壁から北壁にかけて周溝が巡り、ピットは床面上から7個、周溝内から6個認められた。東壁周溝内から土師器(武蔵甕)

が出土した。カマドは存在せず、床面上に焼土と集石を伴う円形の掘り込みが認められた。炉址である可能性が考えられる。掘方は8 cm前後の厚みで暗褐色土及び褐色土が埋め込まれ、中央に不整形の土坑が存在し、西端から手づくねの小型土器が出土した。

遺物は手づくね、土師器甕が出土した。図示したのは5点である。1は小型の手づくね土器である。2・3は口縁「コ」の字状の武蔵甕、4・5は鉄滓である。

本住居址は武蔵甕の存在から9世紀前半、平安時代としたい。



1 赤褐色土 (10YR3/3) 炭化物、シルト含む。

2 暗褐色土 (10YR3/4) 細方。

第39図 H16号住居址・遺物実測図

番号	品名	器形	口径cm	底径cm	器高cm	製法・文様	残存率・単位	出土	色面(外面)
1	手づくね	小型鉢	4.2	2.8	4.5	外面・底面ヘラケズリ 内面ナダ	100	長	7.0YR7/4 黒い褐色
2	土師器	甕	21	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナダ 口縁部ナダ「コ」の字状 武蔵甕	80	長	2.0YR5/0 明褐色土
3	土師器	甕	[17.8]	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナダ 口縁部ナダ「コ」の字状 武蔵甕	口縁破片	長	2.0YR5/0 褐色

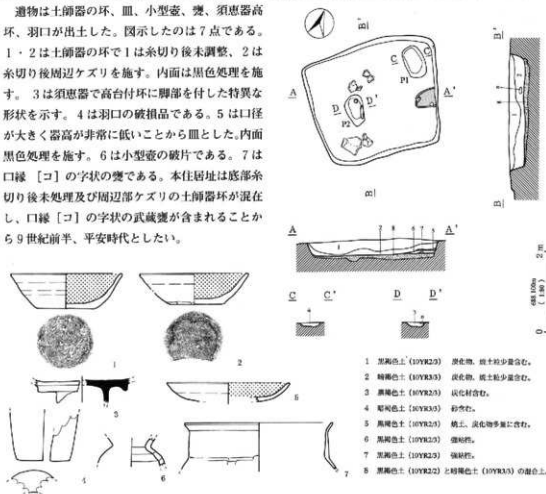
第22表 H16号住居址遺物観察表

#### H17号住居址

遺構は0ー1グリッドに位置する。規模は最大で東西3.3m、南北2.9m、床面までの深さ40cmを測る。覆土は上層に黒褐色土、下層に暗褐色土が堆積している。平面形は台形状をした方形である。床面は固く平坦で掘溝は認められない。床面上には石が散在し、ピットが中央西寄りと北東コーナーに存在した。カマドの形

状は認められなかったが、東壁中央付近に焼土の散布が広く認められることから、この位置にカマド的な施設があったと考えられる。掘方は床下10cm内外の厚みで黒褐色土と暗褐色土の混合土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、皿、小型壺、甕、須恵器高坏、羽口が出土した。図示したのは7点である。1・2は土師器の坏で1は糸切り後未調整、2は糸切り後周辺ケズリを施す。内面は黒色処理を施す。3は須恵器で高台付坏に脚部を付した特異な形状を示す。4は羽口の破損品である。5は口径が大きく器高が非常に低いことから皿とした。内面黒色処理を施す。6は小型壺の破片である。7は口縁〔コ〕の字状の甕である。本住居址は底部糸切り後未処理及び周辺部ケズリの土師器坏が混在し、口縁〔コ〕の字状の武蔵甕が含まれることから9世紀前半、平安時代としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土粒少量含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、焼土粒少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化材含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物多量に含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 強粘粒。
- 7 黒褐色土 (10YR2/3) 強粘粒。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土。

第40図 H17号住居址・遺物実測図

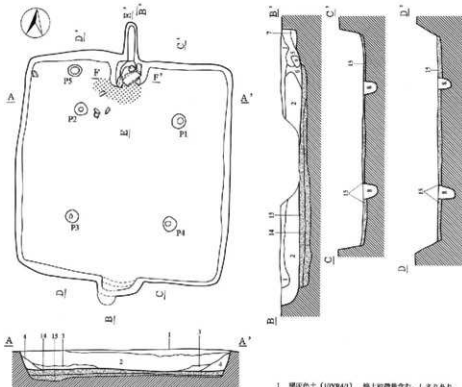
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	産地・文様	埋合率・深位	焼成	色調(外色)
1	土師器	坏	13.6	7	4.3	ロクワ横ナダ 底面が糸切り後ヘラ調整 内面黒色	90	良	10Y7/9 褐色
2	土師器	坏	13.4	6.5	3.8	ロクワ横ナダ 底部が糸切り後周辺ケズリ 内面黒色処理	85	良	7.5YR5/4 浅黄褐色
3	須恵器	高坏	-	-	-	ロクワ横ナダ 高台縁に付け 高台部に脚の付いた形状	内径縁一源深	良好	7.5YR7/1 淡色
4	土師器	羽口	-	-	-	基部破片	底縁破片	良	10Y7/2 鈍い黄褐色
5	土師器	皿	15	-	-	外周縁部 内面黒色処理	40	良	7.5YR7/9 褐色
6	土師器	小型壺	-	-	-	外周ミガキ 内周ナダ 輪縁破	頸部破片	良	10Y7/4 鈍い赤褐色
7	土師器	甕	16.1	-	-	外周ヘラケズリ 内周ヘラナダ 口縁横ナダ(コ)の字状 武蔵甕	口縁破片	良	5YR5/9 明赤褐色

第23表 H17号住居址遺物観察表

#### H18号住居址

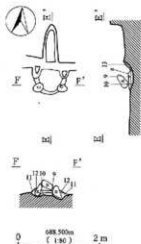
遺構は2-く-Dグリッドに位置し、Tolに切られる。規模は東西5.3m、南北5.7m、床面までの深さは

60cm内外を測る。平面形態は方形で、南壁中央に張り出しがある。覆土は上層に焼土を含む褐色土、下層に黒色土、壁際に流れ込むように褐色土、黒色土が堆積している。床面は固く、ほぼ平坦でピットは5個認められP1～4が支柱穴である。カマドは北壁中央に構築され、袖長は北壁から60cmを測り、先端に石材が「ハ」の字状に埋め込まれていた。石材の上部には天井石と思われる扁平石が載せられていた。火床部からカマド前部にかけて広く炭化層が存在し、炭化層下部には灰の堆積が認められた。袖の壁面及び煙道部の壁



周辺は熱により堅く焼土化していた。掘方は5～10cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

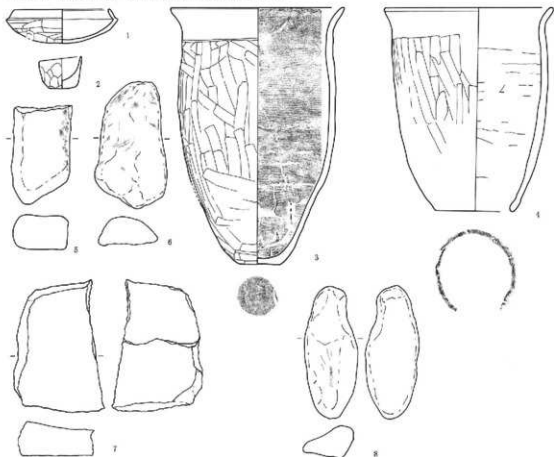
遺物は土師器の坏、手づくね土器、甕、甌、すり石、白石が出土した。図示したのは8点である。1は丸底の有稜坏で稜から短く内傾し口縁に至る。2は小型の手づくね土器である。3は長胴甕で、4は底部に径8.5cm内外の孔を有



- 1 褐色土 (10YR4/1) 焼土の微塵を含む。しまりあり。
- 2 黒色土 (10YR2/1) 褐色土<sup>1)</sup>の炭化物微塵を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 砂質。
- 4 黒色土 (10YR2/1) 炭化物微塵を含む。
- 5 灰褐色土 (10YR3/1) 黄色<sup>6)7)8)</sup>の塵土粒子微塵を含む。
- 6 黒色土 (10YR2/1) 黄色<sup>6)7)8)</sup>が多く含む。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 下方に焼土層あり。煙道部。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) 砂、粘土、炭化物を含む。(柱石)
- 9 灰褐色土 (10YR2/2) 炭化層。
- 10 灰褐色土 (7.5YR4/2) 炭化物少量含む。(火灰)
- 11 灰褐色土 (7.5YR4/2) 焼土粒を含む。
- 12 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 黒色<sup>9)</sup>焼土を含む。
- 13 暗褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。炭化物多く含む。(礎石立ち上がり)
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物多く、焼土少量含む。
- 15 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物少量含む。やや砂質。(掘方)

第41図 H18号住居址実測図

する底抜けの甕である。5・6・8はすり石、7は台石である。本住居址は環の形状及び、胴部の最大径が上部にくる甕の存在から7世紀代、古墳時代としたい。



第42図 H18号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	陶質・文様	保存率・部出	径	径	色調(断面)
1	土師器	甕	11.8	4.2	4.2	外面ヘラタズリ 内面ナデ 口縁横ナデ	40	良		2.5125/4 黄褐色
2	赤土器	小型鉢	5.3	3.9	3.5	外面粗瓦紋 内面ナデ	100	良		7.5125/4 黄褐色
3	土師器	甕	21.2	4.8	31.4	外面ヘラタズリ 内面ヘラナデ 口縁横ナデ	95	良		2.5125/4 褐色
4	土師器	甕	20.7	9.5	21.0	外面ヘラタズリ 内面ヘラナデ 口縁横ナデ	85	良		5127/4 黄褐色

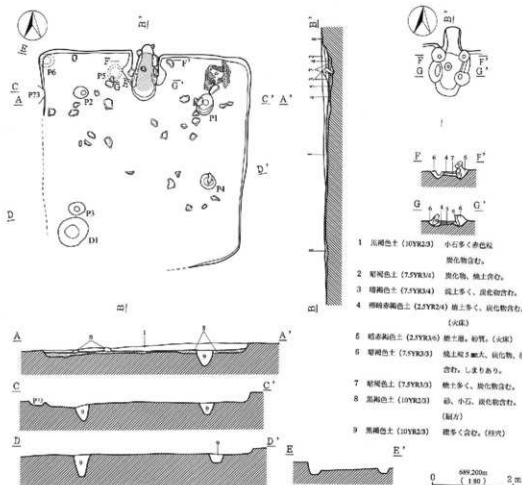
  

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
5	すり石	12	7.4	4.3	638	側面磨り面あり
6	すり石	16.0	8.9	3.3	633	
7	台石	16.2	11.2	4	1,118	
8	すり石	16.3	6.7	4	54	安山岩

第24表 H18号住居址遺物観察表

#### H19号住居址

遺構は3ーきーGグリッドに位置する。規模は東西5.0m、南北は5.2m、深さは北壁の最深部に15cm内外を測る。平面形態は南壁から西壁にかけて壁の立ち上がり不明だが、残存状況から方形と考えられる。覆上

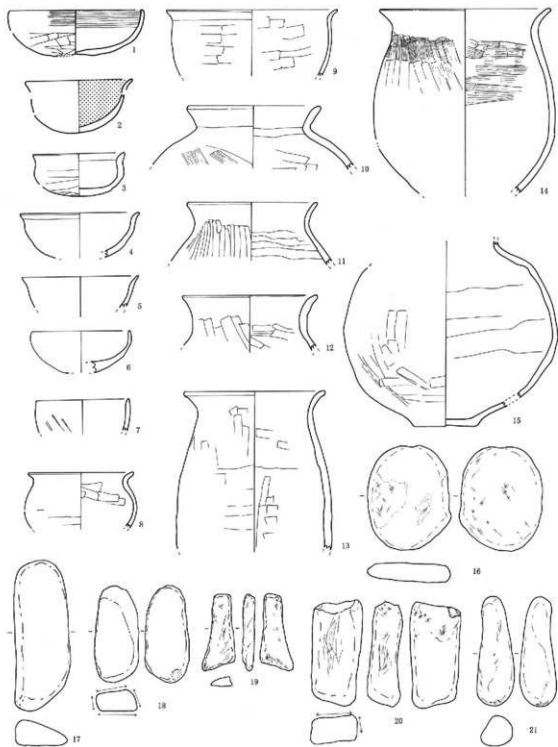


第43図 H19号住居址実測図

は僅かに黒褐色土が堆積していた。床面は平坦で固く、主柱穴と考えられるピットが床面上から4個、南西コーナー付近に土坑1基が認められた。カマドは北壁中央に構築され、袖は北壁から火床を挟み込むように住居内に80cm程度伸び、先端及び内壁部に石材を「ハ」の字状に埋め込んでいた。火床部には焼土の堆積が認められた。掘方は地山が氾濫源の砂礫層であったためか、床面を平にする程度に薄く暗褐色土を敷き詰めていた。床下から2個の小ピットが確認できたが性格は不明である。

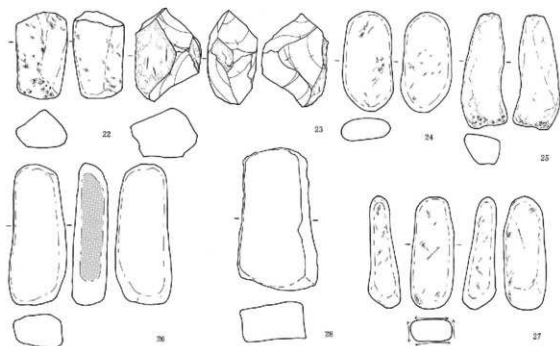
遺物は土師器の坏、鉢、甕、砥石、すり石、敲石が出土した。図示したのは28点である。1～6は丸底の坏で1・6は半球状で口縁は内湾気味、2～5は口縁が僅かに外反する。7～9は深みがあることから鉢とした。7の口縁は内湾気味に、8は外反し、9は口縁部広口で外反する。10～13は甕である。10は球胴、11・13は長胴甕で胴部に最大径を有する。12は口縁破片である。14・15は球胴の甕である。16～22、24～28はすり石、砥石、敲石、23はコアで混入品と考えられる。

本住居址は口縁端部が僅かに外反する丸底の坏が主体であり、胴中央付近に最大径を有する長胴甕の存在から5世紀後半、古墳時代中期としたい。



第44图 H19号住居址遺物実測图(1)





第45図 H19号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	圖 型・文 様	残存率・破砕	検 査	色調(断面)
1	土師器	杯	[16.3]	丸底	5.7	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	50	良	2.5185/5 明赤褐色
2	土師器	杯	[13.1]	丸底	6.4	外面ヘラナゲ 内面黒色化粧 口縁横ナゲ	50	良	1097/4 鈍い黄褐色
3	土師器	杯	[11.1]	丸底	5.2	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	60	良	2.5135/6 明赤褐色
4	土師器	杯	[14.6]	-	-	外面ナゲ 内面ナゲ	口縁へ修繕痕	良	2.5185/6 明赤褐色
5	土師器	杯	[14.2]	-	-	内外面ナゲ	口縁へ修繕痕	良	1097/4 鈍い褐色
6	土師器	杯	[12.0]	-	-	内外面磨耗	口縁へ修繕痕	良	2.5185/5 褐色
7	土師器	鉢	[11.2]	-	-	外面ヘラケズリ兼ナゲ 内面ナゲ	口縁横ナゲ	良	5185/4 褐色
8	土師器	鉢	[12.2]	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	口縁へ修繕痕	良	2.5185/6 明赤褐色
9	土師器	鉢	[20.8]	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	口縁へ修繕痕	良	7.5187/3 鈍い褐色
10	土師器	甕	[18.0]	-	-	外面クシナゲ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	口縁へ修繕痕	良	5185/4 鈍い赤褐色
11	土師器	甕	[15.6]	-	-	外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 輪襷	口縁へ修繕痕	良	1095/3 鈍い黄褐色
12	土師器	甕	[16.6]	-	-	外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	口縁へ修繕痕	良	1097/4 鈍い黄褐色
13	土師器	甕	[17.2]	-	-	外面縦ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 口縁横ナゲ	口縁へ修繕痕	良	5185/3 鈍い赤褐色
14	土師器	甕	21	-	-	外面ヘラケズリ兼ヘケナゲ 内面ヘケナゲ		70	2.5185/8 明赤褐色
15	土師器	甕	-	7.8	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 輪襷		60	2.5185/8 明赤褐色

番号	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
16	すり石	12.9	16.4	2.5	496	表面すり用
17	すり石	18.6	7	3.2	508	登山石
18	砥石	11.8	5.5	2.9	290	4面に砥面

第25表 H19号住居址遺物観察表(1)

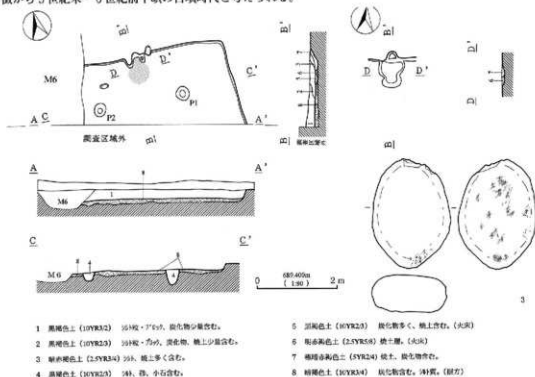
番号	部 種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
19	硯石	9.3	4.1	1.5	168.7	
20	硯石	13	6.2	4.3	318	上部欠損 3面破面 2面破状痕
21	燧石	13.4	6.5	3.8	216	
22	硯石	10.9	6.3	4.7	455	下部に線行痕、表面に傷痕
23	コブ	11.3	8	6.2	565	
24	ナリ石	12.2	6.3	3.1	288	
25	燧石	11.1	6.8	2.6	425	
26	硯石	17.3	7	4.4	922	
27	硯石	14	6.8	4.3	335	
28	硯石?	17.4	10	6.7	1,490	

第26表 H19号住居址遺物観察表(2)

### H20号住居址

遺構は3-1ヶ-Hグリッドに位置し、西側はM6に切られ、南側は調査区外となる。調査規模は最大で東西4.0m、南北2.1m、床面までの深さは25cm内外を測る。覆土は炭化物が多く、焼土を含む黒褐色土の単層である。床面は固く平坦でピットが2個確認できた。位置的に主柱穴と考えられる。カマドは北壁に存在し、大半が破壊され、袖の一部及び火床が残存していた。袖は壁際のごく一部に認められた。火床は径40cm内外の円形で5cm厚の焼土が堆積していた。掘方は、5cm程度の厚みでシルト質の暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の鉢、甕、白玉、燧石が出土したが出土量は僅かである。図示したのは4点で、1は土師器鉢の口縁破片、2は厚手の土師器甕片、4は白玉、3は上下部に敲き痕が認められる。

本住居址は、遺物の量が僅かで時期の断定はできないが、口縁端部付近が緩やかに外反する土器破片の特徴から5世紀末～6世紀前半頃の古墳時代と考えられる。



第46図 H20号住居址・遺物実測図



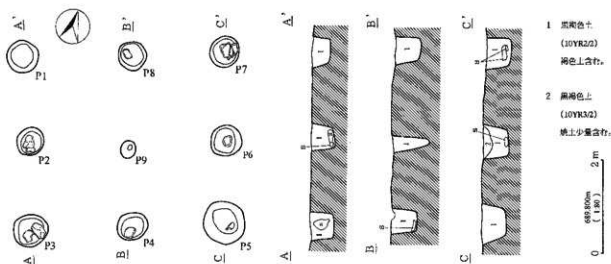
第47図 H20号住居址遺物実測図

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	断面・文様	残存部・部位	産成	色調(外面)
1	加蓋	鉢	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ 白線模ナゲ	口縁破片	良	5YR7/4 藍・緑色
2	土師製	壺	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	底部角切破片	良	7.5YR6/3 濃い褐色
番号	品名	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	備考			
3	磁石	13.6	9.7	4.8	888	トドに磁石池・片断張り面			
番号	出土位置	種別	長さ(mm)	径(mm)	孔径(mm)	重量(g)	材質	色調	
4	I区	F1土	4	7	2	0.34	滑石	灰白色	

第27表 H20号住居址遺物観察表

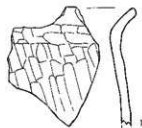
## 第2節 掘立柱建物址 (F)

### F1号掘立柱建物址



第48図 F1号掘立柱建物址実測図

遺構は4-C-Gグリッド付近に位置する。2間×2間の総柱である。ピットの形態は円形でピット間は2.5m内外、径40~95cm、深さ40~80cmである。中央に位置するP9の径は小さいが、掘り込みは最も深い。P2~8の底部には扁平な石を据えている。覆土は単層で柱痕は認められないが、ピットの規模から立派な建物跡であったと考えられ、柱間の距離差は認められるが配置及び主軸が同一であることからF2との関連が伺われる。本遺跡は古墳時代~平安時代の集落であるが遺物が僅かで時期の確定できない。



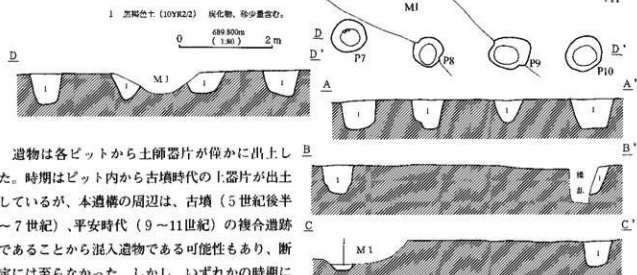
第49図 F1号遺物実測図

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	断面・文様	残存部・部位	産成	色調(外面)
1	土師製	壺	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ナゲ 白線模ナゲ	口縁~角切破片	良	7.5YR2/4 赤褐色

第28表 F1号掘立柱建物址遺物観察表

### F 2号掘立柱建物址

遺構は4一か一Hグリッドに位置する。3間×3間の側柱で部分的にM 1号溝跡、攪乱に破壊されている。ピットの形態は円形でピット間は2m内外、径50~80cm、深さ50~70cmを測る。覆土は単層で柱痕は認められなかった。F 1号掘立柱建物址と柱間の距離差は認められるが、配置及び主軸が同一であることから関連性が伺われる。

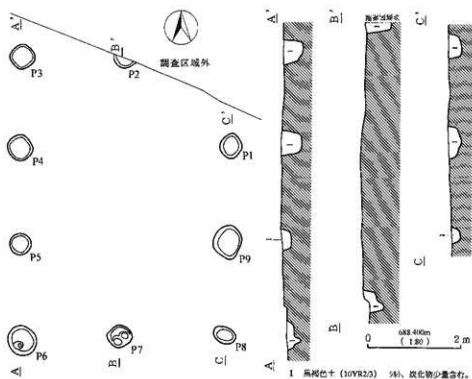


遺物は各ピットから土師器片が僅かに出土した。時期はピット内から古墳時代の上器片が出土しているが、本遺構の周辺は、古墳(5世紀後半~7世紀)、平安時代(9~11世紀)の複合遺跡であることから混入遺物である可能性もあり、断定には至らなかった。しかし、いずれかの時期には属すると思われる。

第50図 F 2号掘立柱建物址実測図

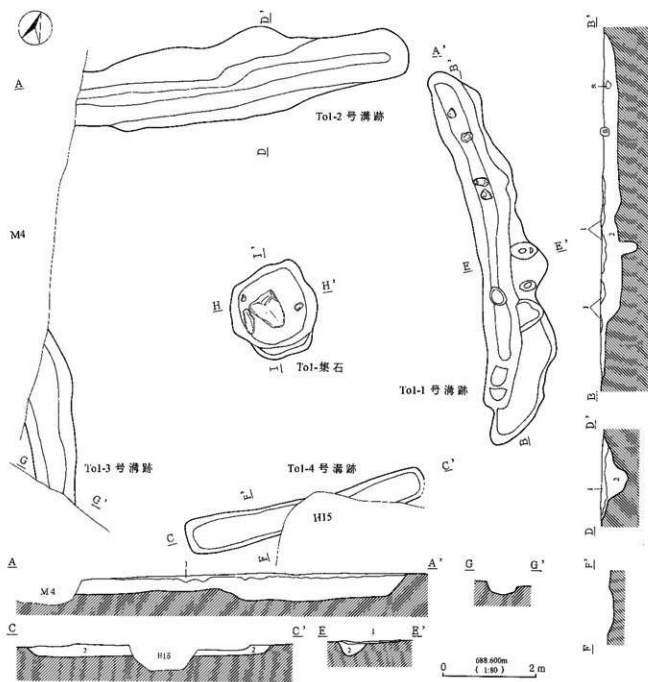
### F 3号掘立柱建物址

遺構は0一か一Iグリッドに位置する。3間×2間の側柱で、北側の一部は調査区域外となる。ピットの形態は円形でピット間2.5m内外、径50~70cm、深さ20~45cmを測る。覆土は単層である。遺物は僅かで時期の確定はできないが、本遺構は古墳時代後期及び平安時代の集落址であることからいずれかの時代に属すると考えられる。



第51図 F 3号掘立柱建物址実測図

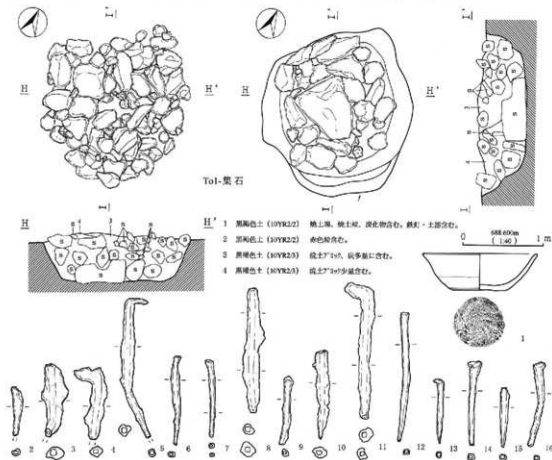
### 第3節 特殊遺構 (To)



第52図 T01号特殊遺構実測図

遺構は2-く-Dグリッド付近に位置し、M4及び平安時代のH15に切られ、古墳時代のH18を切る。検出時は径1.8m程の掘り込みを伴う集石と考えられたが、上部に詰め込まれた川原石を除去した結果、径1.8m、深さ50cmの不整形の掘り込みの中央には上面平坦で最大径80cmと大型の石を置き、周囲はこれを取り囲むように10~40cmの河原石を詰め込んだ特異な形態であることが確認できた。さらに周囲を検出すると、焼土混じりの上の散布が広く認められ、四方向に細長い溝状の掘り込みが存在した。中央の特殊な集石と溝跡は別遺構である可能性もあるが、遺構内覆土が焼土混じりの上質で、四本溝の中央に集石が位置することから同一遺構と考えたい。遺物は溝跡の上層付近から土師器環及び集石、溝跡一帯から最大17cm超の小規模

建物には見られない長めの角釘が多数出土した。また、本遺構を切るH15号住居址覆土上層から出土の角釘などは混入と考えられTo1号特殊遺構に伴う遺物と思われる。推測になってしまいが、遺構の特殊性、大型の角釘の出土から一般の住居とは異なる特殊な建造物が存在していた可能性が伺える。



第53図 To1号特殊遺構集石・遺物実測図

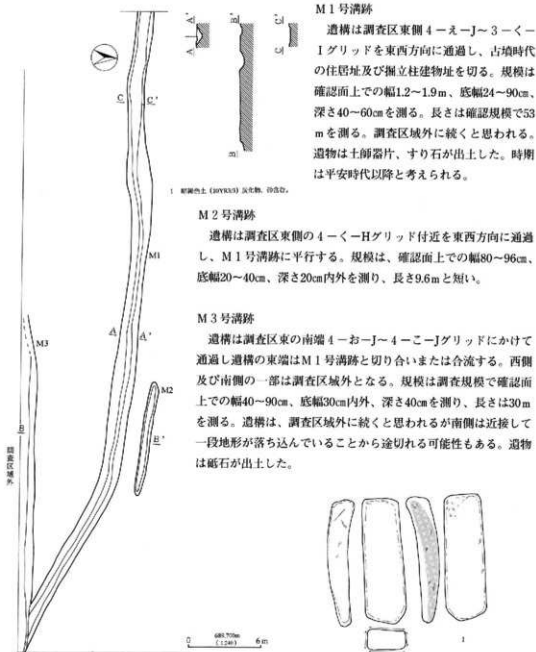
番号	部 類	型 形	口径cm	高さcm	底径cm	重 量・文 様	埋 存 中・埋 没 位 相	検 出 色 澤(写真)
1	土師器	坪	14	6.4	4.5	ロクロ織ナブ 底面回転内切り	00	良 536/4 強い褐色
番号	部 類	出 土 位 置	長さcm	幅cm	底径cm	重量g	備 考	
2	角釘	2号溝上層	5.8	0.7	0.4	8.5	先端欠損	
3	角釘	2号溝上層	8.9	0.8	0.7	11.4	先端欠損	
4	角釘	2号溝上層	8.9	0.7	0.8	40.2	先端欠損	
5	角釘	2号溝上層	17	0.8	0.7	28	先端欠損	
6	角釘	2号溝上層	11	0.5	0.4	11.5	先端欠損	
7	角釘	2号溝上層	9.0	0.4	0.4	7.4		
8	角釘	2号溝上層	10	0.8	0.8	52.2		
9	角釘	2号溝上層	8.5	0.5	0.5	16.8	先端欠損	
10	角釘	2号溝上層	10.8	0.7	0.5	25.4	頭欠損	
11	角釘	2号溝上層	16.5	0.7	0.7	54.2	先端欠損	
12	角釘	2号溝上層	15.7	0.7	0.5	27.9	先端欠損 側面欠損	
13	角釘	検出	7.9	0.5	0.5	8.7		

第29表 To1号特殊遺構遺物観察表(1)

番号	形 状	出土位置(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
14	角釘	2号溝上層	19.2	0.5	0.5	17.2	丸頭欠損
15	角釘	横山	7.5	0.5	0.5	10.4	頭欠損
16	角釘	横山	10.4	1.5	0.2	17.6	丸頭欠損

第30表 T01号特殊遺構観察表(2)

#### 第4節 溝跡(M)

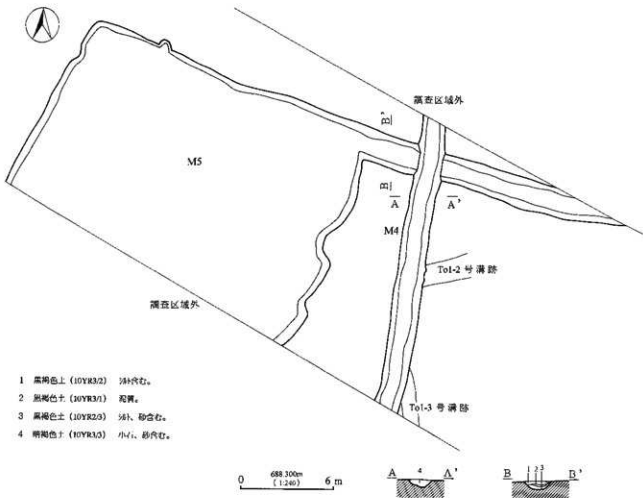


第54図 M1・2・3号溝跡・M3号溝跡遺物実測図

番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	F/L (cm)	重量 (g)	備 考
1	底心	17	6.7	3	475	4面に磁画 空り部

第31表 M3号溝跡遺物観察表

#### M4・5号溝跡



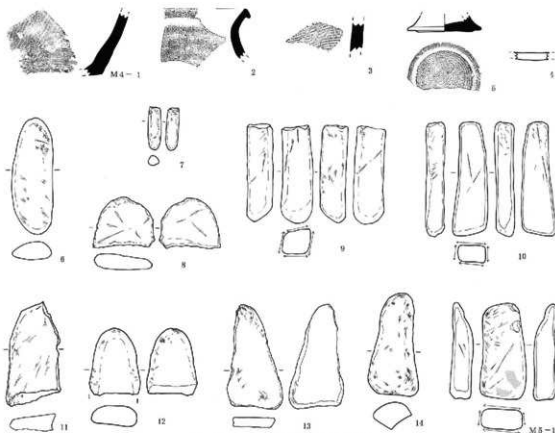
#### M4号溝跡

遺構は調査区中央の2-C-Dグリッド付近を南北方向に通過し、To1号特殊遺構の西溝を切る。規模は調査規模となり確認面上での幅1.8～2m、底幅60～70cm、深さ70cmを測り、長さは20mを測る。遺構は調査区域外に続くと思われる。遺物は古墳時代の土師器、中世の陶磁器片が出土した。時期は、中世以降と考えられる。

#### M5号溝跡

遺構は調査区中央付近を東西方向に通過し西側の低地帯に至り、途中M4号溝跡に切られる。規模は確認面上での幅2～2.2m、底幅80cm内外、深さ60cm、長さは17mを測る。西側は20～30cm程度の深さを持つ低地が広がり、この一帯には遺構は存在しなかった。遺物は溝、低地内から土師器片が出土した。





第56図 M4・5号溝跡遺物実測図

番号	器種	器形	口徑cm	底径cm	取高cm	面・文・痕	残存率・部位	磨・況	色澤(断面)
1	葉形器	葉	—	—	—	外面磨き面	基部破片	良好	M/0 灰色
2	葉形器	葉	—	—	—	口縁コクツ顔ナシ 内外面自然軸付着	口縁破片	良好	3954/1 糖質灰色
3	葉形器	葉	—	—	—	外面磨き面	破片	良好	M/0 灰色
4	土製刀鏃	—	4.6	—	1	土製磨削面	—	良好	7.0185/2 灰褐色
5	陶器?	不明	—	[4.6]	—	底面磨削面あり 自然粘付着	基部破片	良好	2.0385/3 灰黄褐色

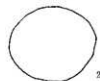
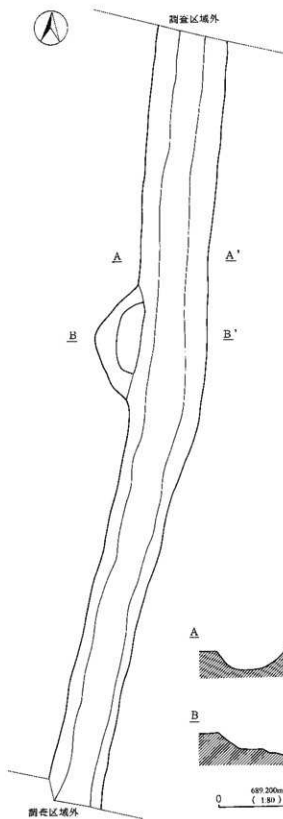
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
6	ナリ石	14	5.1	2.3	171	灰山岩
7	ナリ石	5.2	1.6	1.3	12	灰山岩
8	ナリ石	6.2	7.5	1.9	107.5	多孔質灰山岩
9	砥石	12	4	3.2	220	土灰欠損 4面磨り面
10	砥石	13.8	4.5	2.1	245	4面砥面
11	ナリ石・砥石	12.8	6.8	2.1	230	
12	ナリ石・砥石	8	6.3	8.2	189	上端磨削面 側面磨面
13	ナリ石	12.7	6.7	1.3	147	露出肌面ナシ
14	ナリ石・砥石	12.5	6.3	3.4	280	右端欠損

第32表 M4号溝跡遺物観察表

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	砥石	11.6	5.8	2.5	306	4面砥面 両面磨

第33表 M5号溝跡遺物観察表

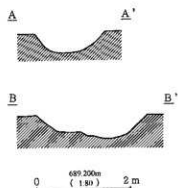
M 6号溝跡



番号	部 種	形 状	口径cm	底径cm	深さcm
1	土師器	杯	—	6.1	
備 考		位置	検出	色調	
		コクログ・回転糸切り	能楽舞台	白	7.5X7.6
				紫色	
番号	種	形状	径cm	厚さcm	重量g
2	すり石	球形	9.4	7.8	638

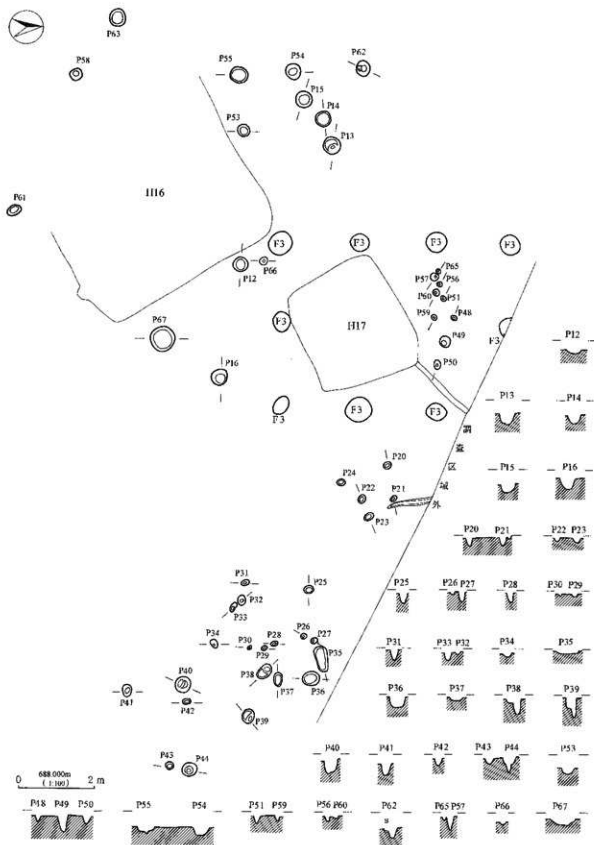
第34表 M 6号溝跡遺物観察表

遺構は調査区中央の東3-け-Hグリッド付近を南北方向に通過する。規模は確認面上での幅1.2~1.6m、底幅60~75cm、深さ50cm、長さ17mを測る。遺物は土師器片・すり石が出土した。

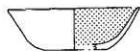
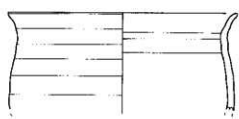
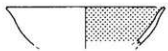
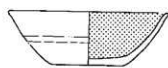
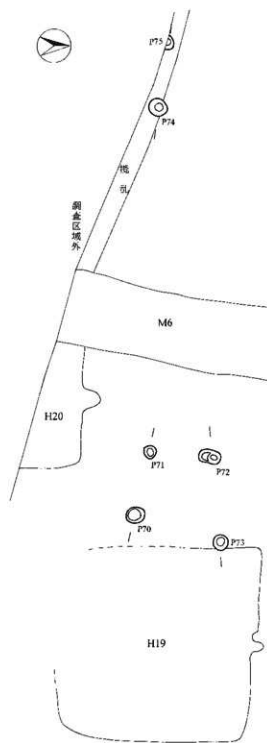


第57図 M 6号溝跡・遺物実測図

# 第5節 ビット (P)



第58図 ビット実測図 (番号のないものは欠番)

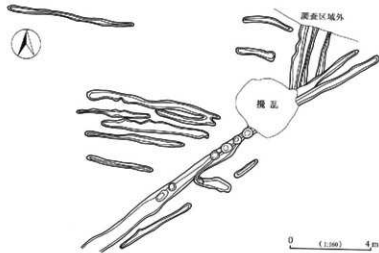


第59図 ビット・遺物実測図

番号	器種	器料	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	埋存率・部位	構成	色調(断面)
P14	土師器	小型甕	-	-	-	底面ヘラケズリ 外面横ナゲ	底面破片	瓦	5925/9 黒赤褐色
P15	土師器	甕	-	-	-	内面ヘラケズリ ロ線横ナゲ・「コ」の字状武庫裏	口縁破片	瓦	5987/3 鈍い褐色
P38-1	土師器	杯	[16.4]	7.3	5.7	ロクロ横ナゲ 底面回転糸切り 内面黒色処理・「十」字印文	30	瓦	7.5987/6 褐色
P38-2	土師器	杯	[16.4]	-	-	ロクロ横ナゲ 内面黒色処理	口縁破片	瓦	7.5987/4 褐色
P18-3	土師器	甕	-	-	-	ロクロ横ナゲ 内面黒色処理 高台残り付	底面破片	瓦	5936/9 褐色
P12-1	土師器	横置甕	[24.0]	-	-	内外面ロクロ横ナゲ 内面クシナゲ	口縁へ残部破片	瓦	5936/9 褐色
P12-2	土師器	杯	[13.6]	[6.4]	4.4	ロクロ横ナゲ 底面回転糸切り 内面黒色処理	口縁へ底面破片	瓦	10987/3 鈍い褐色
番号	器種	重量g							
P17-1	土師器	93.35							
P17-2	土師器	25.13							

第35表 ビット遺物観察表

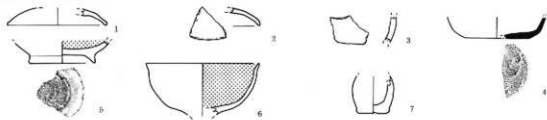
## 第6節 畝状遺構



第60図 畝状遺構実測図

畝状遺構は調査区中央2-お-Eグリッド周辺において検出した。東西、南北方向などが存在し、いずれも幅30~40cm、深さは10cm内外を測る。遺物は土師器の小破片が僅かに認められたが時期の確定には至らなかった。

## 第7節 遺構外遺物



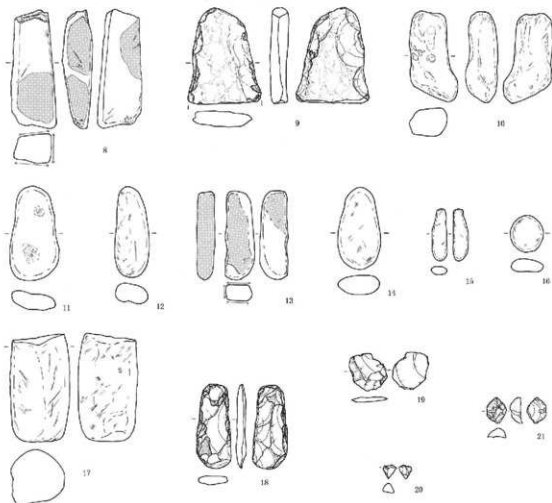
第61図 遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	埋存率・部位	構成	色調(断面)
1	土師器	甕	12.4	-	-	ロクロ横ナゲ 遺構	口縁	瓦研	2.5016/1 行-A 灰褐色

第36表 遺構外遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	口縁cm	器高cm	製・文 様	埋存率・部位	検 査	色調(外室)
2	焼酎樽	壺	—	—	—	コクロナダ 彫刻	口縁	良好	577/3 浅黄色
3	土瓶	罎	—	—	—	コクロナダ 彫刻	体部残片	良好	575/2 黄白～ <sup>2</sup> 色
4	茶壺	杯	—	6.5	—	コクロナダ 武部刃部未切り 自然釉付着	底部残片	良好	2.576/2 灰黄色
5	土師器	碗	—	2.9	—	内面三色地型 底部中央に切り取られた器口付付	底面～武部残片	良	10708/2 灰白色
6	土師器	酒杯	[14.0]	—	—	内面黒色地型 外面ヘラケズリ	杯部破断片	良	7.5137/1 黄～褐色
7	土師器	—	—	3.8	—	外面上部ヘラケズリ	底部～外割破片	良	7.5706/4 黄～褐色

第37表 遺構外遺物観察表(2)



第62図 遺構外石器実測図

番号・材質	器 種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
8・3-1-1	磁石・磁石	14.7	5.5	3.8	442	浜部池川の割断あり 宝山岩
9・3-1-1	打製石斧	11.8	9.2	2	316	宝山岩
10・3-1-1	磁石・すり石	11.1	6	4	294	
11・3-1-1	焼石	11.7	6	2.7	220	宝山岩
12・3-1-1	すり石・磨石	11.3	4.1	2.4	188	宝山岩

第38表 遺構外石器観察表(1)

番号・位置	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	備 考
13・2-1-1	磁石	10.9	3.7	2.1	140	灰白岩
14・1-1-B	すり石	10	5.3	2.3	155	灰白岩
15・1-1-B	すり石	6.6	2	1.1	19	灰白岩
16・1-1-B	すり石	4.6	4.2	1.5	30.9	灰白岩
17・1-1-B	不明	13.5	7.5	6.8	1,038	灰白岩
18	打製石斧	10.4	4.3	4.2	81	使用痕あり
19・2-1-4	刮片	4.6	4.6	0.7	16.1	
20・1-1-A	石核	1.7	1.6	1.2	2.4	磁石著
21・1-1-C	刮片	3.2	2.5	1.2	7	黒曜石

第39表 遺構外石器観察表 (2)

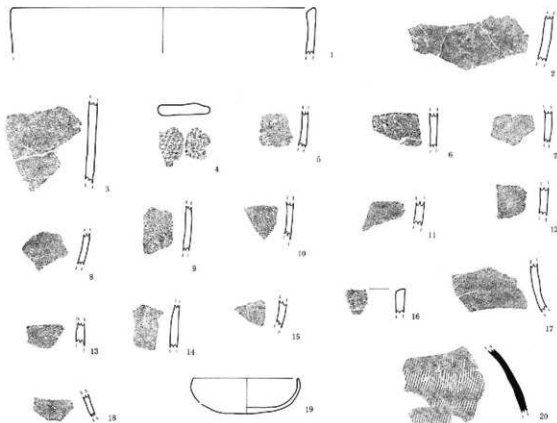


第63図 遺構外鉄器実測図

番号	器 種	出土位置	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備 考
22	短刀	3-1-1-B	29.6	2.5	0.4	160	出土は種山面下10cm

第40表 遺構外鉄器観察表

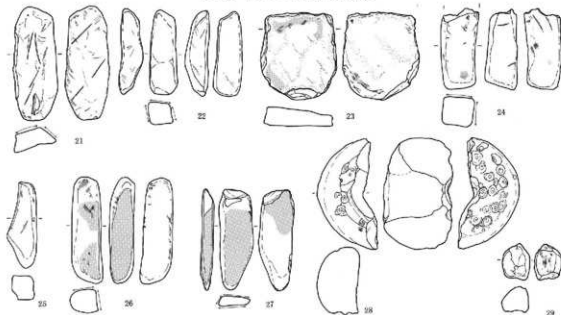
## 第8節 トレンチ調査出土遺物 (包含層)



第64図 トレンチ調査出土遺物実測図

番号	器種	器用	口径cm	底径cm	器高cm	講 察・文 種	残存部・部位	検 査	色調(外面)
1	縄文土器	深鉢	(37.4)	—	—	表面摩耗	口縁破片	良	5Y8/6 褐色
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/4 褐色
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/4 褐色
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	底面摩耗	底面破片	良	7.5Y8/6 褐色
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	5Y8/4 褐色 強い赤褐色
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/6 褐色
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/6 褐色 強い赤褐色
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	5Y8/4 褐色 強い赤褐色
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/6 褐色
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/3 褐色 強い赤褐色
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/4 褐色
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	5Y8/4 褐色 強い赤褐色
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/3 褐色 強い赤褐色
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/6 褐色
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	破片	良	7.5Y8/3 褐色 強い赤褐色
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面摩耗	口縁破片	良	7.5Y8/6 褐色
17	弥生式土器	壺	—	—	—	内外赤褐色塗彩	破片	良	10B5/9 赤褐色
18	弥生式土器	壺	—	—	—	内外赤褐色塗彩	破片	良	10B5/9 赤褐色
19	土師器	埴	[12.4]	丸底	4.3	内外面摩耗	30	良	7.5Y8/6 褐色
20	須恵器	壺	—	—	—	外面平行線土肌	破片	良好	2.5Y8/1 黄褐色

第41表 トレンチ調査遺物観察表



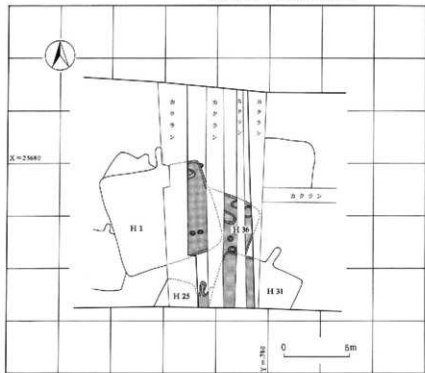
第65図 トレンチ調査石器実測図



番号	器種	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	備考
21	磁石・すり石	13.9	3.5	2.1	286	安山岩
22	磁石	10.5	3.5	2.8	143	安山岩
23	打割石等	10.8	9.3	2.3	323	埋戻土あり 安山岩
24	磁石	9.9	4.7	3.8	267	2面に埋戻土 安山岩
25	すり石	10.5	3.4	3	163.6	安山岩
26	磁石	13	4	3	198	安山岩
27	磁石・焼石	12.3	4.3	1.2	108	内面に磁打家 横溝に瓦面 焼磁石
28	鉄の鑿石	20.2	11.1	12.7	2,448	安山岩
29	すり石	4.4	3.3	3.3	68.5	鉄分付着 安山岩

第42表 トレンチ調査石器観察表

## 第IV章 榑村遺跡Ⅲ



第66図 榑村遺跡Ⅲ遺構配置図(1:250)

榑村遺跡Ⅱは平成11・12年度に発掘調査を実施したが、一部の現道下は未調査であった。

今回、佐久平賀バイパス道路改築に伴い現道部のアスファルト撤去を伴う工事が行われることとなり、以前の調査から遺構の存在は明らかであったため、発掘調査を行う運びとなった。調査区は水道・ガスによる攪乱が存在し、遺構は大きく破壊されていた。確認できた遺構は、平成11年度調査を行ったH1・25号住居の東側、

平成12年度調査のH31号住居の北西コーナー周辺、新たに発見したH36号住居の4軒である。

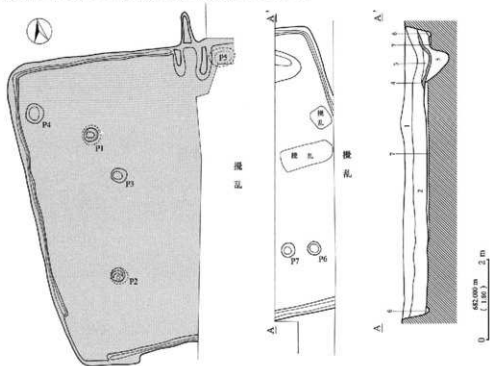
### 第1節 竪穴住居(H)

#### H1号住居

平成11年度調査を行ったH1号住居東側の調査を行った。水道・ガス設置などにより破壊されているが、北東コーナーが認められたことから東西方向の規模を確認することができた。住居の全体規模は東西8m、南北7m、床面からの深さは60cmを測り、平面形態は方形である。北壁にカマドが構築され、以前カマド東脇において土師器壺が数多く出土している。

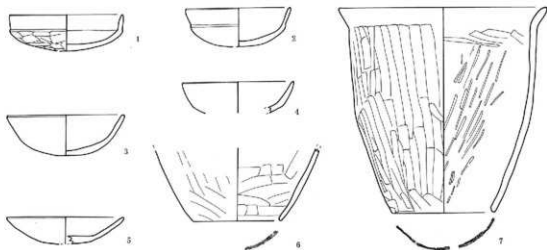
遺物は土師器の環、瓶、甕片が出土した。図示したのは7点である。環は体部に明瞭な稜を持ち直線的に立ち上がるもの、やや外傾気味に立ち上がるもの、明瞭な稜を伴わず丸底気味の底部から緩やかな丸みをも

って立ち上がるものが認められた。甕は底抜きの単孔で緩やかな角度をもって立ち上がり、口縁は「く」の字状を呈する。本遺跡は6世紀中葉、古墳時代後期と考えられる。



- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/5) 黄褐色土、赤色河、灰化物・炭化物を含む。埋戻土。 | 5 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、焼土を含む。      |
| 2 黒褐色土 (10YR3/3) 黄褐色、黒褐色7:3で多く含む。埋戻土。     | 6 黒褐色土 (10YR2/3) 埋戻土。            |
| 3 黒褐色土 (10YR3/4) 黄褐色・土層。炭化物・焼土を含む。        | 7 黒褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土と黒褐色土上の混合土。 |
| 4 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、焼土を含む。               |                                  |

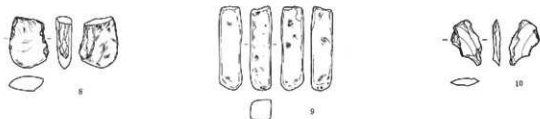
第67図 H1号住居址実測図 (アミ部はH11年度調査)



第68図 H1号住居址遺物実測図

番号	器名	器口	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査・文様	残存率・部位	土質	色(内面)
1	土師器	杯	[13.6]	丸底	4.5	口縁横ナゲ 基部半持ちヘラケズリ 内面摩耗	50	良	10YR2/2 浅黄褐色
2	土師器	杯	[12.6]	丸底	4.7	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 全体に正面摩耗現象	40	良	2.5YR7/6 褐色
3	土師器	杯	14.2	丸底	5	全体に摩耗	40	良	10YR7/6 黄褐色
4	土師器	杯	13.6	—	—	全体に摩耗	—	良	7.5YR5/4 褐色
5	土師器	杯	14.2	—	—	全体に摩耗	—	良	10YR4/4 褐色
6	土師器	碗	—	[16.2]	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	—	良	10Y2/6 褐色
7	土師器	碗	25.1	[12.6]	23.2	口縁横ナゲ 外面半ヘラケズリ 内面刻線ナゲ	46	良	5Y7/4 褐色

第43表 H1号住居址遺物観察表

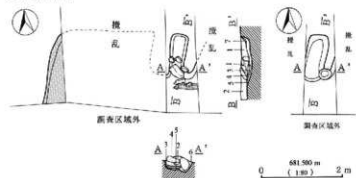


第69図 H1号住居址石器実測図

番号	器名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
8	燧石片	6.3	4.7	2.2	57.49	
9	燧石	10.5	2.5	2.8	138	
10	燧石(石器未製品?)	10.6	9.3	2.3	1.68	燧石

第44表 H1号住居址石器観察表

### H25号住居址



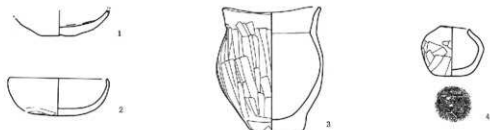
- 1 黄褐色土(2.5YR3/6) 粘土多量、炭化物含む。
- 2 黄褐色土(10YR2/3) 黄褐色土質、粘土、炭化物含む。埋没物。
- 3 赤褐色土(2.5YR4/6) 粘土質、平不硬質。
- 4 暗褐色同色土(5YR2/4) 土層の移行部分。
- 5 赤褐色土(10YR2/3) 黄褐色土層に含む。
- 6 赤褐色土(10YR2/3) 黄褐色土質7~8%、粘土少量含む。
- 7 黄褐色土(10YR3/2) 粘土多量、炭化物含む。

第70図 H25号住居址実測図(アミ部はH11年度調査)

遺構は調査区南に位置し、平成11年度に住居の西壁付近と考えられる僅かな掘り込みを調査したH25号住居址の東側部分である。大半が水道・ガス管の設置に伴う掘乱によって破壊されているが、カマドの火床周辺及び袖の一部を確認することができた。袖は粘土で構築されカマド焚口付近には石材が散乱し、火床には厚さ8cmの焼土の堆積が認められた。床上からは土師器の小型甕が伏せた状態で出土した。

本住居址は、やや平気味の土

師器環が出土していることから6世紀後半～7世紀、古墳時代後期と考えられる。

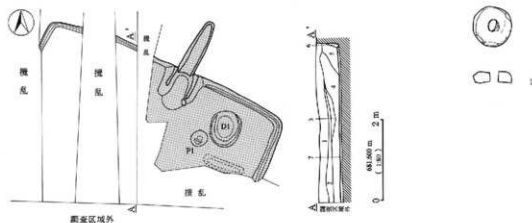


第71図 H25号住居址遺物実測図

番号	器 種	部 形	口径cm	底径cm	高さcm	講 究・文 様	残存率・部位	完 成	色調(外面)
1	土師器	杯	—	5.1	—	外面ヘラケズリ 内面ナデ	40	良	5T06/4 黄い粉色
2	土師器	杯	[12.4]	丸底	4.5	口縁横ナデ 底部手持ちヘラケズリ 内面ナデ	40	良	5T06/4 紅色
3	土師器	小型甕	11.8	15	6	口縁横ナデ 外面取ヘラケズリ 内面ナデ	100	良	7.5YR5/2 薄茶色の 灰黄褐色
4	土師器	小型甕	3.5	3.9	3	外面ヘラケズリ 内面ナデ	90	良	10YR5/1 淡黄褐色

第45表 H25号住居址遺物観察表

### H31号住居址

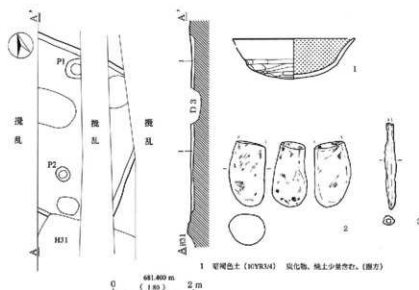


- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 黄褐色土 (10YR2/2) 焼土、炭化物を含む、強粘性。 | 5 黄褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物を含む。    |
| 2 黄褐色土 (10YR2/2) 炭化層。           | 6 黄褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土中に少量含む。   |
| 3 褐色土 (10YR4/6) 黄褐色土に主眼。        | 7 褐色土 (10YR4/6) 褐色土に黄褐色土を少量含む。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土に主眼、強粘性。   |                                |

第72図 H31号住居址・遺物実測図 (アミ部はH12年調査)

遺構は調査区南に位置し、平成12年度調査を行ったH31号住居址の西側部分である。大半が水道・ガス管設置によって破壊されているが北西コーナー及び床面の一部を確認し、H36号住居址を切る。床面は平坦で固く壁際に周溝が認められた。

遺物は土師器片及び滑石製白玉1点(径1.2cm、長さ0.35cm、孔径0.2cm)が出土した。本住居址は以前の調査から6世紀中葉、古墳時代後期と考えられる。



第73図 H36号住居址・遺物実測図

### H36号住居址

遺構は調査区中央付近に位置し、H31号住居址に切られる。位置的にH1号住居址と切り合い関係にあると思われるが攪乱による破壊が激しく遺構の新旧を確認することはできなかった。本住居址はH12年度調査には認められず、新たに確認された住居址である。規模については攪乱が激しく正確な数値を計測することはできなかった。平面形は遺構の残存状況から

番号	品名	形状	長さcm	直径cm	厚さcm	重量(g)	保存率(%)	出土位置	備考
1	土師器	杯	14.9	8.8	4.9	114	80	内面黒色処理	7.0156/4 彩色
2	すり石	すり石	8	4.2	2.8	184			
3	釘	出土位置	19.2	1.1	1.1	185.6			

第46表 H36号住居址遺物観察表

方形と思われる。確認できた床面は平坦で全体的に土間状を呈し、硬質である。床面上からはピット2個、土坑が3基認められた。土坑については確認状況から別遺構と思われる。

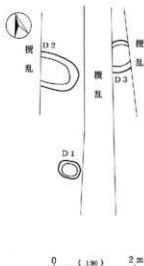
遺物は土師器の杯、すり石、鉄製品が出土した。土器については小破片が大半を占め、図示できたのは1点である。1は内面黒色処理された底部丸底の土師器杯、3は断面方形の釘と思われる。

本住居址は、底部丸底の手持ちヘラケズリで、体部に緩やかな段を持った後、開きながら立ち上がり、大きく外反する土師器杯の存在及び、6世紀中葉としたH31に切られることから6世紀前半、古墳時代後期と考えられる。

## 第2節 土坑(D)

### D1・2・3号土坑

遺構はH36内にあり、H36を切り、D2・3は一部攪乱に破壊されている。規模はD1は径56cm、深さ20cmを測る、D2は南北80cm、東西は残存長で96cm、深さ30cmを測る。D3は南北80cm、深さ20cmを測る。



第74図 D1・2・3号土坑実測図

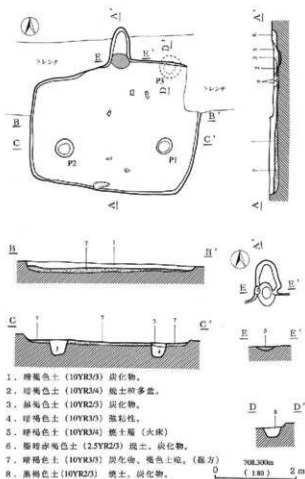
## 第V章 扇田遺跡

### 第1節 竪穴住居址 (H)

#### H1号住居址

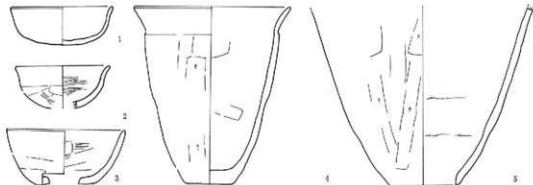
遺構は1ーおーJグリッドに位置する。一部試掘トレンチに破壊されている。規模は南北3.2m、東西4.0m、床面までの深さは20cmを測り、平面形態は不整形である。覆土は単層で強粘性の暗褐色土である。壁際に周溝は認められず、床面は土間状に堅さを持つ。ピットは2個確認でき、位置的に支柱穴と考えられる。また北東コーナー付近に貯蔵穴が存在する。カマドは北壁中央に構築されているが、確認できたのは焼土の堆積した火床と北に張り出す煙道の一部のみである。

遺物は土師器の坏・甕・瓶が出土した。図示したのは10点である。1・2は土師器坏で、丸底手持ちヘラケズリで2は表面にミガキを施す。3は鉢型の瓶で径4.3cmの単孔である。4は底部から開き、ほぼ直線的に立ち上がる甕、5は底部に径7.5cmの孔を有する底抜けの瓶である。6は長胴の甕である。7～9はいずれも敲き・すりに使用した石器、10は黒曜石の剥片で加工痕が認められる。本住居址は坏の形状が底部から緩やかな丸みを持って立ち上がることから7世紀代古墳時代後期としたい。

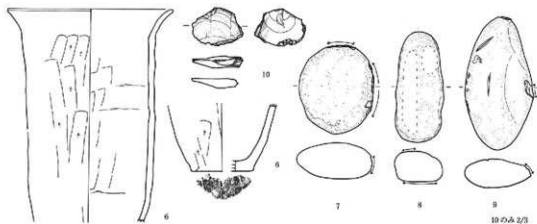


1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土貯多量。
3. 暗褐色土 (10YR2/3) 炭化物。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 強粘性。
5. 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土層 (火床)
6. 暗褐色土 (2.5YR2/3) 焼土、炭化物。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、焼土土塊。(磁方)
8. 暗褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物。

第75図 H1号住居址実測図



第76図 H1号住居址遺物実測図 (1)



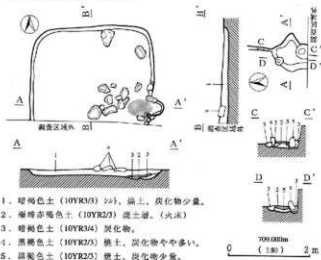
第77図 H1号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器名	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文庫	保存中・部位	図号
1	土師器	埴	12.5	9.5	4.7	内底彫刻・口縁削テ	40	浅い褐色
2	土師器	埴	11.5	8.5	—	底面手摺りヘラケズリ 口縁削テ 内底彫ミゴケ	40	浅い褐色
3	土師器	埴	14.4	6.9	6.3	底面、外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ 底面彫ミゴケ彫刻	70	浅い褐色
4	土師器	埴	19.2	8	21.7	外面、底面ヘラケズリ 口縁削テ	50	褐色
5	土師器	埴	—	6.4	—	外面彫ヘラケズリ 内面ヘラケズリ 口縁削テ	底面・口縁削テ	褐色
6	土師器	埴	19.2	17.4	—	外面彫ヘラケズリ 内面ヘラケズリ 底面木葉文	50	浅い褐色
砂2	器種	重量g	長さcm	幅cm	厚さcm	調査		番号
7	埴	492	15.9	8.1	4.6	底面に彫行線あり		
8	埴	497	15.5	8	5.9	底面2段、底面彫行線あり		
9	埴	515	16.3	9.3	3.6	底面に彫行線あり、裏面に彫行線あり		
10	埴	—	—	—	—	口縁削テ・底面彫		

第47表 H1号住居址遺物観察表

## H2号住居址

遺構は2-0-0-Jグリッドに位置し、H3を切り、南側は調査区域外となる。調査規模は南北2.4m、東西3m、床面までの深さは20cmで、平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。覆土は単層で強粘性の暗褐色土である。壁際に周溝は認められず、ピットも確認できなかった。床面は全体的に硬質で、南側を中心に小型の上師器環が直上から点在するように出土した。カマドは東壁に構築され破壊されているが、袖内に埋め込まれた石材及び残存した粘土が確認でき、火床



第78図 H2号住居址実測図

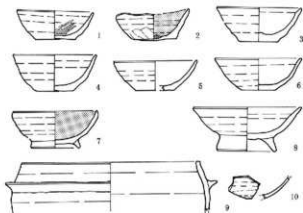
1. 暗褐色土(10YR3/3)砂、粘土、炭化物少量。
2. 暗褐色土(10YR2/3) 炭土層。(火床)
3. 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物。
4. 黒褐色土(10YR2/5) 粘土、炭化物や多い。
5. 黒褐色土(10YR2/5) 粘土、炭化物少量。

には多量の焼土が堆積していた。掘方は硬質の床面が認められる程度で、はっきりと土を埋め込んだ痕跡はなく、床下は切り合い関係にある焼失住居址H3の覆土となり、多量の炭化物を含む。

遺物は土師器の埴、碗、羽釜、灰陶陶器が出土した。図示したのは10点である。1～6は小型で、やや

丸みを持って立ち上がる土師器環で、本住居址の主体を成す土器である。7・8は土師器碗で7は口縁付近が内灣気味に立ち上がり小型である。8は他の土器に比べ口径が大きく、直線的に立ち上がり、足高気味である。9は土師器羽釜の口縁付近の破片で、樽状に立ち上がり口縁端部は面取りされ角張る。轆轤使用である。10は灰釉陶器の破片である。

本住居址は口径9.4～10.6cm、底径4.4～5cmの小型化された土師器環が主体であり、足気味の碗、口縁から鑄にかけて短くなった羽釜が含まれることから10世紀後半～11世紀初頭、平安時代としたい。



第79図 H2号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土	保存の状況	備考
1	土師器	環	9.4	5	5.5	内湾面口縁ナゲ 底部が転曲り 西側一筋ナゲ	30	黒い鉄褐色
2	土師器	鉢	9.4	5.8	3.2	内湾面ナゲ 底縁ヘラケズリ 貫穿孔 赤色地物	30	黒い鉄褐色
3	土師器	環	10.41	5	5.2	内湾面口縁ナゲ 底部が転曲り	30	黒い鉄褐色
4	土師器	環	10.72	4.4	4.3	内湾面口縁ナゲ 底部が転曲り	31	黒い鉄褐色
5	土師器	環	10.42	5	5.0	内湾面口縁ナゲ 底部が転曲り	32	黒い鉄褐色
6	土師器	環	10.0	4.7	3.9	内湾面口縁ナゲ 底縁ヘラケズリ	30	黒い鉄褐色
7	土師器	碗	10.72	5.9	4.5	内湾面ナゲ 底縁高台盛り付 内湾面色地物	31	褐色
8	土師器	碗	15.2	7	5.4	内湾面口縁ナゲ 底部が転曲り	31	黒褐色
9	土師器	羽釜	10.42	—	—	内湾面口縁ナゲ 底縁高台盛り付 口縁面転曲り	—	口縁一筋破片 黒い鉄褐色・紅色
10	灰釉陶器	破片	—	—	—	内湾面口縁ナゲ 底縁	伴出破片	灰白色

第48表 H2号住居址遺物観察表

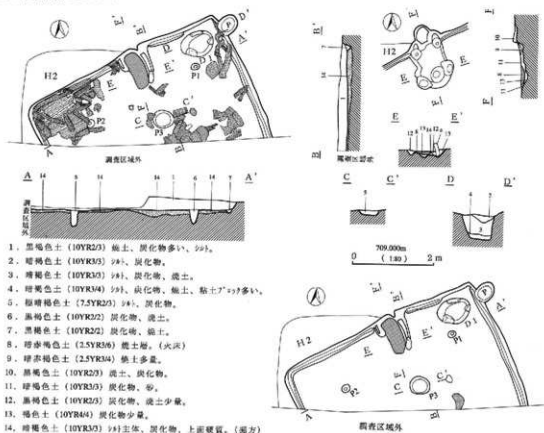
### H3号住居址

遺構は2-1-1グリッドに位置し、H2に切れ、南側は調査区域外となる。調査規模は南北3.2m、東西5.2m、床面までの深さは40cmを測り、平面形態は調査状況から方形と考えられる。覆土は強粘性の黒褐色土の単層で多量の炭化材、炭化物及び焼土を含む。床面上には多量の炭化材が認められることから焼失住居であることが伺われる。炭化材直下は硬質の床面で、壁際には幅15cm、深さ10cm内外の周溝が存在する。ピットは4個確認できたが、P3、4は住居址に伴うか不明である。主柱穴は位置的に小径で、深さ45cmを測るP1、2と考えられる。北東コーナーには長径80cm、深さ60cmの貯蔵穴が存在する。カマドは北壁中央のやや東寄りに粘土を利用して構築されているが、西袖周辺はH2号住居址に完全に破壊されている。確認できたのは東袖と火床である。東袖の先端には石材が埋め込まれ、火床には南北95cm、東西35cmの範囲で焼土が堆積していた。

遺物は土師器の環、高環、鉢、甕、白玉が出土した。図示したのは9点である。1・2は土師器環で、手持ちヘラケズリされた底部から大きく外反し、口縁部に至る。3は人降りの手づくね土器で平坦な底部から高さはないが筒状に立ち上がる。4は小型の鉢で口縁は僅かに外反し、横ナゲを施す。5は土師器高環で脚部は太めの接合部から開き気味に裾部に至る。環部は体部に明瞭な稜をもち、口縁は外反する。6～8は土師器甕で、6は口縁破片、7・8は底部である。伴に胴中央部に最大径を有する。9は滑石製の白玉で床面直上から出土した。

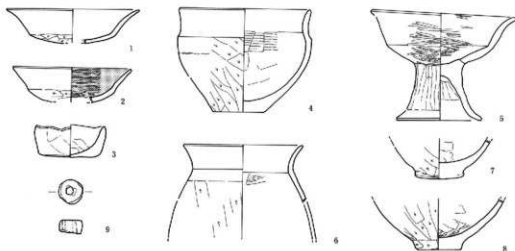


本住居址は、底部手持ちヘラケズリを施し、口縁が大きく開く環、胴中央部に最大径を有する甕の存在から6世紀前半としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土、炭化物多い、砂。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、炭化物。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、炭化物、炭土。
4. 暗褐色土 (10YR3/4) 砂、炭化物、粘土、粘土質の砂が多い。
5. 暗褐色土 (7.5YR2/3) 砂、炭化物。
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、炭土。
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、粘土。
8. 暗褐色土 (2.5YR3/6) 粘土層。(火灰)
9. 暗褐色土 (2.5YR3/4) 粘土多量。
10. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭土、炭化物。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、砂。
12. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、炭土少量。
13. 暗褐色土 (10YR4/4) 炭化物少量。
14. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂主体、炭化物、上面硬質。(面方)

第80図 H3号住居址実測図



第81図 H3号住居址遺物実測図

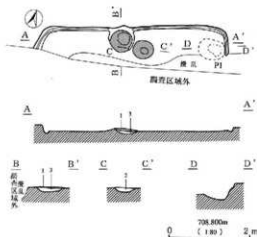
番号	名称	形状	直径cm	高さcm	用途	調査・写真	保存状況	備考
1	土師器	円	16.2	4.8	—	広口半片丸ヘラズボリ 口内外面焼ナゲ 内面ナゲ	口縁へ凹線付	褐色
2	土師器	円	14.2	4.8	—	高縁手持ちヘラズボリ 口内外面焼ナゲ 内面黄色焼色	口縁へ凹線付	黄褐色
3	手づくね土器	鉢	6.3	7.4	4	外面、底面ヘラズボリ 内面ヘラズボリ	底	黄褐色・黄褐色
4	土師器	鉢	16	6.4	11.7	外面底面ヘラズボリ 内面ヘラズボリ 凹線ナゲ	底	赤褐色
5	土師器	高杯	13.8	14.4	13	器内外面直ぐ 器内外面焼ナゲ 器内外面黄褐色 ナゲ 裏ヘラズボリ	底	褐色
6	土師器	壺	14.6	—	—	凹線ナゲ 外面ヘラズボリ 内面ヘラズボリ	口縁へ凹線付	褐色
7	土師器	壺	—	8	—	外面、底面ヘラズボリ、内面ヘラズボリ	底面へ凹線付	赤褐色
8	土師器	壺	—	7.7	—	外面、底面ヘラズボリ、内面ヘラズボリ	底面へ凹線付	褐色
9	土師器	高杯	12.6	12.6	13	—	—	褐色
10	土師器	高杯	13.7	13.7	13.9	—	—	褐色

第49表 H3号住居址遺物観察表

#### H4号住居址

遺構は2ーうーJグリッドに位置する、H5に切れ、南側は水路によって破壊され、そのさらに南は調査区域外となる。調査規模は南北1.0m、東西4.6m、深さは上層の大半をH5に破壊され、確認段階で床面状態であった。形態は壁際に存在したと考えられる周溝の掘り込みから方形と考えられる。床面は堅くピットは掘方で1個確認できたが、床面上からは認められなかった。カマドと思われる北壁中央付近には円形の焼上の堆積が2箇所確認でき、位置的に西側の焼土がカマドの火床と思われる。東側の使用状況は不明である。

遺物は本住居址に伴うと確定できるものは出土しなかった。本住居址は、6世紀前半のH5に切られることから、これに先行する古墳時代の住居址としたい。



1. 赤褐色土 (5YR4/6) 粘土層 [火床]
2. 赤褐色土 (5YR4/8) 炭土層。
3. 黄褐色土 (10YR2/5) 焼土層、炭化物。

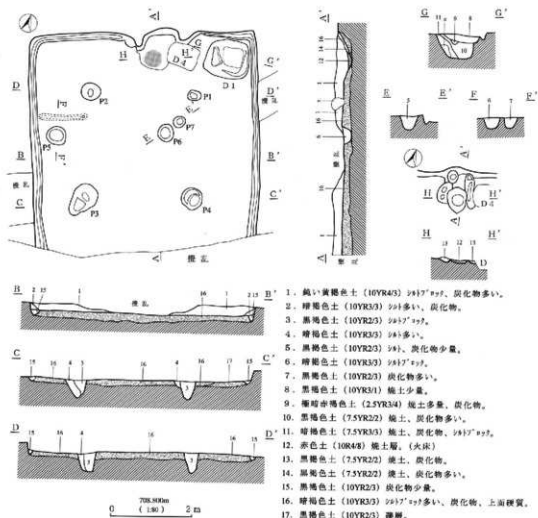
第82図 H4号住居址実測図

#### H5号住居址

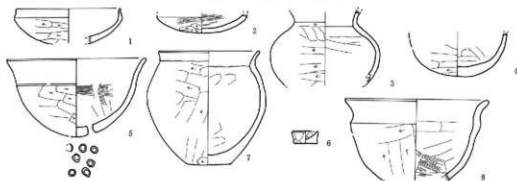
遺構は2ーうーJグリッドに位置し、H4を切り、東側の北東コーナー付近の上層をH6に切られる。南側は僅か調査区域外となる。規模は東西5.6m、南北5.4m、床面までの深さは25cmを測り、平面形態は方形と考えられる。覆土は鈍い黄褐色土の単層で炭化物が多く含まれる。床面は平坦で堅く、部分的に炭化材が認められた。覆土にも多くの炭化物が認められることから焼失住居の可能性もある。壁際には幅16cm、深さ15cmの周溝が存在する。ピットは床面上で7個確認でき、主柱穴はP1～4である。北東コーナーには東西110cm、南北95cm、深さ60cmの土坑が存在する。カマドは北壁に構築されているが、火床及び油の僅かな張り出しが確認できたのみで、東袖付近は単独土坑に一部破壊されている。掘方は10cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれ、上面硬質である。

遺物は土師器の坏、甕、甗、手づくね土器、白玉が出土した。図示したのは25点である。1・2は底部丸底で有稜の土師器坏、3は小型壺、4は小型甕の底部である。5は鉢形の甗で多孔式。6は小型の手づくね土器、7は小型甕、8は鉢で底部欠損。9は底抜けの甗で孔径6.8cmの単孔である。10～17は甗で10～14は球胴甗の胴上半、14は口縁部も欠損する。15・16は球胴甗の底部である。17は長胴甗で下彫れの胴部である。18～22・24・25は滑石製の白玉、23は管玉で床直上から点在し出土した。本住居址は球胴甗が多く含まれるが、

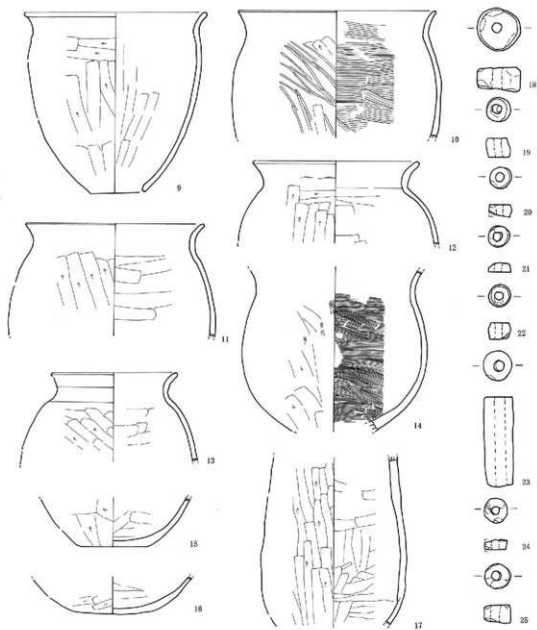
口縁が短く内傾気味の环が含まれることから6世紀後半、古墳時代後期としたい。



第83図 H5号住居址実測図



第84図 H5号住居址遺物実測図(1)



第85図 H5号住居址遺物実測図(2)

番号	位置	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存の部位	備考
1	土師器	鉢	11.8	8.2	—	底面半斜ヘラナズリ 内面等焼 口縁編ナゲ	20	褐色
2	土師器	鉢	—	8.2	—	底面半斜ヘラナズリ 内面(ゴキ)	底面(1)	灰・褐色
3	土師器	甕	—	—	—	内面ヘラナズリ 内面ヘラナズリ 底面半斜焼	底面・胴内縁片	灰赤
4	土師器	甕	—	6.6	—	内面ヘラナズリ 内面ヘラナズリ	底面(1)	灰赤褐色
5	土師器	甕	[17]	8.8	—	内面ヘラナズリ 内面ヘラナズリ (1.5cm 口縁ナゲ) 底面穿孔	30	褐色

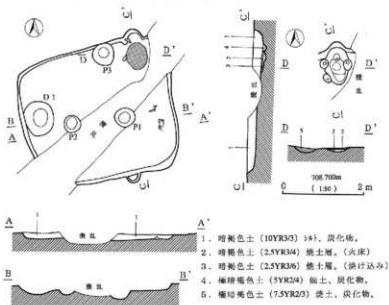
第50表 H5号住居址遺物観察表(1)

番号	品名	数量	長さcm	幅cm	厚さcm	器型・文様	出土の位置	備考
6	土師器	平底土師	3.3	2.9	1.6	内面ヘラナデ	90	灰褐色
7	土師器	壺	12.2	5.2	13.9	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	90	赤褐色
8	土師器	鉢	15.8	—	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	10	褐色
9	土師器	鉢	22.4	5.9	22.2	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	65	褐色
10	土師器	壺	26.2	—	—	外面ヘラナデ 口縁ナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	口縁・胴部	褐色
11	土師器	壺	21.8	—	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	口縁・胴部	灰褐色
12	土師器	壺	38.4	—	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	口縁・胴部	褐色
13	土師器	壺	18.3	—	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	口縁・胴部	灰褐色
14	土師器	壺	—	—	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁ナデ	口縁・胴部	褐色
15	土師器	壺	—	5.9	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	口縁・胴部	灰褐色
16	土師器	壺	—	16.5	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	口縁・胴部	灰褐色
17	土師器	壺	—	—	—	外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	口縁・胴部	褐色
番号	品名	重量g	長さcm	直径cm	厚さcm	器型	備考	
18	白土	5.2	1.3	1.3	3.7	—	直径6.3	
19	白土	5.6	3.5	2.75	3.2	—	直径6.2	
20	白土	5.2	5.45	6.7	0.4	—	直径25	
21	白土	5.5	5.45	6.7	0.3	—	直径25	
22	白土	9.3	6.7	6.7	0.5	—	直径25	
23	白土	3	6.9	5.9	2.7	—	直径6.3	
24	白土	6.3	6.75	5.7	6.2	—	直径6.7	
25	白土	6.4	6.9	6.9	6.49	—	直径6.2	

第51表 H5号住居址遺物観察表(2)

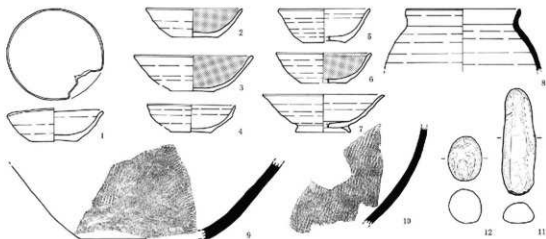
#### H6号住居址

遺構は2-1-1グリッドに位置し、H5を切り、北東コーナーから斜めに入る掘溝によって一部破壊されている。規模は東西3.6m、南北3.3m、床面までの深さは25cmを測る。平面形態は隅丸方形である。壁際の周溝は認められず、床面は硬質である。ピットは壁際を含め3個確認できたが、主柱穴かは不明である。カマドは北東コーナー付近に構築され火床及び、煙道の北壁外への張り出しが確認できたのみで大半が破壊されていた。



第86図 H6号住居址実測図

遺物は土師器の坏、碗、須恵器の甕、すり石・敲石が出土した。図示したのは12点である。1～6は土師器坏で2・3・6は内面黒色処理を施す。7は碗で口縁端部が外反する。8～10は須恵器で8は轆轤を使用した小型の壺である。9・10は甕で外面叩き痕を残す。11は柱状の敲き・すり石で、12は球状のすり石である。本住居址は土師器坏の小型化が始まり、南東カマドのH15を切ることで、僅かだが須恵器が含まれることから、10世紀前半、平安時代としたい。



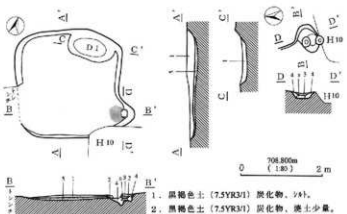
第87図 H6号住居址遺物実測図

番号	品名	形状	径cm	高さcm	厚さcm	調査・注	保存中・状況	備考
1	土師器	片	11.8	5.9	1	内外黄ロココナダ 裏面凹輪縁部	90	褐色
2	土師器	片	11.9	5.7	3.5	内外黄ロココナダ 裏面凹輪縁部	80	褐色・白色
3	土師器	片	11.6	5.2	4.3	内外黄ロココナダ 裏面へラケボリ 内面褐色地層	70	褐色・白色
4	土師器	片	11.8	5.1	5.1	内外黄ロココナダ 裏面凹輪縁部	70	褐色・黄褐色
5	土師器	片	11.7	5.4	4.1	内外黄ロココナダ 裏面凹輪縁部	50	褐色・白色
6	土師器	片	11.6	5.3	12.7	内外黄ロココナダ 裏面凹輪縁部 内面褐色地層	110	褐色・白色
7	土師器	片	11.8	5.6	11.6	内外黄ロココナダ 裏面凹輪縁部 裏面へラケボリ	110	褐色・白色
8	灰土器	片	14	—	—	内外黄ロココナダ	110	褐色
9	灰土器	片	—	116	—	内外黄ロココナダ 裏面へラケボリ	110	褐色・白色
10	灰土器	片	—	—	—	内外黄ロココナダ	110	褐色・白色
11	土師器	丸	11.8	11	6.2	断面による断面。ケラズ	断面	
12	土師器	丸	11.6	11.4	6.1	断面による断面あり	断面	

第52表 H6号住居址遺物観察表

H7号住居址

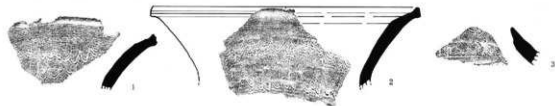
遺構は2ーあーHグリッドに位置し、H10に切られ、西側の一部は試掘トレンチに破壊されている。規模は東西2.5m、南北2.6m、床面までの深さは最大20cmを測る。平面形態は隅丸の方形である。覆土は炭化物を多く含む黒褐色土の単層である。壁際に周溝は認められず、床面は一部硬質だが軟質面が多い。床面上にピットは無く北東コーナー付近に楕円形の深さ10cm程の浅い土坑が存在する。カマドは南東コーナー付近に構築され、壁外への張り出しと、火床と思われる円形の焼土の堆積は認



1. 黒褐色土 (7.5YR3/1) 炭化物、少。
2. 黒褐色土 (7.5YR3/1) 炭化物、焼土少量。
3. 暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土、炭化物多い。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、黒褐色土。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量、上面硬質。

第88図 H7号住居址実測図

められた。火床と煙道の立ち上がり付近に扁平な石が据え置かれていた。用途は不明だが、支脚に関する可能性も考えられる。掘方は薄く暗褐色土が埋め込まれ、上面の一部に硬質部が認められた。遺物は土師器環、碗、甕、須恵器甕が出土した。図示したのは3点である。土師器については混入が多く、いずれも小破片で図示できなかった。1～3は須恵器甕で口縁縞描波状文、胴部叩き痕を残す。本住居址はカマドが南東に構築され、10世紀前半のH10に切られることから9世紀代の平安時代とした。



第89図 H7号住居址遺物実測図

番号	器種	器川	口径cm	底径cm	高さcm	形状・文様	材質・土質	備考
1	須恵器	環	-	-	-	内外面にテラコタ 縞波状文	破片	暗褐色
2	須恵器	甕	12.0	-	-	内外面にテラコタ 縞波状文	破片	暗褐色
3	須恵器	甕	-	-	-	内外面にテラコタ 縞波状文	破片	暗褐色

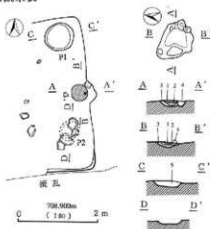
第53表 H7号住居址遺物観察表

### H8号住居址

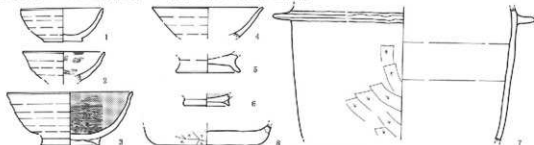
遺構は3-1-1グリッドに位置し、上層の大半は既に無く、床面の一部及びカマドと思われる火床、北東コーナーの土坑がかろうじて確認できたのみである。確認規模は東西1.4m、南北3.8mで、確実な平面形態は不明である。カマドと思われる位置には径40cmの焼土の堆積が認められた。

遺物はカマド周辺などから土師器の環、碗、鉢、羽釜、灰輪陶器が出土した。図示したのは8点である。1・2は小型の土師器環で本遺跡の平安時代に多く認められる形状である。3は深みのある碗で4は底部欠損の土師器環、又は碗である。5・6は碗で5は高台が開き足高気味、6は内面黒色処理を施す。7は羽釜で非轆轤成形、7は8と胎土が類似することから同一個体の可能性がある。

本住居址は口径10cm前後の小型土師器環、足高気味の土師器碗、深みのある土師器碗、やや粗雑な作りの羽釜、土師器



1. 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。(火床)
2. 黒褐色土 (5YR2/2) 焼土、炭化物少量。
3. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 焼土、炭化物少量。
4. 赤褐色土 (7.5YR2/2) 焼土、炭化物やや多い。
5. 褐灰色土 (7.5YR5/1) 粘土層。



第90図 H8号住居址・遺物実測図

环の中に小型のものが含まれることから10世紀後半～11世紀初頭、平安時代としたい。

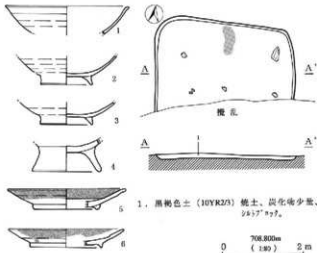
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・注	出土層・部位	備考
1	土師器	埴	20.7	4.4	4.1	内務省ロケット炉 調査跡奥角あり	90	黒・黄褐色
2	土師器	埴	18.1	—	—	内務省ロケット炉 調査跡奥角あり	90	黒・黄褐色
3	土師器	碗	18.6	1.2	6.7	内務省ロケット炉 内庭黄褐色焼 調査跡右より付け足す	90	黒・黄褐色
4	土師器	埴	13.8	—	—	内務省ロケット炉	90	黒・褐色 調査跡奥角あり
5	土師器	碗	—	6	—	調査跡右より付け足す	調査100	黒・褐色 平底方盤
6	土師器	碗	—	5.6	—	調査跡右より付け足す	調査100	黄褐色 平底方盤
7	土師器	埴	—	—	—	奥庭ヘラクセス 調査跡付 8と同 器体の可成りあり	調査100	黄褐色
8	土師器	埴	—	18.2	—	奥庭ヘラクセス 12 同一器体の可成りあり	調査100	黄褐色

第54表 H 8号住居址遺物観察表

### H 9号住居址

遺構は3-1-1グリッドに位置しH10を切り、南側は水路によって破壊されている。調査規模は東西3.4m、南北2.0m、床面までの深さは10cmと浅い。壁際に周溝はなく、床面上からピットは確認できなかった。床面はやや硬質である。北壁中央付近に焼土の堆積が認められ、この東側から遺物が出土した。位置的にカマド火床の可能性が考えられる。北東コーナー付近に円形に粘土の堆積が認められた。

遺物は土師器環?、碗、甕、灰軸陶器が出土した。図示したのは6点である。1は土師器環又は碗の口縁破片である。2～4は碗で高台ははっきりとし、4は足高である。5・6は灰軸陶器の皿である。高台はやや複雑な形状になる。丸石2号室式に類似する。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭灰等少量、 $2.5 \times 1.7 \times 0.7$ 。

第91図 H 9号住居址・遺物実測図

本住居址は、足高の碗が存在することから10世紀後半～11世紀初頭としたい。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・注	出土層・部位	備考
1	土師器	埴	24	—	—	内務省ロケット炉	白粉地	黄褐色
2	土師器	碗	—	6.3	—	内務省ロケット炉 奥の敷り付け	底径10	黄褐色
3	土師器	碗	—	6.4	—	内務省ロケット炉 奥の敷り付け	底径10	黄褐色
4	土師器	碗	—	6.5	—	内務省ロケット炉 奥の敷り付け	底径10	褐色
5	灰軸陶器	皿	18.4	1.6	1.1	内務省ロケット炉・竈跡 奥庭同層ヘラクセス裏敷り敷り付け	60	灰白色
6	灰軸陶器	皿	18.4	1.6	1.2	内務省ロケット炉・竈跡 奥庭同層ヘラクセス裏敷り敷り付け	70	灰白色 100%焼成土師土

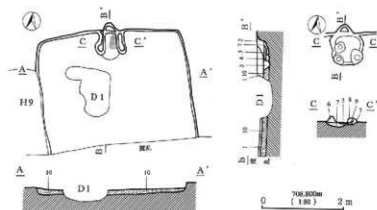
第55表 H 9号住居址遺物観察表

### H10号住居址

遺構は3-1-1グリッドに位置し、H7を切り、H8・9・D1に切られ、南側は水路によって破壊されている。調査規模は東西3.7m、南北2.8m、床面までの深さは最深で20cmを測る。覆土は強粘性の黒褐色土の単層である。壁際に周溝はなく、床面は硬さを持ち、ピットは認められない。カマドは北壁中央に位置し、大半は破壊されているが、粘土で構築された袖及び焼土の堆積した火床が残存していた。掘方は15cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環、甕、鉢、須恵器の環、敲石が出土し、環類は小破片である。図示したのは7点である。



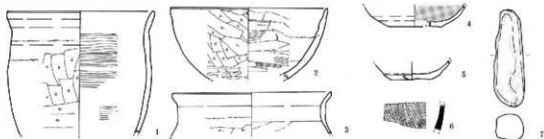


第92図 H10号住居址実測図

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、炭化物。
2. 暗褐色土 (10YR2/3) 砂多い、炭土、炭化物。
3. 暗褐色土 (5YR2/4) 粘土、炭化物多い。
4. 暗褐色土 (10YR3/4) 砂、暗褐色土。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土、炭化物やや多い。
6. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土、炭化物少量。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、暗褐色土。
8. 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼け込み。
9. 褐色土 (7.5YR4/4) 黒褐色土少量。
10. 暗褐色土 (10YR3/2) 粘土多い。

1は頭部緩やかな「く」字状の轆轤壁で外面は上部までヘラケズリを施し、内面上部はハケ状のナデを施す。2は鉢で形状は半球状を呈し、内外面ともに雑な調整を施す。3は口縁「コ」の字の武蔵壁である。4は土師器の環で内面黒色処理を施す。5は土師器の碗で高台を欠損した破片、6は須恵器の甕破片で外面に平行叩きを施す。7は敲石である。

本住居址は1の甕を伴うことから10世紀前半、平安時代とした。



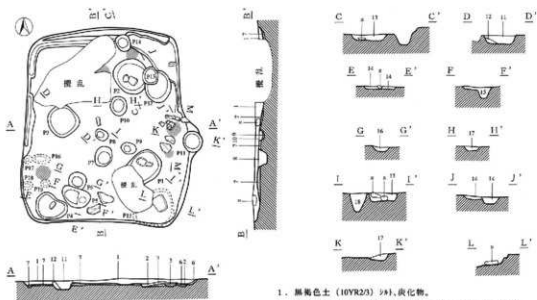
第93図 H10号住居址遺物実測図

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高径cm	説明・文様	発見層・部位	備考
1	土師器	轆轤甕	[10]	—	—	外側面ヘラケズリ 口縁部黒土の付着	口縁→甕底部	褐色
2	土師器	鉢	[18.2]	—	—	外側ヘラケズリ 内側ヘラケナゲ 全体に雑な調整	口縁→甕底部	黒い褐色
3	土師器	甕	[18.4]	—	—	口縁部「コ」の字状の武蔵壁	口縁破片	明赤褐色
4	土師器	環	[5.4]	—	—	内外面コバコバ 底面に黒土付 内面黒色処理 並列叩き	底面→体部破片	暗褐色
5	土師器	碗	[4.4]	—	—	内外面コバコバ 底面に黒土付	底面→体部破片	褐色
6	須恵器	甕	—	—	—	コバコバ 外側叩き	破片	褐色
7	敲石	178.8	31.9	3.9	3.2	卵形に磨み		褐色

第56表 H10号住居址遺物観察表

### H11号住居址

遺構は3-く-Hグリッドに位置し、H13号住居址を切り、多くのビットと切り合い関係にある。一部擾乱によって破壊されている。規模は東西4.1m、南北4.8m、床面までの深さは15cmを測る。平面形態は隅丸方形である。北壁、西壁から幅15cm内外、深さ5cm程度の周溝が認められた。床面は全体的に硬質面を持ち、ビットは大小14個確認できたが、今回の調査からは住居址に伴うかの判断はできなかった。カマドは東壁中



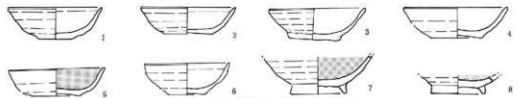
9. 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、灰、炭化物。
10. 黒褐色土 (10YR2/2) 熱を受け結質。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物。
12. 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土、炭化物少量。
13. 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土、炭化物、焼土。

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物、焼土多い、上部硬質。
3. 黄褐色土 (10YR5/6) 焼土層。(火床)
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物少量。
5. 鈍い黄褐色土 (2.5YR5/4) 焼土層。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物少量。
7. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物少量。
8. 黒褐色土 (10YR3/1) 焼土、炭化物。
14. 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土、炭化物、少量。
15. 黒褐色土 (10YR3/1) 炭化物、焼土。
16. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、焼土多い。
17. 黒褐色土 (10YR2/1) 焼土、炭化物。
18. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。

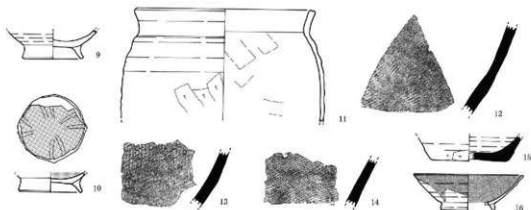
第94図 H11号住居址実測図

中央付近に構築されている。大半は破壊され、袖内部の補強として使用された石材及び火床のみ残存し、火床上部は熱によって硬化していた。また、住居址内の床面上には、焼土化した3箇所及び還元状態の硬質部が存在し、住居址内で火を使用した作業が行われていたと考えられ、本住居址東側からは羽口、鉄滓を含む遺構が確認されていることから、製鉄に関する作業場であった可能性が伺える。掘方は薄く硬化した暗褐色土が埋め込まれ、貼り床状である。

遺物は土師器の坏、碗、轆轤甕、須恵器の甕、灰軸陶器が出土した。図示したのは16点である。1～6は土師器坏で口径は10.4～12.7cmを測る。7～10は碗で足高気味の高台が含まれ、10は放射状の暗文を施す。11は焼成の良い轆轤甕である。12～14は須恵器甕の胴部破片で、外面に叩き痕を残す。15は須恵器甕の底



第95図 H11号住居址遺物実測図(1)



第96図 H11号住居址遺物実測図(2)

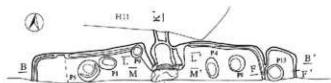
部破片である。16は灰軸陶器碗で内面の旋輪範囲が深い。本住居址は土師器環に、小型化の傾向があり、器高が低く丸みを持って立ち上がる土師器の形態、大原2号窯式と思われる灰軸陶器の存在から10世紀前半、平安時代としたい。

番号	器種	器口	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土場所	調査年・土層	備考
1	土師器	杯	11.9	6.4	3.8	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付	100	灰・褐色色
2	土師器	杯	11.6	5.9	3.3	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付	91	褐色・灰褐色
3	土師器	杯	11.8	6.2	3.8	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付	99	褐色
4	土師器	杯	[12.7]	6.4	3.8	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付	75	褐色
5	土師器	杯	[11.9]	6.2	3.2	内外面コトコナダ 内面紫色包帯 流紋陶製未焼付	66	褐色
6	土師器	杯	[10.4]	6.3	3.8	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付	59	灰・褐色
7	土師器	碗	—	6.1	—	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付 流紋陶製未焼付付、高さナシ 内面黒色包帯	60	灰・褐色
8	土師器	碗	—	6.1	—	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付 流紋陶製未焼付付、高さナシ 内面黒色包帯	流紋100	褐色
9	土師器	碗	—	2.4	—	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付 流紋陶製未焼付付、高さナシ	流紋100	褐色
10	土師器	碗	—	3.6	—	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付 流紋陶製未焼付付、高さナシ 内面黒色包帯 流紋陶製未焼付	流紋100	褐色
11	土師器	輪縁破片	[10]	—	—	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付付、高さナシ 内面コトコナダ	110-100 流紋100	褐色
12	灰軸器	破片	—	—	—	外周平打付	破片	褐色
13	灰軸器	破片	—	—	—	外周平打付	破片	褐色
14	灰軸器	破片	—	—	—	外周平打付	破片	褐色
15	灰軸器	破片	—	[5.8]	—	流紋陶製未焼付 流紋陶製未焼付付、高さナシ 内面コトコナダ	流紋破片	褐色
16	灰軸器	碗	[14.3]	[6.3]	[4.4]	内外面コトコナダ 流紋陶製未焼付 流紋陶製未焼付付、高さナシ	110-100 流紋100	褐色

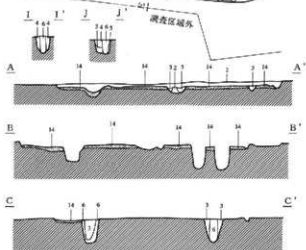
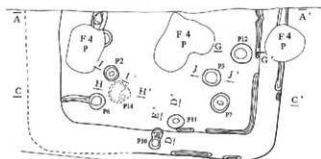
第57表 H11号住居址遺物観察表

### H12号住居址

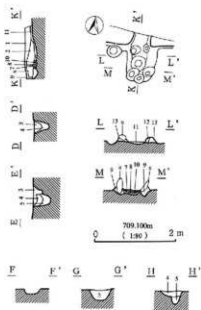
遺構は3-1-1グリッドに位置し、F4に切れられ、遺構内を東西方向に水路が横切り破壊している。本住居址は調査の結果、東西南3方向を拡張した痕跡が認められた。拡張前の規模は東西4.8m、南北5.4m、拡張後の規模は東西6.4m、南北6.0mを測り、床面までの深さは最大20cmである。平面形態は方形である。拡張前の壁面と思われる北、東及び南側の一部から幅15cm内外、深さ8cm程度の周溝が認められ、拡張後の東壁の一部からも周溝が確認できた。床面は堅く平坦で、ピットは13個確認できた。P1~4が旧住居址、P5~8が拡張後の主柱穴と考えられる。カマドは北壁中央に位置し、粘土で構築された両袖、火床、煙道の一部が残存していた。袖は主に強粘性の粘土を使用し、先端部に石材を埋め込み、この前部に焚口部の天井石と思われる石が横たわっていた。火床周辺は広範囲にわたって焼土化し、表面の一部は硬質化していた。掘方は5~8cm程度の厚みで暗褐色土が埋め込まれ硬質であった。



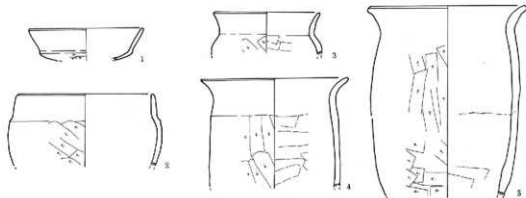
遺址



第97图 H12号住居址実測図

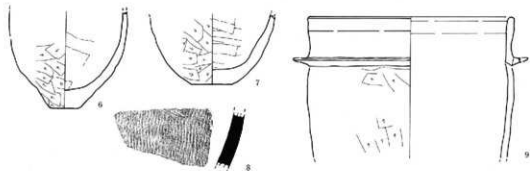


1. 黑褐色土 (10YR2/3) 粘土、炭化物少量。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土、炭化物多量。
3. 黑褐色土 (10YR2/3) 褐色土との混合。
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 褐色土少量。
5. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 褐色土、砂少量。
6. 黑褐色土 (10YR3/2) 炭化物、(往復)
7. 赤褐色土 (2.5YR5/8) 粘土層。
8. 赤褐色土 (2.5YR4/6) 粘土層、(摺り込み)
9. 黑褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。
10. 黑褐色土 (10YR2/3) 粘土、炭化物。
11. 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土、炭化物多い。
12. 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土、炭化物多い。
13. 暗褐色土 (10YR3/5) 黑褐色土少量。
14. 暗褐色土 (10YR3/5) 黒色土、上面硬質。



第98图 H12号住居址遺物実測図 (1)

遺物は土師器の坏、鉢、甕、羽釜（混入？）、須恵器甕が出土した。図示したのは9点である。1は丸底有稜の土師器坏で口縁は開き気味に立ち上がる。2は土師器鉢で口縁から胴部の破片である。3～7は土師器甕で3は小型、他は長胴甕である。8は外面平行叩きを施す須恵器甕である。9の羽釜は他の遺物との比較から時代差があり、本遺跡は遺構の密集地域であることから混入品と思われる。本住居址は有稜の丸底坏、甕の形状から、6世紀としたい。



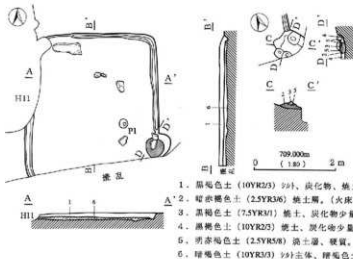
第99図 H12号住居址遺物実測図（2）

番号	器名	形状	口縁径	胴径	高さ	調査・分析	調査・分析	調査・分析	
1	土師器	坏	[34]	丸底	—	口縁破片	丸底平縁ハラス	口縁破片	暗褐色
2	土師器	鉢	[46.4]	—	—	口縁破片	丸底斜ハラス	口縁破片	暗褐色
3	土師器	小甕	[13]	—	—	口縁破片	丸底ハラス	口縁破片	暗褐色
4	土師器	甕	[18]	—	—	口縁破片	丸底ハラス	口縁破片	暗褐色
5	土師器	甕	[16.4]	—	—	口縁破片	丸底ハラス	口縁破片	暗褐色
6	土師器	甕	—	2.7	—	外底	丸底ハラス	外底	暗褐色
7	土師器	甕	—	3	—	外底	丸底ハラス	外底	暗褐色
8	須恵器	甕	—	—	—	外底	丸底ハラス	外底	暗褐色
9	土師器	甕	[25.4]	—	—	口縁破片	丸底ハラス	口縁破片	暗褐色

第58表 H12号住居址遺物観察表

### H13号住居址

遺構は3-4-Hグリッドに位置し、H11号住居址に切れ、南側は水路に破壊されている。調査規模は東西3.2m、南北3.3m床面までの深さは12cm内外と浅い。覆土は強粘性の黒褐色土で単層である。壁際に幅12cm、深さ8cm程度の周溝が巡り、床面は平坦で硬質である。ピットは1個確認できた。カマドは南東コーナーに位置する。大半が破壊され構築に使用した石材の一部と火床に堆積した焼土が確認できたのみである。掘方は10cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれ

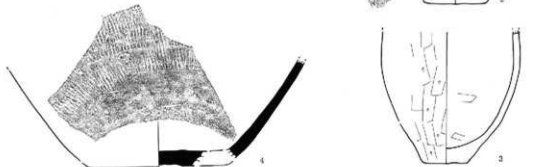


1. 暗褐色土 (10YR2/3) 砂、炭化物、焼土。
2. 暗褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。(火床)
3. 黒褐色土 (7.5YR3/1) 焼土、炭化物少量。
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物少量。
5. 明赤褐色土 (2.5YR5/8) 焼土層、硬質。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂主体、暗褐色土。

第100図 H13号住居址実測図

上面硬質であった。

遺物は土師器の坏、碗、甕、須恵器の甕が出土し、図示した以外は小破片のため掲載しなかった。図示したのは4点である。1～3は土師器甕で、床面よりやや浮いた覆土内から出土した。1は口縁から胴部にかけての破片である。2は頸部から底部にかけての破損品で1と接合点は認められないが、同一個体と考えられる。3は胴部下半から底部にかけての破損品である。4は須恵器の甕底部から胴部にかけての破損品で表面に叩き痕を残し、内面はやや赤みを帯び焼成不良である。西壁際、床直上から出土した。図示した土師器甕については厚く、口縁「く」の字、胴部の最大径が頸部に近いことから7世紀と考えられるが、図示しなかった小破片には、9世紀以降である平安時代の様相を示す土師器坏、床直上出土の内面黒色の碗等が多数出土し、カマドも東南に位置することから、図示した土師器は混入の可能性もある。よって本住居址の年代も9世紀以降に下ると思われる。



第101図 H13号住居址遺物実測図

遺物	図 解	図 号	口縁径	底径	高さ	産 地・文 相	出土層・状況	備 考
1	土師器	甕	[25.4]	—	—	石橋橋ナダ 外周ハナダニヨラニヨラナダ 内周ハナダ 2と4ハナ	3層→4層破片	褐色色
2	土師器	甕	—	[6]	—	外周ハナダナダ 内周ハナダ 2と4ハナ	3層破片	褐色色
3	土師器	甕	—	5.4	—	外周ハナダナダ 内周ハナダ	3層破片	褐色色
4	須恵器	甕	—	[12.7]	—	外周ハナダ 内周ハナダ	3層破片	褐色色

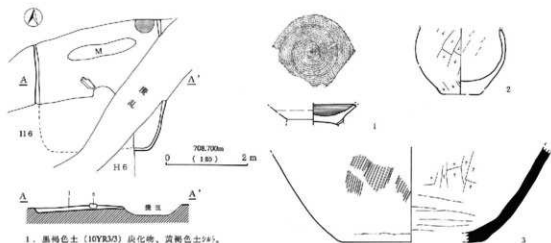
第59表 H13号住居址遺物観察表

#### H14号住居址

遺構は2-1-1-Hグリッドに位置し、H6に切れ、一部攪乱に破壊されている。北側に低地帯が存在するが新旧関係は確認できなかった。調査規模は東西3.1m、南北3.2m、床面までの深さは10cm以内と浅い。壁際の周溝はなく、ピットも確認できなかった。床面は堅さを持つ程度である。北東コーナー付近に円形の焼上の堆積が認められ、遺物が出土することからカマドである可能性が伺える。

遺物は土師器の坏、碗、小型甕、須恵器甕が出土した。1は碗で内面にカキ目を持つ。2は小型の土師器甕、3は須恵器の底部付近の破片である。

本住居址は図示できなかった破片の多くが古墳時代の特徴を示す厚手の甕、丸底の有縁坏であり、2の小型甕の表面に赤色塗彩の痕跡が認められることから古墳時代後期としたい。1の内面螺旋状のカキ目を持つ碗は平安時代以降であり、時期差が認められることから、本住居址内に混入したものと考えられる。



1. 黒褐色土 (10YR3/5) 炭化物、黄褐色土9%。

第102図 H14号住居址・遺物実測図

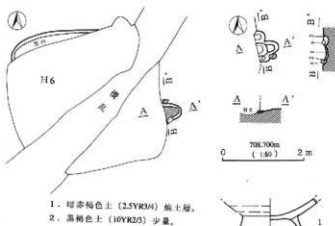
番号	名称	形状	口径cm	底径cm	高さcm	遺物・文様	保存部・部位	備考
1	土師器	碗	-	-	-	内面PEのヨキヨキ・シクナツテ	法政館片	褐色 赤か灰濁
2	土師器	碗	-	-	-	外面、底部ヘラケボリ 内面ナツテ	中	褐色 赤褐色
3	土師器	碗	-	[30]	-	外面、底部ヘラケボリ 内面ヘラケボリ	蔵前・法政館片	灰白色

第60表 H14号住居址遺物観察表

#### H15号住居址

遺構は2-1-1グリッドに位置し、遺構の大半はH6に破壊される。確認できたのは北壁の一部と南東コーナーに構築されていたと考えられるカマド部の張り出しである。規模は不明である。カマド部はH6に西側の大半を破壊され、火床から煙道部に至る立ち上がりと袖の補強に使用された石材、火床の一部が僅かに残存していた。

遺物はカマド付近から僅かに土師器碗が出土した。図示したのは1点で、土師器の碗である。本住居址は10世紀前半のH6に切れ、南東カマドであること。遺物の特徴から9世紀から10世紀前半、平安時代の住居址としたい。



1. 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 粘土層。  
2. 黒褐色土 (10YR2/5) 少量。

第103図 H15号住居址・遺物実測図

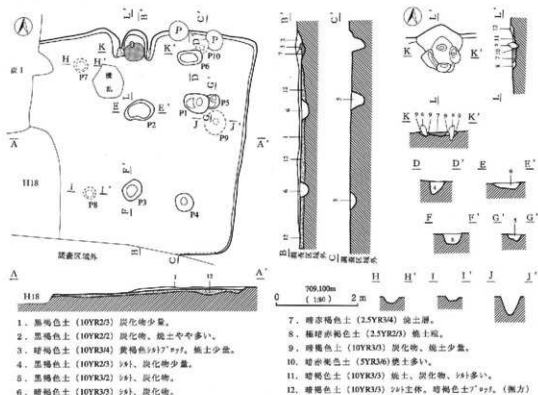
番号	名称	形状	口径cm	底径cm	高さcm	遺物・文様	保存部・部位	備考
1	土師器	碗	-	7.5	-	内面黒シクナツテ 高麗黒白磁リ付ナツテ	蔵前	内赤褐色 表面黒焼

第61表 H15号住居址遺物観察表

#### H16号住居址

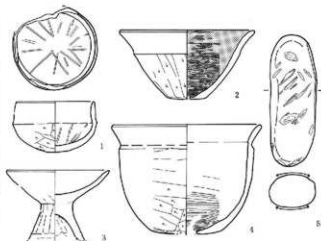
遺構は3-0-a-Gグリッドに位置し、C1に切れ、H18を切る。南側は一部水路に破壊されている。H18との新旧は不明である。調査規模は東西5.4m、南北5.4m、床面までの深さは最深で10cmと浅い。平面形態は方形と考えられる。覆土は強粘性の黒褐色土で単層である。床面は堅く壁際に周溝は認められない。

ピットは床面上で6個、掘方で4個確認できたが、いずれも浅く支柱穴かの断定はできない。カマドは北壁中央に構築され、両袖の一部及び火床が残存していた。袖は周辺に存在する強粘性の地山を利用し、先端部に石材を埋め込んでいた。火床には焼土が8cmの厚さで堆積していた。掘方は4~12cmの厚さで暗褐色土が埋め込まれ、全体に硬質である。



遺物は土師器の坏、高坏、鉢、甕、すり石が出土した、図示したのは5点である。1は深みがあることから鉢とした。底部は手持ちヘラケズリされた丸底で、体部途中に明瞭な稜を持ち、ほぼ直上し口縁部に至る。内面に放射状の細い暗文を施す。2は鉢で底部から開き気味に立ち上がり、口辺付近で段を持ち、口縁に至る。内面黒色処理を施す。3は高坏で坏部は浅く体部に2本の稜を持つ。4は鉢で上部横ナデ下部はヘラケズリを施す。

本住居址は破片であるが甕の胴部の立ち上がりが直線的であること、高坏坏部が直線的に口縁部に立ち上がる形状から7世紀、古墳時代後期とした。



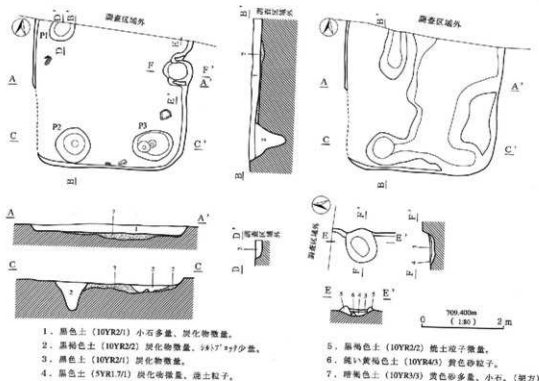
第104図 H16号住居址・遺物実測図



番号	区域	面積	形状	高さ	用途	調査・文書	調査・文書	備考
1	上野原	約	28.6	高低	4.0	調査中埋もれた土器	白線埋め	調査中埋もれた土器
2	上野原	約	18.0	高低	3.5	西面壁ヘラケズリ	白線埋め	調査中埋もれた土器
3	上野原	約	12.0	高低	3.0	西面壁ヘラケズリ	白線埋め	調査中埋もれた土器
4	上野原	約	18.0	高低	3.5	西面壁ヘラケズリ	白線埋め	調査中埋もれた土器
5	上野原	約	18.0	高低	3.5	西面壁ヘラケズリ	白線埋め	調査中埋もれた土器
6	上野原	約	18.0	高低	3.5	西面壁ヘラケズリ	白線埋め	調査中埋もれた土器

第62表 H16号住居址遺物観察表

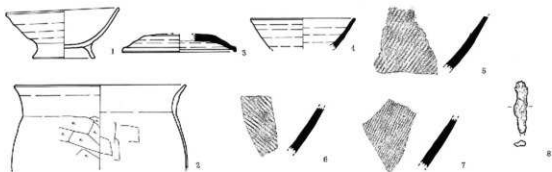
H17号住居址



第105図 H17号住居址実測図

遺構は4-きーGグリッドに位置しH38と切り合い関係にあり、北側は調査区域外となる。調査規模は東西3.8m、南北3.4m、床面までの深さは20cmを測る。平面形態は隅丸方形と考えられる。覆土は強粘性で小石を多く含む黒褐色土の単層である。床面はざらつき感があるが、覆土に比べ硬質である。床面上でやや径の大きいビット3個が確認できた。カマドは東壁に構築され、両袖及び火床と思われる窪みが確認できた。袖は強粘性の地山を使用し、両袖に挟まれた窪みの下層から僅かな焼土が認められた。掘方は砂粒を多量に含む暗褐色土が埋め込まれ、全体に硬質である。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、蓋、甕、鉄製品が出土した。図示したのは8点である。1は土師器碗で足高気味で開く。2は土師器甕で口縁「コ」の字状の武蔵甕である。3は須恵器蓋で天井部に回転ヘラケズリを施す。4は須恵器坏の口縁破片で、5-7は外面敲き痕を施す須恵器甕の胴部破片である。8は鉄製品で刀子の一部と思われるが、錆の付着が多く断定できない。本住居址は天井部明瞭なヘラケズリを施す須恵器蓋、口縁「コ」の字状の武蔵甕が含まれるが、土師器碗の存在から9世紀後半としたい。



第106図 H17号住居址遺物実測図

番号	器種	素材	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 献	保存中・所在	備 考
1	土師器	黒	15.8	7.6	5.9	内外面コテコテ 縦溝美(影り)付け 内外面磨光	MP	粉赤
2	土師器	黒	[15.1]	—	—	西壁ヘラケタテ 内輪ヘラケテ 口縁輪シブ	—	内側黒
3	須恵器	黒	[15.8]	—	—	内外面コテコテ 又は鉄刷毛ヘラケタテ	—	灰赤
4	須恵器	黒	[15.8]	—	—	内外面コテコテ	—	黒褐色
5	須恵器	黒	—	—	—	西壁平行筋	—	内側黒
6	須恵器	黒	—	—	—	西壁平行筋	—	内側黒
7	須恵器	黒	—	—	—	西壁平行筋	—	灰白色
8	瓦 椀	瓦葺	口径cm	底径cm	高さcm	—	—	—
9	土師器	黒	6.3	6.38	1.96	—	—	—

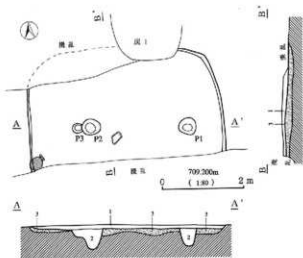
第63表 H17号住居址遺物観察表

### H18号住居址

遺構は3-カー-Hグリッドに位置し、北東コーナーをC1に切れ、東側のH16を切り、H44と切り合い関係にあるが新旧は不明である。北壁の大半は試掘トレンチに破壊されている。床面は土間状で全体的に堅く、壁際の周溝は認められない。ピットは床面上で径25cm、深さ40cmのものが2個確認でき、位置的に支柱穴と考えられる。カマドは確認できなかったが、性格不明の焼土が径20cm、厚さ3cmの範囲で西壁の調査区境に存在した。掘方は粒子の細かい強粘性の黒褐色土が埋め込まれ、底面は蹠屑となり凹凸感がある。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の甕が出土した。図示したのは4点である。土師器はいずれも小破片で図示できるものは認められなかった。1～4は須恵器甕の破片である。

本住居址は小破片である土師器甕が薄手で頸部「く」の字の武蔵甕と思われることから8世紀代、奈良時代としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂、炭化物。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石、砂多く、炭化物。粒子粗い。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物。粒子細かい。

第107図 H18号住居址実測図

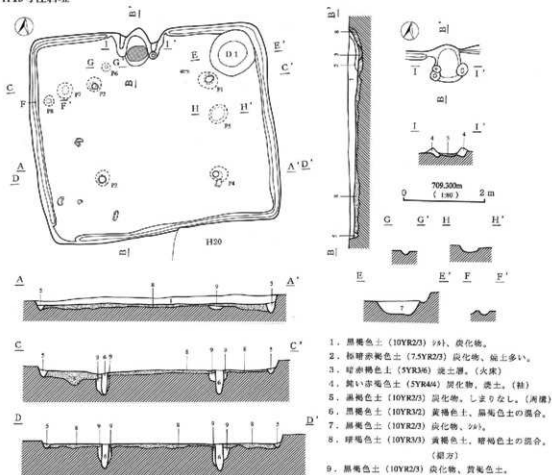


第108図 H18号住居址遺物実測図

番号	図種	番号	白粉cm	黒粉cm	黒灰cm	遺物・文様	検出部・位置	備考
1	遺物図	壁	120	—	—	内面図のフチ部分	白粉壁	焼土・成層不詳 焼白色
2	遺物図	壁	—	—	—	外面部分 内面側で黒灰	焼土	灰色
3	遺物図	壁	—	—	—	外面部分 内面側で黒灰	焼土	灰色
4	遺物図	壁	—	—	—	外面部分	焼土	灰色

第64表 H18号住居址遺物観察表

H19号住居址



第109図 H19号住居址実測図

遺構は3-うーGグリッドに位置し、H49、71、72を切り、H20に切られる。規模は東西5.9m、南北5.6m、床面までの深さは25cmを測る。平面形態は方形である。床面は平坦で堅く、壁際には南西コーナーを除き周溝が巡る。床面上からは主柱穴と思われる4個のピット及び北東コーナーから径1.1m、深さ35cmの土



第110図 H19号住居址遺物実測図

坑が確認できた。カマドは北壁中央に構築され両袖の一部及び火床が残存していた。袖は周辺に存在する強粘性の地山土

で構築され、火床には厚さ5cmの焼土が堆積していた。掘方は黄褐色土と暗褐色土の混合土が埋め込まれ、全体に硬質である。掘方掘り下げ後、新たに4個の小ピットが認められた。遺物は土師器の坏、鉢、甕、すり・敲石が出土した。図示したのは8点である。1・2は体部途中に明瞭な稜を有する底部手持ちヘラケズリされた坏で、口縁部は外傾気味に立ち上がる。2の内面に放射状と思われる暗文が施される。3は鉢で体部はヘラケズリを施し、口縁は横ナデされ外反する。4は甕の口縁から胴部にかけての破片で、頸部が厚く内外面ハケ目痕が残り、口縁内面は横方向のミガキが施される。5～8はすり・敲石である。本住居址は、緩やかな段を伴う坏の存在及び形状から7世紀後半、古墳時代後期としたい。

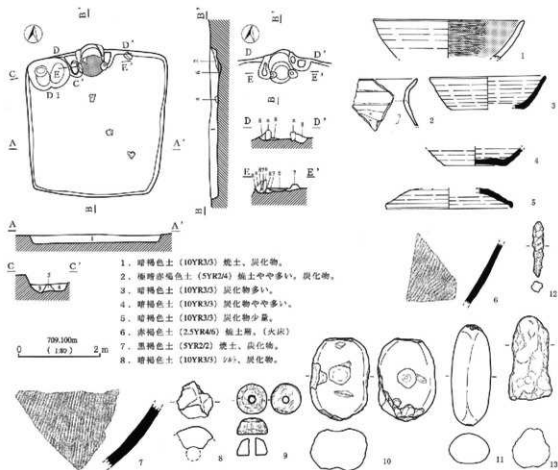
番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土地	保存・所在地	備考
1	土師器	坏	[18.6]	9.6	[4.8]	竈内ヘラケズリ 口縁横ナデ	石	焼物
2	土師器	坏	[18.6]	9.6	—	口縁ヘラケズリ 口縁外傾横ナデ 内面口縁横ミガキ 内面放射状暗文	石	焼物
3	土師器	鉢	[11.2]	—	—	外傾横ヘラケズリ 口縁横ナデ 内面ヘラケズリ	石	放射状暗文
4	土師器	甕	[18.6]	—	—	口縁部破片 口縁部平底ミガキ 内面口縁横ミガキ 内面放射状暗文	石	口縁一傾横ナデ
5	すり石	重石	径3.0cm	幅0.8cm	厚0.3cm	—	—	—
6	すり石	重石	径3.0cm	幅0.8cm	厚0.3cm	—	—	—
7	敲石	重石	径3.0cm	幅0.8cm	厚0.3cm	—	—	—
8	敲石	重石	径3.0cm	幅0.8cm	厚0.3cm	—	—	—

第65表 H19号住居址遺物観察表

## H20号住居址

遺構は3-うーHグリッドに位置し、H19・42・49を切る。規模は東西3.4m、南北3.6m、床面までの深さ20cmを測る。平面形態は方形である。覆土は炭化物、焼土を含む暗褐色土の単層である。床面は平坦で堅く、壁際の周溝及びピットは認められないが、北西コーナーに土坑が存在する。カマドは北壁中央に構築され、両袖及び火床が残存していた。袖は強粘性の地山土を利用し、内壁面に石材を埋め込んでいた。火床には8cmの厚さで焼土の堆積が認められた。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、石製紡錘車、羽口、窪石、敲石、鉄製品が出土した。図示したのは13点である。1は土師器の坏又は碗で、口縁から体部の破片である。2は甕の破片で、口縁「コ」の字の武蔵甕である。3・4は須恵器の坏で底部糸切り後無調整である。5は須恵器蓋、6・7は須恵器甕の破片で外面縄目平行叩きを施す。8は羽口破片、9は石製の紡錘車である。10は窪石、11は敲石で12・13は鉄製品で12は釘、13は斧と考えられる。本住居址は、口縁「コ」の字状の土

篩器甕（武蔵甕）、須恵器平底部糸切り後無調整の存在から9世紀前半、平安時代とした。



第111図 H20号住居址・遺物実測図

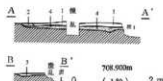
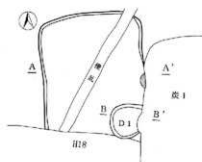
遺号	説明	面割	1/100m	遺物	採取地	調査・立場	検出層・部位	備考
1	土層面	面	[18.4]	—	—	ワタノ塚ナダ 西面築地跡	40	灰い赤褐色
2	土層面	面	—	—	—	口鉢ナダ 西面ヘラクス 内面ヘラナダ	30	灰い赤褐色
3	築地跡	面	[14.5]	[18.4]	[8.9]	内面口鉢ナダ 西面築地跡	口鉢ヘラ面部分	灰色 火成土
4	築地跡	面	—	[14.4]	—	内面口鉢ナダ 北西面築地跡	口鉢ヘラ面部分	灰色 火成土
5	築地跡	面	[14.4]	—	—	内面口鉢ナダ 北西面築地ヘラナダ	口鉢ヘラ面部分	灰色 火成土
6	築地跡	面	—	—	—	西面築地	口鉢ヘラ面部分	黒い赤褐色
7	築地跡	面	—	—	—	西面築地	口鉢ヘラ面部分	黒い赤褐色
番号	説明	面割	長さcm	幅cm	厚さcm	調査	層	備考
8	刷	[1.2]	—	—	—	内面ヘラナダ	褐色 一筆刷	
番号	説明	面割	長さcm	幅cm	厚さcm	調査	層	備考
9	刷	40.7	2.05-2.7	8.8-10.9	2	西面ナダ	刷	刷目
番号	説明	面割	長さcm	幅cm	厚さcm	調査	層	備考
10	刷	148.29	10.1	5.1	0.5	—	—	—
11	刷	100	12.5	4.8	3.6	—	—	上下、端部は削り
12	刷	31.07	8.71	4.07	1.21	—	—	表面、高麗瓦
13	刷	100	12.5	4.8	3.6	—	—	端部は削り

第66表 H20号住居址遺物観察表

## H21号住居址

遺構は3-カーGグリッドに位置し、東側をC1に切れられ、南側をトレンチ・H18に、住居内を一部攪乱に破壊されている。調査規模は東西2.5m、南北2.8m、床面までの深さ10cmを測る。覆土は炭化物を含む黒褐色土の平層である。床面は平坦で強く、壁際に周溝は認められない。南東コーナーと思われる位置に径80cm、深さ10cmと浅い窪み状の土坑が存在する。ピットは認められなかった。カマドは焼土の堆積が認められることから東壁に構築されていたと考えられるが、完全に破壊されている。掘方はシルトを含む暗褐色土が埋め込まれ上部硬質である。

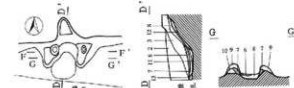
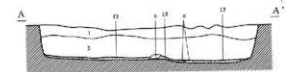
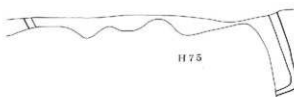
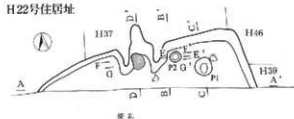
遺物は土師器の坏、甕、灰釉陶器が出土したがいずれも小破片で図示はしなかった。土師器坏の一部は内面黒色処理を施す。口縁の形状は開きながら直線的に口縁部に至るものと口縁端部で反り気味のものがあるが、完全に破壊されている。甕は薄く形状は不明である。灰釉陶器は皿又は碗の口縁破片である。本住居址は坏の形状、灰釉陶器が含まれることから9世紀以降、平安時代の住居址としたい。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、少。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、少。焼土。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量、少。
4. 暗褐色土 (10YR3/4) 少。少。炭化物。

第112図 H21号住居址実測図

## H22号住居址



1. 黒褐色土 (10YR2/2) 小石、黄褐色砂子少量。
2. 黒色土 (10YR2/1) 小石、炭化物少量。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物少量、焼土粒子多量。
4. 黒色土 (10YR2/1) 焼土、炭化物多量。
5. 黒色土 (10YR2/1) 炭化物少量。
6. 赤褐色 (5YR4/6) 硬質(床面)
7. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土層。
8. 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 蒸による粘け込み、炭化物、灰少量。
9. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土質少。多量。炭化物。
10. 暗褐色土 (10YR2/3) 粘土粒子、炭化物少量。
11. 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土粒子、炭化物少量、黄砂少量。
12. 極暗赤褐色土 (5YR2/5) 焼土粒子少量。
13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 少。少。少。多量。

第113図 H22号住居址実測図

遺構は4ーけーHグリッドに位置し、H37・39・46・75に切られ、西流する水路に破壊されている。調査規模は6.0m、南北5.6m、床面までの深さは80cmと深い。平面形態は残存状態から方形と考えられる。覆土は黒褐色土と黒色土の2層で平行堆積している。土質の性格上、自然か人為埋土かの判断はつかない。床面はシルト質で、薄く硬質な貼り床と思われる層が存在する。壁際に周溝は認められない。ピットは北東コーナー付近から2個確認できた。性格は不明である。カマドは北壁中央に構築され、粘土を多量に使用した両袖の一部及び、火床が残存していた。袖長は北壁から60cmを測り、火床部には広範囲に渡り6cm内外の厚さの焼土が堆積していた。東袖脇には底部欠損の土師器甕が据え置かれていた。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、鉄製品が出土した。図示したのは6点である。1・2は土師器の坏で底部手持ちヘラケズリされた底部から彎曲気味に口縁に至り、器高が低い。2の内面は黒色処理を施す。3・4は須恵器坏の底部破片で、雑なヘラケズリを施す。5は口縁「く」の字で薄手の長胴甕である。6は鉄製品で錆により断定できないが小型の鎌である可能性が考えられる。本住居址はヘラケズリの須恵器坏、土師器坏、薄手の甕から8世紀第1四半期、奈良時代としたい。

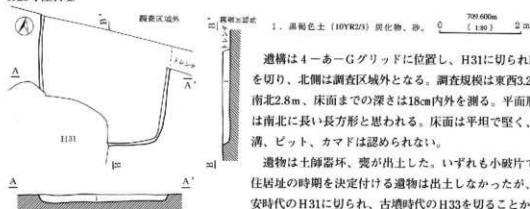


第114図 H22号住居址遺物実測図

番号	名称	形状	口径cm	底径cm	高さcm	位置・文様	出土状況	備考
1	土師器	坏	11.3	6.8	3.2	内面手持ちヘラケズリ 口縁破片が 内面ナシ	30	棕色
2	土師器	坏	14.4	-	-	外面手持ちヘラケズリ 口縁破片が 底面破片	11層-10層間	向東側
3	須恵器	坏	-	[7.4]	-	内内面コナ破片が 底面ヘラケズリ	13層破片	灰褐色
4	須恵器	坏	-	[6.4]	-	内内面コナ破片が 底面ヘラケズリ	13層破片	灰褐色
5	土師器	甕	[21.5]	-	-	外面ヘラケズリ 口縁破片が 内面ヘラケズリ	30	灰褐色
番号	長さ	重量g	厚さcm	幅cm	高さcm	位置・文様		備考
6	鉄鎌	35.4	9.88	2.44	4.13	-		赤石土層

第67表 H22号住居址遺物観察表

### H23号住居址

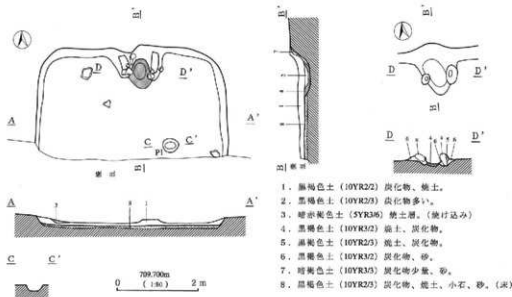


第115図 H23号住居址実測図

### H24号住居址

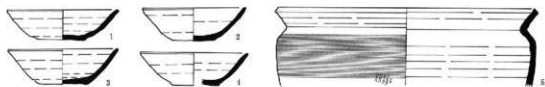
遺構は5ーくーIグリッドに位置し、H35を切り、H34に切られる。南側は調査区域外となる。調査規模

は東西4.6m、南北2.8m、床面までの深さは20cmを測る。平面形態は残存状況から隅丸方形と思われる。床面は凹凸感があり堅い。床面上で周溝は認められない。ピットは1個確認できたが性格は不明である。カマドは北壁中央に構築され、両袖の一部及び火床が残存していた。両袖は周囲に存在する強粘性の地山を利用し、内壁寄りの位置に補強の石材を埋め込んでいた。火床部から焼土層は認められず、炭化物、焼土を含む黒褐色土が堆積していた。掘方は粒の細かい黒褐色土の砂礫層が4cm内外の厚さで埋め込まれ、硬質である。

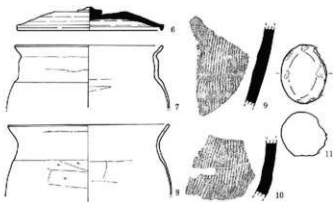


1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、焼土。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多い。
3. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土層。(抜け込み)
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土、炭化物。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、砂。
7. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物少量、砂。
8. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土、小石、砂。(灰)

第116図 H24号住居址実測図



遺物は土師器の坏片、甕、須恵器の坏、甕、球状の敲、すり石が出土した。図示したのは11点である。1-4は須恵器の坏で小型の底部から開き、直線的に口縁部に至る。5は須恵器甕の口縁付近の破片、肩部の下部から口縁にかけては横ナデ、下部は叩きを残す。6は須恵器の蓋で天井部は明瞭なヘラケズリを施す。7・8は口縁「コ」の字状の武蔵甕である。9・10は橙色で外面叩きを施し土師器に比して硬質であるため、須恵器甕とした。11はすり面と敲



第117図 H24号住居址遺物実測図



きによる窪みを持つ球状の敲・すり石である。

本住居址は、土師器甕口縁の形状が「コ」の字になりかけと「コ」の字状が混在すること、底径が小さく、直線的に口縁に立ち上がり、回転系切り後無調整の須恵器甕が多数出土していることから9世紀前半とした。当初、本住居址がH34を切ると思われたが、遺物から新旧関係を考察した結果、本住居址が9世紀前半、H34が10世紀前半であったと思われる。

番号	跡名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文献	保存状況	備考
1	須恵器	甕	13.6	5.8	3.7	内外面コノケナガ 底面凹輪縁あり	36	黒褐色
2	須恵器	鉢	15.7	6.1	4	内外面コノケナガ 底面凹輪縁あり	30	褐色
3	須恵器	鉢	13.8	6.7	4.3	内外面コノケナガ 底面凹輪縁あり	33	褐色
4	須恵器	鉢	16.1	7.3	4	内外面コノケナガ 底面凹輪縁あり	32	褐色・黄褐色
5	須恵器	甕	[30]	—	—	内外面コノケナガ 底面凹輪縁あり	32	褐色
6	瓦器類	甕	[11.4]	—	—	内外面コノケナガ 底面凹輪縁あり つまみ込み付け	33	黒い小破片
7	土師器	甕	[30]	—	—	口縁破片	32	褐色
8	土師器	甕	[10.6]	—	—	口縁破片 外面へフケズリ 内面へツナガ	32	褐色
9	須恵器	甕	—	—	—	底面凹輪縁	33	褐色
10	須恵器	甕	—	—	—	底面凹輪縁	33	褐色
11	敲・すり石	球状	5.2	5.3	5.3	一箇平底なし裏面 裏面に輪打とと思われる痕跡 一面欠損	32	褐色

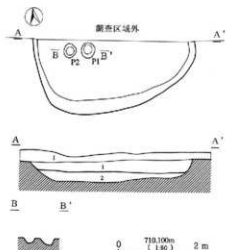
第68表 H24号住居址遺物観察表

### H25号住居址

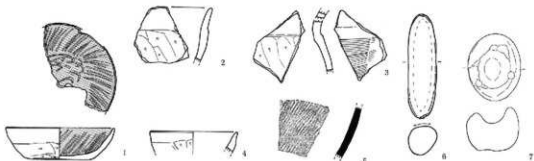
遺構は5ーおーGグリッドに位置し、北側半分は調査区域外となる。調査規模は東西3.9m、南北1.8m、床面までの深さは36cmを測る。床面は硬質だがやや凹凸感がある。壁際に周溝は認められない。ピットは2個確認できたが主柱穴かの判断はできなかった。カマドも認められなかった。

遺物は土師器の坏、鉢、須恵器の甕、すり・敲石、搗臼が出土した。図示したのは7点である。1は底部平底で内面畿内系暗文を施す。2は鉢の口縁と思われる。3は甕の頸部である。4は坏又は碗の口縁、5は須恵器甕の胴部破片で外面に縄叩きを施す。6は敲・すり石に使用され端部に敲打痕が残る。7は搗臼で、深さ4cmの窪みを持つ。

本住居址は畿内系暗文を施す坏の存在から8世紀前半、奈良時代とした。



1. 黒褐色土(10YR2/3)炭化物、小石、礫(5cm大)。
2. 黒褐色土(10YR2/3)炭化物、小石、礫(5cm大)、砂。



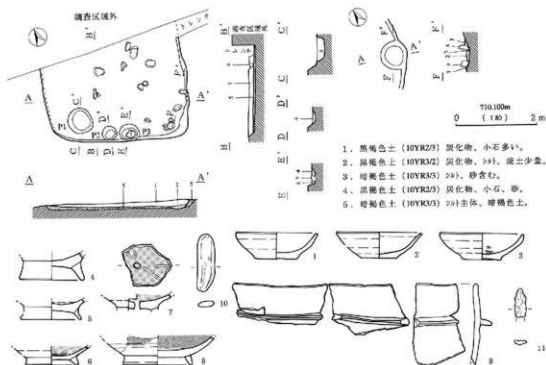
第118図 H25号住居址・遺物実測図 (No.7は1/8)

番付	品種	図号	口径cm	底径cm	高さcm	調査・元 産	保存・所在地	備 考
1	土師器	甲	〔15.2〕	〔8.4〕	3.9	笠原、外庭ヘラズミ、口部破片、内面黒色炭化土を塗った土師器	40	褐色
2	土師器	乙	—	—	—	内庭ヘラズミ、口部破片、内庭ヘラズミ	口部一割破片	内黒褐色
3	土師器	葉	—	—	—	外庭ヘラズミ、口部破片、内庭黒いフに塗るナブ	口部一割破片	内黒褐色
4	土師器	甲	〔10.1〕	—	—	外庭ヘラズミ、口部破片	口部破片	内黒褐色
5	土師器	葉	—	—	—	外庭ヘラズミ	破片	褐色
番号	品 種	品 名	口径cm	底径cm	高さcm	調査 元 産	保存 所	備 考
6	土師器	200.1	12.9	3.3	3.3	本居ナブ、破片による僅小ナブ		
7	陶片	140	16.4	12.9	16.2	笠原に属する土師器、口部破片、口部1/3の破片あり		

第69表 H25号住居址遺物観察表

### H26号住居址

遺構は5ーきーGグリッドに位置し、H32を切り、北側は調査区域外となる。調査規模は東西3.6m、南北2.6m、床面までの深さは最深20cmを測る。平面形態は残存状況から方形と考えられる。床面は凹凸感はあるが、平坦で硬質である。壁際に周溝は認められない。ピットは南壁際に3個確認できたが主柱穴かは不明である。カマドは南東コーナーからやや北の位置に構築されているが、袖に利用された一部の石材及び火床が確認されたのみである。掘方は薄く暗褐色土が埋め込まれ硬質である。遺物は土師器の坏、碗、灰軸陶器、ミガキ石、鉄鎌が出土した。図示したのは11点である。1～3は小型化した土師器坏で底部から高台状に立ち上がり、内野気味である。4～6は碗で、4は足高、5は足高気味、6は内面黒色である。7の形状は内面黒色処理され、暗文を施す碗の底部破片で高台欠損品と見られるが、中央部に径5mmの穴が貫通している。8は灰軸陶器の碗で、坏部の多くを欠損している。高台形状から虎渓山1号窯式と思われる。9は罍の張り出しの少ない土師器の羽釜、10はミガキ石で表面滑らかである。本住居址は小型化した土師器坏、足高の土師器碗の存在から10世紀後半～11世紀初頭としたい。



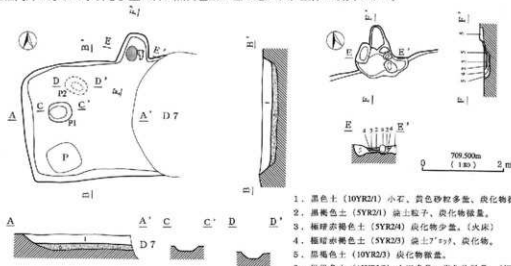
第119図 H26号住居址・遺物実測図

番号	器名	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調査・文書	検出層・位置	備考
1	土師器	鉢	8.9	3.2	3.2	内外面のタコラゲ 底面回転ヘラケズリ 灰胎製	47	陶い・黄褐色
2	土師器	鉢	10.2	3.4	3.1	内外面のタコラゲ 底面回転ヘラケズリ	47	陶い・黄褐色
7	土師器	鉢	20.2	7.0	3.2	内外面のタコラゲ 底面回転ヘラケズリ	21	陶い・黄褐色
4	土師器	碗	—	7.4	—	底面回転ヘラケズリ	高台へ直接貼り付け	陶い・黄褐色
5	土師器	碗	—	7.5	—	底面回転ヘラケズリ	高台へ直接貼り付け	陶い・黄褐色
8	土師器	碗	—	6.2	—	底面回転ヘラケズリ 内面赤色染付 掬子台付支脚	高台へ直接貼り付け	陶褐色
7	土師器	碗	—	—	—	底面回転ヘラケズリ 内面赤色染付 掬子台付支脚	高台へ直接貼り付け	陶い・黄褐色
8	灰胎陶器	鉢	—	3.5	—	底面回転ヘラケズリ 高台付	高台へ直接貼り付け	灰胎
9	土師器	片蓋	—	—	—	底面回転ヘラケズリ	高台へ直接貼り付け	陶褐色・緑褐色
番号	器名	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調査・文書	検出層・位置	備考
10	土師器	鉢	10	3.2	3.2	底面回転ヘラケズリ 高台付	高台へ直接貼り付け	陶褐色
番号	器名	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調査・文書	検出層・位置	備考
11	土師器	鉢	8.9	3.4	3.2	—	高台付	陶褐色

第70表 H26号住居址遺物観察表

## H27号住居址

遺構は4ーウーGグリッドに位置し、H28を切り、D7に切られる。調査規模は東西3.2m、南北2.9m、床面までの深さは25cmを測る。床面はほぼ平坦で堅く、壁際に周溝は認められない。ピットは床面上で1個、掘方で1個確認できたが、いずれも浅いため主柱穴かは不明である。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築されている。火床が北壁外に存在することから、袖が住居内に張り出さない形状と考えられる。掘方は12cm内外の厚みで小石を多量に含む黒褐色土が埋め込まれ、全体に硬質である。

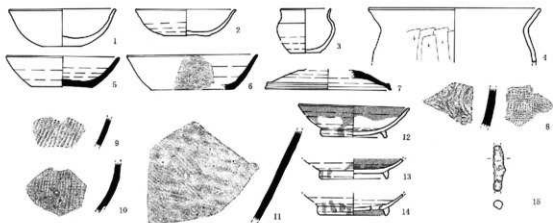


1. 黒色土 (10YR2/1) 小石、黄色砂粒多量、炭化物微量。
2. 黒褐色土 (5YR2/1) 炭土粒子、炭化物微量。
3. 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 炭化物少量。(火床)
4. 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 炭土7割、炭化物。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物微量。
6. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石多量、炭化物微量。(掘方)

第120図 H27号住居址実測図

遺物は土師器の環、壺、甕、須恵器の環、蓋、甕、灰胎陶器、棒状で器種不明の鉄製品が出土した。

図示したのは15点である。1・2は土師器の環で、1は回転糸切りの底部から丸みを持って立ち上がり口縁に至る。やや深みのある形状である。2は回転糸切りの底部から開き気味に立ち上がり、体部途中で丸みを持ち口縁に至り、端部は僅かに外反する。やや器高の低い形状である。3は小型の壺で、表面ナデを施す。4は頸部「く」の字の土師器甕で、薄く、表面縦方向のケズリを施す。5・6は須恵器の環、6の外面に「下」の刻書が認められる。7は須恵器の蓋、9～11は須恵器の甕破片で、それぞれ異なる叩き痕を持つ。12～14は灰胎陶器で、いずれも底部回転ヘラケズリ後高台貼り付けの大原2号窯式と思われる。12は碗、13・14は坏部の大平を欠損する。本住居址は、土師器・須恵器環の存在から9世紀後半～10世紀初頭、平安時代としたい。



第121図 H27号住居址遺物実測図

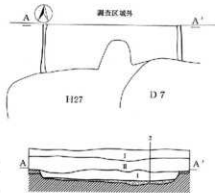
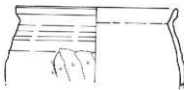
番号	品名	形状	口径φ	底径φ	高さφ	調査・文 献	検出の状況	備 考	
1	土師器	鉢	13	4.8	4.5	内外面コッタナダ 底面黒点入り	42	黒い褐色	
2	土師器	鉢	12.2	5.0	3.2	内外面コッタナダ 底面黒点入り	41	黒い褐色	
3	土師器	小皿	[5.1]	3.7	3.4	外コッタナダ 口縁黒ナダ	12	黒い褐色	
4	土師器	鉢	[21]	-	-	口縁黒ナダ 外底面ヘラナダ 内面コナ	13	黒い褐色	
5	土師器	鉢	[18.8]	[7.8]	-	内外面コッタナダ 底面黒点入り	40	黒い褐色 穴なし	
6	土師器	鉢	[16]	[10.1]	-	内外面コッタナダ 底面黒点入り 穴なし	14	黒い褐色 穴なし	
7	土師器	鉢	[13.5]	3.3	-	内外面コッタナダ 底面黒点入り	43	黒い褐色	
8	土師器	鉢	-	-	-	外底面	44	黒い褐色	
9	土師器	鉢	-	-	-	外底面	45	黒い褐色	
10	土師器	鉢	-	-	-	外底面	46	黒い褐色	
11	土師器	鉢	-	-	-	内外面コッタナダ 底面黒点入り 穴なし	47	黒い褐色	
12	土師器	鉢	[13.1]	7.0	3.6	内外面コッタナダ 底面黒点入り 穴なし	48	黒い褐色	
13	土師器	鉢	-	7.0	-	内外面コッタナダ 底面黒点入り 穴なし	49	黒い褐色	
14	土師器	鉢	-	6.1	-	内外面コッタナダ 底面黒点入り 穴なし	50	黒い褐色	
15	土師器	鉢	5.1	5.10	1.12	1.1	調査・文 献	49	黒い褐色

第71表 H27号住居址遺物観察表

### H28号住居址

遺構は4ーウーGグリッドに位置し、H 27・D 7に切れられ、北側は調査区域外となる。調査規模は東西 3.5m、南北1.1m、床面までの深さは25cmを測る。床面はやや凹凸感はある硬質である。ピット、周溝、カマドは確認できなかった。掘方は4～8cmの厚みで黒褐色土が埋め込まれ、全体に硬質である。

遺物は土師器の環、碗、甕が出土した。図示したのは轆轤甕口縁付近の破片1点である。本住居址出土の破片中には中型の土師器環、碗、須恵器環、口縁端部を丸く仕上げた轆轤甕が認められることから9世紀後半としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/2) 小石少量、炭化物。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石、砂。(掘方)

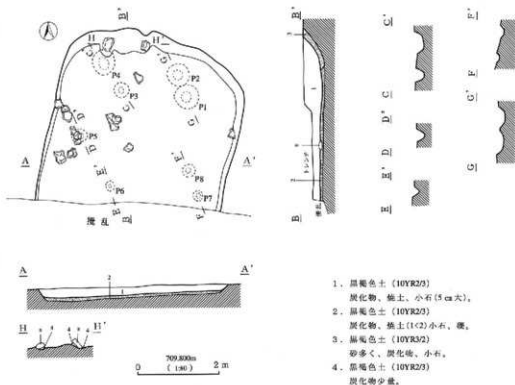
第122図 H28号住居址・遺物実測図

番号	区域	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・写真	発掘者の氏名	調査年
1	土器類	輪軸甕	28.2	-	-	昭和45年〜47年 二條、藤田と加藤の調査	川原一三郎氏	昭和46年

第72表 H28号住居址遺物観察表

### H29号住居址

遺構は5-1-Iグリッドに位置し、H34、36を切り、南側は水路に破壊されている。調査規模は東西4.5m、南北4.3m、床面までの深さは最深で40cmを測る。平面形態は隅丸方形と思われる。床面は床土に小石が多く含まれていることから、ざらつき感はあるが平坦で硬質である。壁際に周溝は認められず、床面上でピットは確認できなかった。掘方で8個のピットが確認されたが主柱穴であるかは不明である。カマドは北壁中央に構築されているが、壁面に僅かな粘土、焼土が張り付き、袖に使用されたと思われる石材が一部壁面に埋め込まれていた他は、完全に破壊された状態であった。掘方は10cm内外の厚みで炭化物、焼土、小



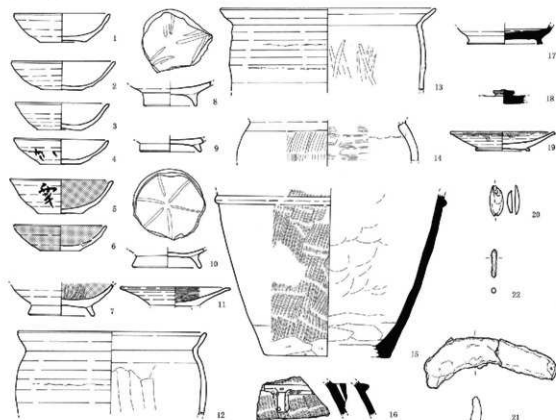
第123図 H29号住居址実測図

礫を含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、碗、皿、轆轤甕、須恵器の甕、坏、灰釉陶器、蓋、管状土錘、鉄製品が出土した。図示したのは22点である。1〜6は土師器坏で1・3は中径、2・4・5・6は小径の底部から開き気味に丸みを持って立ち上がり、器高は低めである。5・6は内面黒色処理、4・5は墨書が認められ4の外面体部には「市？」の文字が読みとれる。7〜10は土師器の碗で7・8は内面摩耗気味だが暗文を施した痕跡が認められる。7は黒色処理である。10は放射状の暗文を明確に認めることができる。11は皿で高台部欠損の口縁から底部にかけての破片である。13は轆轤甕の口縁付近の破片である。14は生焼けの須恵器状態の甕片で

外面に叩き痕を持つ。15・16は須恵器の甕で15はやや低い位置に突帯が巡る。17は須恵器の高台付坏、18は須恵器蓋の宝珠つまみ部分である。19は漬け掛けで高台が低めの虎渡山1号窯式と思われる灰釉陶器の皿、20は土製の管状土踵である。

本住居址は底径が小さく器高が低めとなる坏、轆轤甕の形状、灰釉陶器皿の存在から10世紀前半平安時代としたい。



第124図 H29号住居址遺物実測図

番号	器名	形状	口径φ	底径φ	器高	調査・文様	保存・形状	備考
1	土師器	坏	11.8	5.8	3.2	内外面ロコナダ 底面斜軸糸状 内面一部点	100	褐色
2	土師器	坏	12.8	5	3.8	内外面ロコナダ 底面斜軸糸状	85	褐色
3	土師器	坏	11.3	5.3	2	内外面ロコナダ 底面斜軸糸状 内面一部点	75	褐色
4	土師器	坏	11.7	5.6	4.2	内外面ロコナダ 底面斜軸糸状 底面「角」字蓋	100	灰~褐色
5	土師器	坏	12.7	5.1	3.1	内外面ロコナダ 底面斜軸糸状 底面蓋 内面黄色地	80	灰~褐色
6	土師器	坏	11.4	7.8	—	内外面ロコナダ 底面斜軸糸状 内面黄色地	50	褐色
7	土師器	甕	—	6.5	—	内外面ロコナダ 内面黄色地 底面 高台付付付	底面~底面付	褐色
8	土師器	甕	—	7.4	—	内外面ロコナダ 内面斜軸糸状 高台付付付	底面~底面付	褐色
9	土師器	甕	—	8.2	—	内外面斜軸糸・斜軸 高台付付付	高台付付	褐色
10	土師器	甕	—	8.1	—	内外面斜軸糸 底面高台付付	高台付付	褐色
11	土師器	甕	[10.5]	—	—	内外面ロコナダ 内面斜軸糸・高台付付付	底面~底面付	褐色
12	土師器	轆轤甕	[25]	—	—	内外面斜軸糸・高台付付付 内面斜軸糸	底面~底面付	褐色
13	土師器	轆轤甕	[26.5]	—	—	内外面斜軸糸・高台付付付 内面斜軸糸	底面~底面付	褐色

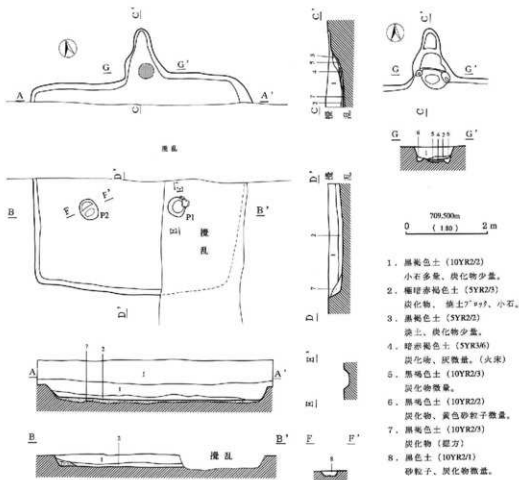
第73表 H29号住居址遺物観察表(1)

番号	品名	種別	寸法cm	重量g	長さcm	幅cm	調査・文書	所在地	備考
14	土器片	蓋	—	—	—	—	内面に赤い内面→ナツグ	調査報告	白濁褐色
15	土器片	蓋	—	[15.4]	—	—	内面に赤い 外面に黒褐色→ナツグ/新設下地層 内面下層→ナツグ	調査報告	赤褐色
16	土器片	蓋	—	—	—	—	外周に赤い 新設層内に黒褐色の紋を有する→ナツグ 内面ナツグ	調査報告	黒褐色
17	土器片	蓋	—	[20]	—	—	内面→ナツグ 外面→黒褐色の紋を有する→ナツグ	調査報告	黒褐色
18	土器片	蓋	—	—	—	—	内面→ナツグ 外面→黒褐色の紋を有する→ナツグ	調査報告	黒褐色
19	土器片	蓋	[12.8]	[6.4]	2.9	—	内面→ナツグ 外面→黒褐色の紋を有する→ナツグ	調査報告	黒褐色
番号	品名	重量g	長さcm	幅cm	高さcm	調査・文書	備考		
20	土器	1.9	8.7	2.9	8.2	調査報告	黒褐色		
21	土器	[15.48]	[6.23]	3.68	1.47	—	—		
22	土器片	1.9	3.38	8.56	8.58	—	—		

第74表 H29号住居址遺物観察表(2)

H30号住居址

遺構は4-1-1グリッドに位置し、西流する水路に大きく破壊されている。H74、86、87と切り合い関係にあるが切り合いが激しく、新旧関係は不明である。規模は東西5.4m、南北5.0m、床面までの深さは最深で40cmを測る。平面形態は方形である。覆土は小石を多量に含むざらつき感のある黒褐色土の単層で、床面はやや中央が高く硬質である。壁際に周溝は認められず、ピットは2個確認できた。位置的に主柱穴であ

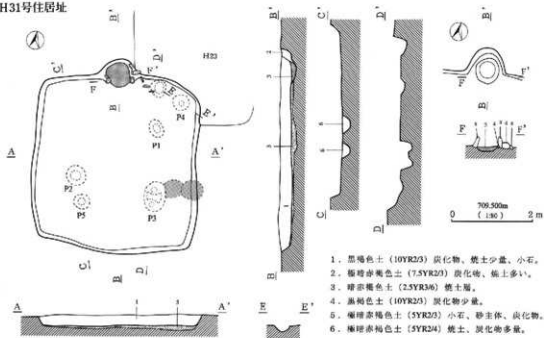


第125図 H30号住居址実測図

1. 黒褐色土 (10YR2/2)  
小石多量、炭化物少量。
2. 暗赤褐色土 (5YR2/3)  
炭化物、黒土<sup>7</sup>等、小石。
3. 黒褐色土 (5YR2/2)  
炭土、炭化物少量。
4. 暗赤褐色土 (5YR2/3)  
炭化物、炭化物。
5. 黒褐色土 (10YR2/3)  
炭化物微量。
6. 黒褐色土 (10YR2/2)  
炭化物、黄色砂粒子微量。
7. 黒褐色土 (10YR2/3)  
炭化物(縦方)
8. 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂粒子、炭化物微量。

る可能性が考えられる。カマドは北壁中央に構築され、北壁外に位置する火床及び煙道の張り出しが確認できた。火床には径40cm、厚さ4cmの焼土が堆積していた。掘方は10cmの厚さで黒褐色土が埋め込まれ、上面硬質である。遺物は土師器の甕、須恵器の高台付坏、甕が出土した。小破片が大半で図示しなかった。本住居址は、カマドから出土した薄い口縁「く」の字の土師器甕から8世紀代、奈良時代としたい。

### H31号住居址



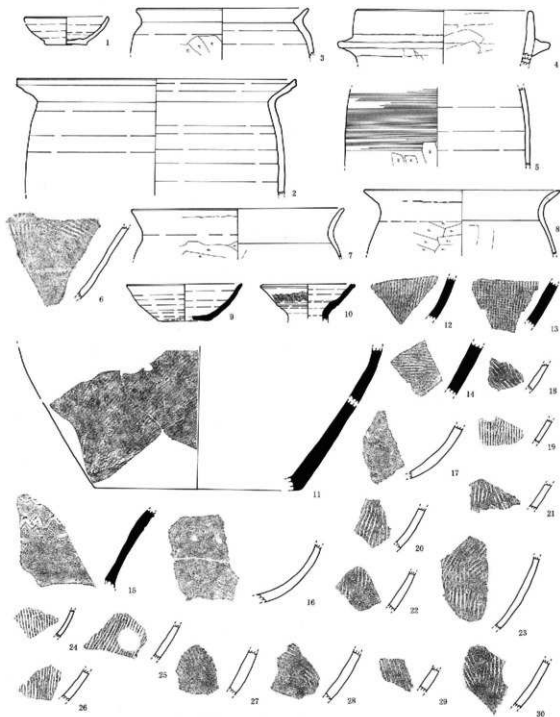
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土少量、小石。
2. 極暗赤褐色土 (7.5YR2/3) 炭化物、焼土多い。
3. 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。
5. 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 小石、砂主体、炭化物。
6. 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土、炭化物多量。

第126図 H31号住居址実測図

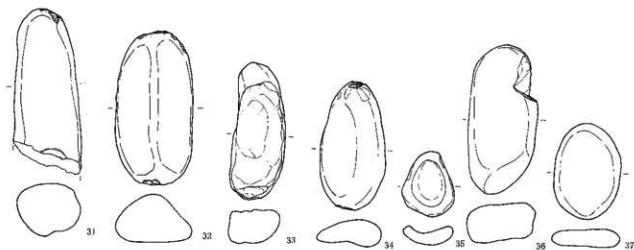
遺構は4ーあーHグリッドに位置し、H23を切る。規模は東西4.1m、南北4.2m、床面までの深さは32cmを測る。平面形態は方形である。壁際に周溝は認められず、床面は凹凸感はあるが、平坦で硬質である。床面上ではピットは確認できず、掘方において6個のピットが確認できたが主柱穴かは断定できない。カマドは北壁中央に構築されている。火床は北壁外に張り出した形で、広く焼土化していた。袖が住居内に張り出さない形態と考えられる。火床両脇の北壁部分には焚口部の補強に使用されたとと思われる石材が「ハ」の字状に埋め込まれていた。掘方は5cm以内で薄く極暗赤褐色土が埋め込まれ硬質である。また調査終了後、東壁付近にカマドと思われる痕跡が認められた。確認できなかった住居址の切り合いがあったことが予測された。遺物は土師器の坏、甕、轆轤甕、甲甕、羽釜、須恵器坏、壺?、甕、すり・敲石が出土した。図示したのは37点である。1～8は土師器で1は小型化した坏、2は広口の甕、3は小型の甕、4は羽釜、5は轆轤甕、6は甲甕、7・8は薄く、口縁緩やかな「く」の字の甕である。9～15は須恵器で1は底部回転系切りの坏、10は口縁付近の破片で波状文が認められ古墳時代の混入である。11～15は須恵器甕の破片である。16～18、20～23、27～30は褐色で外面に叩きを持つ土師質の甲甕と思われる。19・24～26は橙色だが土師器に比べ硬質である。31～37は敲又はすり石に使用されている。本住居址の出土遺物には9世紀代と10世紀後半前後の2時期が混在しており、確認できなかった切り合い関係があったと思われる。本住居址は、カマド内から口縁緩やかな「く」の字状の土師器甕、床面付近から底部周辺へラケズリの須恵器坏が出土し、カマド位置も北壁に構築されていることから8世紀後半、奈良・平安時代の住居址とし、検出で確認できなかった



南寄り羽釜、小型坏等の遺物を伴う東カマドを持つ住居址は10世紀後半としたい。現場での調査は新田遊であったと思われる。



第127図 H31号住居址遺物実測図(1)



第128図 H31号住居址遺物実測図(2)

番号	品名	種類	寸法(mm)	重量(g)	材質	説明	出土層・文様	保存場所	備考
1	土師器	壺	110.3	5.1	土	内径約10cmの壺 西側の破片あり	1層	西側	西側
2	土師器	飯椀	20.4	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
3	土師器	鉢	24	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
4	土師器	鉢	121.4	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
5	土師器	鉢	24	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
6	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
7	土師器	鉢	128	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
8	土師器	鉢	24	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
9	土師器	鉢	14	16.4	土	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
10	土師器	鉢	11.4	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
11	土師器	鉢	-	121	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
12	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
13	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
14	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
15	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
16	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
17	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
18	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
19	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
20	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
21	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
22	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
23	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
24	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
25	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
26	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
27	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
28	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
29	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
30	土師器	鉢	-	-	-	内径約10cmの壺 西側の破片あり	白土→白磁器片	西側	西側
番号	品名	重量(g)	寸法(mm)	材質	説明	出土層・文様	保存場所	備考	
31	土師器	901.33	17.6	土	5.7	1層	西側	西側	
32	土師器	930.73	16.2	土	8.2	1層	西側	西側	
33	土師器	449	14.6	土	5.8	1層	西側	西側	
34	土師器	73.7	8.9	土	1.6	1層	西側	西側	
35	土師器	542	13.6	土	2.9	1層	西側	西側	
36	土師器	656.32	13.6	土	3.1	1層	西側	西側	
37	土師器	658.57	13.6	土	3.1	1層	西側	西側	

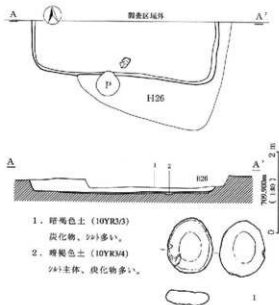
第75表 H31号住居址遺物観察表

### H32号住居址

遺構は5-1-Gグリッドに位置し、H26に切れ、北側は調査区域外となる。調査規模は東西4.6m、南北1.4m、床面までの深さは36cmを測る。平面形態は残存状況から方形又は長方形と考えられる。壁際に周溝は無く、床面は堅く平坦である。ピット、カマドは確認できなかった。掘方は全体に3cm程度と浅く、貼り床をした状態である。

遺物は、土師器の甕、須恵器の坏、すり石が僅かに出土した。図示したのは、表面にすり痕を持つ円形で扁平なすり石1点で、土器は小破片のため図示しなかった。

本住居址は10世紀前半のH26に切れ、奈良・平安時代の特徴を有する土器片が出土することから10世紀前半以前の奈良・平安時代と考えられる。



第129図 H32号住居址・遺物実測図

番号	形状	用途	口径cm	底径cm	器高cm	調査区	備考
1	すり石	鉢	4.7	3.5	1.7	調査区外	

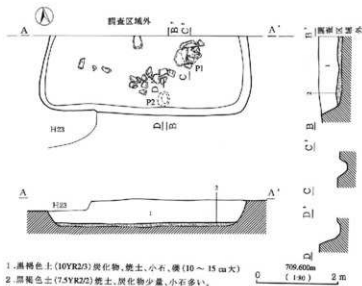
第76表 H32号住居址遺物観察表

### H33号住居址

遺構は5-1-Gグリッドに位置し、H23を切り、北側は調査区域外となる。調査規模は東西5.2m、南北2.0m、床面までの深さは55cmを測る。覆土は黒褐色土の単層で、10~30cm大と大型の礫が多数投げ込まれていた。ピットは床面上では確認できず、掘方で2個確認できたが支柱穴かは不明である。カマドは認められなかった。

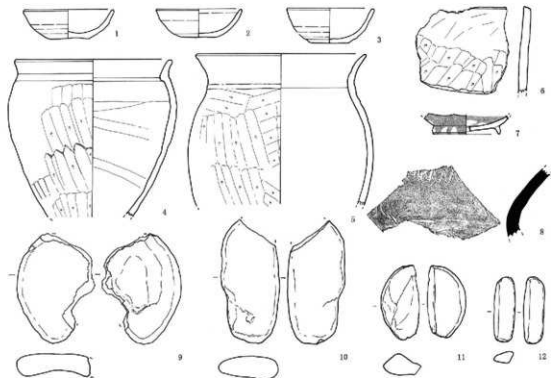
遺物は、土師器の坏、甕、羽釜又は鉢、灰釉陶器、須恵器、すり石が出土した。図示したのは12点である。1~3は小型化した土師器坏で口径11cm以内、底径5cm以内を測る。

4・5は甕で、4は口縁の返りが短く、短胴化しており、上部の僅かな部分に轆轤を使用したと思われるが、ヘラナデ、ケズリが施され不明瞭である。6は口縁破片で端部は面取りされ立ち上がりは直線的で羽釜又は鉢



第130図 H33号住居址実測図

と同形態である。7は灰釉陶器の碗で高台形状から大原2号窯式と思われるが、他の遺物に比して若干時期が古い。8は須恵器の甕破片で櫛櫛波状文を施す。本住居址は坏が小型化していることから10世紀後半としたい。



第131図 H33号住居址遺物実測図

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	表・背・文・様	発出状況	備考
1	土師器	碗	11.1	6.9	2.6	内外面セラコニア 垂直目線半切り	90	灰い褐色
2	土師器	碗	[15.4]	6.9	8.2	内外面セラコニア 垂直目線半切り	70	灰褐色・黄・黄褐色
3	土師器	碗	[15.4]	[4]	2.5	内外面セラコニア 垂直目線半切り	20	灰褐色・黄・黄褐色
4	土師器	甕	[18.4]	—	—	内外面セラコニア 内面横ヘラコニア 3種破片	20	褐色
5	土師器	甕	[20.9]	—	—	内外面セラコニア・内面ヘラコニア 口縁セラコニア 内面横ヘラコニア	口縁・横目線付	灰白色
6	土師器	甕破片	—	—	—	内外面セラコニア・内面横ヘラコニア 垂直目線半切り 内面横ヘラコニア	口縁破片	褐色
7	灰釉陶器	碗	—	[8.2]	—	内外面セラコニア 垂直目線半切り付 内外面横目線付	高台・横目線付	灰白色
8	須恵器	甕	—	—	—	セラコニア 外表面波状文	甕破片	灰白色
番号	品名	数量	口径cm	底径cm	高さcm	表・背・文・様	発出状況	備考
9	甕	202	13.3	9.4	2.1	表面に亀裂による傷み		
10	土師器	207	13	8.3	2.2	すり面あり		
11	土師器	116	8.4	4.7	2.1			
12	土師器	70	8	2.6	1.4	表面すり面		

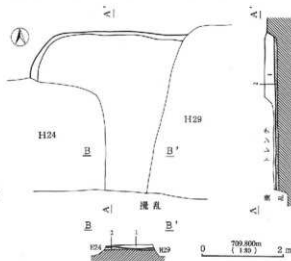
第77表 H33号住居址遺物観察表

### H34号住居址

遺構は5-1グリッドに位置し、H29に切れ、H24と切り合い関係にある。調査規模は東西3.4m、南北4.0m、床面までの深さは28cmを測る。平面形態は隅丸方形と考えられるが断定できない。覆上は炭化物、焼上、小礫を含む粒子の粗い黒褐色土の単層である。床面はざらつき感はあるが平坦で硬質である。壁際の周溝、ピット、カマドは確認できなかった。掘方は5cm内外の厚みで粒子の粗い暗褐色土が埋め込まれ硬質である。

遺物は土師器の杯、碗、甕、須恵器の杯、甕、灰釉陶器が出土した。図示したのは3点である。1・2は土師器杯で底部糸切り後未調整で、内母気味に口縁に立ち上がる。3は灰釉陶器の碗と思われる。本住居址は灰釉陶器の存在から10世紀前半としたい。当初H24が本住居址を切ると思われたが、遺物から切り合い関係を見ると、本住居址が10世紀前半、H24が9世紀前半と逆であった可能性が伺える。

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、礫土、小石多い。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、小石多い。(掘方)



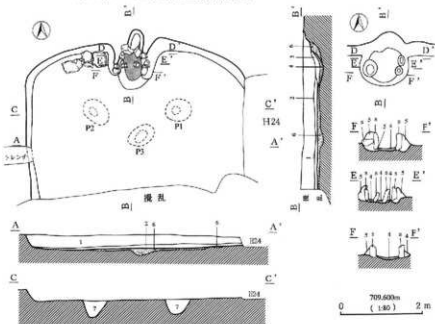
第132図 H34号住居址・遺物実測図

番号	層位	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・分析	埋蔵層・部位	備考
1	土師器	杯	[127]	[6]	3.3	内外面コトコナテ 底面段縁あり	II層~IV層境	褐色
2	土師器	杯	[127]	[5.8]	4.1	内外面コトコナテ 底面段縁あり 内面黒色知色 段縁段縁文	II層~IV層境	黒い黒褐色・黒褐色
3	灰釉陶器	碗	-	7.4	-	縦方向へコナテ段縁あり段縁	埋蔵層100	灰釉色

第78表 H34号住居址遺物観察表

### H35号住居址

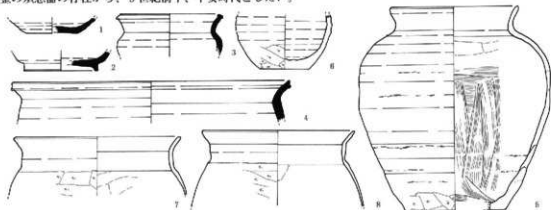
遺構は5-1-1グリッドに位置し、H41を切り、H24に切られる。南側は調査区域外となる。調査規模は東西5.3m、南北3.6m、床面までの深さ35cmを測る。平面形態は隅丸方形と考えられる。覆土は礫、炭化物を多く含む黒褐色土の単層である。床面はざらつき感はあるが平円で硬質である。壁際の周溝及び床面上でのピットは確認できなかったが掘方



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、小石、多い。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、小石、礫、炭土。
3. 暗褐色土 (2.5YR2/3) 炭土、炭化物多い。
4. 暗褐色土 (2.5YR3/6) 炭土層 (火災)
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭土少量、炭化物。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂、小石多い、炭化物少量。
7. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、小石、礫 (5cm大) 炭化物。

第133図 H35号住居址実測図

で3個のピットが確認でき、位置的にP1、2が主柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築され、両袖及び、火床から北壁外に続く煙道の立ち上がりが確認できた。両袖は強粘性の粘土を利用し、内壁には石材が使用していた。火床には広範囲に渡り焼土の堆積が認められ、支脚と思われる柱状の石材が2本埋め込まれていた。掘方は3~6cmと比較的薄く黒褐色土が埋め込まれ、硬質であった。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕が出土した。図示したのは8点である。1~4は須恵器で、1は坏で回転糸切り後無調整の底部破片、2は高台付坏、3は壺の口縁破片、4は甕の口縁破片である。5は土師器の轆轤甕である。6は小型轆轤甕、7・8は頸部「コ」の字状の武蔵甕である。本住居址は口縁「コ」の字の土師器甕、糸切り後未調整の須恵器の存在から、9世紀前半、平安時代としたい。



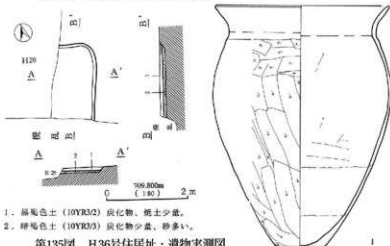
第134図 H35号住居址遺物実測図

番号	器名	形状	寸法cm	出所	調査・分析	発見層位	備考	
1	須恵器	坏	—	[16.3]	内外面リコナダ 底面回転糸切り	底面-縁部破片	白色	
2	須恵器	高台付坏	—	[1]	内外面リコナダ 底面回転糸切り後高台付切り	高台-縁部破片	白色	
3	須恵器	壺	[10]	—	内外面リコナダ	口縁-縁部破片	緑褐色	
4	須恵器	壺	[14]	—	内外面リコナダ	口縁-縁部破片	白色	
5	土師器	甕	[16.4]	[16.3]	[16.4]	リコナダ 高台付口縁部ヘラズキ 底面ヘラズキ 内外面無調整ヘラズキ 底面破片	60	純い白色
6	土師器	小型轆轤甕	—	8	—	内外面リコナダ 底面厚手ヘラズキ	底面100%調整	灰白色
7	土師器	甕	[16.4]	—	口縁リコナダ 外面上部無調整ヘラズキ 内面無調整ヘラズキ	口縁-縁部破片	白色	
8	土師器	甕	[16.4]	—	口縁リコナダ 外面上部無調整ヘラズキ 内面無調整ヘラズキ	口縁-縁部破片	白色	

第79表 H35号住居址遺物観察表

### H36号住居址

遺構は5-1-1グリッドに位置し、H29に西側の大半を切られ、南側も水路に破壊されている。調査規模は東西1.04m、南北2.2m、床面までの深さは10cmと浅い。平面形態は北東コーナーの形状から方形と考えられる。覆土は焼土、炭化物、礫を含む粒子の粗い黒褐色土である。床面はざらつきは



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、礫土少量。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量、砂多い。

第135図 H36号住居址・遺物実測図

あるが平垣で上間状を呈す。カマド、ピットは確認できなかった。掘方は5 cm程度の厚みの暗褐色土が埋め込まれ硬質である。遺物は北東コーナー付近の床直上でつぶれた残存率の良い土師器甕が出土した他、土師器の小破片が出土した。図示したのは1点で、全体に薄く、頸部緩やかな「く」の字状の武蔵甕である。

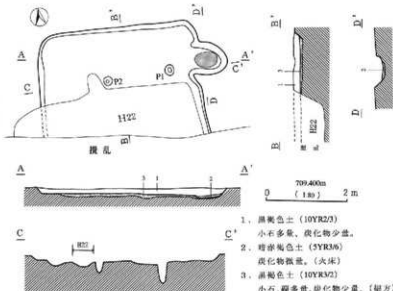
本住居址は土師器甕の形状から8世紀後半としたい。

遺址	調査年度	調査者	調査地	調査区画	調査内容	調査結果	調査者	
1	土師器	豊	25.11	6	100%	内庭(ヘナグズ)・庭中(ヘナグズ)・庭外(ヘナグズ)・内庭(ヘナグズ)	50	熊本県史

第80表 H36号住居址遺物観察表

### H37号住居址

遺構は4ーくーHグリッドに位置し、H22、46を切り、南側は水路に破壊されている。調査規模は東西3.9m、南北2.8m、床面までの深さは20cmである。平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。床面は硬質で、壁際に周溝は認められなかった。ピットは小ピットが2個確認できたが支柱穴かは不明である。カマドは東壁の北寄りに構築されている。確認できたのは東壁外に張り出した火床部分と煙道への立ち上がりである。火床部は4 cmの厚さで焼土が堆積していた。掘方は3 cmと浅く粒の細かい砂礫を含む黒褐色土が埋め込まれ貼り床状態となっていた。

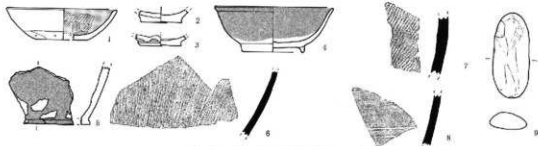


第136図 H37号住居址実測図

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石多量、炭化物少量。
2. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 炭化物微量。(火床)
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 小石、腐多量、炭化物少量。(掘方)

遺物は土師器の坏、碗、甕、須恵器の甕、灰軸陶器、すり石が出土した。図示したのは9点である。1ー3は土師器坏で1の内面は摩耗しているが暗文の痕跡が認められる。カマドから出土した。2・3は底部のみ残存し、回転系切りで小型化している。4・5は灰軸陶器で4は碗、5は甕の底部付近の破片である。4は漬け掛けで、高台形状から虎沢山1号窯式と思われる。6ー8は須恵器甕の破片、9は表面の滑らかなすり石である。

本住居址は小型化した土師器坏、灰軸陶器碗の存在から10世紀後半～11世紀初頭としたい。



第137図 H37号住居址遺物実測図

番号	名称	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・主 様	保存中・所在地	備考
1	土師器	杯	13.7	6.2	3.9	内務省ロケットプラザ 遺品・調査・解説センター 内務省博物館	45	褐色
2	土師器	杯	—	6.2	—	調査対象外有り	高松市50	灰褐色
3	土師器	杯	—	6.2	—	調査対象外有り	高松市50	灰・褐色
4	灰土師器	碗	14.9	7.4	3.0	内務省ロケットプラザ 遺品・調査・解説センター 高松市50 高松市50 高松市50	50	白褐色(灰白色・緑褐色・黄褐色)
5	灰土師器	蓋	—	—	—	内務省ロケットプラザ 高松市50	高松市50(高松市50)	灰白色
6	灰土師器	蓋	—	—	—	高松市50	高松市50	灰白色
7	灰土師器	蓋	—	—	—	高松市50 ハナマダ	高松市50	灰白色
8	灰土師器	蓋	—	—	—	ロケットプラザ	高松市50	灰白色
番号	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・主 様			備考
9	サリ石	1.0	15.64	6.41	3.15			

第81表 H37号住居址遺物観察表

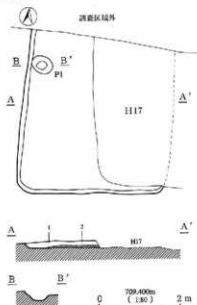
### H38号住居址

遺構は4ーきーGグリッドに位置し、H17に切れられ、H40を切り、北側は調査区域外となる。調査規模は東西3.6m、南北3.8m、床面までの深さは12cmを測る。平面形態は方形と考えられる。床面は礫などの凹凸感があり、硬質である。ピットは1個確認できたが主柱穴かは不明である。カマドは確認できなかった。掘方は4cm内外と浅く、粒子の粗い黒褐色土が埋め込まれ貼り床状となっている。

遺物は土師器の杯、甕、須恵器が出土したがいずれも小破片で図示はしなかった。

本住居址は遺物が小破片であるため確実な時期は不明だが、9世紀後半のH17に切れられ、9世紀前半のH40を切ることから継続して建てられた、9世紀前半、平安時代の住居址としたい。

1. 黒褐色土(10YR2/3) 礫多量(2~5cm大)、炭化物少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫多量(5~10cm大)、砂。

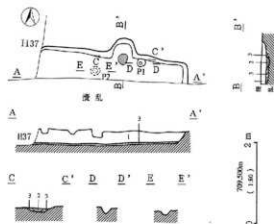


第138図 H38号住居址実測図

### H39号住居址

遺構は4ーきーHグリッドに位置し、H37に切れられ、H46を切る。南側は調査区域外となる。調査規模は東西3.7m、南北75cm、床面までの深さは14cmを測る。平面形態は残存状況から方形と考えられる。壁際から周溝は認められず、床面はざらつき感はあるが平坦で硬質である。ピットは確認できなかった。カマドは北壁中央に構築され、北壁外に張り出す火床部が確認でき、焼土の堆積が認められた。掘方は3cm内外と薄く黒褐色土が敷き詰められ貼り床状となっていた。

遺物は土師器の杯、碗、甕、轆轤甕、須恵器の甕、灰赤陶器が出土したが小破片が多い。図示したのは土師器の杯3点である。形状はほぼ同じだ

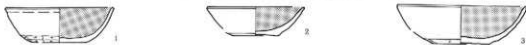


1. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物微粒、砂少量。
2. 灰赤褐色土(5YR3/6) 焼土層。(火床)

第139図 H39号住居址実測図



が1は底部回転ヘラケズリ、2は回転糸切りだが、摩耗で不鮮明、3は糸切り後周辺部ヘラケズリを施す。本住居址は、底部及び周辺ヘラ調整された土師器環、器高が低めで、立ち上がりに丸みを持つ土師器環の形態、灰釉陶器片が含まれることから9世紀後半～10世紀初頭、平安時代としたい。

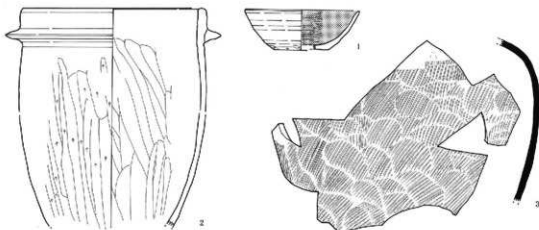
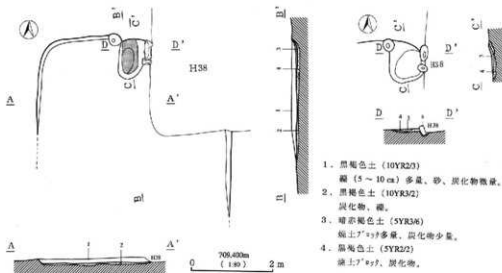


第140図 H39号住居址遺物実測図

番号	目録	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文書	発掘年・層位	備考
1	土師器	杯	[13.2]	[6.4]	4.2	内外面セラミクス 底面回転ヘラケズリ 底面黒色ヘラケズリ 内外面黒色	70	黒い赤褐色
2	土師器	杯	[14.9]	8.1	3.3	内外面セラミクス 底面回転糸切り 内面黒色地肌	71	褐色
3	土師器	杯	[13.8]	6.8	4.7	内外面セラミクス 底面黒色ヘラケズリ 内面黒色地肌少す	82	黒い赤褐色

第82表 H39号住居址遺物観察表

H40号住居址



第141図 H40号住居址・遺物実測図(1)



遺構は4-4-Gグリッドに位置し、H38に切られ、遺構が浅く、南壁は確認できなかった。調査規模は東西4.8m、南北4.4m、床面までの深さは最深12cmを測る。平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。床面は平坦だが、やや凹凸感があり、南西コーナー付近に表面の平らな石が存在する。壁際の周溝、住居内のピットは確認できなかった。カマドは北壁中央にあり、大半は破壊されていたが、火床及び東袖に使用された石材が残存していた。火床には焼上の堆積が認められた。掘方は4cm程度と浅く貼り床状で、礫を含む粒子の粗い黒褐色土が敷き詰められていた。遺物は土師器の環、甕、羽釜、須恵器の環、甕、甌と思われる破片が出土した。図示したのは5点である。1は土師器の底部周辺ヘラケズリの環、2はカマド出土で長胴の土師器羽釜である。3は須恵器の甕、5は須恵器で形状から甌の可能性のある。破片中に頸部「コ」の字気味の甕が含まれることから9世紀前半、奈良-平安時代としたい。



第142図 H40号住居址遺物実測図(2)

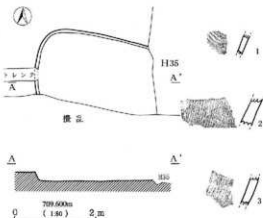
第142図 H40号住居址遺物実測図(2)

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	材質・土種	残存部・部位	備考
1	土師器	環	[14]	[2.4]	4.8	内外面ロケニア 縦溝印輪ヘラケズリ気味ヘラケズリ 内面黒土	口縁-底部破片	黒・褐色
2	土師器	羽釜	[21.4]	-	-	内面黒ヘラケズリ 口縁部平ラ 腹面平ラ 腹面平ラ 腹面平ラ 腹面平ラ	口縁-胴部破片	褐色・黒褐色
3	須恵器	甕	-	-	-	内面平ラ 口縁部 内面平ラ	底面-胴部破片	緑灰色 4.5cm-1cm
4	須恵器	甌	[16.2]	-	-	内面平ラ 口縁部 内面平ラ	底面-胴部破片	緑灰色 4.5cm-1cm
5	須恵器	甌	[3]	-	-	内面平ラ 口縁部	口縁-胴部破片	緑色

第83表 H40号住居址遺物観察表

#### H41号住居址

遺構は5-1-Gグリッドに位置し、H35に切られ南側は水路に破壊されている。調査規模は東西2.8m、南北1.8m、深さは30cmを測る。平面形態は残存状況から隅丸方形と考えられる。床面は強粘性のシルト質でやや堅さを持つ。住居内から周溝、ピット、カマドは確認できなかった。遺物は土師器の環、甕、須恵器の環、甕が出土したが小破片である。図示したのは3点である。土師質だが、やや硬質の甕破片で、外面に叩き痕を残す。本住居址は水路を挟んで南に存在するH98と同一遺構の可能性もあるが、遺物量が僅かで断定はできない。平安時代であることは確かである。



第143図 H41号住居址・遺物実測図

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	材質・土種	残存部・部位	備考
1	土師器	環	-	-	-	内面平ラ	口縁破片	褐色
2	土師器	甕	-	-	-	内面平ラ	胴部破片	黒・褐色
3	土師器	甕	-	-	-	内面平ラ	口縁破片	黒褐色

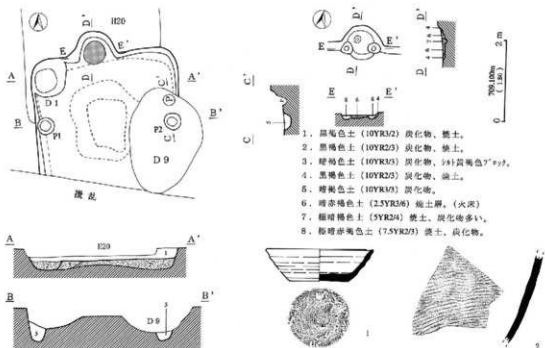
第84表 H41号住居址遺物観察表

### H42号住居址

遺構は3-ルー-Hグリッドに位置し、H20、D9に切られ、H49を切る。南側は水路に破壊されている。調査規模は東西3.6m、南北3.2m、床面までの深さは最深で25cmを測り、平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。覆土は炭化物、焼土を含む黒褐色土の単層である。床面は平坦で表面シルト質で土間状を呈し、硬質である。ピットは東西壁際の中央から2個確認でき、支柱穴と思われる。北西コーナーには径95cm、深さ20cmの上坑が存在した。カマドは上層の大半をH20に破壊されていたが、北壁外に張り出した火床部が確認でき、多量の焼土が堆積していた。掘方は中央が薄く周辺の厚いドーナツ状で炭化物、焼土を多く含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏が出土したが、小破片が大半を占める。図示したのは2点である。1は須恵器坏で底部糸切り後、雑な調整を行う。2は甕の破片で外面に叩きを施す。

本住居址は9世紀前半のH20に切られ、須恵器坏が平安時代の特徴を有することからH20にやや先行する9世紀前半の住居址とした。



第144図 H42号住居址・遺物実測図

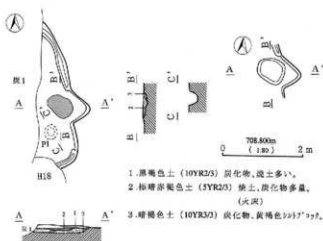
番号	別名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	遺物・文様	発見地・状況	備考
1	須恵器	洋	12	5.2	5.9	コテノサテ 底面刻線部破片	35	灰色 火だき
2	須恵器	強	-	-	-	内面破片	35	暗い赤褐色

第85表 H42号住居址遺物観察表

### H44号住居址

遺構は3-お-Hグリッドに位置し、C1、H18と切り合い関係にあるが新旧は不明である。H16を切る。調査規模は大半がC1に破壊されていることからカマドを含めた東壁付近の一部で東西85cm、南北3.6m、深さは最深で5cmを測る。平面形態は隅丸方形と考えられる。覆土は炭化物、焼土を多く含む強粘性の黒褐色土である。床面は強粘性のシルト質でやや堅さを持つ。壁際には幅15cm、深さ8cm内外の周溝が存在する。

ピットは掘方で1個確認できたが性格は不明である。カマドは東壁のやや南寄りに構築されているが大半は破壊され、焼上の堆積した火床及び北壁外に立ち上がる煙道の一部が確認できた。掘方は地山のシルトブロックを含む強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の甕、須恵器の甕が出土したが小破片が大半を占める。図示したのは5点である。1は土師器甕の胴下半部の破片である。2～5は須恵器甕の破片で外面に叩き痕を残し、4のみ内面同心円当てて具痕が残る。正確な年代は不明である。



1. 黒褐色土 (10YR2/5) 炭化物、炭土多い。
2. 棕褐色赤褐色土 (5YR2/5) 焼土、炭化物多量、(火灰)
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、黄褐色シトブロック。



第145図 H44号住居址・遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	特徴・文様	残存厚・破損	備考
1	土師器	甕	—	—	—	外面縦ヘラケズ 手取底ヘラケズ 内面縦ヘラケズ	厚縁破片	暗褐色
2	須恵器	甕	—	—	—	外面平行帯状 内面同心円状 内面平	厚縁破片	暗褐色
3	須恵器	甕	—	—	—	外面平行帯状	厚縁破片	暗褐色
4	須恵器	甕	—	—	—	外面平行帯状	厚縁破片	暗褐色
5	須恵器	甕	—	—	—	外面縦ケズ シトブロック 内面同心円当て具痕	厚縁破片	暗褐色

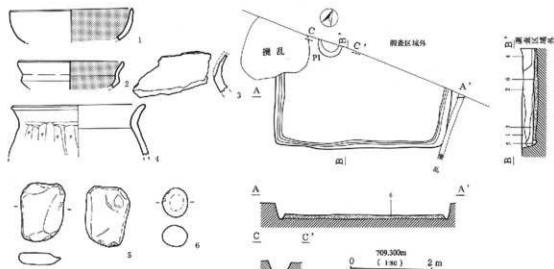
第86表 H44号住居址遺物観察表

#### H45号住居址

遺構は3-1-1-Gグリッドに位置し、H57と切り合い関係にあり調査順が逆となった。西側の一部を捜乱に破壊され、北側は調査区域外となる。調査規模は東西4.4m、南北2.8m、床面までの深さは34cmを測る。平面形態は調査状況から方形と考えられる。覆土は黒褐色土、暗褐色土などさまざまな堆積状況であることから人為的である可能性が伺える。床面は粒子の細かいシルト質で硬質面をもち平坦である。壁際には幅10cm、深さ10cm内外の周溝が存在する。ピットは北壁際から1個確認できたが支柱穴かは不明である。カマドは確認できなかった。掘方は全体に5cm程度の厚目で褐色土が埋め込まれ硬質である。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の甕が出土したが大半は小破片である。図示したのは6点である。1・2は土師器の坏で、1は丸底、2は有段で内面黒色処理を施す。3・4は土師器の甕口縁で厚手である。5は扁平、6は球状のすり石である。

本住居址は丸底の上器、厚手の甕の存在から6世紀代、古墳時代後期と考えられる。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄褐色(5)7アヤフ。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物、黄褐色(5)7アヤフ。
3. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物、黄褐色(5)7アヤフ。
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄褐色(5)7アヤフ。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物。
6. 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色(5)7アヤフ、暗褐色土。

第146図 H45号住居址・遺物実測図

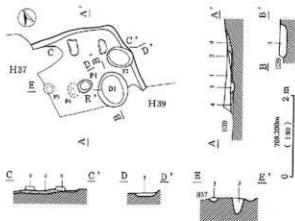
番号	対象	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文書	発見層・状況	備考
1	土師器	罎	[16.2]	--	--	西倉田古墳跡(ヘラケラズ) 白磁燗ナデ 西倉田古墳跡	白磁一底面破片	黄褐色
2	土師器	罎	[16.2]	--	--	西倉田古墳跡(ヘラケラズ) 白磁燗ナデ 西倉田古墳跡	白磁一底面破片	黒・褐色
3	土師器	罎	[16.4]	--	--	白磁燗ナデ 西倉田古墳跡 表裏割	白磁破片	黒褐色
4	土師器	罎	--	--	--	白磁燗ナデ 西倉田古墳跡(ヘラケラズ) 西倉田古墳跡	白磁一底面破片	黒い黄褐色
番号	形状	直径 $\phi$	高さcm	底径cm	厚さcm	調査・文書		備考
5	土師器(ナデ)	罎	2.2	2.2	4.5	白磁燗ナデ		
6	ナデ	罎	2.6	2.7	2.6	西倉田古墳跡		

第87表 H45号住居址遺物観察表

#### H46号住居址

遺構は4-1-Hグリッドに位置し、H37、39に切られる。調査規模は東西2.2m、南北2.0m、深さは最深で10cmと浅い。平面形態は調査状況から方形と考えられる。床面の壁際は表面に礫が頭を出し、やや凹凸感があり、内側はシルト質で粒子が細かく滑らかな硬質面を持つ。壁際の周溝及びカマドは認められなかった。床面上でピット2個、土坑1基、掘方でピット2個が確認できた。P1は位置、形状から支柱柱の可能性が考えられる。掘方は黒褐色土が薄く貼り床状に敷き詰められ硬質であった。

遺物は土師器の罎、甕、須臾器の罎が出土した。図示したのは5点である。1-3は土師器罎で、内外面摩耗している。1は底部周辺ヘラ



1. 黒色土 (10YR2/1) 炭化物微量。
2. 暗赤褐色土 (5YR3/2) 炭土粒子、炭化物多量。
3. 黒色土 (10YR1.7/1) 炭化物微量。
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 黄色(5)7散量。

第147図 H46号住居址実測図

ケズリを施し、底部も摩耗は激しいがヘラを使用した可能性がある。2は底部及び周辺部ヘラケズリを施し、内面黒色処理である。3は底部摩耗で不鮮明だが、ヘラを使用した可能性がある。内面黒色処理である。4は須恵器の坏で底部回転糸切り無調整で底部から開きながら直線的に口縁に至る。5は口縁「コ」の字の土師器甕（武蔵甕）である。

本住居址は、武蔵甕の存在から9世紀前半、平安時代とした。



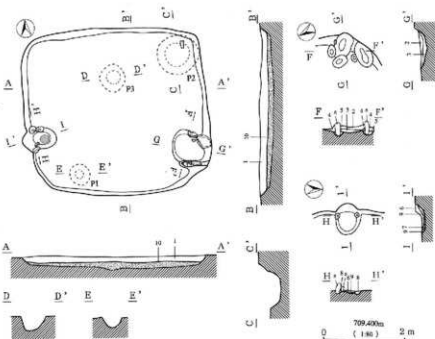
第148図 H46号住居址遺物実測図

図中	番号	器名	口径cm	底径cm	高さcm	調査・記録	検出層・部位	備考
1	土師器	浅	13.3	9	8.1	内外面にケズリが施され、底面は黒ヘラケズリで磨かれたフタケズリ。底面は中央部を黒く塗り、外周部は赤褐色に塗られたフタケズリ。内面は赤褐色に塗られたフタケズリ。	140	土師器分物色
2	土師器	浅	13.8	6.2	3.9	内外面にケズリが施され、底面は黒ヘラケズリで磨かれたフタケズリ。底面は中央部を黒く塗り、外周部は赤褐色に塗られたフタケズリ。	90	黒い褐色
3	土師器	浅	13.2	6.4	3.9	内外面にケズリが施され、底面は黒ヘラケズリで磨かれたフタケズリ。内面は赤褐色に塗られたフタケズリ。	80	褐色
4	須恵器	坏	13.0	7.0	4.4	内外面にケズリが施され、底面は黒ヘラケズリで磨かれたフタケズリ。底面は中央部を黒く塗り、外周部は赤褐色に塗られたフタケズリ。	70	灰白色
5	土師器	甕	18.3	-	-	口縁はケズリが施され、内外面は赤褐色に塗られたフタケズリ。底面は中央部を黒く塗り、外周部は赤褐色に塗られたフタケズリ。	140	土師器分物色

第88表 H46号住居址遺物観察表

#### H47号住居址

1. 黒褐色土 (10YR2/3)  
小石 (3~5cm大)  
多量、炭化物微量。
2. 黒褐色土 (10YR2/3)  
粘土、炭化物少量。
3. 暗赤褐色土 (5YR3/2)  
炭化物多量、黄土<sup>+</sup>少量。
4. 暗褐色土 (10YR3/3)  
炭化物多い、やや砂質。
5. 暗褐色土 (10YR3/4)  
炭化物、やや砂質。
6. 暗赤褐色土 (5YR3/6)  
黄土粒子多量、炭化物微量。
7. 暗赤褐色土 (2.5YR3/6)  
焼土層、(火穴)
8. 黒褐色土 (10YR2/3)  
炭化物微量、砂。
9. 暗赤褐色土 (5YR3/2)  
炭化物、砂少量。
10. 黒褐色土 (10YR2/3)  
小石、炭多量、砂。  
(細方)

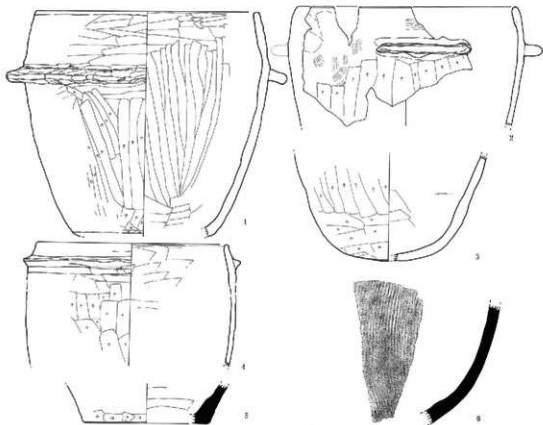


第149図 H47号住居址実測図

遺構は4ーえーHグリッドに位置し、H58、59を切る。規模は東西4.5m、南北4.1m、深さは20cmを測る。平面形態は隅丸方形である。床面は硬が頭を出し凹凸感があるが、全体的には平坦で表面硬質である。壁際の周溝、ピットは確認できなかった。カマドは東壁のやや南寄りに位置する他、西壁南寄りからもカマドの火床と思われる焼土の堆積及び掘り込みが認められた。本住居址は2箇所にかマドが存在したと考

えられる。東カマドは住居内に張り出した袖の一部及び焼土、炭化物の堆積した火床が確認できた。袖は原型をとどめていないが袖内壁に利用された石材が残存していた。掘方は最大13cmの厚みで小礫を多量に含む強粘性の黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕、羽釜、須恵器の甕が出土したが、羽釜の他はいずれも小破片である。図示したのは6点である。1～4は羽釜でいずれも非輪軸成形である。1は厚く粗雑な作りである。2・3は同一個体の可能性があり、部分的に鈎を貼り付けるタイプである。4は口縁と鈎の間が短く、鈎の張り出しが僅かである。5・6は須恵器の甕破片である。本住居址は鈎の位置が口縁から近く、張り出しの少ないもの、鈎を部分的に貼り付ける形態が存在することから11世紀後半、平安時代としたい。



第150図 H47号住居址遺物実測図

番号	種別	器形	口径cm	底径cm	器高cm	遺物・文様	作年・産地	備考
1	土師器	須恵	[28.0]	[18.0]	-	口縁ヘラナゲ、底面直張り、筒縁付付、内面付付ヘラナゲ、内面付付ヘラナゲ、底面付付ヘラナゲ	11世紀後半	非輪軸
2	土師器	甕	[28.0]	-	-	口縁ヘラナゲ、底面付付、筒縁付付、筒縁付付ヘラナゲ、内面付付ヘラナゲ	11世紀後半	非輪軸
3	土師器	甕	-	[18.0]	-	口縁ヘラナゲ、底面付付、筒縁付付、筒縁付付ヘラナゲ、内面付付ヘラナゲ	11世紀後半	非輪軸
4	土師器	甕	[24.0]	-	-	口縁ヘラナゲ、底面付付、筒縁付付、筒縁付付ヘラナゲ、内面付付ヘラナゲ	11世紀後半	非輪軸
5	須恵器	甕	-	[18.0]	-	口縁付付、底面付付、筒縁付付、筒縁付付ヘラナゲ、内面付付ヘラナゲ	11世紀後半	非輪軸
6	須恵器	甕	-	-	-	口縁付付、底面付付、筒縁付付、筒縁付付ヘラナゲ、内面付付ヘラナゲ	11世紀後半	非輪軸

第89表 H47号住居址遺物観察表

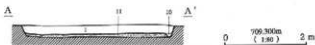
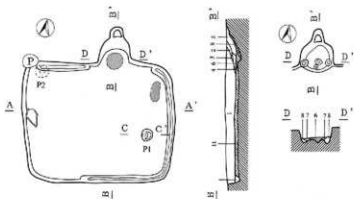
#### H48号住居址

遺構は3ーあーHグリッドに位置し、H52、57を切る。規模は東西3.7m、南北2.0m、深さ20cmを測る。平面形態は隅丸方形である。北、東、南壁にかけて幅13cm、深さ12cm内外の周溝が存在する。床面はシルト質

できめ細かく硬質であり、北東コーナー付近に焼土が認められた。ピットは1個存在するが性格は不明である。カマドは北壁中央に構築され、北壁外に張り出した火床及び煙道の立ち上がりが確認できた。火床周辺の壁面の立ち上がり部分は熱によって赤く硬質化し、火床には最深で厚さ10cmの焼土が堆積していた。掘方は8cm程度の厚みで地山のシルトブロックを含む暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕が出土したが出土量も少なく、小破片が大半を占めるため図示しなかった。本住居址は9世紀後半のH57を切ることから9世紀後半以降の住居址と考えられる。

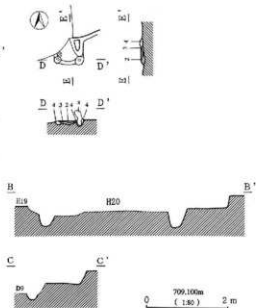
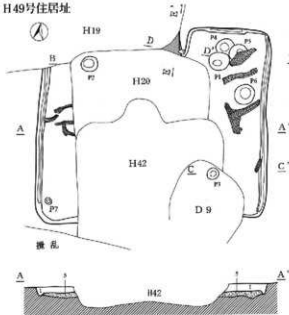
- 6. 赤褐色(2.5YR4/8) 焼土層(火床)
- 7. 暗赤褐色土(5YR2/4) 炭土、炭化物多い。
- 8. 暗褐色土(7.5YR2/3) 炭化物。



- 1. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物。
- 2. 黒褐色土(10YR2/3) 焼土、炭化物。
- 3. 暗赤褐色土(5YR2/4) 焼土? \*?/?
- 4. 暗褐色土(7.5YR2/3) 焼土多い、炭化物。
- 5. 暗赤褐色土(5YR2/3) 炭土、炭化物多い。
- 9. 暗褐色土(7.5YR2/3) 焼土、炭化物。
- 10. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物、黄褐色? \*?/?
- 11. 暗褐色土(10YR2/3) 炭化物、黄褐色? \*?/? \*?/?

### 第151図 H48号住居址実測図

#### H49号住居址



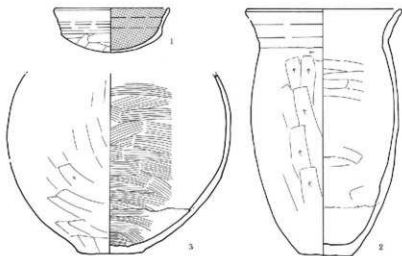
- 1. 黒褐色土(10YR2/3) 炭土、炭化物多い。
- 2. 暗赤褐色土(5YR3/6) 焼土層。(火床)
- 3. 褐色土(7.5YR4/5) 炭化物。

- 4. 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土、炭化物。
- 5. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物、黄褐色? \*?/? \*?/?

### 第152図 H49号住居址実測図



遺構は3ーうーHグリッドに位置し、H19、20、42に大きく切られ、確認できたのは住居の東及び西側部分の一部であるが、住居の全体像は把握できる状況であった。調査規模は東西5.6m、南北4.6m、床面までの深さ20cmを測る。平面形態は方形と考えられる。壁際には一部存在しない箇所もあるが、幅12cm、深さ10cm内外の周溝が認められる。



第153図 H49号住居遺物実測図

床面はきめ細かいシルト質で硬さを持つ。床直上からは多くの炭化材が出土するため焼失住居の可能性もある。ピットは7個確認できP1、2、3が支柱穴と思われる。カマドは北壁中央付近に構築されているが、西側はH19によって完全に破壊されている。確認できたのは火床及び東袖である。火床には焼土が堆積し、中心付近は熱によって硬化している。袖は地山の強粘性粘土を利用しており、先端部に柱状の石材を埋め込んでいた。掘方は全体に10cm内外の厚みで地山の黄褐色シルトブロックを含む暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、甕が出土した。図示したのは3点である。1は底部丸底の土師器坏で稜を有する。2は土師器の長胴甕で復元作業の結果、部分的に欠損しているものの全体像を伺い知ることができ、胴部中央がやや張る。3は球胴甕の下半部で上部は欠損している。

本住居址は、6世紀後半のH19に切られ、甕の胴上部に張りがあることからH19に先行する6世紀後半～7世紀初頭、古墳時代の住居址としたい。

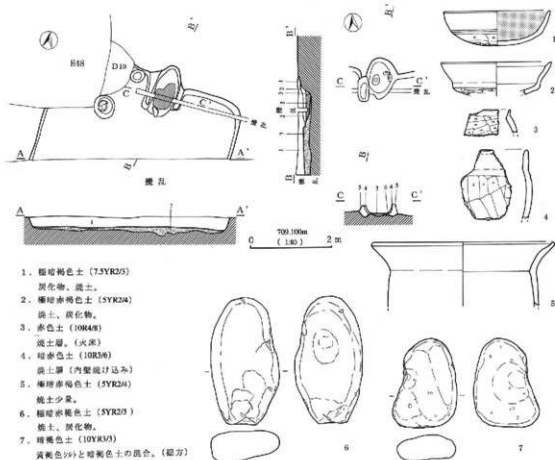
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	遺物・文様	出土位置	図表
1	土師器	坏	34	26	5.5	底部平片ハヘラケズリ コシ線ナシ 内面黄色焼土	80	図153
2	土師器	長胴甕	18.5	6.5	33.5	外表面ヘラケズリ 口縁線ナシ 内面ヘラケズリ	80	図153
3	土師器	甕	—	7.5	—	外表面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	80	図153

第90表 H49号住居遺物観察表

#### H52号住居址

遺構は4ーこーHグリッドに位置し、H48に切られ、南側は水路に破壊されている。調査規模は東西4.8m、南北2.4m、床面までの深さは20cmを測る。平面形態は調査状況から方形と考えられる。覆土は炭化物、焼土を含む暗褐色土の単層である。床面は硬質で北東コーナー付近が若干低くなる。ピットは2個確認できたが支柱穴かは不明である。カマドは北壁中央に構築され、強粘性で付近の地山に見られる粘土を利用して構築された袖及び火床が残存していた。袖長は北壁から西壁80cm、東壁60cmを測り、両袖とも一部攪乱に破壊されている。火床から袖内壁にかけて焼土化しており、火床には8cmの焼土が堆積していた。掘方は5～12cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、鉢、甕が出土した。図示したのは7点である。1・2は土師器坏で1は丸底の底部手持ちヘラケズリで、稜を有する。2は破片で段を有する。3は小型の坏又は鉢の口縁破片で赤色塗彩を施す。4は鉢の口縁破片、5は甕の口縁破片である。本住居址は甕の

嗣の張りが僅かと思われること及び環の形状から6世紀後半～7世紀初頭、古墳時代とした。



第154図 H52号住居址・遺物実測図

番号	形状	断面	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土 場所	調査・出土 層	保存状況	備考
1	土製碗	円	13.1	高底	8.2	北西角付近のヘラケズ	11区外周壁土層 内周壁土層?	破	炭色 炭質
2	土製碗	円	13.3	丸底	—	北西角付近のヘラケズ	11区内外周壁土層	ほぼ全壊	褐色 炭質土
3	土製碗	円	—	—	—	外周ヘラケズ	11区内赤色土層	ほぼ全壊	赤褐色
4	土製碗	円	—	—	—	外周壁ヘラケズ	11区内土層 内周壁ヘラケズ	ほぼ全壊	褐色 炭質土
5	土製碗	楕	22.4	—	—	11区壁土層	掘り出し土層	ほぼ全壊	褐色 炭質土
6	片・破片	楕	15.4	8.3	3.8	11区外周壁土層	赤褐色土層	ほぼ全壊	褐色 炭質土
7	片・破片	楕	10.9	7.8	2.9	11区外周壁土層	赤褐色土層	ほぼ全壊	褐色 炭質土

第91表 H52号住居址遺物観察表

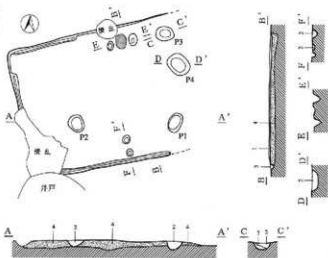
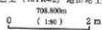
### H53号住居址

遺構は3ーIグリッドに位置し、南西コーナー付近は掘りに破壊されている。本住居址は確認時、床面の状況で東側の住居址範囲は確認できなかった。調査規模は東西4.4m、南北3.3mを測る。床面は平坦で硬質である。北、南、西からは周溝と思われる溝が認められ、ある程度の住居規模を伺い知ることができた。ピットは6個確認できたが主柱穴かは不明である。カマドは北壁に構築されたと考えられ、焼土の堆積した火床及び掘方状の掘り込みが確認できた。掘方は10cm内外の厚みで灰黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕、赤色塗彩された土器片が出上した。いずれも小破片で図示しなかった。

本住居に伴う遺物の確定ができなかったため時期は不明である。

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物多い。
2. 美しい黄褐色土 (10YR5/3) 造山砂粒。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 造山砂粒。
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 造山珪土多い。(東方)

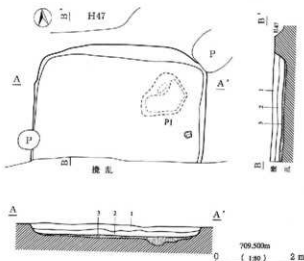


第155図 H53号住居址実測図

#### H54号住居址

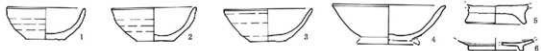
遺構は4-エ-Hグリッドに位置し、H58を切り、南側は水路に破壊される。調査規模は東西4.2m、南北2.8m、深さは25cmを測る。平面形態は調査状況から方形と考えられる。床面は床下に含まれる礫によってやや凹凸感はあるが、使用当時は細かいシルトを埋め込み平用であったと考えられる。ピット、カマドは確認できなかった。掘方は小礫を多量に含む強粘性の黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、碗、甕、須恵器の甕、灰釉陶器、鉄製品が出土した。図示したのは12点である。1～3は坏で小型、4は碗で体部は開き気味に立ち上がる。5は碗の底部、6は灰釉陶器の皿で大原2号窯式と思われるが小破片のため、本住居に伴うかは不明である。7～10は須恵器の破片で外面細かい平行叩き痕を施す。11は緑釉陶器の破片で外面のみ淡い緑釉を施す。12は鉄製品で内部は空洞で中央部及び両端に膨らみを持つ。器種は不明である。本住居址は、小型化した坏が主体であることから10世紀後半～11世紀初頭、平安時代としたい。



1. 黒褐色土 (10YR3/1) 甕 (1～5cm大) 多量。砂粒少量。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 碗 (5cm大) 砂粒。炭化物少量。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 碗 (1～3cm大) 多量。

第156図 H54号住居址実測図



第157図 H54号住居址遺物実測図 (1)



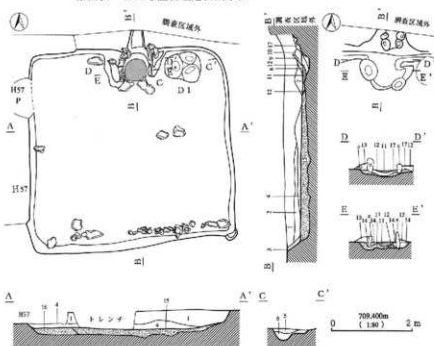
第158図 H54号住居址遺物実測図(2)

番号	部 種	部 示	口徑cm	底径cm	深さcm	説 明・文 庫	検出部位	備 考	
1	土器類	甕	15.1	4.0	4.1	コテコテテ 底面彫刻痕跡あり	90	黒褐色	
2	土器類	甕	15.4	4.0	4.1	コテコテテ 底面彫刻痕跡あり	90	黒褐色	
3	土器類	甕	15.9	4.0	4	コテコテテ 底面彫刻痕跡あり	90	黒褐色	
4	土器類	甕	13.0	3.4	—	コテコテテ 底面彫刻痕跡あり 高台土器 表面彫刻痕跡	90	褐色	
5	土器類	甕	—	2.1	—	高台土器付 表面彫刻痕跡	高台土器底面	黒褐色	
6	灰土類	塗	—	16.6	—	コテコテテ 高台土器付付 中央部中央部彫 溝跡あり 大正2年築成	高台・床面底面	灰白色	
7	灰土類	塗	—	—	—	外周付片	溝底底面	黒灰色	
8	灰土類	塗	—	—	—	外周付片	溝底底面	灰色	
9	灰土類	塗	—	—	—	外周付片 溝壁	溝底底面	灰色	
10	灰土類	塗	—	—	—	外周付片	溝底底面	灰白色	
11	灰土類	塗	—	—	—	外周付片 溝壁付片	溝底底面	灰白色・内面黒褐色	
番号	部 種	部 示	口徑cm	底径cm	深さcm	説 明・文 庫		備 考	
12	遺物類	瓦	15.9	16.7	2.75	1.60	溝壁中央部		

第92表 H54号住居址遺物観察表

H55号住居址

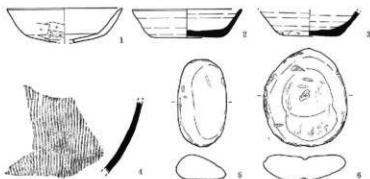
遺構は1-1-G グリッドに位置し、H57に切れ、H56を切る。規模は東西5.0m、南北5.0m、床面までの深さは45cmを測り、平面形態は方形である。床面は上間状を呈し硬質であるが、東側は床下に含まれる礫により凹凸感がある。当時、東側の床面は若干高かった可能性が考えられる。南壁際には人為的と受け取れる石列が存在した。ピットは確認できなかったが、北東コーナー付近にピットの集合体のような形状の上坑が存在した。カマドは北



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄褐色砂。
2. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物、黄褐色砂。
3. 黒褐色土 (10YR2/5) 炭化物。
4. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物多い、炭土。
5. 暗褐色赤褐色土 (2.5YR2/4) 炭土多量、炭化物。
6. 暗褐色赤褐色土 (7.5YR2/3) 炭土、炭化物少量。
7. 暗褐色土 (7.5YR3/5) 炭土、炭化物。
8. 暗褐色土 (7.5YR3/5) 炭土、炭化物多い。
9. 暗褐色赤褐色土 (2.5YR2/3) 炭土多量。
10. 暗褐色赤褐色土 (5YR2/4) 炭土多い、炭化物。
11. 赤褐色土 (2.5YR4/4) 炭土層 (火床)
12. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭土多量。
13. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物、炭土。
14. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 砂質、炭化物。
15. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物、黄褐色砂。
16. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、炭土多い。
17. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、黄褐色多い、砂質。

第159図 H55号住居址実測図

壁中央に構築され粘土で構築された袖及び火床から北壁上に立ち上がる煙道部が残存していた。袖長は北壁から西袖90cm、東袖60cmを測り、内壁部は熱により赤く焼土化していた。袖内部には石材が埋め込まれ補強材として利用していた。火床前には焚口部の天井石が床上に2分され横たわっていた。火床には



第160図 H55号住居址遺物実測図

厚さ8cmの焼土が堆積し、上面はやや硬化していた。掘方は20cmと厚く暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の環、甕、須恵器の環、甕、すり石が出土した。図示したのは6点である。1は土師器環で平底気味にへら調整されている。2・3は須恵器環で底部へら調整され、一部に糸切りの痕跡が残る。4は須恵器甕の破片である。5・6は扁平なすり石で5は楕円、6は円形で、敲きに使用された敲打痕が認められる。

本住居址は、土師器環の形状、底部へら調整され、一部に糸切り痕が残る須恵器環から8世紀前半とした。

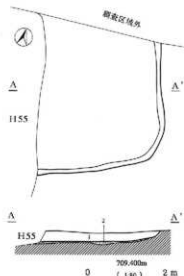
番号	品名	図示	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文書	検出層・部位	備考
1	土師器環	図	[14]	[18.2]	—	底面ヘラツキ 全体に塗布	4B	浅褐色土
2	須恵器環	図	[13.4]	[8.8]	3.4	底面ヘラツキ 内周面ツクリツキ	3B	灰色
3	須恵器環	図	—	[2.2]	—	底面ツクリツキ 底面ヘラツキ 底面ツクリツキ 内周面ツクリツキ	底面・体部破片	灰色
4	須恵器甕	—	—	—	—	外壁ツキ	破片	褐色
番号	品名	図示	長さcm	幅cm	厚さcm	調査・文書		備考
5	すり石	図	14.2	16.7	4	表面敲打痕、裏面すり石		
6	すり石	図	11.9	13.7	3.4	表面敲打痕、裏面すり石		

第93表 H55号住居址遺物観察表

#### H56号住居址

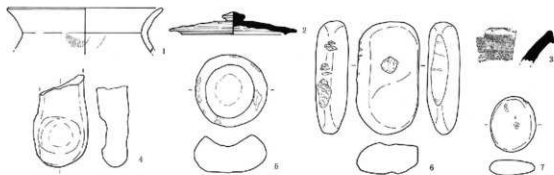
遺構は4-1-Gグリッドに位置し、北側は調査区域外となり、H55に切られる。調査規模は東西3.0m、南北3.6m、床面までの深さは20cmを測る。床面は硬質で、一部礫による凹凸感はあるが全体に平坦である。周溝、ピット、カマドは確認できなかった。掘方は地山の凹凸を平坦にした程度で暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環、甕、須恵器の環、甕、蓋、石製品等が出土した。図示したのは7点である。1は甕の口縁破片、2は須恵器の蓋、4・5は凹石、6は敲石、7は扁平なすり石で6は楕円形、7は円形である。本住居址周辺は切り合い、攪乱が多く、出土した遺物中には小破片を含めると、古墳時代から平安時代の土器が含まれていた。現場調査では9世紀前半のH55に切られていることが確認でき、7世紀後半と思われる返りを持つ須恵器蓋が住居址床面付近から出土していることから、H55号住居址に先行する7世紀後半とした。



1. 黒褐色土 (10YR2/5) 炭化物、黄褐色/砂、礫。
2. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物少量。

第161図 H56号住居址実測図

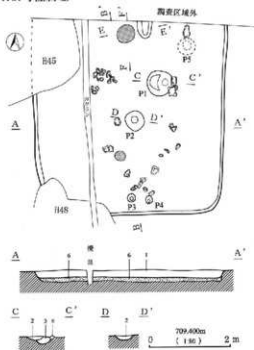


第162図 H56号住居址遺物実測図

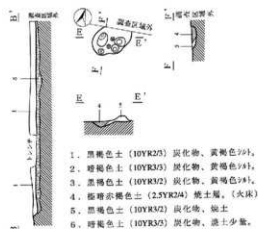
番号	形種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・状況	保存・状態	備考
1	土師器	壺	(19)	—	—	口縁破片ナシ 再製ヘナツグ	口縁破片	褐色
2	灰土器	壺	(12.8)	—	5.8	底アリ ロウキナツグ 空腔の底み盛りに付 自然割片	30	灰色、片断焼土付着
3	灰土器	壺	—	—	—	口縁破片ナシ 再製焼土	口縁破片	灰色
番号	形種	高さcm	口径cm	底径cm	深さcm	調査・状況		
4	灰土	375	11.3	6.7	3.9	焼土6.5cm、深さ3cmの底あり		焼土付・片断焼土
5	灰土	400	8.8	8.7	8.2	焼土6cm、深さ1.5cmの底あり		灰土
6	灰土	580	13.8	7.7	3.8	片断焼土ナシ、片断焼土付着 焼土2.1cm以内の底あり		灰土付着
7	灰土	87.4	6.8	5.5	1.9	片断焼土ナシ		灰土・片断

第94表 H56号住居址遺物観察表

H57号住居址



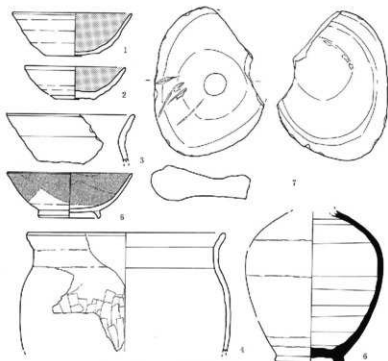
第163図 H57号住居址実測図



遺構は4-こ-Gグリッドに位置し、H48、C2、3に切れ、H45、55を切り、北側は調査区域外となる。H45とは調査順序が逆となった。規模は東西4.6m、南北4.6m、床面までの深さは10cmを測る。平面形態は方形と考えられる。床面は表面がシルト質で堅く平坦で中央、北側の2箇所に焼土範囲が存在した。ピットは床面上で4個、掘方で1個確認できたが主柱穴かは断定できない。カマドは北側で確認された焼土が火床と考えられ、東側に袖の残部と思われる強粘性粘土の張り出しが認められた。掘方は全体に8cm程度の厚みで

暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、甕、轆轤甕、須恵器の壺、灰釉陶器、石製品が出土した。図示したのは7点である。1・2は土師器の坏で1は反り気味に口縁にいたり、2は内脣気味に口縁に至る。4は土師器甕の口縁から胴部にかけての破片で口縁の形態は「コ」の字状を示し、口縁から頸部にかけてナデを施す武蔵甕である。3は轆轤甕の口縁破片である。5は灰釉陶器の碗で、漬け掛けの大原2号窯式と思われる。6は須恵器壺の破損品である。

本住居址は、武蔵甕、灰釉陶器から9世紀後半～10世紀初頭とした。



第164図 H57号住居址遺物実測図

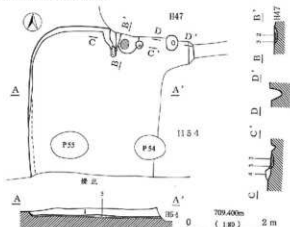
番号	器名	器形	口径cm	底径cm	高さcm	図 像・文 様	焼成中・色化	備 考
1	土師器	坏	15.4	5.9	5.2	コノコナダ 浅底碗形片断 内面黒色染付	30	褐色
2	土師器	坏	12.2	5.2	5.9	コノコナダ 浅底碗形片断 内面黒色染付	40	褐色
3	土師器	轆轤甕	—	—	—	コノコナダ	30	褐色
4	土師器	甕	15.2	—	—	コノコナダ 浅底碗形片断 内面黒色染付	1100-1200	褐色
5	灰釉陶器	碗	16.2	7.2	3.5	コノコナダ 浅底碗形片断 内面黒色染付	30	灰白色 黒色染付オリーブ色
6	須恵器	壺	—	6.2	—	コノコナダ 浅底碗形片断 内面黒色染付	30	灰白色 黒色染付オリーブ色
7	須恵器	壺	15.2	11.4	4.9	内面平らな底面 内面黒色染付あり	—	褐色

第95表 H57号住居址遺物観察表

#### H58号住居址

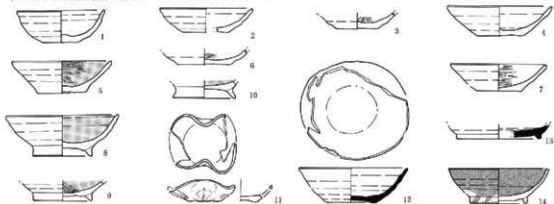
遺構は1ーおーHグリッドに位置し、H47、54に切れ、南側は水路に破壊される。調査規模は東西3.8m、南北3.6m、床面までの深さは18cmを測る。床面は床下に含まれる礫によってやや凹凸感はあるが、全体としては平坦で堅い。ピットは北壁際に1個確認できたが性格は不明

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 礫 (1~3cm大)、炭化物微量。
2. 暗褐色土 (5YR3/6) 粘土層。(火床)
3. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘土粒子、炭化物少量。
4. 黒褐色土 (10YR3/1) 砂粒少量。
5. 暗褐色土 (10YR2/5) 小石、礫多量、砂、(無方)



第165図 H58号住居址実測図

である。カマドは北壁にあるが北側はH47に破壊され、西袖及び火床が確認できた。西袖長は北壁から70cmを測り、先端に石材が残存していた。火床には厚さ4cm内外の焼土の堆積及び地山への焼け込みが認められた。掘方は礫の凹凸を埋め、床面を平坦にする程度で黒褐色土が敷き詰められていた。遺物は土師器の坏、碗、耳皿、須恵器の高台付坏、坏、甕、灰釉陶器が出土した。図示したのは14点である。1～7は土師器坏で8～10は碗、11は耳皿で、側面にへら又は棒状の工具で押しつぶした痕跡が認められる。12は須恵器坏で横から押しつぶした平面楕円状の杓状坏で成形は雑である。13は高台付坏の底部破片、14は灰釉陶器の碗で、大原2号窯式又は虎渓山1号窯式と思われる。本住居址は周辺との切り合い関係、遺物の主体が碗、中型の坏であり、灰釉陶器の存在から10世紀前半とした。



第166図 H58号住居址遺物実測図

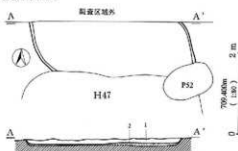
図号	器名	器形	寸法(cm)	容積(cc)	重量(g)	素材・文様	発見層・部位	備考
1	土師器	坏	[15.4]	[4.4]	3.9	内外面にクワコナダ 底面輪転成形	50	褐色土質
2	土師器	坏	[21.4]	[8.4]	[2.9]	内外面にクワコナダ 底面輪転成形	100	褐色
3	土師器	坏	[15.4]	[4.4]	3.9	内外面にクワコナダ 底面輪転成形	100	褐色
4	土師器	坏	[12.4]	[3.9]	3.5	内外面にクワコナダ 底面輪転成形	80	褐色
5	土師器	坏	[22.3]	[6]	3.9	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 内面褐色土質 内裏にびんぎの痕跡	80	褐色
6	土師器	坏	[18.4]	[6.4]	—	内外面にクワコナダ 底面輪転成形	100	褐色
7	土師器	坏	[31.9]	[9.7]	3.3	内外面にクワコナダ 内面とびんぎの痕跡 底面輪転成形	100	褐色
8	土師器	碗	[13.9]	[7.1]	3	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 内面褐色土質	80	褐色
9	土師器	碗	—	[7]	—	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 内面褐色土質	高台100	褐色
10	土師器	碗	—	[7.3]	—	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 内面褐色土質	高台100	褐色・黒褐色
11	土師器	耳皿	[18.2]	[4.2]	2.0	底面輪転成形 内面とびんぎの痕跡	70	褐色
12	須恵器	坏	[13.1]	[6.2]	4.2	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 側面にへら押しつぶした痕跡	80	褐色
13	須恵器	高台付坏	[15.4]	[4.4]	—	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 内面褐色土質 高台付	高台100	褐色
14	灰釉陶器	碗	[10.2]	[6.7]	3.3	内外面にクワコナダ 底面輪転成形 内面褐色土質 高台付	100	灰白色

第96表 H58号住居址遺物観察表

### H59号住居址

遺構は4-エ-Gグリッドに位置し、H47に切られ、北側は調査区域外となる。調査規模は東西3.8m、南北1.4m、床面までの深さは最大で10cmを測る。平面形態は不明である。床面は、ほぼ平坦で堅さを持つ。ピット、カマドは確認できなかった。掘方は薄く黒褐色土が詰めら

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 小石多量。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石、砂多量、砂。



第167図 H59号住居址実測図



れていた。

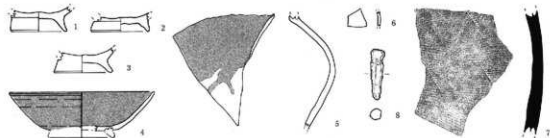
遺物は土師器の坏、甕、灰釉陶器が出土したが、いずれも小破片で出土量が僅かである。本住居址の遺物は、灰釉陶器、薄手の甕片が含まれ、10世紀後半のH47に切られることから9世紀～10世紀前半としたい。

### H60号住居址

遺構は3-エ-1グリッドに位置し、南側は調査区域外となる。本住居址は、確認時点で床面の状態で西側の確実な住居範囲は確認できなかった。調査規模は東西3.7m、南北2.1m、深さは最深で10cmを測り、平面形態は残存状況から方形と考えられる。床面の東側は平坦で安定しているが、西側は地山の礫が露出した状況で、凹凸感が激しい。床面自体が実際、やや上面である可能性が伺える。ピット、カマドは確認できなかった。

遺物は土師器坏、碗、甕、須恵器甕、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品が出土した。図示したのは8点である。1～3は土師器碗の高台部、4・5は灰釉陶器である。4は高台を欠損した輪花碗で、虎溪山1号窯式と思われる。5は壺の肩部破片である。6は緑釉陶器の破片、7は須恵器甕の破片で外面叩きを施す。8は鉄製品で釘と思われる。

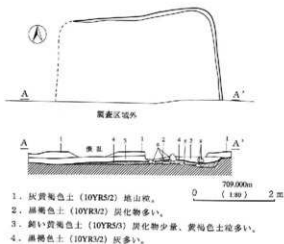
本住居址は、足高気味の土師器碗、緑釉陶器の存在から10世紀後半～11世紀初頭としたい。



第169図 H60号住居址遺物実測図

番号	品名	形状	寸法cm	重量g	検出層	調査・文書	所在(調査点)	備考
1	土師器	碗	—	6.3	—	高台部(行付) 中・中・高	高台部(10)	浅黄褐色
2	土師器	碗	—	5.1	—	高台部(行付)	高台部(12)	浅黄褐色
3	土師器	碗	—	7.7	—	高台部(行付)	高台部(13)	浅黄褐色
4	灰釉陶器	碗	7.17.41	—	—	コケテラ 高台部(行付) 溝付(行付) 輪花碗 虎溪山1号窯式	高台部(14)	灰白色
5	灰釉陶器	壺	—	—	—	コケテラ 高台部(行付) 溝付(行付) 輪花碗 虎溪山1号窯式	高台部(15)	灰白色
6	緑釉陶器	破片	—	—	—	内作高台部 高台部	高台部(16)	灰白色
7	須恵器	甕	—	—	—	内作高台部 高台部	高台部(17)	灰白色
8	鉄釘	鉄釘	10.77	6.44	1.70	1.30	—	—

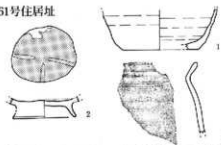
第97表 H60号住居址遺物観察表



第168図 H60号住居址実測図

1. 灰黄褐色土 (10YR5/2) 地山礫。  
2. 黄褐色土 (10YR3/2) 炭化物多い。  
3. 黄褐色土 (10YR5/3) 炭化物少量、黄褐色土混多。  
4. 黄褐色土 (10YR3/2) 灰多い。

### H61号住居址



遺構は3-ルーJグリッドに位置し、H62を切り、H60、単独ピットに切られ、南側は調査区域外となる。調査規模は東西3.8m、南北70cm、床面までの深さは10cmを測る。床面は平坦で硬質である。ピットは2個確認できた。カマドは北壁に構築され、一部熱により焼土化している。掘方は最深部で25cmと厚く鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環、碗、轆轤甕が出土した。図示したのは3点である。いずれも土師器で、1は環と思われる。2は碗で高台が薄く開きみである。内面黒色処理で「十」字状の暗文を施す。

本住居址は、暗文を施す碗、轆轤甕の存在及び緑釉を伴う10世紀前半のH60に切られることから9世紀後半、平安時代としたい。

図号	品名	品類	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土	保存中状況	備考
1	土師器	環	[5.5]	—	—	コクナツブ 調査区掘出物	底面~側面緑釉	黄褐色
2	土師器	碗	[7.1]	—	—	高台切り付け 内面黒色処理・斜斜的埋文	底面~底縁	黄褐色
3	土師器	轆轤甕	—	—	—	コクナツブ	口縁~底面緑釉	緑色

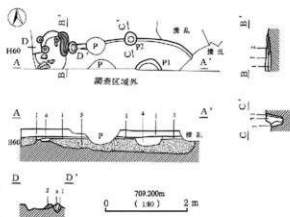
第98表 H61号住居址遺物観察表

### H62号住居址

遺構は3-い-1Jグリッドに位置し、攪乱に広範囲に渡って破壊され、確認できたのはカマドを含めた北壁から東壁にかけてと床面の一部である。調査規模は東西3.0m、南北1.6m、床面までの深さは最深で10cmを測る。床面はシルト質の硬質面を持ち、ほぼ平坦である。ピットは2個確認でき東側ピット上には石が据えられていた。カマドは北

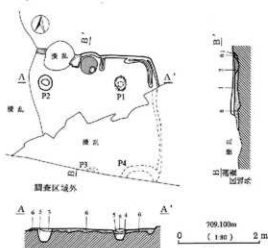
1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 褐色土地山粒。
2. 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 礫土層。
3. 鈍い黄褐色土 (10YR7/4) 地山と黒褐色土の混合土。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土質。
5. 鈍い黄褐色土 (10YR7/4) 地山二次堆積。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 鈍い黄褐色土。(掘方)

第171図 H62号住居址実測図

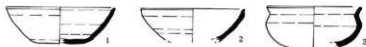


1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 新赤土
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、鈍い黄褐色土粒。
2. 棕色土 (5YR6/6) 焼け込み
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土質。(柱版)
4. 鈍い黄褐色土 (10YR5/3) 地山?砂、礫土、炭化物、灰。
5. 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土粒、地山?砂。

第170図 H61号住居址・遺物実測図



壁に構築され、袖等の構築物は完全に破壊され、火床及び散乱した石材の一部のみ認められた。火床の中心は熱により硬化し、焼土の厚



第172図 H62号住居址遺物実測図

みは10cmを測る。掘方は5～10cmの厚みで地山を主体とする灰黄褐色土が埋め込まれていた。

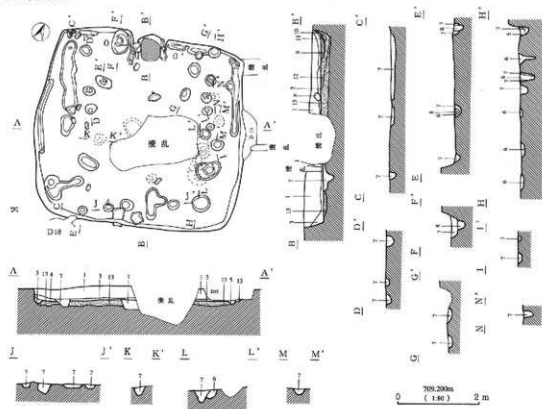
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、壺が出土した。土師器はいずれも小破片のため図示しなかった。1～3は須恵器坏で底部から口縁にかけての破片で底部へラ調整を施す。2は口縁の破片である。3は小型の広口壺状の破片で底部周辺ヘラケズリを施す。

本住居址は底部へラ調整された須恵器坏、破片中に土師器の丸底手持ちヘラケズリの坏が認められることから8世紀第Ⅰ四半期、奈良時代としたい。

番号	品名	器形	寸法cm	出所	調査・発見	構成中の位置	備考
1	須恵器	坏	〔13.3〕	〔4.4〕	コタロケダ 底部ヘラケズリ	2B	黄褐色
2	須恵器	坏	〔12.4〕	—	コタロケダ	口縁-体部接合	灰色
3	須恵器	坏	〔10.3〕	—	コタロケダ 底部下マ-底部ヘラケズリ	口縁-底部接合	灰色

第99表 H62号住居址遺物観察表

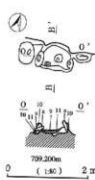
### H63号住居址



第173図 H63号住居址実測図

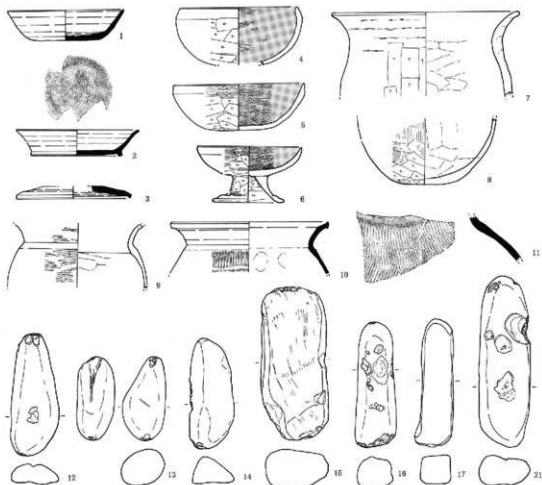
遺構は1-1-1グリッドに位置し、床面中央付近を攪乱に破壊される。規模は東西5.1m、南北4.6m、床面までの深さは35cmを測る。覆土は強粘性暗褐色土の単層である。床面は土間状に堅く、壁隙が低くなる。床面上には多数のピットが存在する。カマドは北壁中央に構築され両袖及び火床が確認できた。

北壁からの袖長は西、東袖ともに約70cmを測り、内壁寄りに扁平な石材が埋め込まれていた。火床部は径60cmの範囲で焼土が堆積し、厚さは8cmを測る。掘方は15~20cmの厚みで鈍い黄褐色土が埋め込まれ、上面に2cm程度の貼り床と思われる硬質面を持つ。



1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量、鈍い黄褐色土粒。
2. 褐色土 (10YR4/4) 灰、焼土、炭画在。
3. 暗褐色土 (10YR2/3) 炭化物。
4. 暗褐色土 (10YR2/2) 鈍い黄褐色。
5. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4)
6. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山砂少量。
7. 暗褐色土 (10YR3/5) 地山砂多量。
8. 暗褐色土 (10YR3/2) 柱痕。
9. 明赤褐色土 (5YR5/6) 塗二層。
10. 黄褐色土 (10YR5/6) 地山粘土。(カマド)
11. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 塗土粒子、炭化物。(カマド掘方)
12. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) (掘方)
13. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 黒褐色土。(掘方)

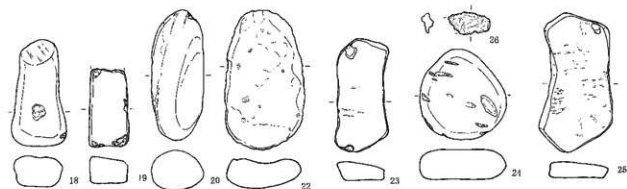
第174図 H63号住居址カマド実測図



第175図 H63号住居址遺物実測図 (1)

遺物は土師器の坏、甕、高坏、須恵器の坏、甕、蓋、轂・すり石、鉄製品が出土した。図示したのは26点である。1～3は須恵器で1は底部回転ヘラケズリされた坏、2は回転ヘラケズリ後高台貼り付けの高台付坏で内面みこみ部に叩き痕が認められる。3は蓋の破片である。4～9は土師器で4は丸底、5は平底気味で深みのある坏、6は脚部が低く半球状の浅い坏部の高坏、7・8は同一個体の可能性があり、底部丸底気味の長胴甕である。9は小型の甕である。10・11は須恵器の甕破片で外面に叩き痕を残す。12～25は住居址西側の床面上から出土した轂・すり石に使用された石器である。26は鉄製品の破片で鎌の先端部と考えられる。

本住居址は底部回転ヘラケズリの須恵器坏、丸底土師器坏、器高の低い土師器高坏の存在から8世紀第IV半期、奈良時代としたい。



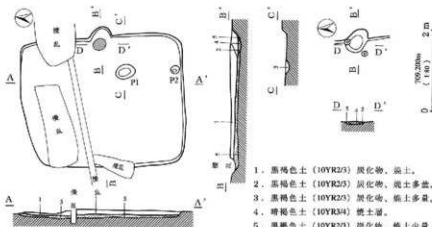
第176図 H63号住居址遺物実測図(2)

番号	器名	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文書	保存・部位	備考
1	須恵器 坏	114.21	76.67	8.7	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ		30	丸底気味
2	須恵器 坏	115.17	71.13	8.7	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け	内面叩き	40	丸底気味
3	須恵器 蓋	75.57	—	—	回転ヘラケズリ 丸底ヘラケズリ	—	破片	丸底
4	土師器 坏	114.42	115.42	—	丸底ヘラケズリ 丸底気味破片	—	30	深い黄褐色
5	土師器 坏	115.01	17.7	5.7	丸底ヘラケズリ 丸底気味破片	内面叩き丸底気味	40	深い黄褐色
6	土師器 高坏	122.87	18	16.81	丸底気味破片 丸底気味、底部回転ヘラケズリ、丸底気味、丸底気味ヘラケズリ	—	破片	丸底気味
7	土師器 坏	72.7	—	—	丸底ヘラケズリ 丸底ヘラケズリ	—	破片	丸底気味
8	土師器 坏	—	8.5	—	丸底ヘラケズリ 丸底気味、丸底気味、丸底気味ヘラケズリ	丸底気味ヘラケズリ	白漆	丸底気味
9	土師器 甕	—	—	—	丸底ヘラケズリ 丸底気味ヘラケズリ	丸底ヘラケズリ	丸底	丸底気味
10	須恵器 甕	100	—	—	丸底ヘラケズリ 丸底気味破片	丸底気味破片	二部	丸底気味
11	須恵器 甕	—	—	—	丸底ヘラケズリ	丸底気味破片	丸底	丸底気味
12	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
13	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
14	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
15	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
16	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
17	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
18	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
19	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
20	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
21	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
22	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
23	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
24	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
25	石器 轂	—	—	—	—	—	—	—
26	鉄器 破片	11.8	4.40	7.4	—	—	—	鎌先端部と思われる

第100表 H63号住居址遺物観察表

### H64号住居址

遺構は4-けーJ  
グリッドに位置し、  
H75を切り、部分的  
に攪乱に破壊される。  
規模は東西3.2m、  
南北4.4m、床面ま  
での深さ10cmを測  
る。床面は、ほぼ平  
坦で硬質である。ピ  
ットは2個確認でき  
たが支柱穴かは断定  
できない。カマドは

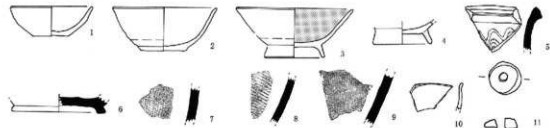


第177図 H64号住居址実測図

東壁中央に位置し、北壁外への張り出し及び火床が確認できた。袖は認められなかった。火床は径30cmの範囲で約5cm厚の焼土が堆積していた。掘方は5cm内外の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、碗、須恵器の甕、緑軸陶器、白玉が出土した。1・2は土師器坏で、1は小型、2は中型で深みがある。3・4は土師器碗で3は底部から開きながら直線的に口縁部に至る。4は坏部を欠損した高台から底部である。5～9は須恵器で5は甕の口縁破片、6は壺の底部、7～9は甕の破片である。10は緑軸陶器碗の口縁破片である。11は滑石製の白玉で混入の可能性がある。

本住居址は、緑軸陶器の存在、小型の土師器坏、碗の高台が足高気味であることから、10世紀後半～11世紀初頭、平安時代としたい。



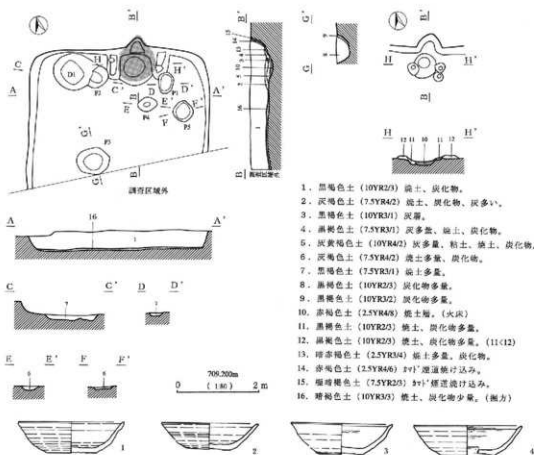
第178図 H64号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・土 層	埋存層・部位	備 考
1	土師器	坏	10.1	6.4	3.7	カタコナダ 黒泥層(軟土)切り	90	黒い褐色
2	土師器	坏	13.3	8.5	6.3	カタコナダ 黒泥層(軟土) 土壌層	80	黒褐色
3	土師器	碗	34.41	12.21	6.1	カタコナダ 黒泥層(軟土)より黒泥層(硬土)へ切り 内面(滑石)処理	80	黒い褐色
4	土師器	碗	—	7.1	—	カタコナダ 黒泥層(軟土)より黒泥層(硬土)へ切り	高台(底径)80	黒い褐色
5	須恵器	甕	—	—	—	カタコナダ 黒泥層(軟土) 内面(滑石)処理	口縁破片	褐色
6	須恵器	甕	—	21.31	—	黒泥層(軟土)より黒泥層(硬土)へ切り 内面(滑石)処理	底面破片	褐色
7	須恵器	甕	—	—	—	黒泥層(軟土)	破片	褐色
8	須恵器	甕	—	—	—	黒泥層(軟土)	破片	褐色
9	須恵器	甕	—	—	—	黒泥層(軟土)	破片	褐色
10	緑軸陶器	碗	—	—	—	カタコナダ 内面(滑石)処理	口縁破片	褐色
11	白玉	—	6.11	6.7	6.98	6.2	—	厚さ約5mm オリーブ褐色

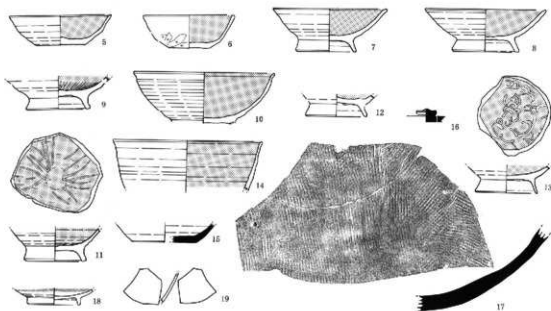
第101表 H64号住居址遺物観察表

## H65号住居址

遺構は4ーキーJグリッドに位置し、H66を切り、南は調査区域外となる。規模は東西4.4m、南北3.2m、床面までの深さは45cmを測る。平面形態は隅丸方形と考えられる。覆土は焼土、炭化物を含む黒褐色土の単層である。床面はきめ細かく平坦で硬質である。ピットは5個確認でき、P1〜3が主柱穴と考えられP1上面には土器片が据えられていた。北西コーナー付近には径90cm、深さ35cmの土坑が存在する。カマドは北壁中央の東寄りに位置する。軸は破壊され僅かな痕跡が認められたが、火床から立ち上がる煙道にかけての壁面は熱によって広範囲に渡り硬く焼土化し、火床には8cm程度の厚みで焼土が堆積していた。掘方は薄く貼り床状に暗褐色土が敷き詰められていた。遺物は土師器の坏、碗、轆轤甕、須恵器の坏、蓋、灰軸陶器、緑軸陶器が出土した。図示したのは19点である。1〜6は土師器の坏で4の内面に墨痕が認められる。7〜14は土師器の碗で内面黒色処理を施す。15は須恵器坏の破片で底部回転糸切り無調整、16は須恵器蓋で宝珠つまみ貼り付けである。18は灰軸陶器で大原2号窓式と思われる。19は緑軸陶器の破片である。本住居址は緑軸陶器、足高気味の碗が認められるが、完全に小型化した土器が伴わないことから10世紀前半、平安時代としたい。



第179図 H65号住居址・遺物実測図



第180図 H65号住居址遺物実測図

番号	品名	材質	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 種	出土層・部位	備 考
1	土器鉢	滑	[12.8]	6	6.9	コタロナダ 高野山系赤褐色	92	褐色斑、赤褐色
2	土器鉢	滑	[11.8]	5.3	5.3	コタロナダ 高野山系赤褐色	93	褐色・褐色
3	土器鉢	滑	[12.2]	5.7	5.8	コタロナダ 高野山系赤褐色	94	褐色
4	土器鉢	滑	[13.2]	[6.8]	5.9	コタロナダ 高野山系赤褐色	95	褐色・褐色
5	土器鉢	滑	[12.1]	5.8	5.6	コタロナダ 高野山系赤褐色 内面赤褐色	96	褐色・褐色
6	土器鉢	滑	[11.2]	6.3	6	コタロナダ 高野山系赤褐色 内面赤褐色	97	赤褐色
7	土器鉢	滑	[13.9]	7.4	5.2	コタロナダ 高野山系赤褐色 赤褐色斑・赤褐色	98	褐色
8	土器鉢	滑	[14.8]	8.2	5.2	コタロナダ 高野山系赤褐色 赤褐色斑・赤褐色	99	赤褐色
9	土器鉢	滑	—	7.8	—	コタロナダ 高野山系赤褐色	100	赤褐色
10	土器鉢	滑	[17.3]	—	—	コタロナダ 高野山系赤褐色 高野山系 赤褐色斑	101	赤褐色
11	土器鉢	滑	—	7.5	—	コタロナダ 高野山系赤褐色 赤褐色斑・赤褐色	102	褐色
12	土器鉢	滑	—	7.3	—	コタロナダ 高野山系赤褐色 内面赤褐色	高野・高野100	赤褐色
13	土器鉢	滑	—	[7.1]	—	コタロナダ 高野山系赤褐色 内面赤褐色	高野・高野101	赤褐色
14	土器鉢	滑	[18.2]	—	—	コタロナダ 褐色斑	高野・高野102	赤褐色
15	土器鉢	滑	—	8	—	コタロナダ 高野山系赤褐色	高野・高野103	褐色
16	土器鉢	滑	[18.9]×9.4	—	—	コタロナダ 高野山系赤褐色	高野・高野104	赤褐色
17	土器鉢	滑	—	—	—	高野山系	高野105	赤褐色
18	土器鉢	滑	[14.8]	—	[6.5]	コタロナダ 高野山系赤褐色 高野山系 赤褐色	高野106	赤褐色
19	土器鉢	滑	—	—	—	高野山系	高野107	赤褐色

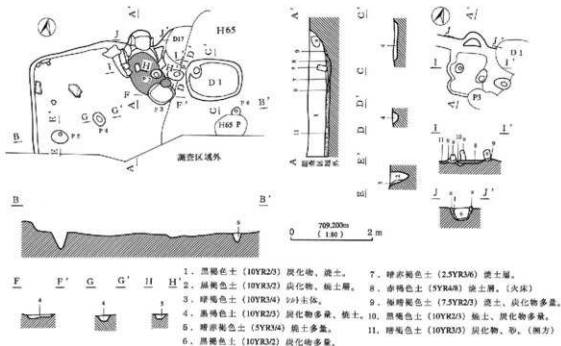
第102表 H65号住居址遺物観察表

### H66号住居址

遺構は4ーくーJグリッドに位置し、東側をH65、D17に切られ、南側は調査区域外となる。調査規模は東西3.8m、南北2.8m、床面までの深さは45cmを測る。平面形態は調査状況から方形と考えられる。覆土は炭化物、焼土を含む強粘性の単層である。床面はきめ細かく、平坦で硬質面を持つ。ピットは6個確認でき、P5、6が主柱穴である可能性が伺える。住居址東側には長径140cm、深さ13cmの土坑が存在する。カマドは北壁に位置し、袖の一部及び火床から煙道にかけての立ち上がりが認められた。袖付近には構築に使用され



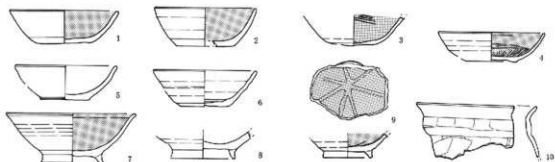
たとえられる石材が散在し、煙道上部には焼けた天井石が残存していた。火床には径1mと広範囲にわたり焼土が堆積し、厚さは13cmを測る。掘方は6cm内外の厚みで砂質気味の暗褐色土が埋め込まれていた。



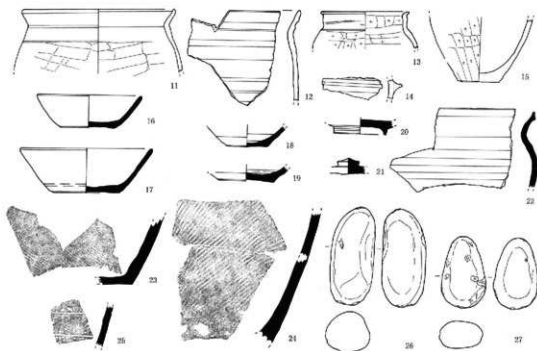
第181図 H66号住居址実測図

遺物は土師器の坏、碗、甕、須恵器の坏、蓋、甕、すり石が出土した。図示したのは27点である。1～15は土師器である。1～6は坏で、1・2の底部全面はヘラ調整を施す。他は回転糸切り後無調整である。7～9は碗で9の内面は放射状の暗文を施す。10は口縁「コ」の字状の武蔵甕である。13は小型の甕破片、14は羽釜の鈿破片、15は甕の底部である。16～25は須恵器で16～19は底部糸切り後無調整の坏、20は高台付坏の破片、21は蓋で宝珠つまみ貼り付けである。22は広口の甕口縁破片、23は甕底部、24・25は胴部の破片、26・27は胎・すり石と思われる。

本住居址は頸部「コ」の字の武蔵甕の存在、須恵器が多く含まれることから9世紀前半、平安時代としたい。



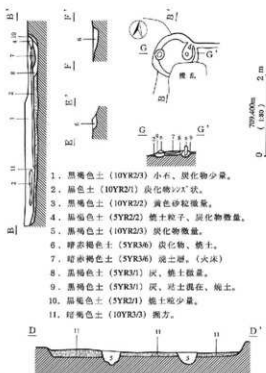
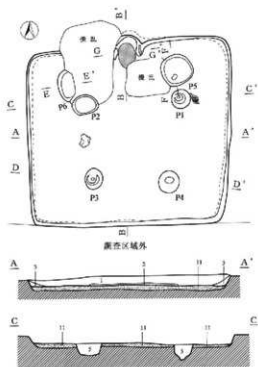
第182図 H66号住居址遺物実測図(1)



第183図 H66号住居址遺物実測図(2)

番号	品名	図形	口径cm	底径cm	高さcm	重量g	調査・文様	保存中・部位	備考
1	土師器	鉢	13.2	5.9	4.1		ロクロナデ 浅鉢・両辺ヘラナデ 内底黒色染	49	浅黒褐色
2	土師器	鉢	[12.2]	[5.8]	4.7		ロクロナデ ヘラナデ 内底黒色染	58	褐色 カマツ
3	土師器	鉢	—	[8]	—		ロクロナデ 両辺内底黒色 内底黒色染 両側取手ナシ	浅鉢・取手部分	灰・褐色
4	土師器	鉢	[10.4]	4.2	3.6		ロクロナデ 両辺内底黒色 内底黒色染 両側取手ナシ	49	黄褐色
5	土師器	鉢	[12.8]	3.9	4.3		ロクロナデ 両辺内底黒色	59	灰・褐色
6	土師器	鉢	[10.6]	4.9	4.5		ロクロナデ 両辺内底黒色	59	灰・黄褐色
7	土師器	鉢	15.9	7.5	6.2		ロクロナデ 両辺内底黒色 取手部分ナシ 内底黒色染	70	灰・褐色
8	土師器	鉢	—	2.9	—		ロクロナデ 両辺内底黒色 取手部分ナシ	高台へ着け	褐色 カマツ
9	土師器	鉢	—	8	—		ロクロナデ 高台部分ナシ 内底黒色染	高台へ着け	灰・褐色
10	土師器	鉢	—	—	—		石製ナデ 両辺・両側外底黒ヘラナデ 内底黒ヘラナデ	両縁・取手部分	黄褐色
11	土師器	鉢	[10.5]	—	—		石製ナデ 両辺・両側外底黒ヘラナデ 内底黒ヘラナデ	両縁・取手部分	灰・褐色
12	土師器	碗	—	—	—		ロクロナデ	両縁・取手部分	褐色
13	土師器	小皿	[11]	—	—		石製ナデ 両辺・両側外底黒ヘラナデ 内底黒ヘラナデ	両縁・取手部分	褐色
14	土師器	片断	—	—	—		両縁ナシ	片断	灰白色
15	土師器	碗	—	[10.2]	—		両縁外底黒ヘラナデ 内底黒ヘラナデ	両縁・取手部分	灰・黄褐色 カマツ
16	土師器	片断	13.1	6.6	4.1		ロクロナデ 両側取手ナシ	45	褐色 片断ナシ カマツ
17	土師器	片断	[10.7]	[6.1]	3.9		ロクロナデ 両側取手ナシ	45	褐色 片断ナシ カマツ
18	土師器	片断	—	4.1	—		ロクロナデ 両側取手ナシ	両縁・取手部分	灰白色
19	土師器	片断	—	4.9	—		ロクロナデ 両側取手ナシ	両縁・取手部分	黄褐色
20	土師器	高台付片	—	[6.8]	—		ロクロナデ 両側取手ナシ 取手部分ナシ	高台・取手部分	褐色
21	土師器	片断	—	—	—		取手部分ナシ	両縁・取手部分	褐色
22	土師器	片断	—	—	—		ロクロナデ	両縁・取手部分	褐色
23	土師器	片断	—	—	—		両側取手ナシ	両縁・取手部分	灰褐色
24	土師器	片断	—	—	—		両側取手ナシ	取手部分	黄褐色
25	土師器	片断	—	—	—		両側取手ナシ	取手部分	褐色
番号	品名	重量g	長さcm	幅cm	厚さcm	調査	備考		
26	粘土	491	12.2	5.3	3	一面に磨りこむ取手の跡あり			
27	磨りこみ石	104	8.9	3.4	3.4	表面を磨りこむ			

第103表 H66号住居址遺物観察表

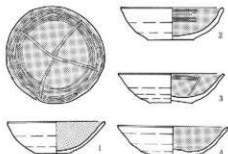


1. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石、炭化物少量。
2. 黒色土 (10YR2/1) 炭化物「V」状。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄色砂粒微量。
4. 黒褐色土 (5YR2/3) 粘土粒子、炭化物微量。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物微量。
6. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 炭化物、粘土。
7. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土層。(火床)
8. 高褐色土 (5YR3/1) 灰、粘土微量。
9. 黒褐色土 (5YR3/1) 灰、粘土痕在、粘土。
10. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘土粒少量。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 掘方。

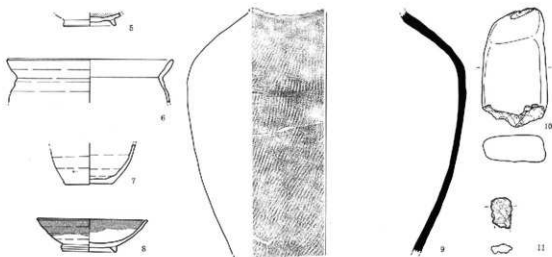
第184図 H68号住居址実測図

遺構は4ーおーJグリッドに位置し、H95を切り、H76に切られる。北壁の一部を攪乱に破壊されている。規模は東西4.9m、南北4.6m、床面までの深さは20cmを測り、平面形態は方形である。覆土は黒褐色土の平層で床面直上に筋状の炭化層が堆積している。床面上には土層断面で確認できた炭化層が認められ、当時使用していた敷物が炭化したものと考えられる。床面は平坦で硬質である。ピットは4個の支柱穴が認められた。カマドは北壁中央に構築され、袖の一部と火床が確認できた。北壁からの袖長は東袖30cmを測り、西袖は攪乱に破壊されている。袖は強粘性の粘土を使用し、石材が埋め込まれていた。掘方は10cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれ、硬質である。遺物は土師器の坏、碗、轆轤甕、小型甕、須恵器の坏、甕、灰釉陶器、すり石、鉄製品が出土した。図示したのは11点である。1～7は土師器である。1～4は坏で内面黒色処理を施し、1は「十」字状の暗文が、1・2の口縁付近の内外面には炭化した付着物が認められ、灯明皿として使用された可能性がある。3は摩耗しているが、暗文を施した痕跡がある。5は碗の高台部、6は轆轤甕の口縁破片、7は小型轆轤甕の胴下半である。8は灰釉陶器の碗で大原2号窯式と思われる。9は須恵器の甕で、10はすり石である。11は鉄製品で器種は不明である。遺構調査では検出時にH76が床面に近かったことから本住居址が切る状況に見えたが、遺物の特徴から、新旧遊と判断した。

本住居址は暗文を施す坏、やや小型化した土師器坏が含まれることから10世紀前半としたい。



第185図 H68号住居址遺物実測図(1)



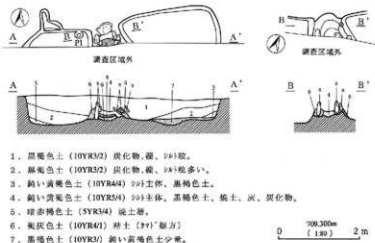
第186図 H68号住居址遺物実測図(2)

番号	品種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土地	発見地・部位	備考
1	土師器	埴	13	4.4	8	コナツナツ 庭園跡への土師器 内面黄色化粧・下口縁文・口縁部 の耳	100	黄い黄褐色
2	土師器	埴	12.0	5.5	8	コナツナツ 庭園跡への土師器 内面黄色化粧	100	黄い黄褐色
3	土師器	埴	18.0	8.2	8.0	コナツナツ 庭園跡への土師器 内面黄色化粧・縁文 表面磨光	10	黄い黄褐色
4	土師器	埴	18.0	7.8	8.2	コナツナツ 庭園跡への土師器 内面黄色化粧	10	黄い黄褐色
5	土師器	罎	—	6.5	—	コナツナツ 庭園跡への土師器への土師器 内面黄色化粧	底口・底面	黄い黄褐色
6	土師器	鉢	25.4	—	—	コナツナツ	口縁部	黄い黄褐色
7	土師器	鉢	—	8.0	—	庭園跡	底口・底面	黄い黄褐色
8	土師器	罎	15.0	6.0	0	コナツナツ 庭園跡への土師器への土師器 裏口部	裏口部	黄い黄褐色
9	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
10	土師器	罎	15.0	6.0	0	コナツナツ 庭園跡への土師器への土師器 裏口部	裏口部	黄い黄褐色
11	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
12	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
13	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
14	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
15	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
16	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色
17	土師器	罎	—	—	—	庭園跡	裏口部	黄い黄褐色

第104表 H68号住居址遺物観察表

H70号住居址

遺構はイーシーグリッドに位置し、南側の大半は調査区域外となる。覆土は壁方向から流れ込んだ状態で堆積していることから自然堆積の可能性が伺える。調査規模は東西5.0m、南北80cm、床面までの深さは56cmを測る。床面は強粘性シルトでやや堅さを持つ。支柱穴は確認できなかった。カマドは北壁中央に構築され地山の強粘性粘土を利用した袖が確認でき、調査区域外との境界付近から構築材に使用した



第187図 H70号住居址実測図

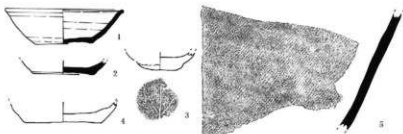
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、礫、砂多量。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、礫、砂多い。
3. 黄褐色土 (10YR4/4) 砂主体、黒褐色土。
4. 黄褐色土 (10YR5/4) 砂主体、黒褐色土、粘土、炭化物。
5. 赤褐色土 (5YR5/4) 粘土層。
6. 灰褐色土 (10YR4/1) 粘土 (砂) 層。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土少量。

と考えられる石材が認められた。火床には厚さ5cm程度で焼土が堆積していた。掘方は薄く黄褐色シルトを含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は須恵器の坏、甕、土師器の坏、甕が出土した。

大半が小破片である。図示したのは5点である。1・2は須恵器の坏で底部回転糸切り後、摩耗気味だが周辺ヘラケズリの痕跡が残る。3・4は土師器甕の底部で3は小降りで木葉痕が認められる。5は大型の須恵器甕の破片である。

本住居址は9世紀前半、平安時代としたい。



第188図 H70号住居址遺物実測図

図号	品名	形状	寸法cm	直径cm	高さcm	出所・土層	調査者・測定	備考
1	須恵器	片	14.2	6.8	4.2	ボコケナダ 須恵器製須恵器・高台ヘラケズリ	50	灰色
2	須恵器	片	—	13.2	—	ボコケナダ 須恵器製須恵器・高台ヘラケズリ	—	灰色
3	土師器	破片	—	3.4	—	高野木葉痕	—	黄褐色
4	土師器	片	—	3.2	—	高野・高野ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	—	褐色
5	須恵器	片	—	—	—	高野木葉痕 高野ヘラケズリ	—	灰色

第105表 H70号住居址遺物観察表

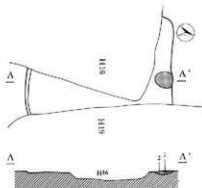
#### H71号住居址

遺構は3-エ-Gグリッドに位置し、H16、19に切れ、確認状態で床面が露出していた。床面は平坦で堅い。ピットは確認できなかった。カマドは北壁に構築されており確認できたのは火床に堆積した焼土である。掘方は黄褐色と、黒褐色土シルトの混合土が埋め込まれていた。

遺物は土師器片が数片出土した。本住居址は6世紀前半のH16に切られていることからこれに先行する住居址としたい。

- 赤褐色土 (5YR4/6) 焼土層。(火床土層)
- 赤褐色土 (2.5YR4/6) 土層。(火床下層)

0 709.100m (1:80) 2m



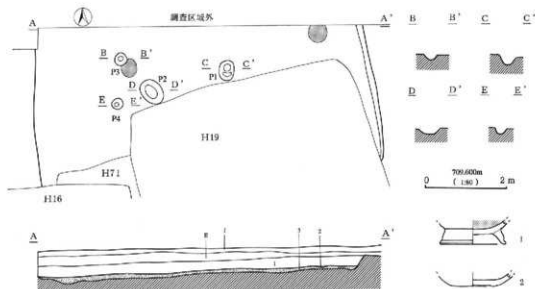
第189図 H71号住居址実測図

#### H72号住居址

遺構は3-エ-Gグリッドに位置し、H16、19、71と切り合い関係にあり、北側は調査区域外となる。調査規模は東西8.0m、南北3.2m、床面までの深さは北側土層断面から20cmを測るが、調査段階では床面といった状態で周辺との新旧関係は確認できなかった。床面は平坦で硬質面を持ち、ピット4個及び焼土の堆積が2箇所認められた。主柱穴であるかは不明である。カマドは確認できなかった。掘方は5cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏が出土した。図示したのは2点である。1は土師器碗の高台付近の破片で足高気味、2は土師器の坏底部付近の破片である。

本住居址は土師器坏、碗といった平安時代の特徴を有し、碗が足高気味であることから10世紀代の住居址としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄土。  
 2. 赤褐色土 (5YR4/6) 粘土層。  
 3. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、黄土少量、砂。

第190図 H72号住居址・遺物実測図

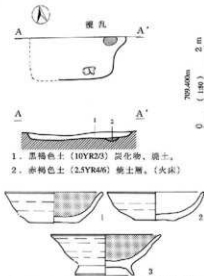
番号	部 種	図 形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・支 柱	保存率・状況	備 考
1	土器類	碗	-	[5]	-	黒山粘土付け・欠損欠陥 内面黒色処理?	完全・体の破片	黒褐色
2	土器類	杯	-	[3.7]	-	黒山粘土付け 半面黒色処理	破片・半面破片	褐色

第106表 H72号住居址遺物観察表

### H73号住居址

遺構は4ー1ー1グリッドに位置し、北側半分は水路によって破壊されている。検出段階ですでに床面が露出し、確認できたのは東壁に構築されたカマドの火床及び壁外への張り出し、南東コーナー付近にかけての床面である。カマドは北壁の水路境に位置し、火床の半分は破壊されている。カマドから南東コーナーにかけての床直上から土師器杯、碗が出土した。

遺物は土師器の杯、碗、甕が出土した。図示したのは3点である。1・2は土師器の杯で1は小径の底部から聞き気味に立ち上がった後、やや内押し口縁に至り、内面黒色処理を施す。2は1に比して、丸みを持って口縁部に立ち上がる。3は土師器碗の破損品で内面黒色処理を施す。本住居址は、カマドが東壁に構築されていること及び杯の形状から10世紀前半、平安時代とした。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄土。  
 2. 赤褐色土 (2.5YR4/6) 粘土層。(火床)

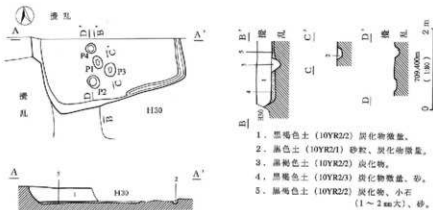
第191図 H73号住居址・遺物実測図

番号	部 種	図 形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・支 柱	保存率・状況	備 考
1	土師器	杯	[12]	6	3.7	コトナツテ 内面黒色処理	50	褐色
2	土師器	杯	[13.9]	6.1	3.1	コトナツテ 内面黒色処理	30	褐色
3	土師器	碗	[18.4]	7.3	3	コトナツテ 内面黒色処理	30	褐色

第107表 H73号住居址遺物観察表

## H74号住居址

遺構は4ーラーJ  
グリッドに位置し、  
H30、69、86、87、  
95と切り合い関係に  
あり、北側は水路に  
破壊されている。調  
査規模は東西3.3m、  
南北1.8m、床面ま  
での深さは32cmを測  
る。覆上は強粘性で  
黒褐色土の単層であ



第192図 H74号住居址実測図

る。床面はシルト質で堅さを持つが部分的に硬混じりで凹凸感がある。東壁から南壁にかけて周溝が存在する。ピットは4個確認できたが支柱穴かは判断できない。カマドは確認できなかった。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕が出土した。いずれも小破片であるため図示しなかった。

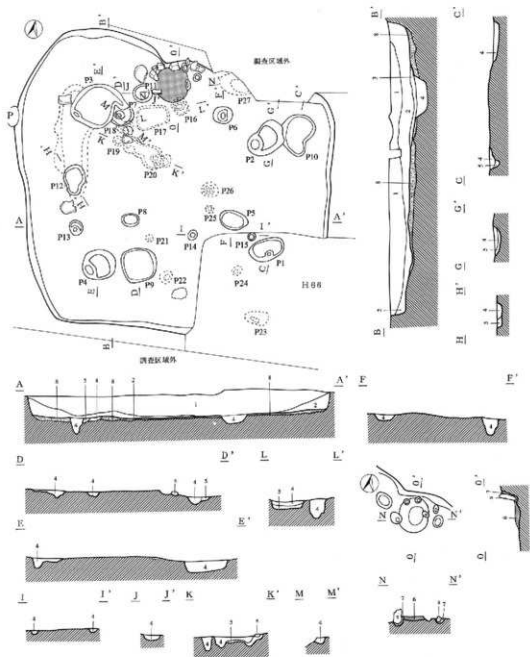
本住居址周辺は切り合いが多く断定できないが、遺物に須恵器坏の底部へラ調整されたものと、糸切り後無調整の土器が含まれ、口縁形態は不明だが武蔵甕と思われる破片が含まれることから、8世紀後半、奈良時代の住居址とした。

## H75号住居址

遺構は4ーけーIグリッドに位置し、H66に切られ、H22を切り、北側の一部は水路によって破壊されている。調査規模は東西7.6m、南北7.2m、床面までの深さは60cmを測り、平面形態は隅丸方形である。床面は部分的に凹凸、ざらつき感がある。ピットは床面上で15個、掘方で12個確認できたが、支柱穴はP1、2、7、4と思われる。カマドは北壁中央に構築され、袖に使用された石材及び火床が確認できた以外は完全に破壊されている。火床には径90cmの範囲で焼土の堆積及び地山への焼け込みが認められた。掘方は10cm内外の厚みで黄褐色と黒褐色土の混合土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、轆轤甕、須恵器の坏、高台付坏、蓋、甕、埴白、鉄製品が出土した。図示したのは38点である。1～3は土師器の坏で3の底部はへラ調整されている。4は土師器の小型轆轤甕である。5～11は須恵器の坏で7の底部周辺にへラケズリが施される他は糸切り後無調整である。11のみこみ部に「大」の字状の刻印が認められる。12～18は須恵器の高台付坏で12・13・15～17は底部回転へラケズリ後高台貼り付けである。残りは糸切り痕が残る。14は橙色だが土師器より明らかに硬質であるため須恵器とした。19～22は須恵器の蓋で天井部は回転へラケズリを施し、22は環状、他は宝珠つまみ貼り付けである。23は高台付坏に脚を貼り付け高坏とした特殊な器形と思われたが、西の開戸田遺跡、跡部地積の市道遺跡Ⅱから同様の形態が出土している。24～33は須恵器の破片で、25は甕、28は鉢、他は甕である。34は球状の石に窪みをつけた埴白、35～37は敲・すり石である。38は片面に刃を持つことから刀子又は鎌の一部と考えられる。

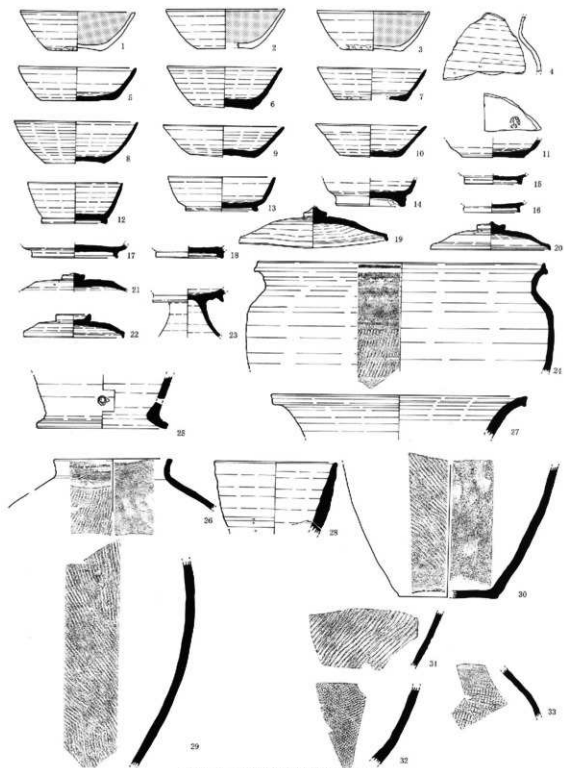
本住居址は環状つまみの須恵器蓋、底部全面回転へラケズリ、周辺部へラケズリを施す須恵器坏から8世紀Ⅲ四半期とした。



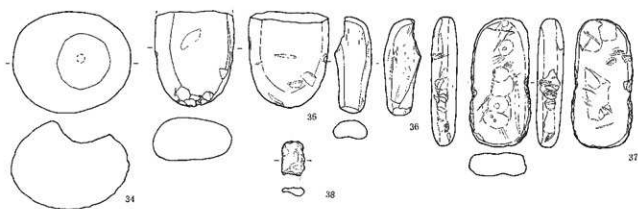
1. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物、器、 $\beta$ 粒。  
 2. 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 地山 $\beta$ 粒多く、炭化物。  
 3. 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 地山 $\beta$ 粒。   
 4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土質、炭化物、地山 $\beta$ 粒。  
 5. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 地山 $\beta$ 粒。  
 6. 明赤褐色土 (2.5YR3/6) 粘土層。(火灰)  
 7. 褐灰色土 (10YR6/1) 粘土 ( $\beta$ 粒 $\times$ 西方)  
 8. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 黒褐色土の混入。

第193図 H 75号住居址実測図





第194图 H75号住居址遗物美术图(1)



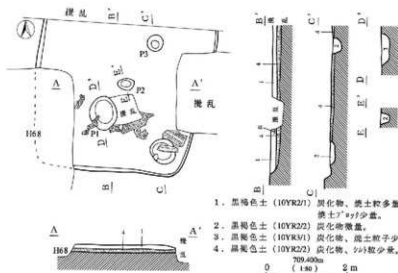
第195図 H75号住居址遺物実測図(2)

品名	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 誌	保存所・施設	備 考
1	土器鉢	鉢	14.4	6.7	4.6	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	黒い野土
2	土器鉢	鉢	13.4	7.4	4.9	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	30	黒い野土
3	土器鉢	鉢	14.6	6.7	4.8	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	黒土
4	土器鉢	鉢	—	—	—	サカキナガ	高野原遺跡	黒土
5	土器鉢	鉢	11.4	6.3	4.1	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土 大穴すき
6	土器鉢	鉢	14	7.3	5.1	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土 大穴すき
7	土器鉢	鉢	13.4	8.2	3.9	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	30	赤土
8	土器鉢	鉢	11.4	7.1	5.1	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土 大穴すき
9	土器鉢	鉢	11.8	8	4.8	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	30	赤土 大穴すき
10	土器鉢	鉢	13.4	7.1	4.9	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土 大穴すき
11	土器鉢	鉢	—	17.2	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
12	土器鉢	鉢	11.4	8	8	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	30	赤土 大穴すき
13	土器鉢	鉢	11.3	8.8	4.2	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	30	赤土 大穴すき
14	土器鉢	鉢	—	8.6	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
15	土器鉢	鉢	—	7.1	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
16	土器鉢	鉢	—	6.9	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
17	土器鉢	鉢	—	10.1	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
18	土器鉢	鉢	—	8.2	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
19	土器鉢	鉢	10.1	7.2	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
20	土器鉢	鉢	14.4	7.3	3.8	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
21	土器鉢	鉢	7.2	6.8	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	30	赤土
22	土器鉢	鉢	11.3	6.8	3.8	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
23	土器鉢	鉢	—	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
24	土器鉢	鉢	10	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
25	土器鉢	鉢	11.8	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
26	土器鉢	鉢	14.4	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
27	土器鉢	鉢	11.4	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
28	土器鉢	鉢	11.2	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
29	土器鉢	鉢	—	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
30	土器鉢	鉢	—	11.4	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
31	土器鉢	鉢	—	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
32	土器鉢	鉢	—	—	—	サカキナガ 高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
品名	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 誌	保存所・施設	備 考
34	土器鉢	鉢	10.9	12.4	9.4	高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
35	土器鉢	鉢	10.2	6.4	4.8	高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
36	土器鉢	鉢	10.2	3.5	1.8	高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
37	土器鉢	鉢	12.4	6.4	4.8	高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土
品名	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 誌	保存所・施設	備 考
38	土器鉢	鉢	3.6	2.1	0.9	高野原遺跡 西条藩史編纂	60	赤土

第198表 H75号住居址遺物観察表

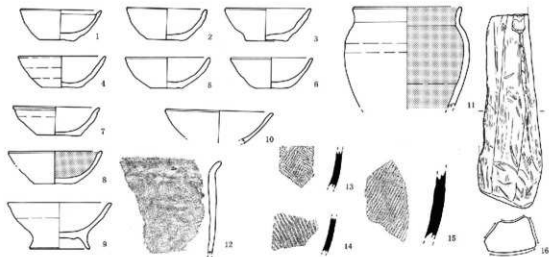
### H76号住居址

遺構は4-エ-1グリッドに位置し、H68、H95を切り、北側は水路に破壊され、東側は攪乱によって一部破壊されている。調査規模は東西4.2m、南北3.6m、床面までの深さは12cmを測る。床面は硬質でピットは3個確認できたが支柱穴かは断定できない。南東コーナーに径60cm、深さ30cmの上坑が存在



第196図 H76号住居址実測図

し、周辺には炭化材及び土師器環、大型の砥石などの遺物が集中して出土した。カマドは確認できなかった。掘方は全体に8cm内外の厚みで黒褐色土が埋め込まれ、やや硬質である。遺物は土師器の環、碗、甕、須恵器の甕、砥石が出土した。図示したのは16点である。1～8は、小型化した土師器環で回転糸切りの底部から内筒気味に立ち上がり、一部は底部から高台状に変化して立ち上がるものも認められる。9は土師器碗で高台から開き気味に立ち上がり、高台は足高気味である。10は土師器環又は碗の破損品、11は土師器の機械甕、12は土師器甕、13～15は須恵器の甕破片である。16は大型の砥石で底面は浅い「U」字の溝状である。本住居址は、口径10cm内外、底径4～5cmと小型化した土師器環が主体であることから、10世紀後半～11世紀初頭としたい。遺構調査では、検出時に本住居址の深さが浅いことからH68に切られた状況に見えたが、遺物の特徴から、新旧逆と判断した。



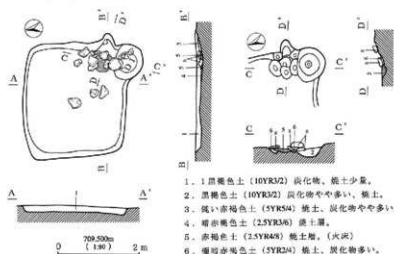
第197図 H76号住居址遺物実測図 (No.16のみ1/8)

調査	品名	品類	数量	長さ[m]	幅[m]	高さ[m]	調査	調査	調査	調査	調査
1	土師器	杯	10	4.2	3.7		ロケット	底面に黒い点あり		100	褐色
2	土師器	杯	9.9	4.1	3.6		ロケット	底面に黒い点あり		60	褐色
3	土師器	杯	15.1	5.2	3.9		ロケット	底面に黒い点あり		30	褐色
4	土師器	杯	10.4	4.9	3.9		ロケット	底面に黒い点あり		35	褐色
5	土師器	杯	10.4	3.9	3.9		ロケット	底面に黒い点あり		35	褐色
6	土師器	杯	10	4.2	3.7		ロケット	底面に黒い点あり		70	褐色
7	土師器	杯	10.3	5.3	3.3		ロケット	底面に黒い点あり		60	褐色
8	土師器	杯	11.3	4.9	4		ロケット	底面に黒い点あり		50	褐色
9	土師器	杯	12.0	7.4	5.2		ロケット	底面に黒い点あり		100	褐色
10	土師器	杯	13.2	—	—		ロケット	—		—	—
11	土師器	杯	13.2	—	—		ロケット	内面褐色		—	—
12	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
13	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
14	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
15	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
16	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
17	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
18	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
19	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
20	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
21	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
22	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
23	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
24	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
25	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
26	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
27	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
28	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
29	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
30	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
31	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
32	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
33	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
34	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
35	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
36	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
37	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
38	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
39	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
40	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
41	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
42	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
43	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
44	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
45	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
46	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
47	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
48	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
49	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—
50	土師器	杯	—	—	—		陶器	内面褐色		—	—

第109表 H76号住居址遺物観察表

### H77号住居址

遺構は9-く-Bグリッドに位置し、H97、掘立柱建物址と思われるピットを切る。調査規模は東西2.8m、南北2.5m、深さは12cmを測る。床面はほぼ平坦で堅さを持つ。ピットは確認できなかったが、南東コーナーに一部壁外に張り出した径80cm、深さ26cmの土坑が存在し、底面中央に窪みが存在する。底面から

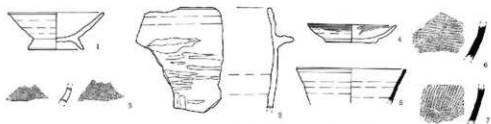


1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、焼土少量。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物やや多い、焼土。
3. 鈍い赤褐色土 (5YR5/4) 焼土、炭化物やや多い。
4. 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。
5. 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土層。(火床)
6. 暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土、炭化物多い。

第198図 H77号住居址実測図

完形に近い灰陶陶器皿、上層からカマドなどと思われる熱を受けた石材が認められた。カマドは東壁の南寄りに構築されている。袖部分は完全に破壊され、火床及び壁外に立ち上がる煙道の一部が残存していた。火床部には6cmの厚さの焼土及び地山への焼け込みが確認できた。遺物は土師器の杯、碗、羽釜、線刻画土器片、須恵器の杯、甕、灰陶陶器が出土した。図示したのは7点である。1は土師器の碗で坏部は開き、直線的に口縁に至り、高台は足高気味である。2は土師器の羽釜で口縁付近に轆轤使用が認められ、胴部は横方向のへらによる細かいナデを施す。鈿は部分的に貼り付ける形態である。3は土師器の杯又は碗の体部破片と思われ、内外面に線刻画が存在し、外面は明確な線で花文の一部に見えるが断定できない。内面には不明の細線刻が認められる。4は灰陶陶器の皿で、つぶれた高台の形状から丸石2号室式と思われる。5は須恵器杯の口縁破片、6・7は須恵器の甕破片である。須恵器は覆土内出土で混入の可能性がある。

本住居址は高台が足高気味で「ハ」の字に開き、底部から開きながら直線的に立ち上がる碗、鈿を部分的に貼り付ける薄手の羽釜、灰陶陶器の存在から11世紀前半、平安時代としたい。



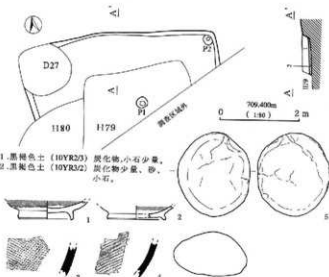
第109図 H77号住居遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文 相	保存率・部位	備考
1	土師器	碗	13.1	7.3	5	コテロナツ 底面に同心状に浅溝が施されている	碗	褐色
2	土師器	須恵	—	—	—	コテロナツナツ 底面同心状に浅溝が施されている	口縁一枚破片	褐色
3	土師器	須恵	—	—	—	内外面褐色、底面褐色	口縁一枚破片	褐色
4	灰釉陶器	皿	11.9	7.1	2.4	コテロナツ 底面に同心状に浅溝が施されている	碗	灰白色
5	須恵器	須恵	—	—	—	コテロナツ	口縁一枚破片	褐色
6	須恵器	須恵	—	—	—	須恵器	須恵器	褐色
7	須恵器	須恵	—	—	—	須恵器	須恵器	褐色

第110表 H77号住居遺物観察表

### H78号住居址

遺構は9-C-Dグリッドに位置し、南側をH79、80、D27に切られる。調査規模は東西5.0m、南北1.6m、床面までの深さは20cmを掘り、平面形態は調査状況から方形と考えられる。床面は凹凸感はあるがほぼ平坦で硬質である。北東コーナーに小ピットが1個確認できた。カマドは認められなかった。掘方は薄く粒子の粗い小石混じりの黒褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の碗、須恵器の甕、灰釉陶器、すり石が出土したが、本住居址中にH79が存在し、切り合い関係が不明の状態では調査を進めたことから、一部遺物が混同している可能性が認められる。図示したのは5点である。1・2は灰釉陶器で1は大原2号窯式、2は虎溪山1号窯式と思われる。2は形状から時期差があり、切り合い関係にあるH79の遺物の可能性が高い。3・4は須恵器の破片、5はすり石で一部敲き痕が認められる。本住居址は大原2号窯式の灰釉陶器を伴う可能性があり、11世紀前半としたH79に切られることから10世紀前半の住居址としたい。



第200図 H78号住居址・遺物実測図

1・2は灰釉陶器で1は大原2号窯式、2は虎溪山1号窯式と思われる。2は形状から時期差があり、切り合い関係にあるH79の遺物の可能性が高い。3・4は須恵器の破片、5はすり石で一部敲き痕が認められる。本住居址は大原2号窯式の灰釉陶器を伴う可能性があり、11世紀前半としたH79に切られることから10世紀前半の住居址としたい。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文 相	保存率・部位	備考
1	灰釉陶器	碗	—	6.7	—	コテロナツ 底面に同心状に浅溝が施されている	高台一枚破片	灰白色
2	灰釉陶器	碗	—	7.2	—	コテロナツ 底面に同心状に浅溝が施されている	高台一枚破片	灰白色
3	須恵器	須恵	—	—	—	内外面褐色、底面褐色	口縁一枚破片	褐色
4	須恵器	須恵	—	—	—	内外面褐色	口縁一枚破片	褐色
5	すり石	すり石	6.0	7.8	2	すり石	すり石	褐色

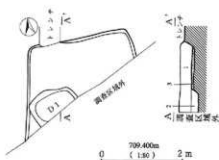
第111表 H78号住居遺物観察表

## H79号住居址

遺構は9ーこーEグリッドに位置し、H78、80を切り、南側は調査区域外となる。調査規模は東西2.7m、南北2.8m、床面までの深さは25cmを測り、平面形態は調査状況から方形と考えられる。覆土は黒褐色土の単層である。床面は掘方埋土に小石が多く含まれていることからざらつき感がある。掘方で上土1基を確認したが性格は不明である。掘方は薄く粒子の粗い小石混じりの黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、碗の破片が出土した。当初H78内に存在した本住居址の存在が不明であったため、遺物が混同している可能性はあるが、本住居址は周辺で最も新しい住居址であることから遺物に含まれる小型化した土師器碗が伴うと考えられる。図示したのは2点でともに高台径4.5cm内外と小型の土師器碗の底部破片である。

本住居址は、小型の土師器碗が存在することから11世紀前半、平安時代としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量、小石やや多い。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) やや砂質。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂、溜土体、炭化物少量。



第201図 H79号住居址・遺物実測図

番号	部材	図号	図寸cm	実寸cm	調査・主 種	埋蔵層・部位	備 考
1	土師器	碗	—	4.7	—	調査中4号9行17 内面黒色処理	高台・底径 褐色
2	土師器	碗	—	4.2	—	調査中4号9行17 内面黒色処理	高台・底径 黒褐色

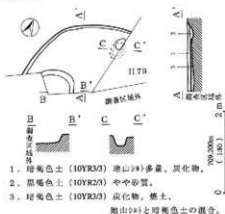
第112表 H79号住居址遺物観察表

## H80号住居址

遺構は9ーこーEグリッドに位置し、H78を切り、H79に切れ、南側は調査区域外となる。覆土は暗褐色土の単層である。調査規模は東西1.6m、南北1.2mを測る。床面は平坦、硬質で、南調査区域に土坑が存在するが本住居址との関係は不明である。掘方で1個のピットが確認できた。カマドは認められない。掘方は6cm内外の厚みで炭化物、焼土を含む粒子の粗い暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の碗、須恵器の甕、灰釉陶器、すり石が出土した。図示したのは9点である。1・2は内外面黒色処理された小型の碗で、高台部は欠損し、坏部は彎曲し立ち上がる。3～5は須恵器の甕の破片である。6・7は灰釉陶器の壺で肩部に耳の痕跡が残る。8・9は円形で扁平のすり石である。

本住居址は小型碗の存在から、H79に先行する11世紀前半としたい。

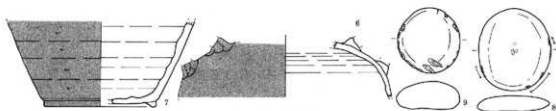


1. 暗褐色土 (10YR3/2) 焼土(砂)多量、炭化物。
2. 暗褐色土 (10YR2/3) やや砂質。
3. 暗褐色土 (10YR3/2) 炭化物、焼土。  
焼土(砂)と暗褐色土の混合。

第202図 H80号住居址実測図



第203図 H80号住居址遺物実測図(1)



第204図 H80号住居址遺物実測図(2)

番号	種名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	保存状況	備考
1	土師器	甕	8.0	—	—	内外黒褐色地層	80	黒色 底付文様
2	土師器	甕	10.0	—	—	内外黒褐色地層	80	黒色 底付文様
3	須恵器	甕	—	—	—	内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色
4	須恵器	甕	—	—	—	内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色
5	須恵器	甕	[15.4]	—	—	コトコナダ 内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色
6	須恵器	甕	—	—	—	コトコナダ 内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色
7	須恵器	甕	—	13	—	内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色
番号	種名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様		
8	テラコッタ	土師	30	8.0	1.8	黒色、表面に黒粒による凸凹がある。		
9	テラコッタ	土師	8	7.7	3.3	黒色、表面に黒粒による凸凹がある。		

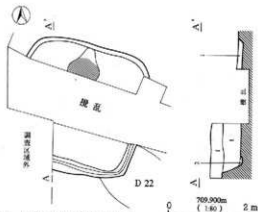
第113表 H80号住居址遺物観察表

### H81号住居址

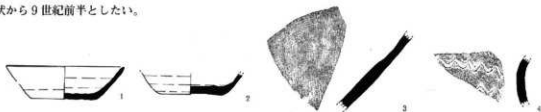
遺構は9-Cグリッドに位置し、D22に切られ、中央の東西方向を攪乱に破壊され、西側は調査区域外となる。調査規模は東西2.8m、南北3.2m、床面までの深さは40cmを測り、平面形態は方形と考えられる。覆土は極暗赤褐色土の単層である。床面の南側は平坦だが、北側は凹凸感が強い。カマドは北壁中央に構築されているが大半が攪乱に破壊され火床のみ確認できた。

遺物は土師器の甕片、須恵器の環、甕が出土した。図示したのは4点である。1・2は底部回転糸切りで、やや底部の広い須恵器環、3・4は須恵器甕である。

本住居址は底部回転糸切り後未調整の須恵器環の形状から9世紀前半としたい。



- Ⅱ. 黄褐色土 (10YR5/8) 田灰土。  
 1. 極暗赤褐色土 (5YR2/5) 炭化物、赤色粒。  
 2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、赤色粒。



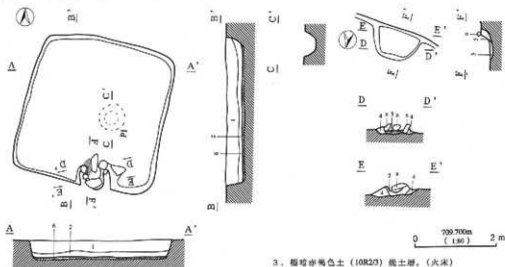
第205図 H81号住居址・遺物実測図

番号	種名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	保存状況	備考
1	須恵器	甕	[14.3]	8	4	コトコナダ 黒褐色地層	80	黒褐色 脚付文様
2	須恵器	甕	—	1.4	—	コトコナダ 黒褐色地層	80	黒色 底付文様
3	須恵器	甕	—	—	—	内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色
4	須恵器	甕	—	—	—	内外黒褐色地層	黒褐色片	黒褐色

第114表 H81号住居址遺物観察表

### H83号住居址

遺構は9ーカーAグリッドに位置し、H88、93を切る。規模は東西3.4m、南北3.6m、床面までの深さは45cmを測り、平面形態は方形である。床面は平坦で硬質面を持つ。ピットは確認できなかった。カマドは佐久市内でも希な南壁に構築され袖及び火床が確認できた。袖長は西袖35cm、東袖40cmを測り、周囲に存在する地山の粘土を利用し、内壁部に石材を埋め込んでいた。火床には厚さ6cm内外の焼土の堆積及び焼け込みが認められた。掘方は床面を平にする程度の厚みで暗褐色土が埋め込まれ、ピットが1個確認できた。

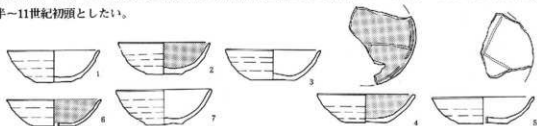


1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多量、礫 (2~10 cm大)。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、炭土、礫 (1~3 cm大)。

3. 暗褐色土 (10R2/3) 焼土層。(火床)
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、小石、砂。
5. 暗褐色土 (5YR3/3) 炭化物、炭土少量。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、砂主体。

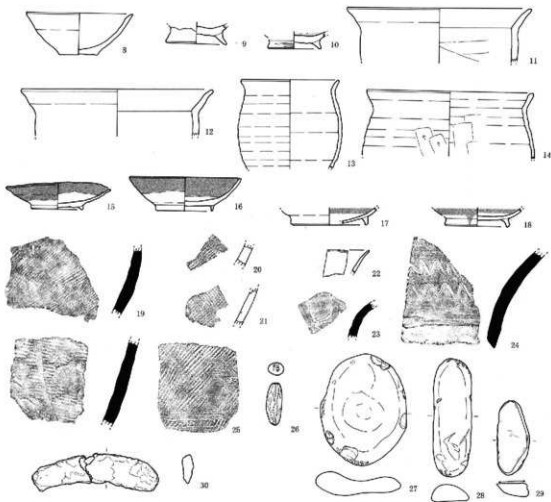
### 第206図 H83号住居址実測図

遺物は土師器の坏、碗、甕、灰釉陶器、須恵器甕、緑釉陶器、土鍾、すり石、鉄製品が出土した。図示したのは30点である。1~8は土師器の坏で、全体に小型化の傾向が認められる。9・10は土師器碗の高台付近の破片である。11・12は土師器甕口縁の破片、13・14は横軸甕で13は小型である。15~18は灰釉陶器で15は皿、16は碗、17・18は皿又は碗である。15は丸石2号窯式、16~17は高台の形状から大原2号窯式と思われる15と時期差があるため切り合い関係にあるH88の混入遺物と考えられる。19・23~25は須恵器甕破片、20・21は土師質で外面に叩き痕を有する甕破片である。22は緑釉陶器破片、26は管状土鍾である。30は鉄製鎌である。本住居址はH88内に取まった状態で切り合い、同じ平安時代であることから、当初は本住居址の存在が不明で、十字トレンチ時にH88を含めて掘り下げたため、若干遺物が混入している可能性がある。本住居址は、径10~11cm程度と小型化された土師器坏が主体となり、南にカマドを持つことから10世紀後半~11世紀初頭としたい。



第207図 H83号住居址遺物実測図 (1)





第208図 H83号住居址遺物実測図(2)

番号	品名	品目	寸法(cm)	重量(g)	備考	調査・出土	保存部	備考
1	土師器	埴	11.3	4.5	3.9	オタロコナ 浅盤型赤土器	100	灰褐色
2	土師器	埴	11.3	4.5	3.9	オタロコナ 浅盤型赤土器 内面茶色斑	100	灰・灰褐色
3	土師器	埴	13.17	4.3	4.3	オタロコナ 浅盤型赤土器	100	灰・灰褐色
4	土師器	埴	12.0	7.27	3.5	オタロコナ 内面茶色斑 (ナ) 字印文	100	灰・褐色
5	土師器	埴	12.42	7.31	7.31	オタロコナ 内面茶色斑 (ナ) 字印文	100	灰褐色
6	土師器	埴	11.42	14.8	5.2	オタロコナ 内面茶色斑 (ナ) 字印文	100	灰・褐色
7	土師器	埴	11.42	15.4	3.7	オタロコナ 浅盤型赤土器	100	灰・褐色
8	土師器	埴	13.8	11.42	5.1	オタロコナ 浅盤型赤土器	100	灰・褐色
9	土師器	埴	—	7.4	—	浅盤型赤土器 内面茶色斑	口縁・底面	褐色
10	土師器	埴	—	4.6	—	浅盤型赤土器 内面茶色斑	高白・底面	褐色
11	土師器	埴	22.47	—	—	内面茶色斑 (ナ) 字印文	口縁・底面	灰・褐色
12	土師器	埴	23.42	—	—	浅盤型赤土器	口縁	褐色
13	土師器	横線瓦	11.42	—	—	オタロコナ 浅盤型赤土器	口縁・底面	褐色
14	土師器	横線瓦	12.8	—	—	オタロコナ 浅盤型赤土器 内面茶色斑 (ナ) 字印文	口縁・底面	褐色
15	土師器	底瓦	12.8	4.3	3.2	オタロコナ 浅盤型赤土器 内面茶色斑 (ナ) 字印文	底面	灰褐色
16	土師器	横	14.42	16.5	4	オタロコナ 浅盤型赤土器 内面茶色斑 (ナ) 字印文	底面	灰褐色
17	土師器	横	—	7.42	—	オタロコナ 浅盤型赤土器 内面茶色斑 (ナ) 字印文	底面	灰褐色

第115表 H83号住居址遺物観察表(1)

番号	目録	長さ	幅	厚さ	重量	調査・文書	保存中・状況	備考
18	灰褐色砂	縦	—	1.8	—	ピットより採取。実質「土質」→「土質」で記載。調査日記より「調査範囲外の100m以内の土質のため、掘り出し、土質は調査済み」	調査・記録1回	灰白色
19	灰褐色	縦	—	—	—	外面磨り平らになり、内面同心円状	鏡片	灰白色
20	褐色土片	縦	—	—	—	外面磨り平らになり、内面同心円状	鏡片	褐色
21	褐色土片	縦	—	—	—	外面磨り平らになり、内面同心円状	鏡片	褐色
22	黒褐色	縦	—	—	—	内外面共に平滑	鏡片	黒い・緑色
23	褐色	縦	—	—	—	外面磨り平ら	鏡片	褐色
24	褐色	縦	—	—	—	外面磨り平ら	鏡片	褐色
25	褐色	縦	—	—	—	外面・内面に凹凸、磨り平ら。外面平らな部分・ヘラで削	鏡片	褐色
番号	目録	長さ	幅	厚さ	重量	調査・文書	保存中・状況	備考
26	黒土片	18.75	5.1	1.9	0.16	外面平ら	褐色	調査
番号	目録	長さ	幅	厚さ	重量	調査・文書	保存中・状況	備考
27	黒土片	148	13.9	15.3	3	表面凹凸・裏面磨り平ら	褐色	調査
28	黒土片	199	14.4	4.7	2.2	表面・裏面磨り平ら	褐色	調査
29	黒土片	61.9	9.1	9	1.9	表面磨り平ら	褐色	調査
番号	目録	長さ	幅	厚さ	重量	調査・文書	保存中・状況	備考
30	黒土片	19.97	15.4	3.91	1.97	—	中央部、内面磨り平ら	調査

第116表 H83号住居遺物観察表(2)

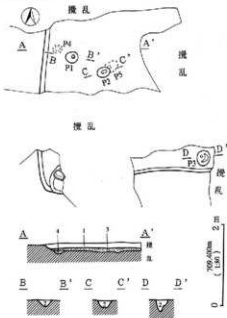
### H84号住居址

遺構は9ーシーAグリッドに位置し、H92を切り、多くを攪乱に破壊されている。調査規模は東西4.4m、南北4.2m、床面までの深さは12cmを測る。平面形態は残存状況から方形と考えられる。床面はやや堅さを持ち平坦である。ピットは5個確認できたが、主柱穴は不明である。カマドは確認できなかった。掘方は8cm内外の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の甕が出土したがいずれも小破片で図示しなかった。

本住居址出土遺物が僅かのため時期は不明である。

1. 黒色土(10YR2/1)小石散置。
2. 黒色土(10YR2/1)9割散置。
3. 黒色土(10YR1.7/1)黄色砂粒、小石散置。
4. 黒褐色土(10YR2/2)黄色砂粒散置。



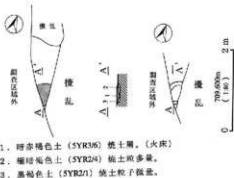
第209図 H84号住居址実測図

### H85号住居址

遺構は8ーあーBグリッドに位置し、大半が攪乱に破壊されるか調査区域外といった状況である。確認したのはカマドの火床部と思われる一部である。

遺物は火床と思われる焼土確認範囲周辺から土師器の破片などが僅かに出土したが、本住居址に伴うかの断定はできない。

本住居址に伴うと思われる遺物が認められないことから時期は不明である。



1. 暗赤褐色土(5YR3/6)焼土層。(火床)
2. 暗褐色土(5YR2/4)焼土層多量。
3. 黒褐色土(5YR2/1)焼土粒子散置。

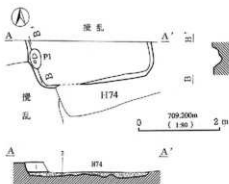
第210図 H85号住居址実測図

### H86号住居址

遺構は4ーローIグリッドに位置し、H94、76に切られ、北側の半分以上は水路によって破壊されている。調査規模は東西3.0m、南北1.1m、床面までの深さは28cmを測る。床面はシルト質で凹凸感がある。ピットは西壁で1個確認できた。カマドは認められなかった。掘方は8cm内外の厚みで小石が混じり粒子の粗い黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器片が出土したが小破片のため図示しなかった。

本住居址は8世紀前半のH74に切られることから、奈良時代以前の住居址と考えられる。



1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、小石 (1~2cm大)、砂。(掘方)

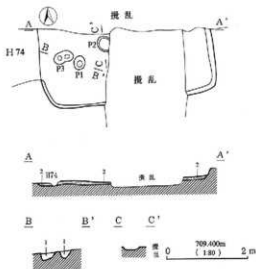
第211図 H86号住居址実測図

### H87号住居址

遺構は4ーローJグリッドに位置し、H74、69に切られ、中央付近を掘乱によって大きく破壊される。北側は水路に破壊されている。調査規模は東西4.2m、南北1.8m、床面までの深さは20cmを測り、平面形態は調査状況から方形と考えられる。床面はシルト質で平坦だが部分的に掘方に含まれる小石が表面に現れ、ざらつき感がある。ピットは3個確認できたが支柱穴かは不明である。カマドは確認できなかった。掘方は砂・小石を含む粒子の粗い黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環、甕が出土した。小破片のため図示しなかった。

本住居址は、厚手の甕、赤色塗彩された土器片、丸底環の存在から古墳時代の可能性が考えられる。



1. 黒色土 (10YR2/1) 砂粒、炭化物燻炭。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物燻炭、砂、小石。(掘方)

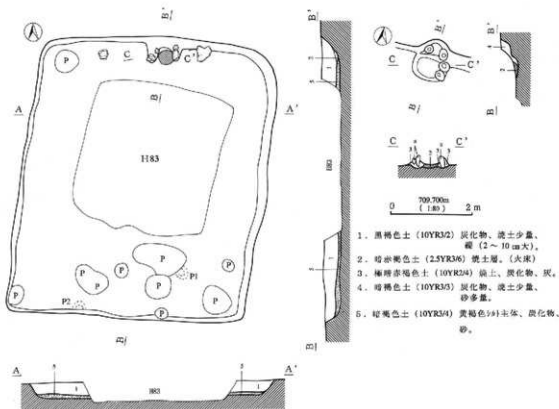
第212図 H87号住居址実測図

### H88号住居址

遺構は9ーカーAグリッドに位置し、H83に切られ、

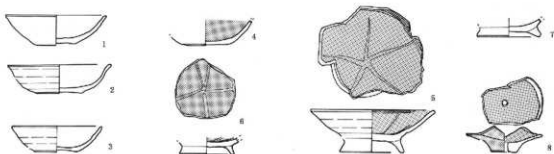
H93、96を切る。調査規模は東西6.0m、南北6.8m、床面までの深さは35cmを測り、平面形態は南北に長い隅丸長方形である。覆土は炭化物、焼土、礫を含む黒褐色土の単層である。床面は部分的に掘方の礫が頭を出し凹凸感はあるが、全体的には平坦で堅さを持つ。ピットは確認できなかった。カマドは北壁中央に構築され、袖の一部及び火床が確認でき、袖長は西袖40cm、東袖25cmを測り、石材が埋め込まれていた。火床からは厚さ6cmの焼土堆積及び焼け込みが確認できた。掘方は5cm内外の厚みで砂を含むやや粒子の細かい暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環、碗、鉢、甕、灰釉陶器、丸玉、石器、鉄製品が出土した。図示したのは18点である。1~4は土師器の環で4は内面黒色処理を施す。5~7は土師器碗の破損品、8は全面黒色中央に孔を穿つ

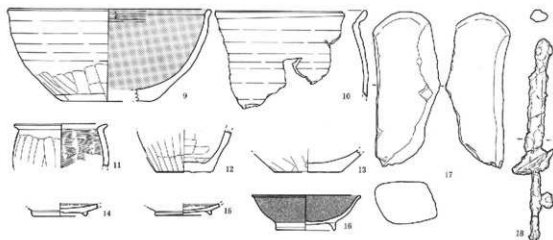


第213図 H88号住居址実測図

た耳皿状の土器である。9は鉢の破片、10は轆轤甕、11は小型甕の口縁から胴部の破片、12・13は土師器の甕底部破片である。14～16は灰釉陶器で、14・15は皿、16は碗である。14は丸石2号窯式、15・16は大原2号窯式で14はH83の混入と考えられる。17は砥石ですり面が認められる。18は鉄製品で紡錘車と考えられるが錆により他の棒状製品が一体化している。棒状製品の器種は不明である。本住居址はH83が住居内に完全に収まった状態で切り合い、同じ平安時代であることから、十字トレンチ時に切り合い関係が不明のまま掘り下げたため若干H83の遺物が混入している可能性がある。本住居址は、轆轤甕、放射状の暗文を施す土師器碗、灰釉陶器の存在から10世紀前半としたい。



第214図 H88号住居址遺物実測図(1)



第215図 H88号住居址遺物実測図(2)

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査・出土	発見層・部位	備考
1	土師器	杯	12.4	4.8	3.7	コナナダ 底面に紅土色を施す 全体に摩耗	30	褐色
2	土師器	杯	14.4	5.7	3.5	コナナダ 底面に紅土色を施す	30	褐色
3	土師器	杯	14.7	5.2	3.2	コナナダ 底面に紅土色を施す	30	褐色・褐色
4	土師器	杯	—	4.8	—	コナナダ 底面に紅土色を施す 内面黒色光澤	底面100・4.5部	褐色・褐色
5	土師器	碗	15.7	5.9	5.2	コナナダ 底面黒色を施す 内面黒色光澤 底面に紅土色	33	褐色・紅褐色
6	土師器	碗	—	6.5	—	底面黒色を施す 内面黒色光澤 底面に紅土色	底面100・4.5部	褐色・褐色
7	土師器	碗	—	5.7	—	底面黒色を施す 内面黒色光澤 底面に紅土色	底面100・4.5部	褐色
8	土師器	草皿	15.2	3	—	コナナダ 中央に約1cmの穴 内面黒色	30	褐色
9	土師器	鉢	26.3	14.1	11.2	コナナダ 底面下平縁へラケズ 内面と外側 褐色を施す	30	褐色
10	土師器	輪縁蓋	—	—	—	コナナダ	11縁・撃痕あり	褐色・褐色
11	土師器	平皿	11.4	—	—	白縁ナダ 外縁へラケズ 内面黒色	11縁・撃痕あり	褐色
12	土師器	平皿	—	6.9	—	底面へラケズ 外縁へラケズ 内面黒色	底面100・4.5部	褐色
13	土師器	碗	—	16.1	—	底面へラケズ 内面ナダ	底面・底縁あり	褐色
14	土師器	碗	—	5.1	—	コナナダ 底面に紅土色を施す 底面に紅土色	底面100	灰白色
15	土師器	鉢	—	15.4	—	コナナダ 底面に紅土色を施す 底面に紅土色	底面100・4.5部	灰白色
16	土師器	鉢	14.4	7.2	4.3	コナナダ 底面に紅土色を施す 底面に紅土色	底面100	灰白色
番号	品名	長さcm	幅cm	厚みcm	調査	備考		
17	ヤリ・櫛目ナ	10.3	1.9	0.2	底面ナリナ			
番号	品名	長さcm	幅cm	厚みcm	調査	備考		
18	鉄線香	121.1	24.9	2.08	1.9	底面黒色に白点		

第117表 H88号住居址遺物観察表

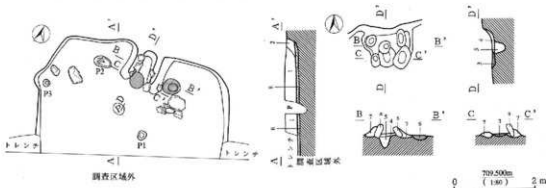
### H89号住居址

遺構は9-0-Cグリッドに位置し、南側は調査区域外となる。調査規模は東西4.6m、南北2.9m、床面までの深さは32cmを測り、平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。覆土は黒褐色土の単層である。床面は平坦で堅さを持ち、ピットは3個確認できたが主柱穴かは不明である。カマドは北壁中央に構築され、袖及び火床が残存していた。袖長は北壁から西袖85cm、東袖90cmを測り、周辺の地山である強粘性の粘土を使用している。両袖の間には石材が埋め込まれ東袖先端には焚口部の補強としての石材が認められた。火床には焼土が堆積し、表面は熱により硬化していた。

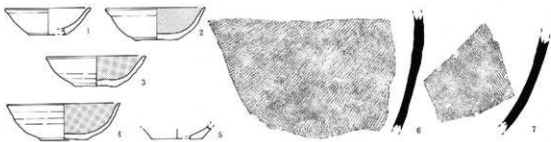
また、カマド東には火床に類似した焼土が堆積していた。掘方は全体に6cm程度の厚みでシルト主体のきめ細かい暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の杯、須恵器の甕が出土した。図示したのは7点である。1～5は土師器の杯で1は小型、2～5は中型品である。6・7は須恵器甕の破片である。

本住居址は、中型の土師器環が主体を占め、底径が小ぶりであることから10世紀前半としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、流土、小石。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、流土、小石少量。
3. 赤褐色土 (2.5YR4/8) 無土層。(火床)
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄褐色土。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。
6. 赤褐色土 (2.5YR4/8) 流土層。
7. 粗粒褐色土 (5YR2/3) 焼土、炭化物少量。
- B. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、黄褐色土。



第216図 H89号住居址・遺物実測図

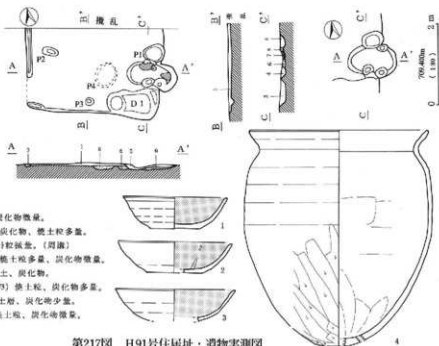
番号	品名	数量	寸法(cm)	重量(g)	高さ(cm)	遺物名・土層	検出層・部位	備考
1	土師器	片	(15.4)	(4.7)	3.3	コタロナダ 流土(埋め込み)	白縁～底縁部	灰～褐色
2	土師器	片	12	3.3	3	コタロナダ 流土(埋め込み) 西家黒色焼土?	130	灰～褐色
3	土師器	片	11.8	3.2	3.8	コタロナダ 流土(埋め込み) 西家～流土色	68	褐色
4	土師器	片	(13.6)	(3.2)	4.5	コタロナダ 流土(埋め込み) 西家黒色焼土	36	褐色
5	土師器	片	—	(8.2)	—	流土(埋め込み)	流土(30)	褐色
6	土師器	片	—	—	—	西家黒土 内縁ナダ	側縁部	灰色
7	土師器	片	—	—	—	粗粒褐色土 内縁ナダ	側縁部	灰色

第118表 H89号住居址遺物観察表

### H91号住居址

遺構は4ーあーJグリッドに位置し、僅かにH94と切り合い関係にある。検出段階で床面の状態であった。北側は水路によって破壊されている。調査規模は東西3.0m、南北2.2mを測り、平面形態は残存状況から方形と考えられる。西壁付近に幅16cm内外の周溝が存在する。床面の南側は平坦だが北側は地山の礫が頭を出し凹凸感が激しい。ピットは4個確認できたが主柱穴かは不明である。南東コーナーには長径1.3m、短径60cm、最深部25cmの土坑が存在し、テラス上から土師器環が出土した。カマドは東壁の南寄り構築され、火床及び東壁外への張り出しが残存していた。火床には焼土の堆積及び地山への焼け込みが確認でき、周辺には土師器破片が散乱していた。掘方は6cmの厚さで黒褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の環、甕

が出土した。1～3は土師器の環で内面黒色処理を施し、2は放射状の暗文が認められる。4は轆轤甕である。本住居址は、遺物の特徴から10世紀前半とした。



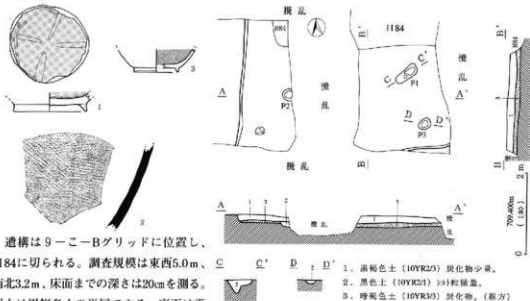
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物微量。
2. 暗赤褐色土 (5YR3/3) 炭化物、焼土粒多量。
3. 黒色土 (10YR1/7) 放射状暗文。(同様)
4. 暗褐色土 (5YR2/3) 焼土粒多量、炭化物微量。
5. 黒褐色土 (5YR2/2) 焼土、炭化物。
6. 暗褐色土 (2.5YR2/3) 焼土粒、炭化物多量。
7. 暗赤色土 (10R3/6) 焼土粒、炭化物少量。
8. 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土粒、炭化物微量。

第217図 H91号住居址・遺物実測図

番号	対象	形状	口径cm	底径cm	高さcm	産地・土層	使用年代	備考
1	土師器	片	12.2	8	3.9	コタノコウ 産地不明赤土 内面黒色処理	9世紀	片・破片
2	土師器	片	18.8	16.3	13.8	コタノコウ 産地不明赤土 内面黒色処理 放射状暗文	10世紀前半頃	片・破片
3	土師器	片	24.7	—	—	コタノコウ 内面黒色処理・放射状暗文	10世紀前半頃	破片
4	土師器	轆轤甕	23.8	16.2	16.2	コタノコウ 産地不明赤土 内面黒色処理	9世紀	破片

第119表 H91号住居址遺物観察表

H92号住居址



遺構は9-C-Bグリッドに位置し、H84に切られる。調査規模は東西5.0m、南北3.2m、床面までの深さは20cmを測る。覆土は黒褐色土の単層である。床面は平坦で堅さを持ち、ピットは3個確認でき

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。
2. 黒色土 (10YR2/1) 放射状暗文。(概方)
3. 暗褐色土 (10YR3/5) 炭化物。(概方)

第218図 H92号住居址・遺物実測図

たが主柱穴かは不明である。カマドは認められなかった。掘方は5cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、碗、須恵器の甕、灰軸陶器が出土したが小破片が大半を占める。図示したのは3点である。1は土師器碗の高台及び底部で内面黒色処理を及び「十」字状の暗文が施される。2は須恵器甕の破片である。3は小ぶりの灰軸陶器碗で内面全体に施釉を施す。

本住居址は灰軸陶器、土師器碗の存在、破片中に須恵器片が多く含まれることから10世紀前半の住居址としたい。

番号	遺物	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・出土	埋蔵層・位置	備考
1	土師器	碗	-	5.8	-	灰部回転赤褐色瓦片を貼り付け、内面黒色処理「十」字状暗文	基台、法面(10)	暗褐色土
2	須恵器	甕	-	-	-	赤褐色の 内面黒色処理	縁部破片	灰色
3	灰軸陶器	碗	-	5.2	-	ロココナテ 両側に付け 内面全面施釉	縁部破片	灰白色 施釉部はシタリブ

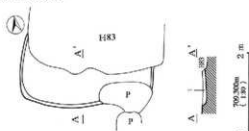
第120表 H92号住居址遺物観察表

### H93号住居址

遺構はリーカーBグリッドに位置し、H83、H88に切られる。調査規模は東西3.1m、南北90cm、床面までの深さは10cmを測る。床面はシルト質できめ細かく平坦である。ビット、カマドは確認できなかった。

遺物は土師器の甕片が僅かに出土した。

本住居址は遺物が僅かなため時期の判断はしにくいだが、10世紀前半のH88に切られることから、これ以前の住居址と考えられる。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、黄褐色(シタリブ)フツ。

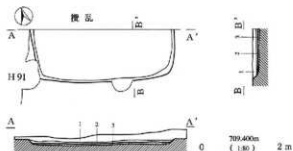
第219図 H93号住居址実測図

### H94号住居址

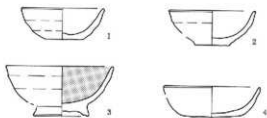
遺構は5ーこーJに位置し、H98を切り、北側は水路に破壊されている。調査規模は東西3.4m、南北1.3m、床面までの深さは5cmと浅い。平面形態は残存状況から方形と考えられる。床面は掘方の確が頭を出し凹凸感がある。ビット、カマドは確認できなかった。掘方は3cmと薄く、床面を平にする程度であったと考えられる。

遺物は土師器の坏、碗が出土した。図示したのは4点である。1・2は土師器の小型化した坏である。3は内湾気味の碗で内面黒色処理を施す。4は浅く底部回転ヘラケズリを施し、奈良時代の特徴を有することから混入品と考えられる。

本住居址は口径10cm程度と、小型化した段階の土師器坏、深みのある黒色処理を施す土師器碗が存在することから10世紀後半～11世紀初頭、平安時代としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/2) 小石、炭化物。
2. 黒色土 (10YR1/2) 炭化物多量。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。(裏方)



第220図 H94号住居址・遺物実測図



調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
1	土師器	須	13.2	4.4	3.8	ボツボツ	底面は粘土質	表面は黄土や中層土	100	浅褐色
2	土師器	須	13.4	4.7	3.7	ボツボツ	底面は粘土質	表面は黄土や中層土	100	浅褐色
3	土師器	須	13.1	2.8	4.1	ボツボツ	底面は粘土質	表面は黄土や中層土	100	浅褐色
4	土師器	須	13.1	17.4	5.9	底面は粘土質	表面は黄土や中層土	100	浅褐色	

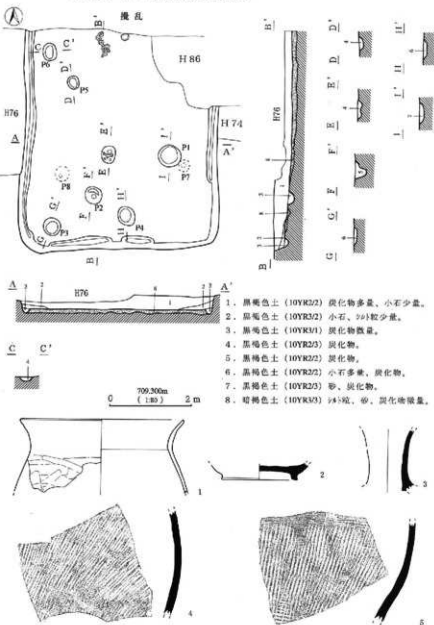
第121表 H94号住居址遺物観察表

H95号住居址

遺構は4-エ-Jグリッドに位置し、H68、76、74、86に切られると考えられ、北側は水路によって破壊されている。調査規模は東西4.8m、南北5.4m、床面までの深さは32cmを測り、平面形態は残存状況から南北に長い長方形と考えられる。壁際には南壁の一部を除き周溝が存在する。床面は土間状を呈し硬質である。ピットは7個確認できたが主柱穴であるかは判断できない。カマドは確認できなかった。掘方は6cm内外の厚みで粒子の細かいシルト質の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、長頸壺、甕が出土した。図示したのは5点である。1は土師器甕で口縁ゆるやかな

「く」の字状の破片である。2は須恵器の高台付坏で底部高台から坏底部にかけて残存した破損品で回転糸切り後高台貼り付けである。3は長頸壺の頸部、4・5は須恵器甕の破片である。



第221図 H95号住居址・遺物実測図

本住居址は須恵器高台付環、土師器甕の形状から8世紀後半、奈良・平安時代としたい。

遺物	種類	数量	出土層	出土位置	出土状況	調査・文書	保存・管理	備考
1	土師器	甕	1枚	—	—	二層焼ナツ 丹波焼ヘラナツ 丹波焼ヘラナツ	口縁へ縁付	灰・褐色
2	須恵器	高台付環	—	3.2	—	高台付環の付き部が折れ付	高台・底径100	灰色、太だす
3	須恵器	環	—	—	—	コシコナツ 丹波焼高台付環	口縁	灰褐色
4	須恵器	環	—	—	—	丹波焼高台付環	口縁	灰褐色
5	須恵器	環	—	—	—	丹波焼高台付環	口縁	灰・褐色

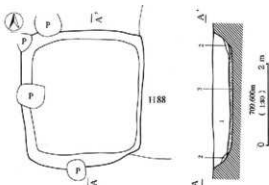
第122表 H95号住居址遺物観察表

#### H96号住居址

遺構は9ーきーBグリッドに位置し、H88に切られる。規模は東西2.9m、南北3.4m、床面までの深さは40cmを測り、平面形態は隅丸方形である。床面はやや堅さを持ち平坦であるが、住居址に見られるビット、厨溝、カマドは確認できず、堅穴状遺構の性格が強い。掘方は8cm程度の厚みで地山シルトと暗褐色土の混合土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環、甕、須恵器の甕が出土したがいずれも小破片のため図示しなかった。

本住居址は、稜を有する丸底の土師器環、やや厚手の甕といった土器の存在から6世紀代の住居址と考えられるが断定できない。



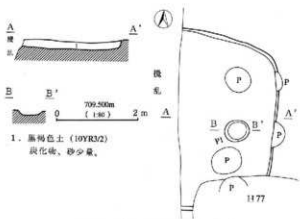
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化燐、植土痕、黄褐色(赤)ブツツ。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 赤土体、暗褐色土。
3. 暗褐色土 (10YR3/2) 黄褐色(赤)と暗褐色土の混合。(掘方)

第222図 H96号住居址実測図

#### H97号住居址

遺構は9ーくーBグリッドに位置し、南側をH77に切れ、西側は攪乱に破壊されている。調査規模は東西2.4m、南北4.5m、床面までの深さは20cmを測り、平面形態は残存状況から隅丸方形と考えられる。床面はやや堅さを持ち平坦で、ビットが1個確認できた。カマド及びはっきりとした掘方は認められなかった。

遺物は土師器の甕、須恵器の環、甕、灰釉陶器が出土し、時期の異なる遺物が混在することから正確な時期確定には至らなかった。出土遺物は8世紀～9世紀の範囲に含まれ、大半は8世紀代である。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化燐、砂少量。

第223図 H97号住居址実測図

#### H98号住居址

遺構は5ーけーJグリッドに位置し、南壁付近を2つの土坑に切れ、北側は水路によって破壊されている。調査規模は東西3.0m、南北60cm、床面までの深さは32cmを測り、確実な平面形態は不明である。覆土は黒褐色土と壁際の流れ込みである暗褐色土の2層で自然堆積と思われる。床面は平坦で表面は上間状に堅

い。ピット、カマドは確認できなかった。掘方は薄く貼床状に暗褐色土層が認められた。遺物は土師器の坏、碗、甕が出土した。図示したのは2点である。1は深みのある土師器碗で底部回転ヘラケズリにより、低い高台状に作り出している。2も碗で内側に深めの坏部を持ち、底部に「X」状の線刻が認められる。本住居址は、厚手の大型品で底部周辺部までヘラケズリを施した深みのある碗、高台造り出しの碗の存在から、9世紀前半としたい。



第224図 H98号住居址・遺物実測図

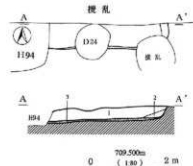
遺物	図名	図形	11世紀	12世紀	13世紀	調査・文 献	保存率・寸法	出 所
1	土師器	碗	(15.1)	7.1	9.1	アサノナガ 遺跡調査報告についで	90	彩色
2	土師器	碗	(14.8)	(8)	(7.4)	アサノナガ 遺跡調査報告についで	90	彩色

第123表 H98号住居址遺物観察表

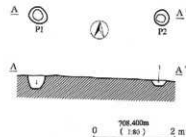
## 第2節 掘立柱建物址 (F)

### F 1号掘立柱建物址

遺構は調査区西側の2ーくーGに位置し、一組のピットが確認できた。南側にピットが認められないことから北側調査区外に展開する可能性がある。ピット間は中央から3mを測り、平面形態は円形である。規模はP1が径40cm、深さ33cm、P2が径36cm、深さ14cmを測る。遺物は出土しなかった。



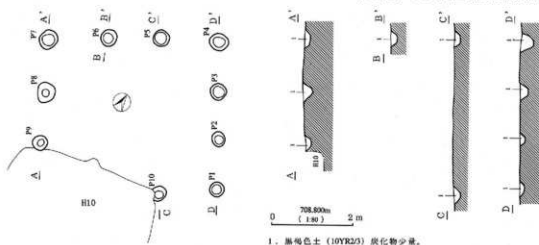
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量、小石少量。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) シンク。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。(掘方)



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化焼。  
第225図 F 1号掘立柱建物址実測図

### F 2号掘立柱建物址

遺構は調査区西寄りの3ーこーHに位置し、3×3間の側柱で、



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。

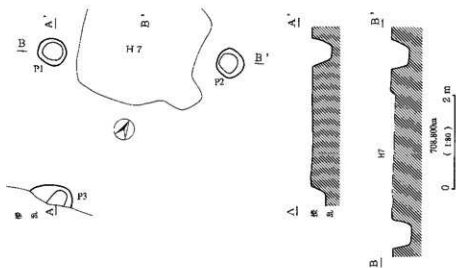
第226図 F 2号掘立柱建物址実測図

H10と切り合い関係にある。調査では住居内でのピット確認はできなかったが、向遺構の上出遺物の特徴からH10を切ると思われる。平面形態は円形で、ピット間は1.2~1.4m、径32~44cm、深さは15~35cmを測る。

遺物はピット内から土師器環、碗、須恵器甕の破片が出土した。時期は破片中に小型化した土師器環片が含まれることから10世紀後半以降と考えられる。

#### F 3号掘立柱建物址

遺構は3ーこーHに位置し、3個のピットが確認できたが全体像は不明でP3は南側半分を攪乱に破壊されている。平面形態は円形で、ピット間はP1、P2間3.7m、P1、P3間3mを測る。ピット規模は52~90cm、深さは40cm内外を測る。遺物は平安時代と思われる土師器片が僅かに出土

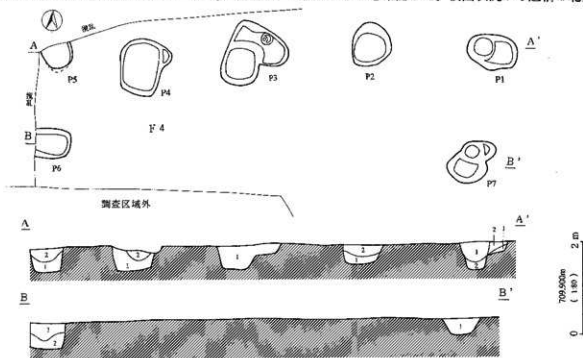


第227図 F 3号掘立柱建物址実測図

した。時期は出土遺物から平安時代又はそれ以降と考えられる。

#### F 4号掘立柱建物址

遺構は調査区西寄りの水路南3ーきーJに位置し、7個のピットを確認した。検出状況から遺構の北側柱列



1. 赤褐色土 (10YR2/2) 鈍い黄褐色土との混合。 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 鈍い黄褐色土少量。

第228図 F 4号掘立柱建物址実測図

と南に展開する側柱のピットと考えられ、北側に5個、両端のピット南にそれぞれ1個確認できた。平面形態は円形、方形、不整形と様々である。ピット間は2.0～2.6m、深さは35～60cmを測る。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕片が出土し、厚手の古墳時代と思われる土器片が主体である。本住居址は厚手の甕片、底平丸底有段坏等の遺物から古墳時代後期の可能性が考えられる。

#### F 5号掘立柱建物址

遺構は調査区東の水路南9-く-Bに位置し、11世紀後半のH77号に切られる。確認できたピットは南北方向に並んだ4個で、東西方向ピットは周辺に擾乱もあり確認できなかった。平面形態は円形でP1には小ピットが付属する。ピット間は1.4～1.6m、規模は径50～72cmを測る。

遺物は平安時代の土師器坏、甕、須恵器坏、灰胎陶器片が出土した。小破片が大半を占め正確な時期確定はできないが、11世紀の住居址に切れ、平安時代の上器が主体であることから9～10世紀代の遺構と考えられる。

#### F 6号掘立柱建物址

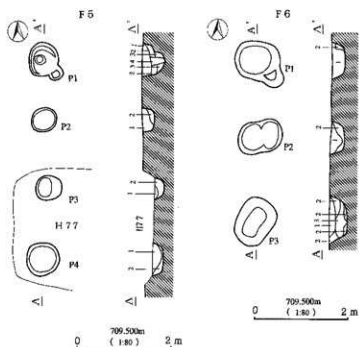
遺構は調査区東の水路南9-く-Cに位置し、3個の大型のピットを確認したが、本遺構に伴うと思われる東西方向のピットは認められなかった。平面形態は隅の丸い長方形又は楕円形で短径80cm、長径110cm内外、深さ40cmを測る。

遺物は平安時代の土師器甕片(武藏甕)が出土した。時期は平安時代又はそれ以降と考えられる。

### 第3節 炭・鍛冶関連遺構(C)

#### C 1号炭関連遺構

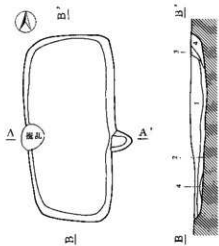
遺構は3-お-Gに位置し、H21を切る。平面形態は南北方向に長い隅丸長方形で東壁に張り出し部を持つ。規模は南北4.0m、東西1.9m、深さは30cm内外を測る。覆土は炭化物を多く含む黒褐色土で、下層には炭化物を主体とする炭化層が存在する。住居址の可能性が



1. 黒褐色土 (10YR3/1) 炭化物少量。
2. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 地山屑主体、黒褐色土少量。
3. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 地山二次堆積。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 柱痕。

1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 炭化物、地山屑少量。
2. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 地山屑主体、二次堆積。
3. 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 炭化物、地山屑少量。

第229図 F 5・6号掘立柱建物址実測図

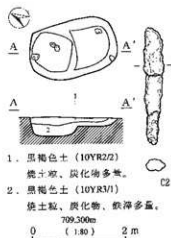


1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多量。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化層。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物やや多い。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量。

第230図 C 1号炭関連遺構実測図

低く、木遺跡の周辺では鉄滓を出土する遺構が存在することから、炭焼きに関する遺構である可能性が同われる。

遺物は古墳時代～平安時代の遺物が混在し出土したが、いずれも小破片である。時期は9世紀後半以降の住居址を切ることから、それ以降と考えられる。



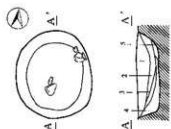
1. 黒褐色土 (10YR2/2)  
焼土粒、炭化物、鉄滓。
2. 黒褐色土 (10YR3/1)  
焼土粒、炭化物、鉄滓多量。

### C 2号鍛冶関連遺構

遺構は4-1ヶ-Gに位置し、H55を切る。平面形態は隅丸長方形で北側半分が深く掘り込まれ二段となる。規模は南北1.9m、東西1.2m、深さは上段20cm、下段38cmを測る。覆土は上層に焼上粒子、炭化物を多量に含む黒褐色土、下層に焼上粒子、炭化物を多量に含む鉄滓が混入する黒褐色土が堆積していた。覆土の状況及び鉄滓の出土から鍛冶に関する遺構である可能性が同える。

遺物は土師器の坏、甕、轆轤甕、須恵器の坏、甕、灰釉陶器の壺、鉄製品、鉄滓が出土した。土器はいずれも小破片である。鉄滓の出土量は1,252gを量る。

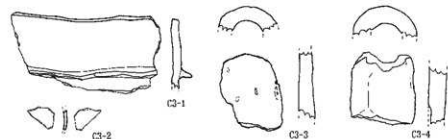
時期は8世紀後半以降の住居址を切り、遺物中に9世紀後半以降の遺物(灰釉陶器)が含まれることから9世紀後半以降の平安時代と考えられる。北側に隣接するC 3と同時期である可能性が推察される。



### C 3号鍛冶関連遺構

遺構は4-1ヶ-Gに位置し、H55を切る。平面形態は円形で、規模は径1.8m、深さ45cm内外を測る。覆土は上層に焼上、炭化物が混入し鉄滓の混じる黒褐色土、中間に焼土、焼土ブロック、炭化物が混入し鉄滓が少量含まれる黒褐色土が堆積していた。下層は焼土ブロックを含む焼上が多量に混入する赤褐色土が堆積し羽口片、鉄滓を含む。さらにその下層には銀色の鉄粉状の粒子が多量に認められた。覆土の状況、鉄滓、羽口の存在から鍛冶施設であることが同える。遺物は古墳時代～平安時代の土師器坏、甕、轆轤甕、羽釜、須恵器坏、甕、灰釉陶器壺、羽口、鉄滓が出土した。鉄滓の出土量は4,467gを量る。時期は8世紀後半以降の住居址を切り、遺物中に9世紀後半以降の遺物が含まれることから9世紀以降の平安時代と考えられる。南側のC 2と同時期である可能性が推察される。

1. 黒色土 (10YR2/1)  
焼土粒、炭化物、鉄滓。
2. 黒褐色土 (10YR2/2)  
焼土ブロック、炭化物、鉄滓少量。
3. 赤褐色土 (5YR4/6)  
焼土多量、焼上ブロック。
4. 黒褐色土 (5YR2/2)  
鉄粉状粉多量。
5. 灰黒褐色土 (10YR4/2)  
炭化物微粒。



第231図 C 2・3・4号鍛冶関連遺構、C 2・3号出土遺物実測図

### C 4号鍛冶関連遺構

遺構は4-1ヶ-Jに位置する。平面形態は楕円形で、規模は南北80cm、東西60cm、深さは20cmを測る。覆土は焼上、炭化物及び鉄滓を多く含む黒褐色土である。



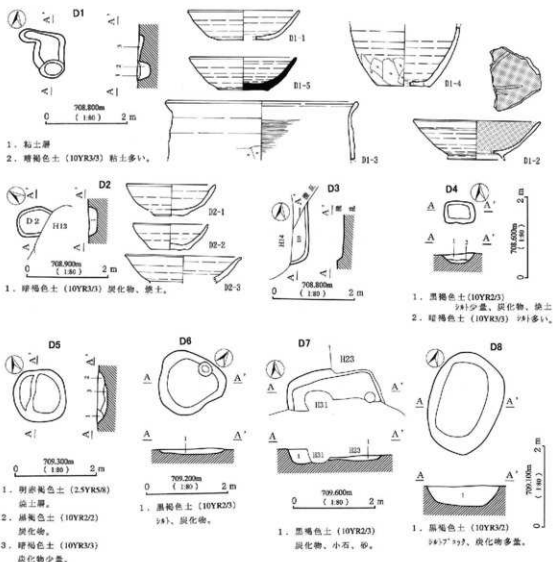
1. 黒色土 (10YR2/1)  
鉄滓多い、焼土、炭、小破片?

遺物は土師器の坏、甕、羽口、鉄滓が出土した。土器は小破片だが平安時代の様相を示す。羽口はかろうじて羽口片と判別できる破片で5片程度認められる。鉄滓の出土量は3,039gを量る。本住居址は羽口、鉄滓の存在から鍛冶施設であることが伺える。時期は出土遺物から平安時代と考えられる。

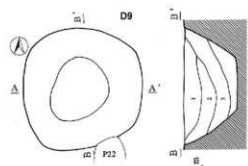


第232図 C4号鍛冶関連遺構遺物実測図

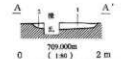
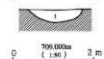
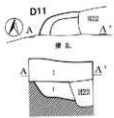
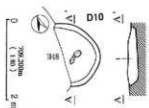
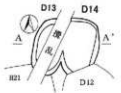
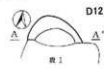
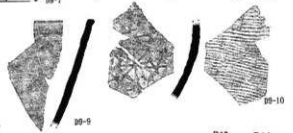
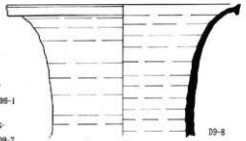
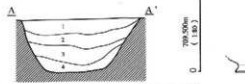
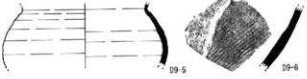
#### 第4節 土坑



第233図 D1～D8号土坑・遺物実測図



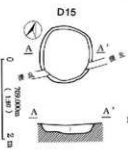
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 黄色砂粒・フツフツ多量、炭化物。
2. 黒色土 (10YR2/1) 礫 (3~5 cm大) 多量、炭化物。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) 石 (10~20 cm大)、炭化物、黄色砂粒。
4. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) 池山二次堆積。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、フツフツ少量。

1. 黒褐色土 (10YR2/5) 炭化物少量。

1. 黒褐色土 (10YR2/5) 炭化物少量、黄褐色フツフツや多い。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量、黄褐色フツフツや多い。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄色フツフツ少量。

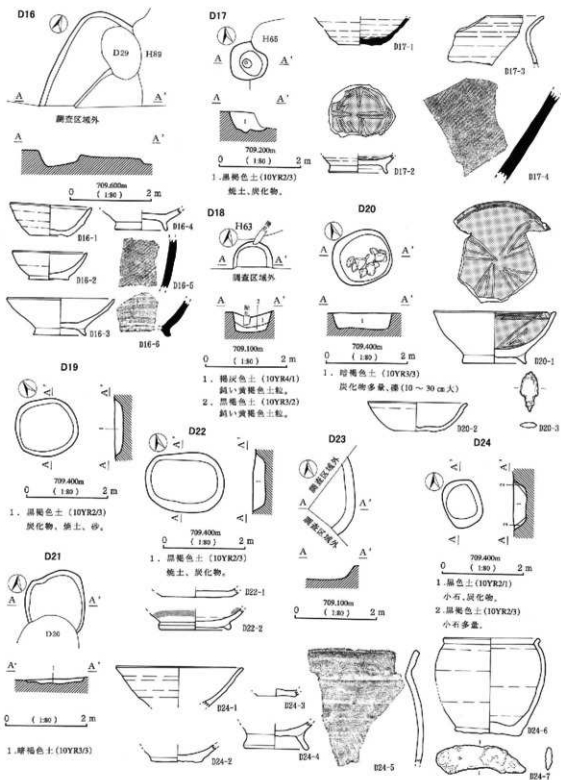


1. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰、遺物多い、炭化物、粘土粒、炭化物、粘土。

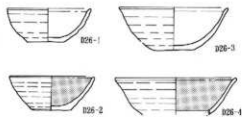
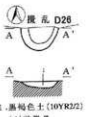
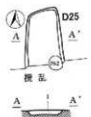


第234図 D9~D15号土坑・遺物実測図

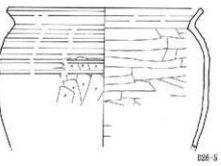
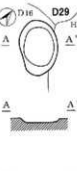
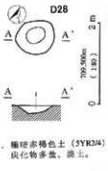
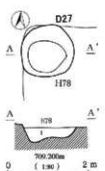




第235图 D16~D24号土坑·遺物実測図

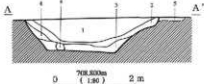
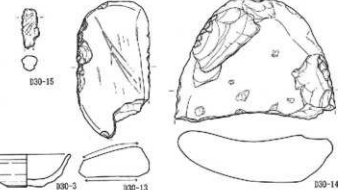
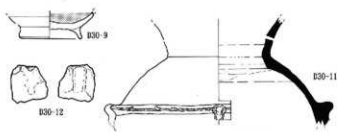
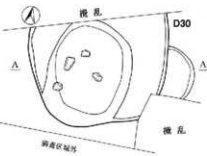
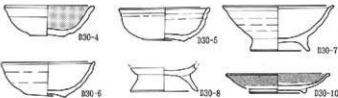


1. 黒褐色土 (10YR2/3) 小石多量。砂。



1. 赭褐色土 (5YR3/4) 炭化物多量。黄土。

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多量。礫 (2~5cm大)。砂。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂粒少量。  
 2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰、炭化物の堆積層。  
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰主体、堆山砂礫。  
 4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰、炭化物の堆積層。(4×2)  
 5. 黒褐色土 (10YR3/2) 堆山砂礫。



第236图 D25~D30号土坑·遺物実測图

遺構名	平面形態	比 例	規 格	深 さ	出土位置	時 形	備 考
D1	不整形	1.08	7.6	0.32	3-2-I	平安	
D2	楕円方形	(0.88)	0.8	0.2	2-I-I	平安 (10世紀)	
D3	長方形?	(1.12)	(0.8)	0.2	3-3-11		西側H14に切られる。
D4	長方形?	0.8	0.48	0.24	2-3-I		115内
D5	円形	1.3	1.24	0.21	3-1-11		
D6	不整形	1.68	1.52	0.2	3-1-1-G		
D7	方形?	2.2	(0.8)	0.36	4-a-G		南側H15に切られる。 灰積階段9号2号式
D8	楕円方形	2.4	1.8	0.48	3-1-1-I		
D9	円形	3	3	1.696	4-5-C	平安時代 (9~10世紀)	
D10	楕円方形?	(1.4)	1.4	0.24	4-2-H		西側H18に切られる。
D11	方形?	(1.0)	(0.56)	0.28	4-2-H		東側H22, 南側溝長に破壊される。
D12	円形?	1.36	(0.85)	0.28	3-3a-G		南側溝長に切られる。
D13	楕円形?	1.4	0.72	12	3-3a-G		D14と切り合い関係。
D14	楕円方形	1.36	0.8	16	3-3a-F		D13と切り合い関係。
D15	円形	1.4	1.28	0.2	4-2-J	平安 (9世紀)	
D16	楕円方形?	(1.3)	(0.6)	3.2	9-1a-C	平安 (10世紀後半)	
D17	円形	0.96	0.96	0.4	4-2-J	平安 (10世紀)	H65と切り合い関係
D18	円形?	1	(0.6)	0.45	3-3a-J		南側半分程度調査区外
D19	ほぼ円形	1.8	1.4	0.2	9-1-C		
D20	ほぼ円形	1.48	1.39	0.4	9-2-D	平安 (10世紀)	集石あり
D21	不整形楕円方形	1.48	1.4	0.18	9-2-D		南側D20に切られる
D22	楕円方形	1.92	1.44	0.28	9-2-D		灰積階段 九石2号式
D23	不明	(1.8)	(1.1)	0.36	8-1a-E		一部調査
D24	楕円方形	1.2	0.96	0.28	5-2-J		
D25	長方形?	(1.4)	9.2	0.12	5-2-J	平安 (10世紀)	南側溝長に破壊される
D26	円形?	8.8	(0.6)	0.16	5-2-J	平安 (10世紀後半)	北側半分調査区外
D27	円形	1.28	1.32	0.25	9-2-B		
D28	不整形円形	0.96	0.84	0.2	9-1-C		灰積階段 大石2号式
D29	楕円形	1.36	9.6	0.12	9-1-C		
D30	楕円方形?	2.9	(1.4)	0.9	3-2-J	平安 (10世紀半~11世紀)	北側溝長に破壊される 灰積階段 九石1号式

( ) の数字は調査記録

第124表 土坑観察表

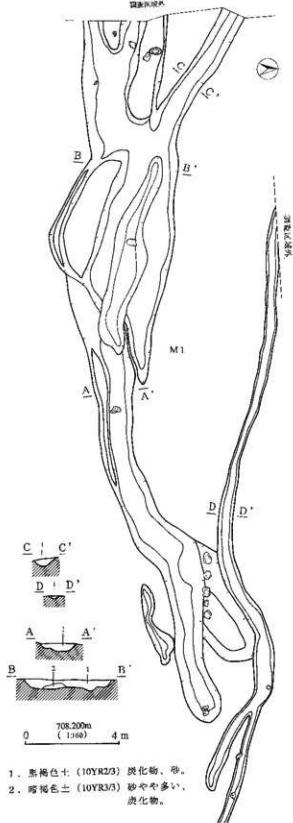
遺構名	部 位	番号	長さcm	幅cm	厚さcm	備 考	時 形・文 様	備 考
C2	天井?	31.96	12.34	2.18	1.43	南側中庭		
遺構名	部 位	番号	長さcm	幅cm	厚さcm	備 考	時 形・文 様	備 考
D30	土師器	223a	-	-	-	14a室の南 磁器の土師器 特異な土師器	平安朝中期	西 方
D30	土師器	-	-	-	-	内外で無縁		西 方
遺構名	部 位	番号	長さcm	幅cm	厚さcm	備 考	時 形・文 様	備 考
C3	土師	31	-	-	-	特異な土師 土師・土師の類?		西 方
C3	土師	128	-	-	-	特異な土師 土師・土師の類?		
遺構名	部 位	番号	長さcm	幅cm	厚さcm	備 考	時 形・文 様	備 考
D21	灰積階段	92a	13.75	2.75	2.1	シロサダ 東の土師器 土師器		西 方
遺構名	部 位	番号	長さcm	幅cm	厚さcm	備 考	時 形・文 様	備 考
C12	土師	196	8.2	-	3	土師・土師の類? (土師器?)		西 方
C13	土師	20	-	-	-	土師器(土師) 土師器		
D44	土師	30	-	-	-	土師器		
遺構名	部 位	番号	長さcm	幅cm	厚さcm	備 考	時 形・文 様	備 考
D1	土師器	36	7.57	4.53	3.9	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D1	土師器	78	15.5	151	0.9	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D3	土師器	121a	11.6	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D3	土師器	121b	11.6	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D11	土師器	26	13.1	6.3	4	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D4	土師器	36	10.27	1.2	3.9	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D12	土師器	36	10.27	1.1	4.1	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D7	土師器	37	14.23	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D1	土師器	36	-	18	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D12	土師器	36	22.8	-	-	土師器		西 方
D13	土師器	36	141	3.81	2.9	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D1	土師器	36	14.23	1.2	4	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方
D13	土師器	36	-	-	-	シロサダ 土師器(土師器) 土師器		西 方

第125表 炭・鍛冶関連遺構・土坑出土遺物観察表



## 第5節 溝跡 (M)

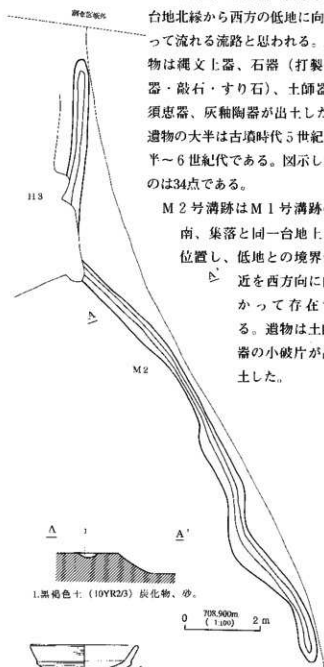
調査区域



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、砂。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂や多い、炭化物。

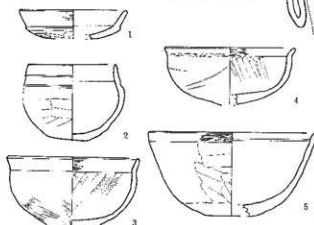
M1号溝跡は、遺構の密集する台地北縁から西方の低地に向かって流れる流路と思われる。遺物は縄文土器、石器（打製石器・敲石・すり石）、土師器、須恵器、灰輪陶器が出土した。遺物の大半は古墳時代5世紀後半～6世紀代である。図示したのは34点である。

M2号溝跡はM1号溝跡の南、集落と同一台地上に位置し、低地との境界付近を西方向に向かって存在する。遺物は土師器の小破片が出土した。

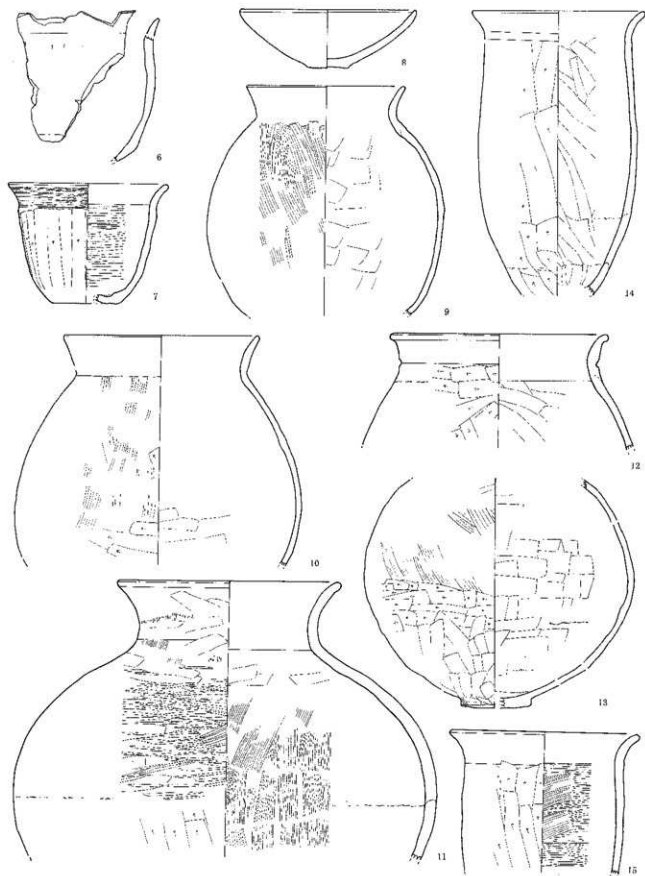


1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、砂。

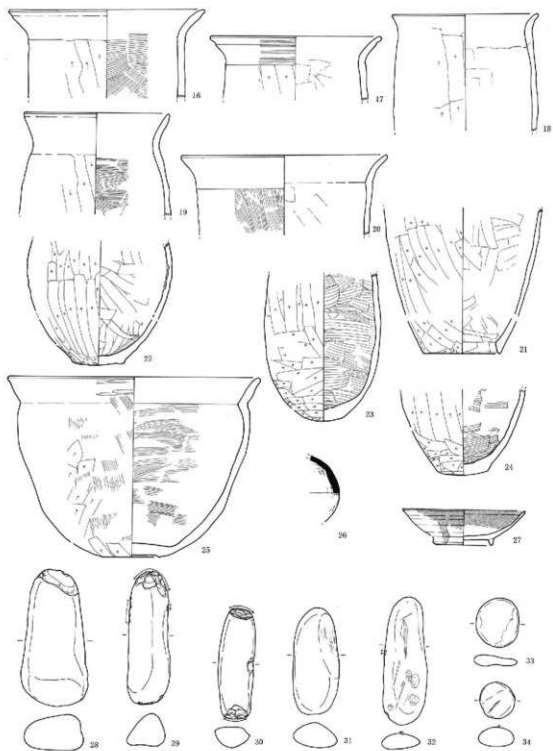
0 708.900m (1:100) 2 m



第237図 M1・2号溝跡、M1号溝跡遺物実測図



第238图 M1号清跡遺物尖洲岡



第239图 M1号清跡遺物実測図

番号	品名	数量	材質	寸法cm	重量g	備考・文書	保存庫・単位	備考
第1	土師器	片	11.4	3.8	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 土師器片	片箱→1号	片・片箱
第2	土師器	片	5	4.2	8.1	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	30	片箱
第3	土師器	片	5	4.9	7.6	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	30	片箱
第4	土師器	片	12.7	4.8	—	片(ヘラシズリ)ナガ 内面直線取付部	30	片箱
第5	土師器	片	12.41	5.4	8.9	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第6	土師器	片	—	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第7	土師器	片	17.1	10.4	12.1	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第8	土師器	片	16.1	4.5	6.2	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	30	片箱
第9	土師器	片	16.8	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ)ナガ 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第10	土師器	片	20.7	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ)ナガ 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第11	土師器	片	22.4	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ)ナガ 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第12	土師器	片	12.7	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第13	土師器	片	—	17.41	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第14	土師器	片	18.3	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第15	土師器	片	20.7	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第16	土師器	片	20.7	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第17	土師器	片	20.7	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第18	土師器	片	17.4	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第19	土師器	片	25.4	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第20	土師器	片	—	25.4	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第21	土師器	片	—	4.1	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第22	土師器	片	—	4.8	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第23	土師器	片	—	6.1	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第24	土師器	片	—	6.1	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第25	土師器	片	—	7	22	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第26	土師器	片	—	—	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第27	土師器	片	17.4	6.1	4.7	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第28	土師器	片	26.8	4.2	1.4	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第29	土師器	片	18.3	6.1	4.2	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第30	土師器	片	13.3	4.4	2.5	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第31	土師器	片	19.7	5.4	2.2	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第32	土師器	片	19	4	4.4	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第33	土師器	片	6	5.2	—	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱
第34	土師器	片	4.7	5.4	2.4	土師器ナガ 片(ヘラシズリ) 内面直線取付部	片箱→1号	片・片箱

第127表 M1号溝跡遺物観察表

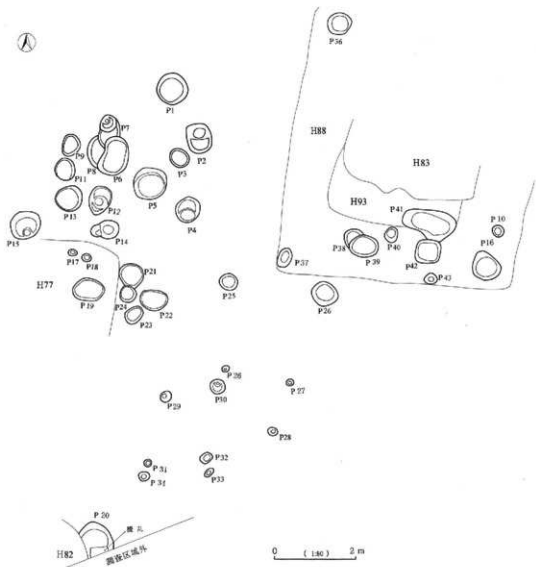
## 第6節 ビット(P)

番号	径cm	長さcm	形態	番号	径cm	長さcm	形態	番号	径cm	長さcm	形態
1	76	10	円形	16	52	10	不整形丸形	30	36	31	円形
2	72	56	方形	17	24	14	楕円形	31	28	26	円形
3	48	14	円形	18	25	20	楕円形	32	32	33	楕円形
4	60	18	円形	19	80	13	不整形円形	33	28	10	楕円形
5	72	41	円形	20	80	14	楕円形	34	20	10	円形
6	100	63	不整形丸形	21	60	21	円形	35	28	11	円形
7	40	65	円形	22	72	20	楕円形	36	36	20	円形
8	80	15	円形	23	46	23	楕円形	37	52	14	楕円形
9	44	14	不整形形	24	46	22	楕円形	38	48	6	円形
10	28	7	円形	25	44	18	円形	39	68	16	楕円形
11	38	18	円形	26	60	50	楕円形	40	36	13	不整形円形
12	66	63	楕円形	27	16	36	円形	41	132	11	楕円形
13	68	17	円形	28	24	13	楕円形	42	60	23	方形
14	40	43	円形	29	16	36	円形	43	28	15	円形

( ) に残存規模

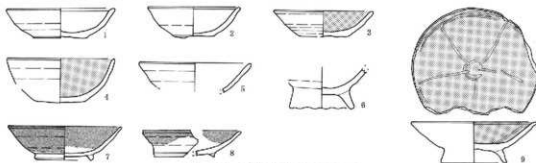
第128表 ビット計測表



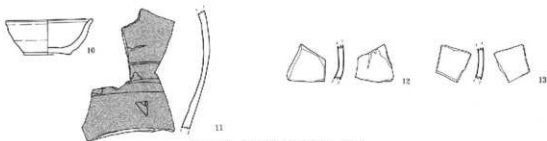


第240図 ビット実測図

第7節 遺構外遺物



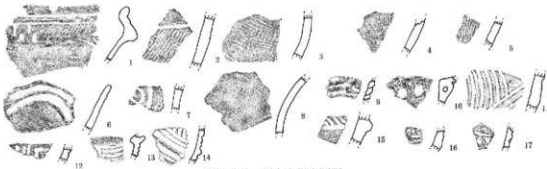
第241図 遺構外遺物実測図(1)



第242図 遺構外遺物実測図(2)

番号	品名	形状	寸法	重量	出土地	層・土層	観察上の特徴	備考	
1	土器片	片	13.9	6.9	5.9	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
2	土器片	片	11.3	8	5.8	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
3	土器片	片	7.12	5.61	5.2	中層中層	遺構外遺物	75	褐色
4	土器片	片	11.82	6.4	5.4	中層中層	遺構外遺物	75	褐色
5	土器片	片	13.2	—	—	中層中層	—	75	褐色
6	土器片	片	—	1.9	—	中層中層	遺構外遺物	75	褐色
7	土器片	片	13.8	6.9	6.2	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
8	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
9	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
10	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
11	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
12	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
13	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
14	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色

第129表 遺構外遺物観察表



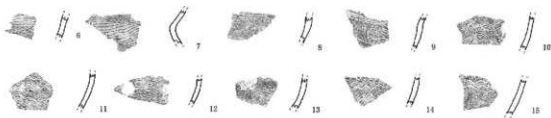
第243図 縄文土器実測図

番号	品名	形状	寸法	重量	出土地	層・土層	観察上の特徴	備考	
1	土器片	片	13.9	6.9	5.9	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
2	土器片	片	11.3	8	5.8	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
3	土器片	片	7.12	5.61	5.2	中層中層	遺構外遺物	75	褐色
4	土器片	片	11.82	6.4	5.4	中層中層	遺構外遺物	75	褐色
5	土器片	片	13.2	—	—	中層中層	—	75	褐色
6	土器片	片	—	1.9	—	中層中層	遺構外遺物	75	褐色
7	土器片	片	13.8	6.9	6.2	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
8	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
9	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
10	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
11	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
12	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
13	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
14	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
15	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
16	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色
17	土器片	片	—	—	—	中層中層	遺構外遺物	80	褐色

第130表 縄文土器観察表



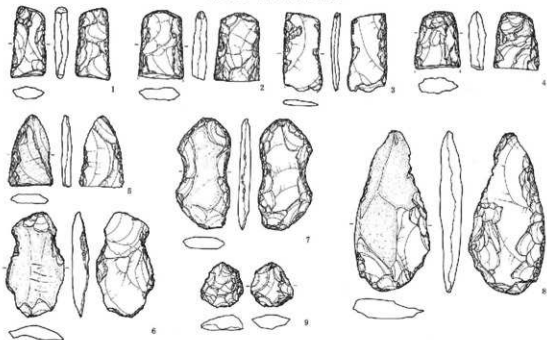
第244図 弥生土器実測図(1)



第245図 弥生土器実測図(2)

番号	器形	調整・文様	部位	番号	器形	調整・文様	部位
1	壺	外面縞線状文、内面ハケナデ	口縁破片	9	壺	外面縞線文・縞面状文、内面ナデ	胴部破片
2	壺	外面縞線状文、内面ナデ	口縁破片	10	壺	外面縞線状文、内面ナデ	胴部破片
3	壺	外面縞線状文、内面ナデ	口縁破片	11	壺	外面縞線状文、内面ナデ	胴部破片
4	壺	外面縞線状文、内面ナデ	口縁破片	12	壺	外面縞線状文、内面ナデ	胴部破片
5	壺	外面縞線状文・縞状文、内面ナデ	胴部破片	13	壺	外面縞線状文、内面ナデ	胴部破片
6	壺	外面縞線状文・縞状文、内面ナデ	胴部破片	14	壺	外面縞線状文、内面ナデ	胴部破片
7	壺	外面縞線文・縞面状文、内面ナデ	胴部破片	15	壺	外面縞線状文・ハケ目、内面ナデ	胴部破片
8	壺	外面縞線文・縞面状文、内面ナデ	胴部破片				

第131表 弥生土器観察表



第246図 石器実測図

番号	器名	重量g	長さcm	幅cm	厚さcm	調査所
1	打製石斧	70	8.8	4.2	1.5	下関大森 石塚集石塚
2	打製石斧	196	9.1	5.1	1.7	下関大森
3	打製石斧	50	8.6	1.4	0.9	下関大森
4	打製石斧	93	7	5.4	2	下関大森 轟動土器館
5	打製石斧	68	8.7	5.3	1.2	下関大森
6	打製石斧	158	15.9	7	1.9	同関口遺跡の傍
7	打製石斧	120	13.5	6.4	1.1	石塚集石塚 轟動土器館の傍
8	打製石斧	453	19.7	6.3	2.7	同関口遺跡の傍 轟動土器館 轟動土器館
9	スライパー	45	8.6	5.1	1.9	

第132表 石器観察表

## まとめ

開戸田遺跡、樋村遺跡Ⅲ、扇田遺跡の調査によって縄文時代・弥生時代・中世以降の遺物、古墳・奈良・平安時代の遺構・遺物を確認することができた。今回の調査地域は道路幅という調査区の制約及び、遺跡の密集地域にあたることから切り合いが激しく、遺構の全体が認められるものは数少なかったが、出土遺物からおおよその時期を推測することができた。以下、開戸田遺跡、扇田遺跡の状況及び遺物について述べてゆきたい。

開戸田遺跡は東方から延びる低丘陵を北方背後に背負った谷口扇状地縁辺の周辺地域よりやや高い微高地上に立地する。標高は689m内外を測る。遺跡の西方には樋村遺跡が所在し、弥生時代から平安時代に至る住居址300軒以上が調査されている。(古墳時代後期が主体)また、北側の低丘陵縁辺に小型の円墳が存在し、幾つもの占墳群を形成している。これまでに東久保古墳群1号墳(7世紀中葉～7世紀末)、後家山古墳1号墳(7世紀)、後家山古墳2号墳(5世紀後半～6世紀前半)の調査が行われている。さらに、この丘陵尾根上の緩やかな緩斜面には後家山遺跡Ⅰ・Ⅱ、東久保遺跡Ⅰ・Ⅱが所在し、弥生時代中期後半から後期の住居址80軒以上が調査され、佐久市内における弥生時代の高地集落的要素を持った代表的な遺跡となった。このように開戸田遺跡周辺においては近年、調査例が増し、遺跡の状況がある程度明らかになってきている。しかし、本遺跡内における調査例は皆無で、これまで遺跡の状況が不鮮明な地域であったことから開発行為に伴い確認調査を実施した。その結果、集落址が確認されたため本調査を行い、占墳時代及び平安時代の住居址20軒(古墳時代15軒、平安時代5軒)、占墳～平安時代の独立柱建物址3棟、平安時代の特殊遺構1基、古墳～中世の溝跡6条、畝跡を発見した。

古墳時代の住居址は5世紀後半～7世紀代に取まり、住居址の規模は2.5m内外(6.25㎡)の小型から10m(推定115㎡)を越す大型のものが存在する。遺構の配置は調査区東側に集中する傾向が認められ切り合いが激しい状況である。この遺構密集地域の南側調査区外は現在、一段低い畑、水路、道路となるが、調査を行った遺構の中には南に広がるものが予想されるものも存在するため、南側台地端部は削り取られ地形が変化しているものと推察された。

平安時代の住居址は口縁「コ」の字状の武蔵甕を伴う9世前半の3軒と南東カマドで儼かな遺物を伴う11世紀以降と考えられる2軒の計5軒が確認された。9世紀代の住居址は遺構の存在する西端に近接して認められ、規模も様々で企画に統一性は認められない。11世紀代の住居址は2軒で調査区中央付近と東側に一定の距離を持ち存在する。住居址は伴に4m後半で形態は類似する。数少ない土器も口縁面取りした羽釜口縁の形態と同一であることからほぼ同時期に存在していた可能性が伺われる。

時期	遺構名		
5世紀後半～6世紀初頭	H7・8・9・11・19	H12・14	H20
6世紀前半～中葉	H3・4・6		
6世紀後半～7世紀初頭	H1・5・10		
7世紀	H18		

時期	遺構名
9世紀	I13・16・17
11世紀以降	H2・15

第133表 開戸田遺跡住居址年代表

調査区中央付近には東からの溝と合流した低地帯が存在する。周辺に遺構が認められないことから集落の形成されていた当時は、すでに何らかの形で存在していたと思われ、山からの沢水が集落内に池状のたまりを作り南の低地へと流れ出ていたと推察される。この調査区内に存在する低地の東側には、四方に短い溝を掘り込み中央に集石を持つTol特殊遺構が存在する。この周辺は地面に焼土が広がり、比較的長い鉄釘が

多数出土することから、特殊な建物が存在した可能性が伺える。時期は9世紀代の遺物の存在、遺構の切り合い関係から9世紀代前後と考えられ、調査区西端に存在する住居址群との関係が興味深い。

掘立柱建物址は調査区東に2棟、西端に1棟の3棟を確認した。西側2棟はピット径40～90cmを測る立派な掘り込みを有し、F1は2×2間の総柱、F2は3×3間の側柱である。F1の柱穴底部には柱の落ち込みを防ぐ根石が据えられている。遺構の主軸、配設及びピット形態から2棟に関連があったと考えられる。

扇田遺跡付近の調査例は、北方山際の舌状に張り出した尾根先端部において中世の竪穴状遺構を発見した坪の内遺跡、さらに北側の尾根山腹南斜面に構築された長峯古墳群1・4・6・7・8号墳（7世紀末～8世紀）の調査が行われているにすぎない。滑津川右岸の台地周辺における遺跡の状況は不詳で、今回の道路建設に伴い行われた確認調査によって初めて遺跡の存在が明らかになった。発見された遺構は道路建設に伴う幅16mという限られた範囲での調査であったが、住居址91軒をはじめとし、掘立柱建物址、土坑、溝、ピット等多くの遺構を発見した。この地に古墳時代から少なくとも平安時代までほぼ継続的に集落が形成されていたことが確認できた。住居址の各時代数は古墳時代14軒、奈良時代12軒、平安時代54軒、不明11軒である。特徴的な遺構・遺物としては、平安時代と思われる土坑状の掘り込みから鍛冶関連遺構に認められる鑪の先端である羽口、溶解した鉄くずである鉄滓が出土した。集落内において鉄製品製作を行った小鍛冶等が存在していたと考えられる。

扇田遺跡は谷口扇状地である関東山地から西流する滑津川の右岸に接して存在する川床との比高差5～7m程度を測る台地に展開し、周辺地域は南側を滑津川、北側はやや離れ低丘陵、西側を低地に囲まれた東方から西方に向かって張り出した周囲に比して安定した微高地であったと思われる。南に西流する滑津川は少なくとも古墳時代以降すでに安定し、生活の中で貴重な水源となり漁場でもあったであろう。これを表すように今回、古墳時代からの住居址が発見され、平安時代の住居址2軒からは漁網錘とされる管状上錘が出土している。また、台地の西側は調査の結果、緩やかな傾斜で低地帯となり住居址といった生活跡は姿を消し、調査区北側の一部をかすめ集落の形成された微高地縁辺を西流したと思われる幾筋もの溝状流路が存在する。溝跡の覆土からは古墳時代（5世紀後半～6世紀）の遺物が多量に出土することから古墳時代には存在し、集落との境を形成していたと推察される。遺跡周辺の現況を見ると住居址等の生活跡が存在した東側の微高地は宅地化され住宅が立ち並ぶが、遺構の主体が流路となる低地周辺は強粘性の安定した土壌であることから現在も広く水田として利用され宅地化されていない。こうした状況から古代においても東側の微高地に集落を形成し、台地の西及び北方向に広がる低地帯を米づくりといった生産地として利用していたのではないだろうか。古代も現在も生活基盤はさほど変化していないようである。

今回の調査によって調査地域内における遺跡の状況は西側低地から一段高い微高地西端から集落が形成されはじめ、130m程度の範囲で遺構の密集地帯となり、調査区東端付近で減少する傾向が認められた。南側は滑津川に接する台地南端まで集落が展開すると考えられる。（低地部は除く）北側は調査区西端で確認した遺跡の北方を東から西に向かう流路との境に沿って集落が広がると思われるが北端範囲について現状では不詳である。東側は調査区東にて遺構の減少が確認されたが、安定した台地が東方に続くことから遺跡の東端とは断定できない。これらの状況から扇田遺跡の集落の広がりは西側で低地との関係がある程度確認できたが、他地域の状況は今後の調査に期待するところが大きい。

扇田遺跡において確認した住居址の時期は、遺構の切り合い関係及び出土遺物の特徴から以下の通りとした。

	時期	遺 構 名	
古墳時代	II 6c前半	H13・4	H12
	III 6c後半	H15・19・52	
	IV 7c	H1・16・19・56	
奈良時代	I 8c第一	H22・62・63	H125・35
	II 8c第二		
	III 8c第二	H75	H131北・36・74・95
	IV 8c第四		
平安時代	V 9c前半	H7・20・24・35・38・40・42・46・66・70・81・98	
	VI 9c後半	H17・27・28・39・57・61・92	
	VII 10c前半	H6・10・11・29・31・58・65・68・73・78・88・89・91	
	VIII 10c後半	H2・8・9・26・31東・33・37・51・60・64・76・83・94	
	IX 11c前半	H77・79・89	
	X 11c後半	H47	
	古墳時代	H14・45・87・96	
	奈良時代	H18・30・	
	平安時代	H10・21・32・59・72	
	不 明	H13・23・41・44・48・53・71・84・86・93・97	

第134表 扇田遺跡住居址年代表

開戸門遺跡、扇田遺跡では5世紀後半の古墳時代から11世紀代の平安時代に位置づけられる土器群、石製品、鉄製品が出土している。

佐久市内における古墳時代から平安時代にかけての土器の様相は、近年の発掘調査の増加に伴い進んでおり、今回は、佐久市岩村山北地積にて古墳時代から平安時代の住居址1,000軒以上を調査した埴原遺跡を参考とし、扇田遺跡を含めた土器の形式分類を行い各遺跡における時期別様相を若干述べてみたい。

#### 土 師 器

坏一まとめ中、形式名に●・\*印のつくものは、●—黒色処理を施すもの、\*—内面暗文を施すものとす。それ以外はミガキ又は摩耗で不明なもの。

#### A—半球状のもの。

- A—1 口縁短部が、直線的なもの。
- A—2 口縁短部が、僅かに内灣するもの。
- A—3 口縁短部が、僅かに開くもの。

#### B—半球状で、口縁短部が短く僅かに外反するもの。

- B—1 半球状で、口縁短部が緩やかに短く外反するもの。
- B—2 半球状で、口縁短部が鋭く角度を持ち短く外反するもの。

#### C—B形態の口縁外反部が長く外反するもの。

- C—1 B形態で、口縁部が長く外反するもの。
- C—2 C—1形態で、体部が浅いもの。

#### D—体部と底部の境に稜又は段を有するもの。(須恵器の蓋坏の模倣と思われるもの)

- D—1 体部と口縁の境に稜又は段を持ち、ほぼ直上するもの。
- D—2 体部と口縁の境に緩やかな稜を持ち、ほぼ直上するもの。
- D—3 体部と口縁の境に稜又は段を持ち、外傾するもの。
- D—4 体部と口縁の境に稜又は段を持ち、内傾するもの。
- D—5 体部と口縁の境に緩やかな稜を持ち、外傾するもの。

E-D形態の明瞭な様が消えたもの。

E-1 半球状又は平底気味で、体部と口縁の境が丸みを持って直線的に立ち上がるもの。

E-2 E-1形態で、口縁が僅かに外反するもの。

F-底部平底気味で口縁と体部の境に角度を持ち、開き気味に立ち上がるもので、内面に畿内系暗文を施すものをF-1。それ以外をF-2とする。

G-轆轤成形で、底部全面ヘラケズリを施すもの。

H-轆轤成形で、回転糸切り後周辺部ヘラケズリを施すもの。

I-轆轤成形で、回転糸切り後未調整のもの。

J-1形態で、低径の小さいもの。

K-轆轤成形で、回転糸切り後未調整、やや器形が低くつぶれたもの。

L-K形態で、底径が小さいもの。

M-轆轤成形で、口径11cm以内の小型品。

碗-まとめ中、形式名に●・\*印のつくものは、●-黒色処理を施すもの、\*-内面暗文を施すものとする。それ以外はミガキ又は摩耗で不明なもの。

A-ロクロ成形で、高台がやや開き、長さ1cm内外のもの。

A-1 環部が緩やかな丸みを持ち、開き気味のもの。

A-2 A-1形態で、短部が外反するもの。

A-3 環部が開き、直線気味のもの。

A-4 環部の丸みが強く、身の深いもの。

B-轆轤成形で、高台が足高又は足高気味のもの。

C-轆轤成形で、器全体が厚め、高台が低く、身が深いもの。

D-轆轤成形で、口径11cm以内の小型、全面黒色処理を施すもの。

E-轆轤成形で、内面にカキ目を持つもの。

F-小型のもの。

G-高台つくり出しのもの。

## 高坏

A-「ハ」の字の短脚で、底部から丸みを持ち立ち上がり、やや開き、直線的に口縁に至る。

B-脚部上部柱状で、裾部は開き、坏部は丸底気味で口縁端部が僅かに外反するB-1形態の坏がのる。

C-やや短脚で、開き、坏部は口辺部が大きく外反するC-1形態の坏がのる。

D-脚部やや開き、坏部は直線的に逆「ハ」の字状に開き口縁に至る。

E-短脚で、裾部は大きく開き、坏部は浅い丸底気味のA-1形態の坏がのる。

## 甕

### 武蔵甕

A-「く」の字の口縁形態で、口縁に最大径を有するもの。

B-「く」の字あるいは「コ」の字気味の口縁形態を呈し、胴部に最大径を有するもの。

C-「コ」の字の口縁形態で、胴部に最大径を有するもの。

D-「コ」の字の口縁形態で、小型のもの。

## 轆轤甕

Eー口縁に最大径を有するもの。口縁が長いもの。

Fー胴部に最大径を有するもの。口縁が長いものをF-1、短いものをF-2とする。

Gー小型で、口縁部が短く、直上気味のもの。

## その他の甕

Hー口縁部に最大径を有するもの。ヘラ調整をH-1、ハケ調整併用をH-2とする。

Iー口縁部に最大径があり、大きく開くもの。ヘラ調整をI-1、ハケ調整併用をI-2とする。

Jー胴部に最大径を有するもの。ヘラ調整をJ-1、ハケ調整併用をJ-2

Kー球胴のもの。ヘラ調整をK-1、ハケ調整併用をK-2

Lー須恵器を模倣したと思われるものでロクロ使用のもの。

## 小型甕

Aー口縁に最大径を有するもの。

Bー胴部に最大径を有するもの。

Cー口縁が短く折れるもの。

## 羽釜

Aー鉤が全周するもの。

A-1 非轆轤成形で、口縁横ナデ、面取りされ、内外面ヘラ調整のもの。

A-2 非轆轤成形で、雑な作り、口縁が面取りされるもの。

A-3 非轆轤成形で、雑な作り、口縁が面取りされないもの。

A-4 非轆轤成形で、鉤の張り出しが僅かなもの。

A-5 轆轤痕が顕著で口縁面取り、上部が内増し、やや硬質のもの。

Bー鉤を部分的に貼り付け、非全周で、やや丁寧なものをB-1、やや雑な作りのものをB-2とする。

## 甕

Aー底部全開の単孔で、口縁「く」の字状のもの。

Bー底部が単孔で、浅いもの。

Cー底部が単孔で、バケツ状に開き、やや深いもの。

Dー底部が多孔で、ヘルメット状のもの。

## 鉢

Aー浅く開くもの。

Bー口縁に最大径があるもの。

Cー胴部に最大径があるもの。口縁に顕著なナデを施すものをC-2とする。

Dー逆「ハ」の字でやや深いもの。

Eー半球状のものをE-1、半球状で調整が雑なものをE-2。

Fーロクロ使用のもの。

## 耳皿

Aー橙色のもの。

Bー全面黒色で、底部からみこみ部にかけて孔のあくもの。



## 須惠器

### 坏

- A-底部全面ヘラケズリを施すもの。
- B-回転糸切り後周辺部ヘラケズリを施すもの。
- C-底部回転糸切り後無調整のもの。径の小さいものをC-2とする。
- D-内傾する立ち上がりを有するもの。
- E-平面楕円状のもの（杓状）

### 高台付坏

- A-高台貼付けされ身の浅いもの。底部全面ヘラケズリをA-1、糸切り痕を残すものをA-2とする。
- B-高台貼付けされ身が深く、底部全面ヘラケズリのもの。
- C-橙色のもの。

### 蓋

- A-宝珠つまみで、返りの無いもの。
- B-宝珠つまみで、返りのあるもの。
- C-環状のつまみで、返りの無いもの。

### 高坏

- A-高台付坏に脚を貼り付けたもの。

### 甕

- A-頸部のやや長いもの。
- B-頸部の短いもの。
- C-広口のもの。

### 壺

- A-肩部が丸く張るもの。
- B-頸部の短いもの。
- C-頸部の長いもの。

## 灰釉陶器

### 碗・皿

- A-漬け掛けで、高台二日月状、底部ヘラケズリをA-1、糸切り痕が残るものをA-2、底部不明のものをAとする。
- B-漬け掛けで、高台内側の内縁が無くなり、やや厚め、底部ヘラケズリをB-1、糸切り痕が残るものをB-2、底部不明のものをBとする。
- C-漬け掛けで、高台低く厚め、丸みを持ち、底部ヘラケズリをC-1、糸切り痕が残るものをC-2、底部不明のものをCとする。
- D-輪花碗

開戸田遺跡

## 古墳時代

I期（5世紀後半～6世紀初頭）木時期に比定される住居址はH11・19の2軒である。坏は半球状で口縁直上又は内縁気味のA-1、A-2形態、半球状で口縁端部が緩やかに外反するB-1、返りに角度を持つ

たB-2形態が存在し、内面黒色処理を施すB-1●、B-2●形態が含まれる。鉢は体部に最大径を持つC・C●形態、口縁に最大径を持つB形態が、高坏は坏部にB-1形態が付き、短脚で裾部が大きく開くB形態と、坏部口縁がやや開き気味で直線的に立ち上がり「ハ」の字状の短脚を持つA形態の2種である。甕はK-1、K-2形態の球胴が主体で、一部胴部中央にやや膨らみを持つJ-1形態の長胴甕が認められる。

Ⅱ期（6世紀前半～中葉）本時期に比定される住居址はH3・4の2軒である。坏はⅠ期にも存在した丸底で口縁端部が角を持ち短く外反するB-2形態、本時期に特徴的な口縁部が長く大きく外反するC-1●、C-2●形態、須恵器蓋坏を模倣とし胴部と口縁部との境に明瞭な稜を持ち、口縁やや外傾するD-3形態が認められる。鉢は半球状で口縁がやや反るB、C形態、バケツ状のD形態の3種、高坏は全体像の明確なものは存在しない。坏部は底部から稜を持って立ち上がり、やや開き気味に口縁部に至る1種、脚部はいずれも短脚で裾部が緩やかに開くものと角度を持って開く2種が存在する。甕は下ぶくれ及び胴部中央付近が膨らみ、外面ヘラケズリを施すJ-1形態、甕は底の全開した底抜けの単孔でやや丸みを持って立ち上がり口縁部は大きく開くA形態が存在する。

Ⅲ期（6世紀中葉～7世紀初頭）本時期に比定される住居址はH1・5・6の3軒である。H6は古い様相の土器を含むが、須恵器坏の特徴から本時期に加えた。土師器一坏は半球状のA-2が1点含まれる他は体部と口縁の境に明瞭な段、稜を有する須恵器蓋坏を模倣の原型とするD-3形態が主体となり、一部D-1、D-2形態が含まれる。口縁付近は開き気味の傾向がある。甕は小型の単孔でバケツ状のB-1形態が認められる。甕は全体像を把握できるものは存在しないが、残存状況から球胴でハケ調整併用のK-2形態、長胴で胴部に最大径を有し、ケズリ主体のJ-1、口縁に最大径を有しハケ調整併用のH-2形態が認められる。小型甕は口縁に最大径を有するA形態、胴部に最大径を有するB形態で鉢は半球状で深みのあるD-1が存在する。須恵器はTK10に比定される坏の破損品が出土している。

Ⅳ期（7世紀代）本時期に比定される住居址はH18の1軒である。遺物はすべて土師器である。

坏は底部丸底手持ちヘラケズリで口縁と体部の境に明瞭な稜を持ち、口縁部は短く内径し、体部浅めのD-4形態である。甕は口縁緩やかな「く」の字で底部は小さく、開き気味に立ち上がり胴部中央の下部から、直線的気味に頸部に立ち上がり、ハケ調整併用のH-2形態。甕はA形態で底抜け単孔の底部から、開きながら丸みを持って立ち上がり、口縁は緩やかな「く」の字状である。

#### 平安時代

##### V期（9世紀前半）

本住居址に比定される住居址はH13・16・17の3軒である。土師器は坏、碗、皿、甕、壺である。坏はI形態の底部回転糸切り後無調整を基本とし、底部周辺ヘラケズリのH形態、底部ヘラケズリのG●形態、I●形態の内面黒色処理とI形態の本処理が混在する。器高の浅いものは皿とし、内面黒色処理が施される。高台の付いたものは碗とし、高台貼り付けで口縁外反気味のA-1形態が認められる。甕はC形態で口縁「コ」の字状の武蔵甕である。この他小壺の破損品、小型の手づくね土器、灰釉陶器片、須恵器高坏片が出土した。高坏は高台付坏に脚を貼り付けたもので特異なものと思われたが、佐久市の市道遺跡Ⅱ、東方の扇田遺跡から同じ形態の上器が出土している。

##### Ⅹ・Ⅹ期（11世紀）

本住居址に比定される住居址はH2・15の2軒である。遺物は土師器を基本とし、須恵器片を僅かに含むが、住居址に伴うかは不明である。全体に遺物の総量は僅かである。土器の形態は口縁面取りした羽釜の口縁に類似した破片で同様のものが尚住居址から出土している。H2からは他に丸底気味で鉢状の破損品が、

H15からは、底部糸切りの環破損品、須恵器破片が出土している。

羽釜口縁に類似する土器以外の食前貝が土器片を含め皆無に等しいこと、南東カマドであることから11世紀以降としたい。

## 扇田遺跡

### 古墳時代

Ⅱ期（6C前葉～中葉）本期に比定される住居址はH3、4の2軒である。土器は土師器が主体で、器形は土師器の環、鉢、高坏、甕、手づくね土器である。

土師器一坏は丸底で浅く、体部と口縁の境に明瞭な稜を伴い口縁が大きく開くC-2、C-2●形態が認められる。甕は長胴で胴部中央付近に膨らみを持つJ-2形態、鉢は胴部に最大径を有し、口縁に顕著なナデを施すC-2形態、高坏は坏部にB形態を付けたC形態である。本期の住居址は2軒で、遺物量も少なく、考察するには資料が乏しい状況である。

Ⅲ期（6C中葉～7C初葉）本期に比定される住居址はH5・49・52の3軒である。土器は土師器、須恵器が認められ、土師器が主体である。器形は土師器の環、鉢、甕、甗で俵かに須恵器破片が含まれる。

土師器一坏は須恵器模倣と思われるD-3、D-4形態、D形態の稜がやや丸みを持ったE-1形態である。全体的に須恵器模倣型のD形態が主体となり、口縁部は外傾気味の知向がある。鉢は口縁に最大径があるB形態でヘルメット状である。甕は長胴、球胴が存在し、長胴甕はJ-1形態で胴部の張りがやや上部に移行するが、下膨れ気味も認められる。球胴は口縁に最大径を有し、ヘラ調整のK-1形態、ハケ調整併用のK-2形態が存在する。小型甕は胴部に最大径を有するB形態で、口縁は短く外反する。甗はA形態の底抜け単孔でやや丸みを持って立ち上がり、口縁は「く」の字で短いものと、D形態のヘルメット状で多孔の2種である。

Ⅳ期（7C）本期に比定される住居址はH1・16・19・56の4軒である。土器は土師器、須恵器が認められ土師器が主体である。器種は土師器の環、高坏、鉢、甗、須恵器の蓋である。

土師器一坏は底部と口縁部の境の稜が不鮮明となるE-1、E-2形態及びC-1、D-3●形態が認められる。高坏は坏部の立ち上がりが直線的な「ハ」の字に開くD形態である。鉢は口縁に最大径を有するB形態、逆「ハ」の字で、身がやや深いD●形態が認められる。長胴甕は口縁部に最大径を有し、胴部の膨らみが無くなり、直線的となる。口縁は緩やかに外反するH1形態、やや口の広いI-1形態、破片だが胴部に最大径を持ちハケ調整併用のJ-2形態である。甗は碗状で浅く、単孔のB形態が新たに認められ、底部底抜けのA形態は、底部から丸みを持った立ち上がり、直線気味である。

須恵器一本期後半に受け部に返りを持ち、粗雑なB形態の蓋が出土している。地元産の可能性が考えられる。

本期については、ある一定の時期まで土器様相が6世紀代後半と類似する可能性が考えられるため、6世紀後半から7世紀にかけての編年には若干検討を有する状況である。

## 奈良・平安時代

Ⅰ期（8C第Ⅰ四半期）本期に比定される住居址はH22・62・63の3軒である。

土師器一坏は半球状のA-2、A-3●形態、半球状で身の深いA-4●形態、平底気味で丸みを持って立ち上がるE-1●形態が存在する。主体は半球状の丸底で、一部平底気味の形態が含まれる。高坏は短脚で裾部が広がり、坏部は丸みを持って口縁部に至る身の浅いE●形態である。甕はA形態の口縁「く」の字で、器厚の薄い武蔵甕、H-1形態の口縁部が厚く、やや古い様相を示すものが認められる。

須恵器一坏はA形態で底部平底、丁寧な回転ヘラケズリ及び手持ちヘラケズリを施す。D形態の「S」字状に立ち上がる鉢状の形態も1点存在する。高台付坏はA-1形態で、身は浅く口径が広く、丁寧な底部回転ヘラケズリ後高台貼り付けで、内面みこみ部に叩き痕を施すものが存在する他、身の深いB形態も認められる。蓋は返りの付かない破損品である。

Ⅱ期（8C第Ⅱ四半期）本期に確定できる住居址は認められない。8世紀前半でⅡ時期に細分できない住居址はH25・55の2軒である。

土師器一坏は平底気味にヘラケズリされ、開き直線的に立ち上がるF-2形態と底部平底で底部から体部途中までヘラケズリされ、逆「ハ」の字に立ち上がり内面機内糸暗文を施すF-1●形態が認められる。

須恵器一坏はA形態で雑にヘラケズリされ、僅かに回転糸切り痕が残る。甕は縄目の叩き痕を残す。

Ⅲ期（8C第Ⅲ四半期）本時期に比定される住居址はH75の1軒である。須恵器が主体で土師器の総数を遙かに上回る。

土師器一底部ヘラケズリのG●形態と回転糸切り後周辺部ヘラ削りのH●形態、糸切り後未調整のI●形態が認められる。甕は小型の轆轤甕の破損品及び頸部「く」の字の武蔵甕破片が含まれる。

須恵器一坏は底部回転糸切り後無調整のC形態と丁寧な底部回転ヘラケズリのA形態、ヘラケズリ後僅かに周辺部ケズリを施すB形態の3種が混在する、内面に刻印を施すものが1点出土した。（?）高台付坏は身が深く、ヘラケズリ後高台貼り付けのB形態と、身が浅く、ヘラケズリ後高台貼り付けのA-1形態、回転糸切り後高台貼り付けのA-2形態が認められる。この他、1点だが土師器色の褐色で硬質のC形態も認められる。蓋は返りの伴わない宝珠つまみで天井部に明瞭なケズリを施すA形態と、小径で環状つまみを施し、天井部明瞭なヘラケズリを施し、全体に灰白色で他に明らかに胎土の異なるC形態が存在する。高坏は高台付坏に脚部を貼り付けた形状で、特殊なものかと思われたが、西方の開戸出遺跡、跡部地積の市道遺跡Ⅱから同形態のものが出土している。甕は頸部が広く口径が短いC形態の破損品、全体像は不明だが大型の雲胴部の破片が認められる。壺は頸部の短いB形態が認められる。甌は底部と思われる破片が存在する。側面に径5mm程度の孔を穿つ。

Ⅳ期（8C第Ⅳ四半期）本期に細分できる住居址は存在しない。

Ⅲ・Ⅳ期（8世紀後半）本期に比定されるの住居址は第Ⅲ、第Ⅳ四半期に細分できなかったH31北・36・74・95号住居址の4軒である。

土師器一全体像を伺えるのはH36号出土A形態の土師器甕で、口縁「く」の字の武蔵甕である。

Ⅴ期（9C前半）本期に比定される住居址はH17・20・24・35・38・40・42・46・66・70・81・98の12軒である。本期から、住居址数が増大する。

土師器一坏は底部回転未調整のI●形態、底部全面ヘラケズリのG、G●形態及び周辺部にヘラケズリを施すH●形態も若干認められ、黒色処理が主体をなす。本期から高台を付する甕が認められ、小破片が多数を占めるが、厚手で身の深いC形態、底部から開きながら立ち上がり、高台部を浅く造り出したG形態が認められる。甕はC形態の口縁「コ」の字状の武蔵甕が主体となる。また、1点だが、轆轤使用で器形が須恵器模倣と思われるI形態も認められる。羽釜は本遺跡において初現となる。口縁端部は面取りされ、鈎までが短く、口径が比較的小さい長胴のA-1形態で、全体に作りは丁寧である。

須恵器一坏は底部回転糸切り後未調整のC形態が主体となり、僅かにヘラケズリのB形態が含まれる。高台付坏は、回転糸切り後高台貼り付けで糸切り痕が残る破損品である。蓋は宝珠つまみ部、受け部の破片で、天井部はヘラケズリが施される。全体像は不明である。甕は口縁広口短頸のC形態と形態不明で外面に細か

い格子、縄目の叩きを施す胴部破片が認められる。甌かと思われる口縁から胴部にかけて直線的で、バケツ状の上器が出土している。

Ⅵ期（9C後半～10世紀初頭）本期に比定される住居址はH17・27・28・39・57・61の6軒である。

土師器一坏は底部回転切り産し後未調整のI、I●形態、やや器高が低く、丸みを持って立ち上がり、丸みを持ち、やや器高の低いK形態が出現し数を増す。全体的に黒色処理を施すものが未処理を上回る。碗はA形態で、口縁外反気味のA-2●形態が認められるが、坏部は破損品が多く口縁形状の不明なものが多い。黒色処理した中に放射状の暗味を持つA●●形態も認められる。他に底部から素直に開くA-1形態が認められる数は少ない。甕はC形態の口縁「コ」の字状の武蔵甕で短胴気味が僅かに含まれる他、胴部に最大径を持つF形態の轆轤甕が認められる。

須恵器一坏は底部糸切り後未調整が主体である。蓋は破片のみ出土、壺は長胴と思われる破損品及び大口の甕が認められる。

灰釉陶器一形状の残るものは少ないが、量的には増加の傾向がある。A-1形態の高台三日月状の碗で底部へラケズリ、演じ掛けが出土している。大原2号窯式か。内面ミコミ部を除き外面全体を施釉するものが1点存在する。

Ⅶ期（10C前半）本期に比定される住居址はH6・10・11・29・34・58・65・68・73・78・88・89・91・92の14軒である。9世紀から増大し始めた住居址数がさらに増え、本遺跡において最も安定した時代といえる。

土師器一坏の底部は回転糸切り後未調整のI・I●・I●●形態、底部へラケズリのG●・G●●形態、底部が小型のJ、J●形態、丸みを持ち立ち上がり、器高が低めの、K・K●形態、器高が低めで底径の小さいI、I●形態、小型化したM形態が存在する。内面黒色処理とミガキ又は不明の比率は、ほぼ同数である。全体的に表面摩耗が激しく判別できないものも多い。形状的には底径が小型化したもの、器高が低く、丸みを持って立ち上がるものが数を増し、一部器形全体が小型化したものが含まれる。また、本遺跡で唯一黒書土器が認められる。碗の高台は1.5cm内外のA-1●・A●●・A●●●・A-2・A●及び、やや足高のB●・B●●が主体となり、足高が3割強含まれる。黒色処理は高台通常A形態で5割程度、高台足高気味のB形態は8割強となる。坏端部の形状は不明なものが多いが、素直に開くもの、外反気味に開くものが認められ、素直に開くものが優勢である。甕は口縁短く「く」の字に折れる轆轤甕が主体で、口縁に最大径を有し、立ち上がりが長めのE形態、胴部に最大径を持ち口縁の短いF形態が認められる。小型甕は口縁端部が僅かに折れるC形態が1点出土している。耳皿は本期が初現となり、褐色で側面へラ状工具による押しつけ痕を持つものと内外面黒色処理を施し、ミコミ部中央から底部穿孔の2種が認められる。

須恵器一坏は底部周辺の破片及び横から押しつぶし平面楕円形に変形した聖原遺跡における杓状坏と同形態のものが認められ、器厚は薄く焼成・作りともに雑である。高台付坏は高台周辺破片、甕は突帯を持ち、外面縄目の叩きを施す。蓋は受け部、宝珠つまみ周辺の破片、やや小型の壺破片が認められる。出土量の減少が著しい時期である。

灰釉陶器一前代に比して形状の残るものも多く、量的にも増加する。器形は漬け掛けを基本とする碗、皿で、高台三日月状で底部へラケズリのA-1形態、底部糸切りを残すA-2形態、高台内面の湾曲が直線的になったB-2形態、底部高台欠損の輪花碗が認められる。A形態は大原2号窯式、B形態は虎溪山1号窯式と思われる。

緑釉陶器一本遺跡においての初現である。外面やや濃緑色、内面部分的に施釉された破片が住居址から1

点出土している。

Ⅷ期（10C後半～11世紀初頃）本期に比定される住居址はH2・8・9・26・31東・33・37・54・60・64・76・83・89・94の14軒である。

土師器一本遺跡では、本期から中型、大型品が極端に減少し、鈍い橙色、口径11cm以内で底部から「ハ」の字状にやや丸みを持って立ち上がり小型のM形態が大半を占める。一部、I、I●、I●●形態、やや器高が低くつぶれ気味のK形態が認められる。碗は足高又は足高気味のB、B●形態、底部から「ハ」の字状に直線的に開くA-3●形態、内湾気味のA-4●形態、立ち上がり不明のA●、A●●形態、全体に厚めで身の深いC●形態が認められ、B形態が大半を占める。B形態の黒色処理は2割に満たないが、他の形態はすべて黒色処理を施す。壺は轆轤甕が主体となり、F形態で口縁部の反りが緩やかな中型品、口縁が短い「く」の字で全面調整を施すものが存在する。また灰白色で他の甕と胎上が明らかに異なるものも存在する。羽釜は口縁面取、鋳までが短く内湾気味、焼成は部分的に土師質だが一部灰色を呈し須恵器の生焼け状態のA-5形態と、雑な作りのA-3形態の2種が認められる。A-5形態は群馬産に類似する。またH31からは、土師質で外面に叩き痕を持つ器種不明の破片が多数出土している。

須恵器一外面平行、縄目、細かく格子叩き、ナデ痕を持つ甕片が認められるが破片のため伴うか不明である。前段階で消滅の可能性が考えられる。

灰釉陶器一器形は漬け掛けを基本とする碗、皿、段皿が認められる。高台の内側が直線的で底部ヘラケズリのB-1形態、糸切り痕を残すB-2形態、高台厚めで低く丸みを持ち底部ヘラケズリのC-1形態、糸切り痕を残すC-2形態が認められ、Bは虎渓山1号窯式、Cは丸石2号窯式と思われる。中には両面から漬れ気味で平面楕円状の皿が存在する。

緑釉陶器一内外面施釉された破片1点、外面明綠色、内面褐色の破片1点、内外面淡い施釉を施す碗の口縁部が1点出土している。

Ⅸ期（11C前半）本期に比定される住居址はH77・79・80の3軒である。本遺跡において遺構数及び各遺構における遺物量が前代に比して激減する時期である。

土師器一坏は認められない。碗は径9cmと小型で底部高台を含め全面黒色処理されるD●形態、高台、坏部伴に「ハ」の字状を呈し直線的なA-3形態、小型のF●形態が存在する。この他に器種不明だが内外面黒色で、花文と思われる線刻を施す破片が含まれる。羽釜は鋳が部分的な非全周でやや作りの丁寧なB-2形態、口縁欠損した鋳全周型の2種が認められる。

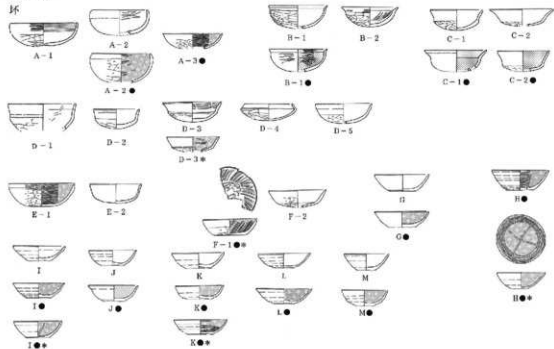
灰釉陶器一漬け掛け、高台は低く漬れ気味で糸切り痕を残すC-2形態で丸石2号窯式と思われる。

Ⅹ期（11C後半）本期に比定される住居址はH47の1軒である。

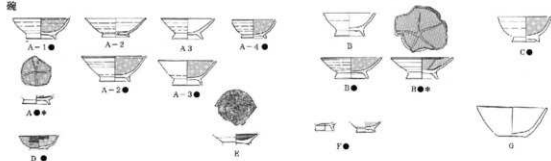
土師器一小型の食前具は破片のみで形状の残るものは認められなかった。羽釜は鋳が部分的に張り付けられる未全周のB-2形態、鋳張り出しの僅かなA-4形態、全体的に厚く鋳は大きく張り出すA-1形態の3種が認められ、いずれも粗雑な作りである。

土師器

坏



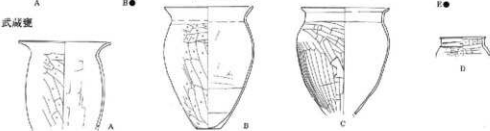
碗



高坏



武藏甕



第247图 關戸田遺跡・扇田遺跡土器分類图(1)

横輪寛



E



F-1



F-2

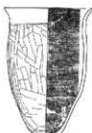


G

その他の甕



H-1



H-2



I-1



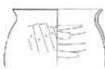
I-2



J-1



J-2



K-1



K-2



L

小型甕



A



B

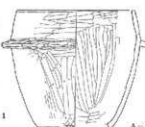


C

羽釜



A-1



A-2



A-4



B-2



A-3



A-5



B-1

甕



B



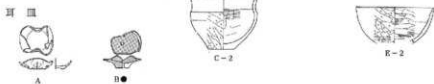
C



D

第248図 開戸田遺跡・扇田遺跡土器分類図(2)





須恵器



高台付坏



高坏



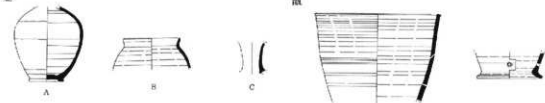
蓋



甕

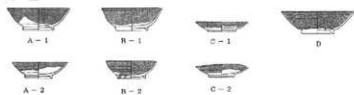


壺

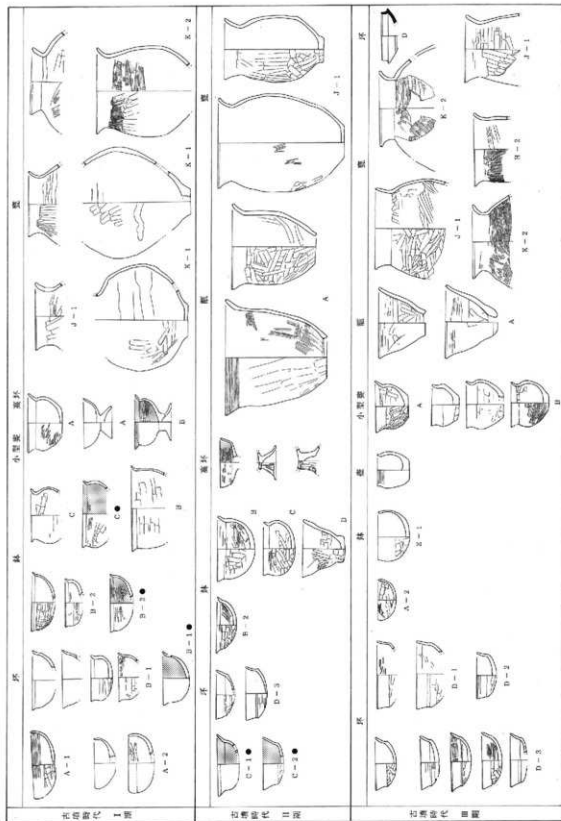


灰釉陶器

碗 皿



第249回 開戸田遺跡・扇田遺跡土器分類図(3)



第250図 岡山県産土器編年図(1)

手づくね

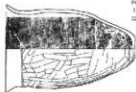
環



D-4



A



H-2

古墳時代 古銅

環

環

環

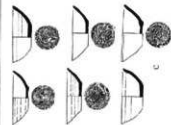
環

環

環



G



C



A-1



A-2



I



G



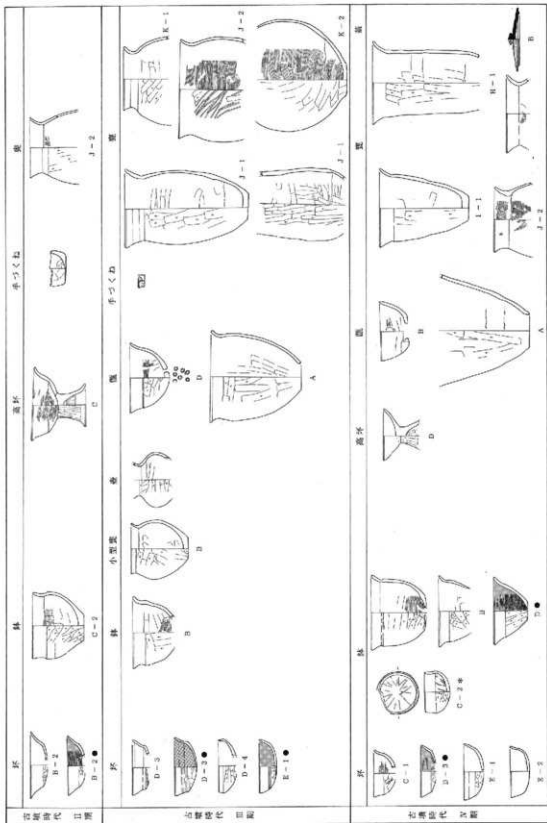
I

奈良・古墳時代 V 期

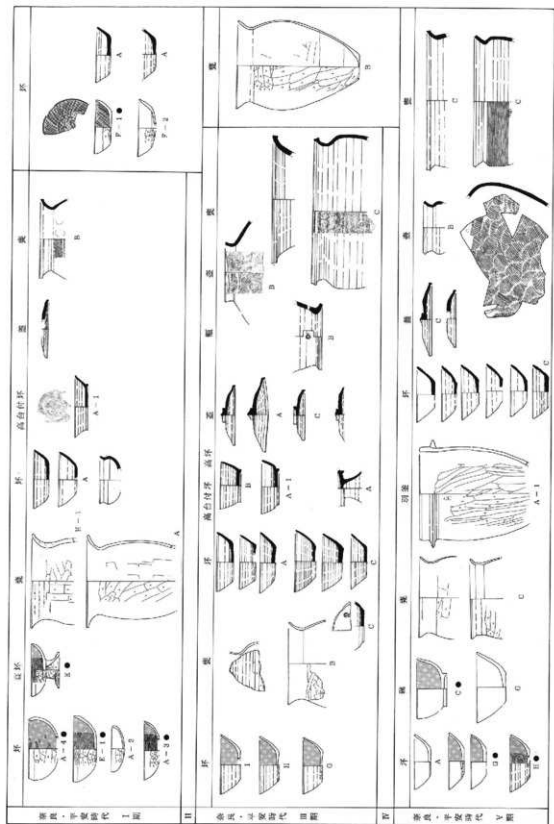
奈良・平安時代 IX・X 期



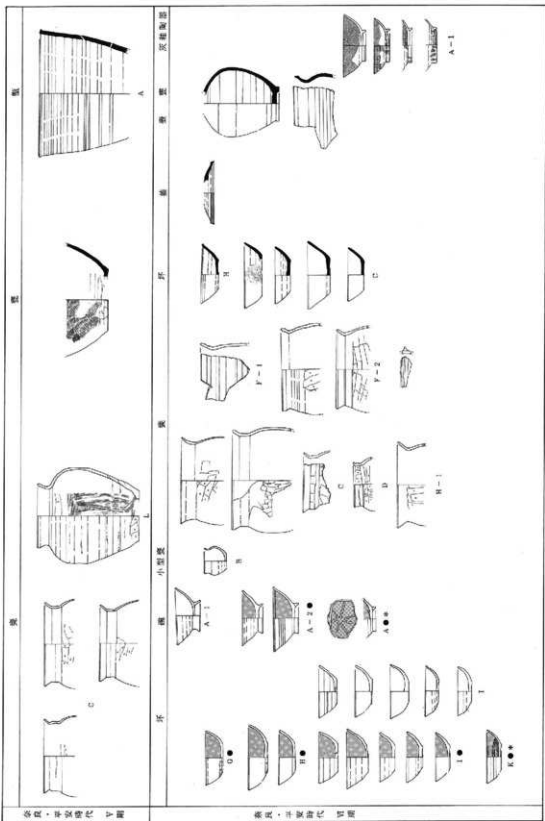
第251図 関戸山遺跡土器編年図(2)



第252図 扇田遺跡土器編年図(1)

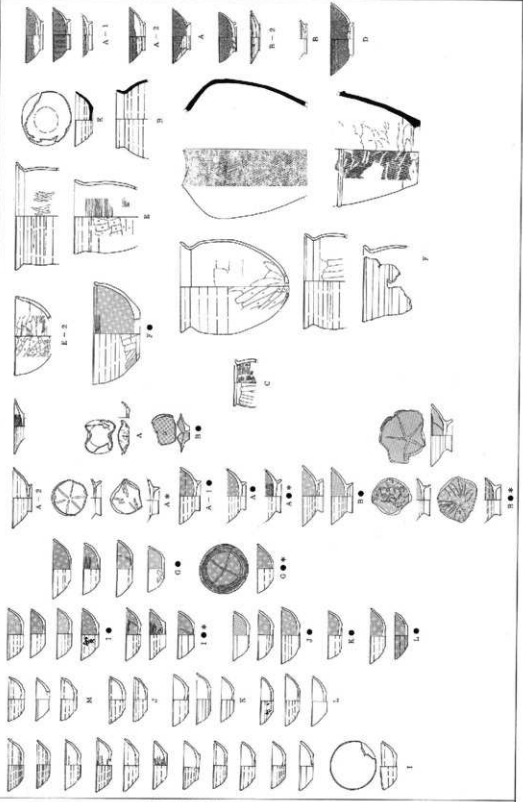


第253图 福州湖路土器编年图(2)



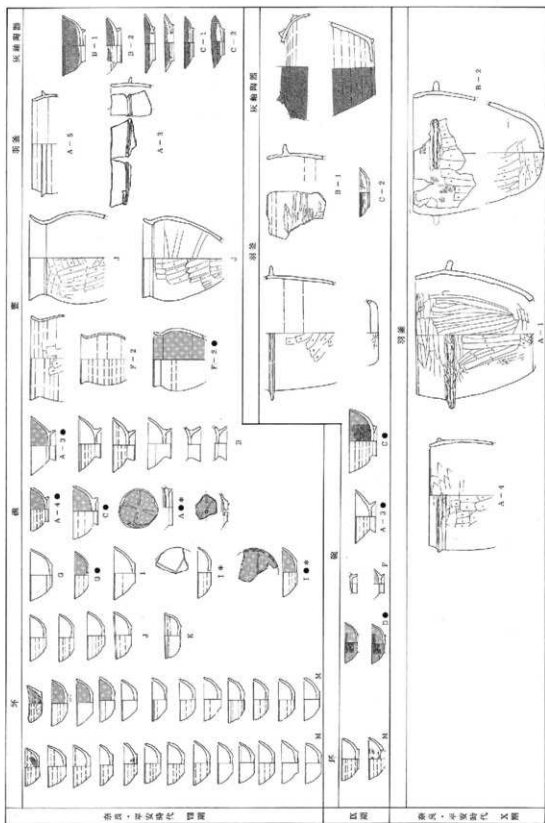
第254圖 扇田遺跡土器編年圖(3)

区、期、器



春秋・秦汉铜器图

第255图 扇出薄饼土器罐年图 (4)







開戸田遺跡周辺地形写真（西から） ●下から榑村遺跡Ⅲ・開戸田遺跡・扇田遺跡



開戸田遺跡東地区全景（東から）



開戸田遺跡東地区調査風景（西から）



開戸田遺跡西地区全景（東から）



平成15年度開戸田遺跡調査区全景（東から）



平成15年度開戸田遺跡調査風景（東から）



平成15年度開戸田遺跡調査風景（東から）



東地区表土除去作業（南西から）



西地区表土除去作業（西から）



西地区拡張作業（東から）



調査区埋め戻し作業（東から）



H1号住居址全景(西から)



H1号住居址炭化材・石材出土状況(南東から)



H1号住居址炭化材・石材出土状況(南から)



H1号住居址炭化材出土状況(西から)



H1号住居址カマド(西から)



H1号住居址カマド焚口天井石除去状態(南から)



H1号住居址炭化材・石材除去状況(西から)



H2号住居址全景(西から)



H2号住居址カマド全景 (西から)



H2号住居址カマド全景 (北西から)



H2号住居址カマド掘方 (西から)



H2号住居址掘方全景 (東から)



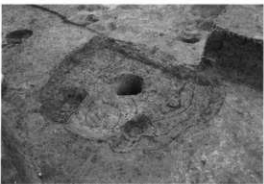
H3号住居址全景 (東から)



H3号住居址全景 (西から)



H3号住居址カマド (東から)



H3号住居址カマド掘方 (南東から)



H3号住居址遺物出土状況 (1)



H3号住居址遺物出土状況 (2)



H3号住居址掘方全景 (西から)



H4号住居址全景 (西から)



H4号住居址炭化材出土状況 (東から)



H4号住居址炭化材出土状況 (北東コーナー付近)



H4号住居址カマド (西から)



H4号住居址遺物出土状況 (カマド南袖付近)



H4号住居址カマド炭化材除去状況(南から)



H4号住居址土坑(南東コーナー付近)



H4号住居址遺物出土状況(南東コーナー土坑内)



H4号住居址掘方全景(西から)



H5号住居址全景(南西から)



H5号住居址遺物出土状況(北壁付近)



H5号住居址土坑(南東コーナー付近)



H5号住居址掘方全景(東から)



H6号住居址全景(西から)掘方調査によって東側拡大



H6号住居址遺物出土状況(1)



H6号住居址遺物出土状況(2)



H6号住居址遺物出土状況(3)



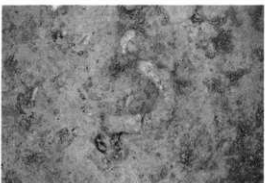
H6号住居址遺物出土状況(4)



H6号住居址遺物出土状況(5)



H6号住居址遺物出土状況(6)



H6号住居址鉄製鋤先出土状況





H6号住居址編み物石出土状況



H6号住居址掘方全景（西から）



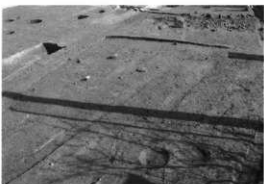
H7号住居址全景（西から）



H8号住居址全景（西から）



H8号住居址焼土範囲掘り下げ状況



H9号住居址全景（西から）



H11号住居址全景（西から）中央をH2に切られる。



H11号住居址遺物出土状況



H11号住居址掘方全景（西から）



H12号住居址全景（南から）



H13号住居址全景（南東から）



H13号住居址カマド（西から）



H13号住居址カマド全景（西から）



H13号住居址遺物出土状況 (1)



H13号住居址遺物出土状況 (2)



H13号住居址遺物出土状況 (3)



H13号住居址遺物出土状況(4)



H13号住居址掘方全景(西から)



H13号住居址掘方全景(南西から)



H14号住居址全景(西から)



H14号住居址掘方全景(南西から)



H15号住居址全景(西から)



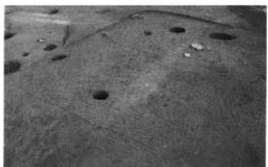
H15号住居址カマド(西から)



H15号住居址カマド掘方（西から）



H15号住居址掘方全景（西から）



H16号住居址全景（西から）



H16号住居址集石・焼土散布周辺



H16号住居址遺物出土状況（1）



H16号住居址遺物出土状況（2）北東コーナー周溝内



H16号住居址掘方全景（南から）



H17号住居址全景（西から）



H17号住居址掘方全景（西から）



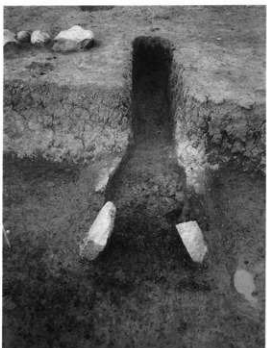
H18号住居址全景（南から）



H18号住居址カマド（南から）



H18号住居址カマド焚口周辺状況（南から）



H18号住居址カマド天井石除去状況（南から）



H18号住居址カマド掘方（南から）



H18号住居址遺物出土状況



H18号住居址掘方全景（南から）



H19号住居址全景（南から）



H19号住居址カマド（南から）



H19号住居址遺物出土状況（1）



H19号住居址遺物出土状況（2）



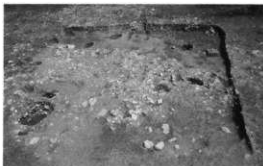
H19号住居址カマド遺物除去後全景（南から）



H19号住居址袖石材確認状況



H19号住居址カマド掘方(南から)



H19号住居址掘方全景(南から)



H20号住居址全景(東から)



H20号住居址カマド(南から)



H20号住居址カマド掘方(南から)



H20号住居址掘方全景(東から)



F1号掘立柱建物址全景(西から)



F2号掘立柱建物址全景(東から)



M1号溝跡全景（西から）



M2号溝跡全景（西から）



M3号溝跡全景（西から）



M4号溝跡全景（南から）





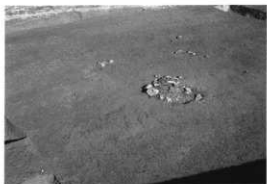
M5号溝跡・低地帯全景（東から）



M6号溝跡全景（南から）



To1号特殊遺構全景（西から）



To 1 号特殊遺構集石周辺確認状況



To 1 号特殊遺構溝部確認状況



To 1 号特殊遺構集石部確認状況



To 1 号特殊遺構集石上部堆積土除去後状況



To 1 号特殊遺構集石全景



To 1 号特殊遺構集石上部除去後状況



To 1 号特殊遺構集石中央部状況



To 1 号特殊遺構集石中央石状況



To 1 号特殊遺構中央石除去状況



To 1 号特殊遺構北側溝全景 (西から)



To 1号特殊遺構東側溝全景（南から）



To 1号特殊遺構南側溝全景（西から）



To 1号特殊遺構北側溝上部覆土内遺物出土状況



To 1号特殊遺構北側溝上部覆土内遺物出土状況



樋村遺跡Ⅲ（道路下）調査区全景（南から）



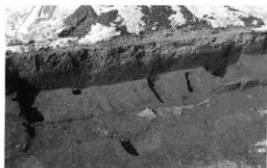
樋村遺跡Ⅲ調査風景（南から）



樋村遺跡Ⅱ平成11年度調査区（右道路下が今回調査区）



樋村遺跡Ⅱ平成12年度調査区全景（西から）



H1号住居址全景（東から）



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址掘方全景（東から）



H1号住居址平成11年度調査全景（西から）



H1号住居址平成11年度調査カマド（西から）



H1号住居址平成11年度調査区周辺写真



H25号住居址カマド（東から）



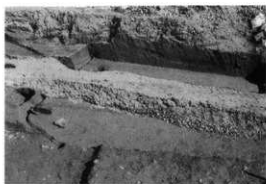
H25号住居址カマド（東から）



H25号住居址カマド堀方(西から)



H25号住居址平成11年度調査区(北から)



H31号住居址全景(西から)



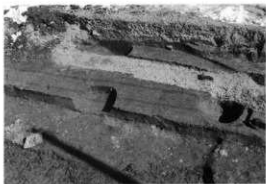
H31号住居址堀方全景(西から)



H31号住居址平成12年度調査全景(南から)



H31号住居址平成12年度調査カマド全景(南東から)



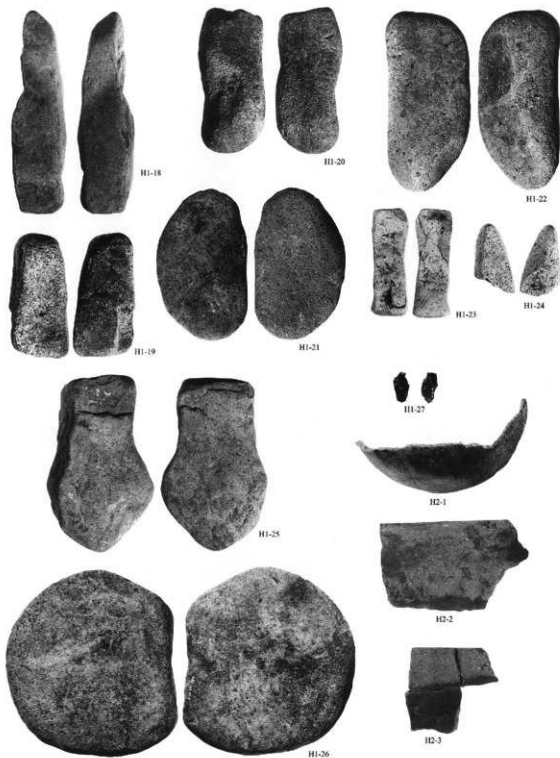
H36号住居址全景(西から)



H36号住居址堀方全景(北西から)



開戸田遺跡H1号住居址遺物

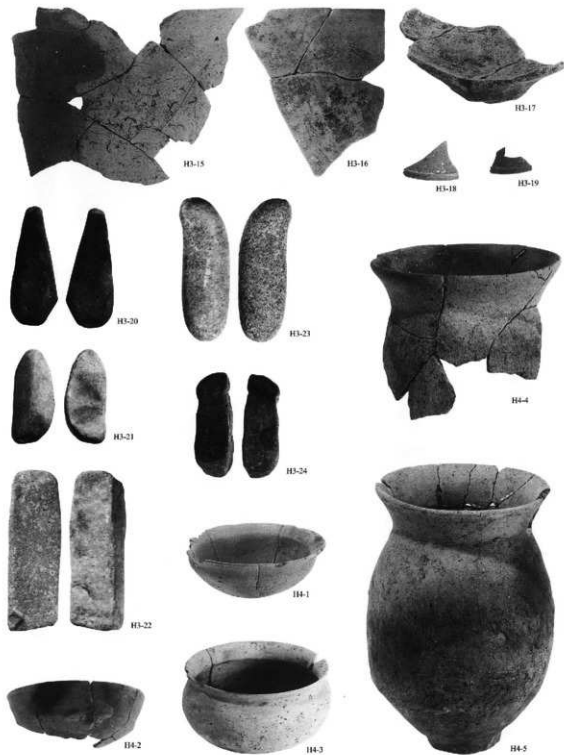


開戸田遺跡H1・2号住居址遺物

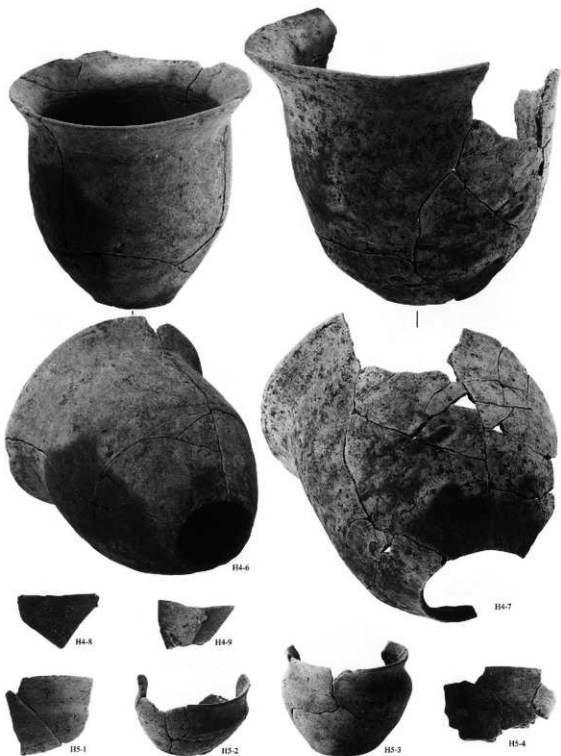




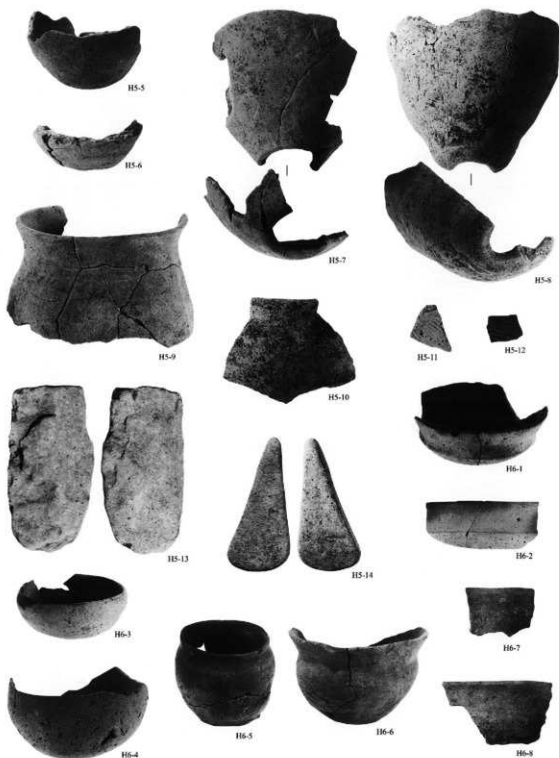
開戸田遺跡H 2・3号住居址遺物



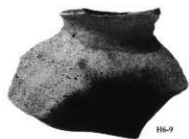
開戸田遺跡H 3・4号住居址遺物



開戸田遺跡H 4・5号住居址遺物



開戸田遺跡H 5・6号住居址遺物



H6-9



H6-10



H6-11



H6-12



H6-13



H6-14



H6-15



H6-16



H6-17



H6-18



H6-19



H6-20



H6-23



H6-21



H7-1



H7-2



H7-3



H7-4

開戸田遺跡H 6・7号住居址遺物



開戸田遺跡H7号住居址遺物



H7-18



H7-19



H7-20



H7-21



H7-22



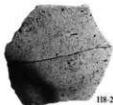
H7-23



H7-24



H8-1



H8-2



H8-3



H8-4



H8-5



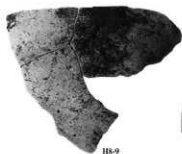
H8-6



H8-7



H8-8



H8-9



H8-10

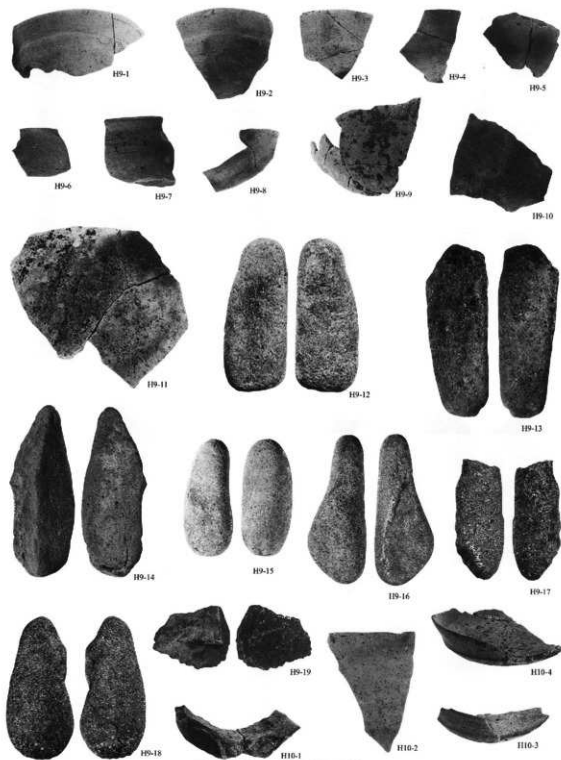


H8-11



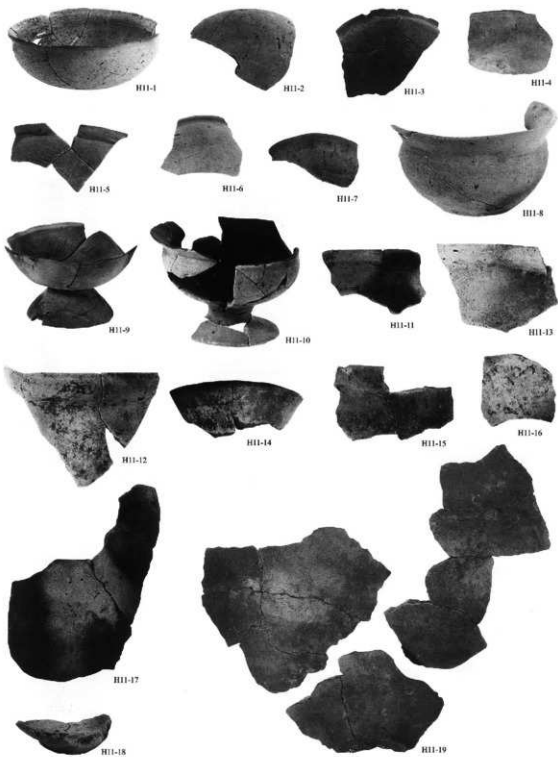
H8-12

開戸山遺跡H7・8号住居址址遺物

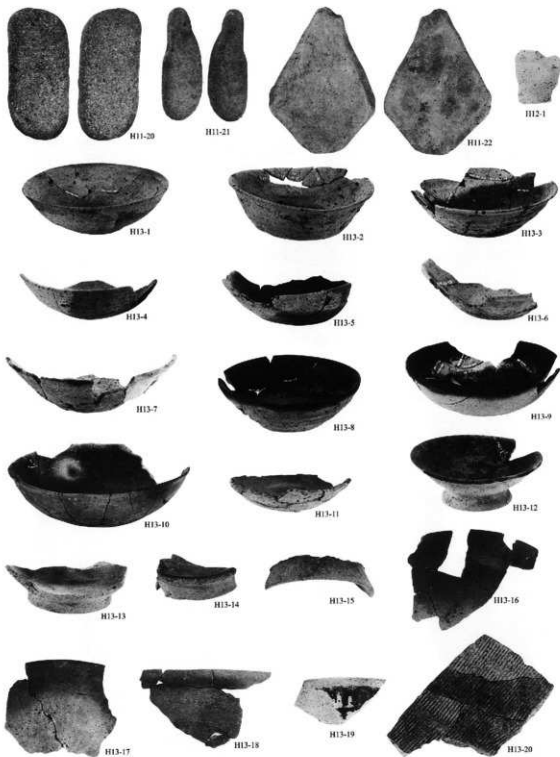


開戸田遺跡H 9・10号住居址遺物

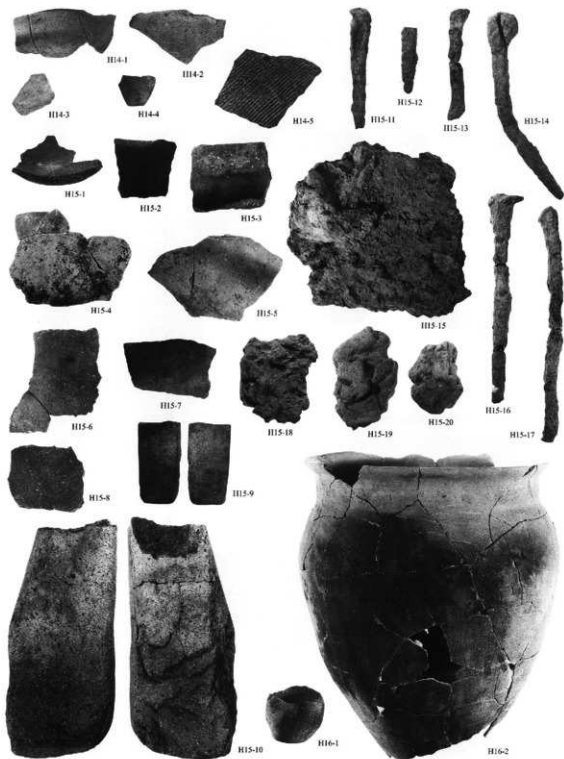




關戸遺跡H11号住居址遺物



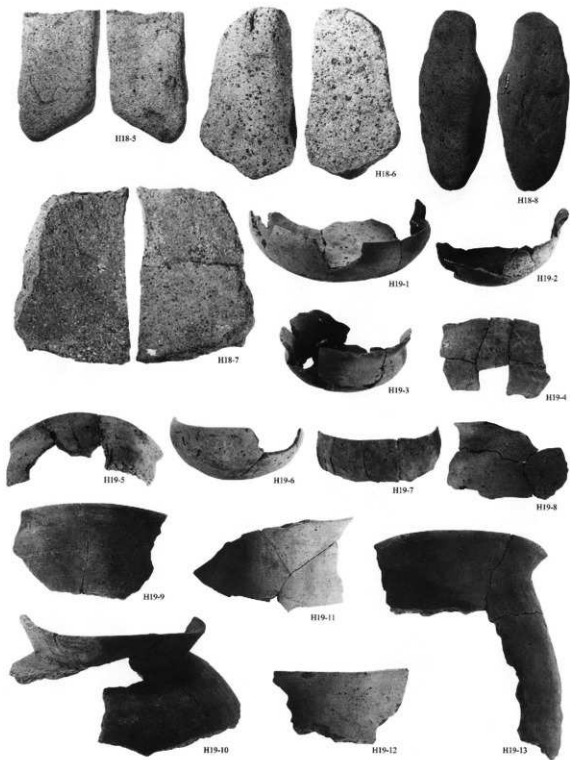
開戸田遺跡H11・12・13号住居址遺物



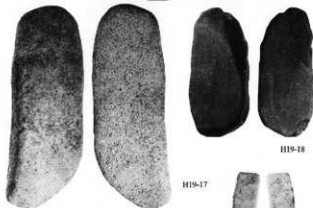
開戸出遺跡H14・15・16号住居址遺物



開戸田遺跡H16・17・18号住居址遺物



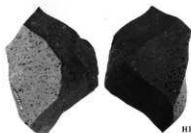
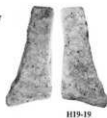
開戸田遺跡H18・19号住居址遺物



H19-18



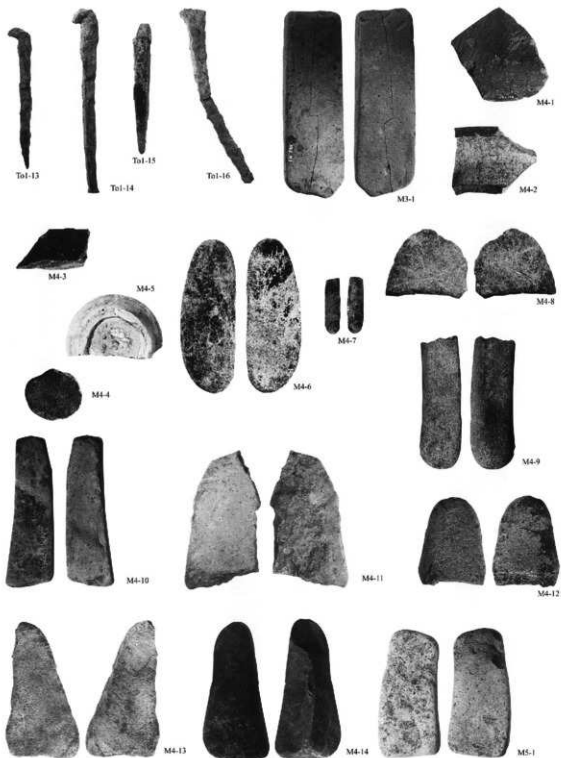
H19-22



開戸田遺跡H19号住居址遺物

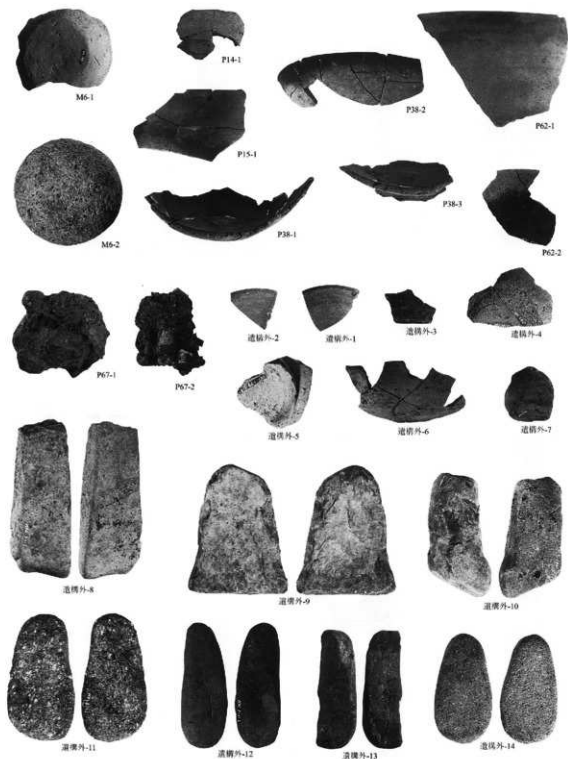


戸出遺跡H19・20号住居址・F1号掘立柱建物址・To1号特殊遺構遺物

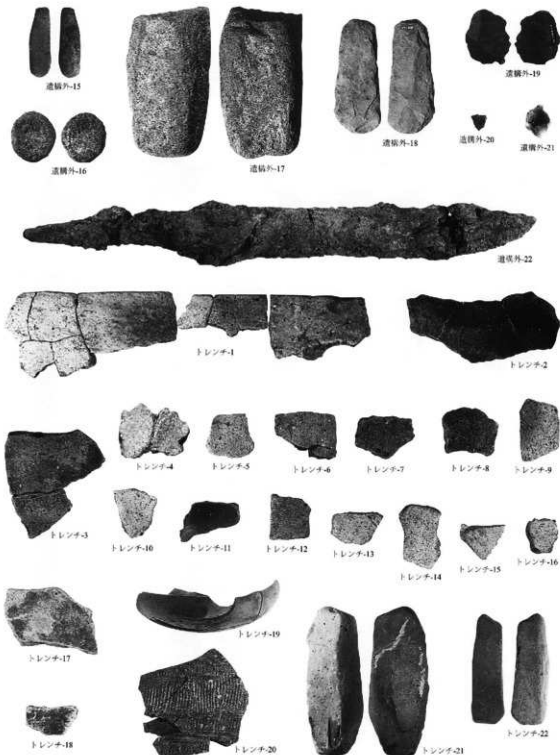


開戸田遺跡T01号特殊遺構・M3・4・5号溝跡遺物

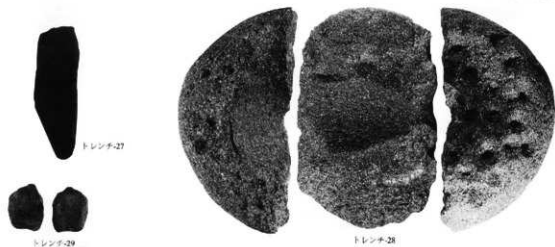




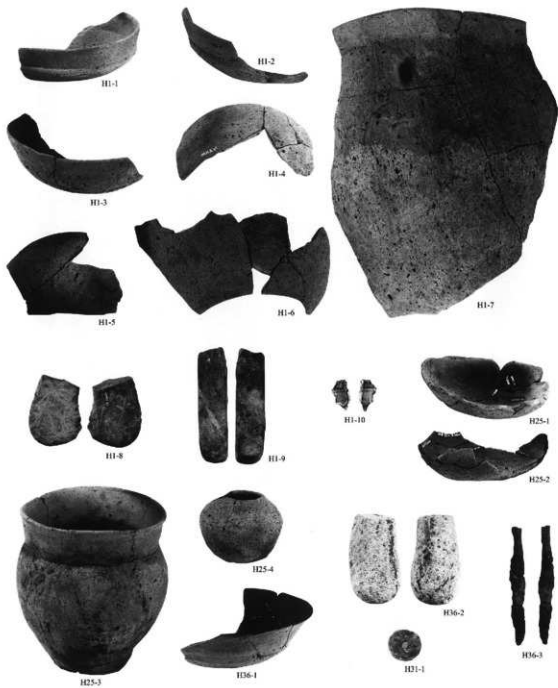
開戸田遺跡M6号溝跡・ピット・遺構外遺物



開戸田遺跡遺構外・トレンチ調査遺物



開戸田遺跡トレンチ調査遺物・開戸田遺跡玉類



樋村遺跡Ⅱ遺物



扇田遺跡西側調査区全景（西から）



扇田遺跡平成16年度調査区調査風景（西から）



扇田遺跡平成16年度調査区調査風景（西から）



扇田遺跡平成16年度調査区グリッド調査（南西から）



扇田遺跡平成16年度西側調査区表土除去作業（西から）



扇田遺跡平成16年度東側調査区全景（西から）



扇田遺跡平成16年度東側調査区調査風景（西から）



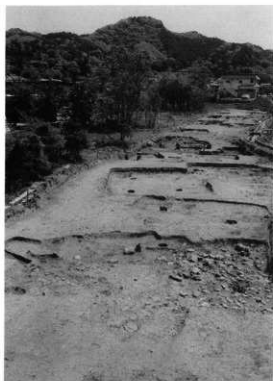
扇田遺跡平成16年度東側調査区調査風景（東から）



扇田遺跡調査区土層断面



扇田遺跡平成16年度東側調査区表土除去作業（東から）



扇田遺跡平成17年度北側調査区全景（西から）



扇田遺跡平成17年度北側調査区全景（西から）



扇田遺跡平成17年度南側調査区全景（西から）



扇田遺跡平成17年度南側調査区全景（東から）





扇田遺跡平成17年度北側調査区表土除去作業（東から）



扇田遺跡平成17年度北側調査区調査風景（東から）



扇田遺跡平成17年度南側調査区表土除去作業（西から）



扇田遺跡平成17年度南側調査区調査風景（東から）



扇田遺跡平成17年度北側調査区調査風景（西から）



扇田遺跡平成17年度南側調査区調査風景（西から）



扇田遺跡平成17年度南側調査区調査風景（東から）

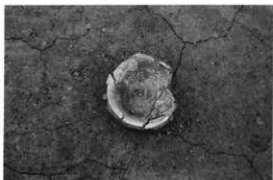




H1号住居址全景（南から）



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址カマド



H1号住居址掘方全景（南から）



H2号住居址全景（西から）



H2号住居址カマド（西から）



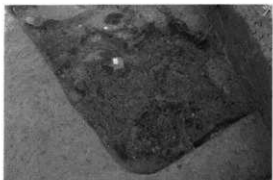
H2号住居址カマド掘方



H 2号住居址掘方全景（北から）



H 3号住居址炭化物確認状況全景（西から）



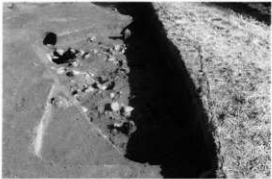
H 3号住居址北西コーナー炭化物確認状況（北西から）



H 3号住居址炭化物除去後全景（東から）



H 3号住居址カマド（南から）



H 3号住居址掘方全景（西から）



H 4号住居址全景（北東から）



H 4号住居址カマド火床全景（南東から）



H 4号住居址火床掘り下げ状況（東から）



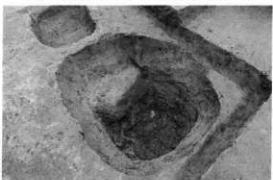
H 5号住居址全景（北西から）



H 5号住居址南壁際遺物出土状況（北から）



H 5号住居址北東コーナー土坑周辺遺物出土状況



H 5号住居址北東コーナー土坑



H 5号住居址カマド（南から）



H 5号住居址掘方全景（南西から）



H 6号住居址全景（南から）



H 6号住居址カマド (南から)



H 6号住居址カマド掘方 (南から)



H 7号住居址全景 (西から)



H 7号住居址掘方全景 (西から)



H 8号住居址全景 (西から)



H 8号住居址カマド (西から)



H 9号住居址全景 (西から)



H 9号住居址カマド (南から)



H9号住居址カマド掘方



H10号住居址全景（西から）



H10号住居址カマド（南西から）



H10号住居址カマド掘方（南から）



H10号住居址掘方全景（西から）



H11号住居址全景（西から）



H11号住居址カマド（西から）



H11号住居址遺物出土状況



H11号住居址カマド (底面還元状態)



H11号住居址カマド散乱石材除去後 (西から)



H11号住居址カマド掘方 (西から)



H11号住居址掘方全景 (南から)



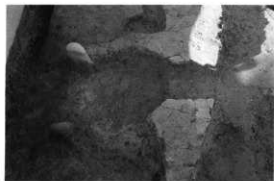
H12号住居址平成16年度調査全景 (西から)



H12号住居址平成17年度調査全景 (東から)



H12号住居址カマド (西から)



H12号住居址カマド焚口天井石除去後 (東から)



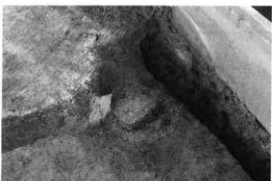
H12号住居址カマド掘方 (東から)



H12号住居址平成17年度調査掘方全景 (東から)



H13号住居址全景 (西から)



H13号住居址カマド (西から)



H13号住居址掘方全景 (西から)



H14号住居址全景 (西から)



H15号住居址全景 (南から)



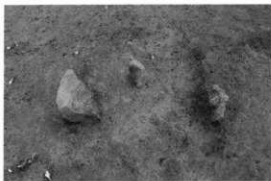
H15号住居址カマド（奥張り出し部）



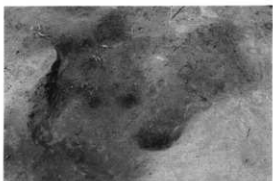
H16号住居址全景（西から）



H16号住居址カマド（南西から）



H16号住居址カマド（南から）



H16号住居址カマド掘方



H16号住居址掘方全景（北東から）



H17号住居址全景（南から）



H17号住居址掘方全景（西から）





H18号住居址全景（北西から）



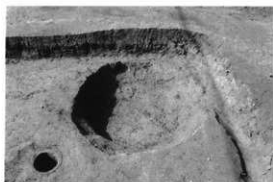
H18号住居址掘方全景（北東から）



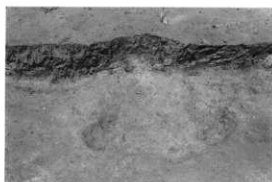
H19号住居址全景（南から）



H19号住居址カマド（南から）



H19号住居址北東コーナー土坑（南から）



H19号住居址カマド掘方（南から）



H19号住居址掘方全景（南から）



H20号住居址全景（東から）



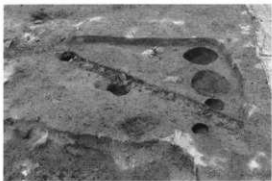
H20号住居址カマド (南から)



H20号住居址カマド掘方 (南から)



H21号住居址全景 (西から)



H21号住居址掘方全景 (東から)



H22号住居址全景 (西から)



H22号住居址カマド (南東から)



H22号住居址カマド掘方 (南から)



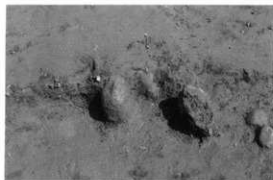
H22号住居址掘方全景 (西から)



H23号住居址全景（南から）



H24号住居址全景（南から）



H24号住居址カマド（南から）



H24号住居址遺物出土状況



H24号住居址カマド掘方（南から）



H24号住居址掘方全景（南から）



H25号住居址全景（南から）



H25号住居址遺物出土状況



H25号住居址掘方全景（南から）



H26号住居址全景（南から）



H26号住居址掘方全景（南から）



H27号住居址全景（南から）



H27号住居址カマド（南から）



H27号住居址掘方全景（南から）



H28号住居址全景（南から）



H29号住居址全景（南から）



H29号住居址遺物出土状況



H29号住居址遺物出土状況



H29号住居址遺物出土状況



H29号住居址遺物出土状況



H29号住居址掘方全景 (南から)



H30号住居址北側調査全景 (西から)



H30号住居址南側調査全景 (南から)



H30号住居址カマド (南から)



H30号住居址カマド掘方(南から)



H31号住居址全景(南から)



H31号住居址カマド(南から)



H31号住居址カマド掘方(南から)



H31号住居址掘方(南から)



H32号住居址全景(南から)



H33号住居址全景(西から)



H33号住居址掘方全景(西から)



H33号住居址遺物出土状況



H33号住居址掘方全景（西から）



H34号住居址全景（南から）



H35号住居址全景（南西から）



H35号住居址カマド（南から）



H35号住居址遺物出土状況



H35号住居址カマド掘方（南から）



H35号住居址掘方全景（南西から）



H36号住居址全景（南から）



H36号住居址北東コーナー遺物出土状況（南から）



H36号住居址掘方全景（南から）



H37号住居址全景（西から）



H37号住居址遺物出土状況



H37号住居址掘方全景（西から）



H38号住居址全景（南から）

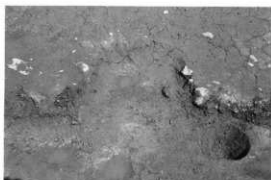


H38号住居址掘方全景（北から）





H39号住居址全景（西から）



H39号住居址カマド（南から）



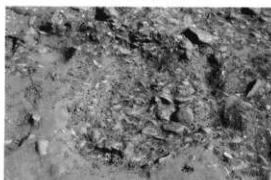
H39号住居址掘方全景（南から）



H40号住居址全景（南から）



H40号住居址カマド（南から）



H40号住居址カマド掘方（南から）



H40号住居址掘方全景（南から）



H41号住居址全景（東から）



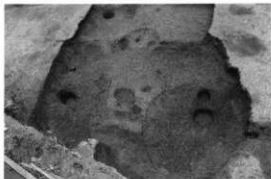
H42号住居址全景（南から）



H42号住居址カマド（南から）



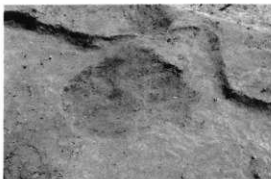
H42号住居址カマド掘方（南から）



H42号住居址掘方全景（南から）



H44号住居址全景（西から）



H44号住居址カマド（南西から）



H44号住居址掘方全景（西から）



H45号住居址全景（西から）



H45号住居址掘方全景（西から）



H46号住居址全景（南から）



H46号住居址掘方全景（南から）



H47号住居址全景（西から）



H47号住居址カマド横遺物出土状況（西から）



H47号住居址東壁カマド（西から）



H47号住居址カマド石材使用状況（西から）



H47号住居址東壁カマド掘方（西から）



H47号住居址西壁カマド (東から)



H47号住居址西壁カマド掘方 (東から)



H47号住居址掘方 (北西から)



H48号住居址全景 (南から)



H48号住居址カマド (南から)



H48号住居址カマド掘方 (南から)



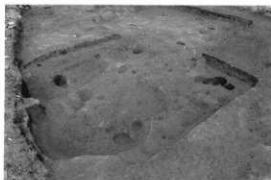
H49号住居址全景 (南西から)



H49号住居址カマド東遺物出土状況 (北東から)



H49号住居址カマド掘方(南から)



H49号住居址掘方全景(南東から)



H52号住居址全景(南西から)



H52号住居址掘方全景(南西から)



H53号住居址全景(東から)



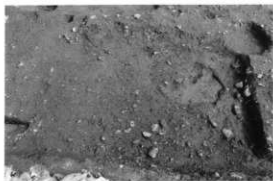
H53号住居址カマド火床(南から)



H53号住居址掘方全景(西から)



H54号住居址全景(南から)



H54号住居址掘方全景（南から）



H55号住居址全景（南から）



H55号住居址南壁際石列状況（西から）



H55号住居址カマド（南から）



H55号住居址掘方全景（南から）



H56号住居址全景（南から）



H56号住居址掘方全景（南から）



H57号住居址全景（南から）



H57号住居址床面焼土除去状況



H57号住居址掘方全景（南から）



H58号住居址全景（南から）



H58号住居址遺物出土状況



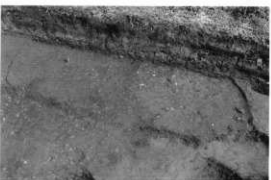
H58号住居址カマド（南から）



H58号住居址カマド掘方（南から）



H58号住居址掘方全景（南から）



H59号住居址全景（南から）



H60号住居址全景（北西から）



H60号住居址掘方全景（北西から）



H61号住居址全景（北西から）



H61号住居址掘方全景（北から）



H62号住居址全景（西から）



H62号住居址カマド（南から）



H62号住居址掘方全景（北西から）



H63号住居址全景（北西から）

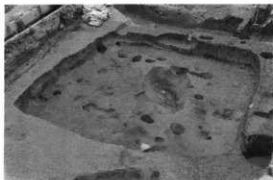




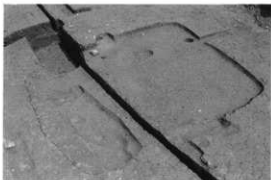
H63号住居址カマド (東から)



H63号住居址カマド掘方 (南から)



H63号住居址掘方全景 (西から)



H64号住居址全景 (北西から)



H64号住居址カマド (西から)



H64号住居址カマド掘方 (西から)



H64号住居址掘方全景 (北西から)



H65号住居址全景 (南から)



H65号住居址カマド (南から)



H65号住居址カマド掘方 (南から)



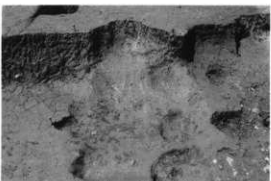
H65号住居址掘方全景 (南から)



H66号住居址全景 (西から)



H66号住居址カマド (南から)



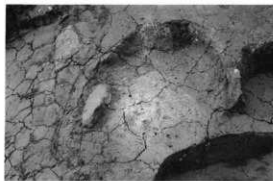
H66号住居址カマド掘方 (南から)



H68号住居址全景 (南から)



H68号住居址北西コーナー遺物出土状況



H68号住居址カマド (南から)



H68号住居址カマド掘方 (南から)



H68号住居址掘方全景 (南から)



H70号住居址全景 (西から)



H70号住居址カマド (北東から)



H70号住居址掘方全景 (南東から)



H71号住居址全景 (東から)



H71号住居址掘方全景 (南から)



H72号住居址全景 (南から)



H72号住居址掘方全景 (南から)



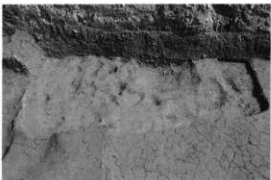
H73号住居址全景 (南から)



H73号住居址カマド (南から)



H74号住居址全景 (南から)



H74号住居址掘方全景 (南から)



H75号住居址全景 (西から)



H75号住居址カマド (南から)



H75号住居址カマド掘方(南から)



H75号住居址掘方全景(東から)



H76号住居址全景(北西から)



H76号住居址南東コーナー遺物出土状況



H76号住居址掘方全景(南から)



H77号住居址全景(南から)



H77号住居址カマド(西から)



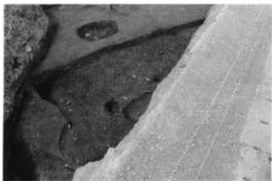
H77号住居址カマド石材除去状況(西から)



H77号住居址カマド掘方(西から)



H78号住居址全景(南から)



H78号住居址掘方全景(南から)



H79号住居址全景(北東から)



H79号住居址掘方全景(北東から)



H80号住居址全景(北東から)



H80号住居址掘方全景(北東から)



H81号住居址南側調査全景(東から)



H81号住居址全景（東から）



H83号住居址全景（北から）



H83号住居址遺物出土状況



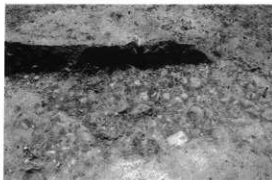
H83号住居址遺物出土状況



H83号住居址カマド（北から）



H83号住居址カマド周辺石材除去状況（北から）



H83号住居址カマド掘方（北から）



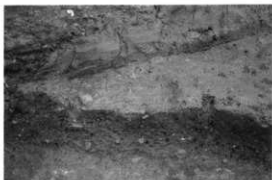
H83号住居址掘方全景（北から）



H84号住居址全景（南西から）



H84号住居址掘方全景（西から）



H85号住居址火床周辺全景（東から）



H86号住居址全景（南から）



H87号住居址全景（南から）



H88号住居址全景（南から）



H88号住居址北西コーナー遺物出土状況（南から）



H88号住居址カマド（南から）





H88号住居址カマド掘方(南から)



H88号住居址掘方全景(南から)



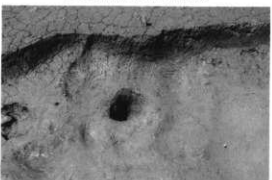
H89号住居址全景(南から)



H89号住居址遺物出土状況



H89号住居址カマド(南から)



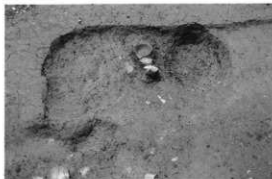
H89号住居址カマド掘方(南から)



H89号住居址掘方全景(南から)



H91号住居址全景(西から)



H91号住居址南東コーナー遺物出土状況（北から）



H91号住居址カマド（西から）



H91号住居址カマド掘方（西から）



H91号住居址掘方全景（北西から）



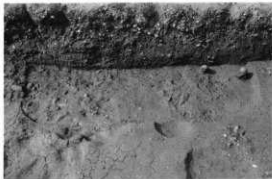
H92号住居址全景（北から）



H92号住居址掘方全景（北から）



H93号住居址全景（南から）



H94号住居址全景（南から）



H94号住居址遺物出土状況



H95号住居址全景 (南から)



H95号住居址掘方全景 (南から)



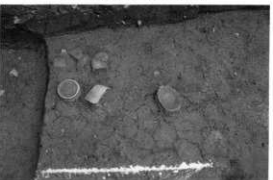
H96号住居址全景 (南から)



H97号住居址全景 (南から)



H98号住居址全景 (西から)



H98号住居址遺物出土状況 (南から)



H98号住居址掘方全景 (西から)



F 1号掘立柱建物址全景 (南から)



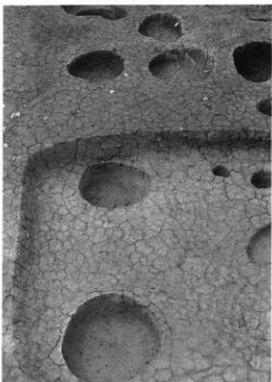
F 2号掘立柱建物址全景 (西から)



F 3号掘立柱建物址全景 (西から)



F 4号掘立柱建物址全景 (西から)



F 5号掘立柱建物址全景 (南から)



F 6号掘立柱建物址全景 (南から)



C 1号炭関連遺構全景 (西から)



C 2号鍛冶関連遺構全景 (南から)



C 3号鍛冶関連遺構全景 (東から)



C 4号鍛冶関連遺構全景 (南から)



D 1号土坑全景 (西から)



D 2号土坑全景 (西から)



D 3号土坑全景 (北西から)



D 4号土坑全景 (南から)



D5・6号土坑全景（西から）



D7号土坑全景（南から）



D8号土坑全景（北から）



D9号土坑遺物出土状況（南から）



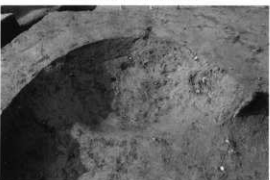
D9号土坑全景（南から）



D10号土坑全景（南から）



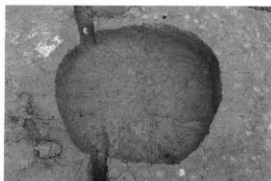
D11号土坑全景（南から）



D12号土坑全景（南から）



D13・14号土坑全景（南から）



D15号土坑全景（東から）



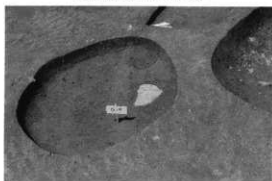
D16号土坑全景（東から）



D17号土坑全景（南から）



D18号土坑全景（南から）



D19号土坑全景（東から）



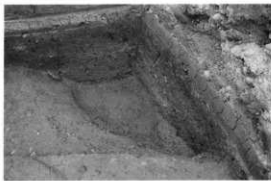
D20号土坑全景（東から）



D21号土坑全景（南西から）



D22号土坑全景（東から）



D23号土坑全景（北東から）



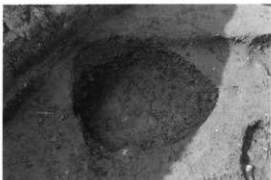
D24号土坑全景（南から）



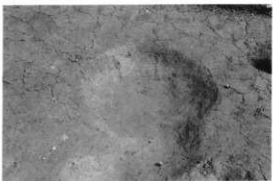
D25号土坑全景（南から）



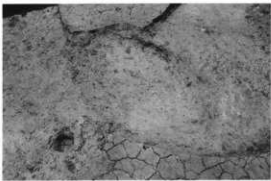
D26号土坑全景（東から）



D27号土坑全景（南から）



D28号土坑全景（南から）



D29号土坑全景（南から）





D30号土坑全景 (東から)



M1号溝跡全景 (西から)



M1号溝跡遺物出土状況 (東から)



M1号溝跡遺物出土状況



M1号溝跡遺物出土状況



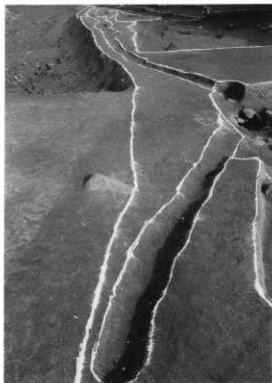
M1号溝跡遺物出土状況



M1号溝跡遺物出土状況



M1号溝跡遺物出土状況



M2号溝跡全景（西から）



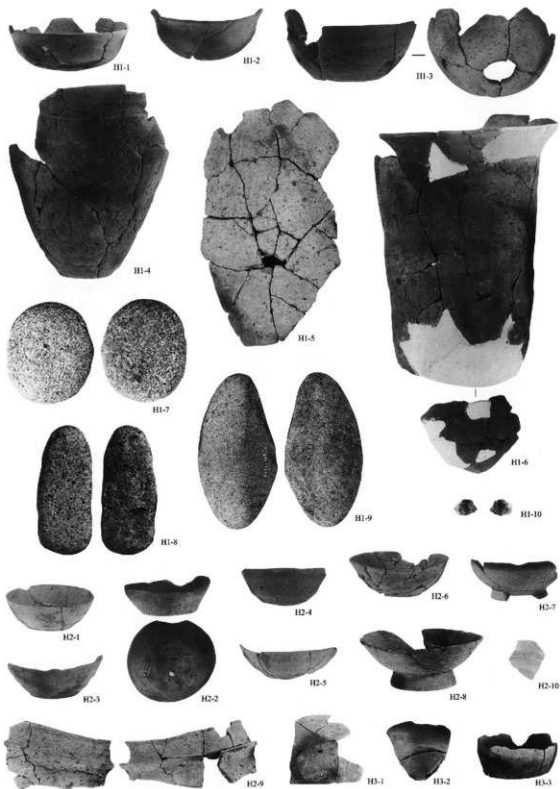
調査区東端周辺ピット群（南東から）



調査区東端周辺ピット群（南から）



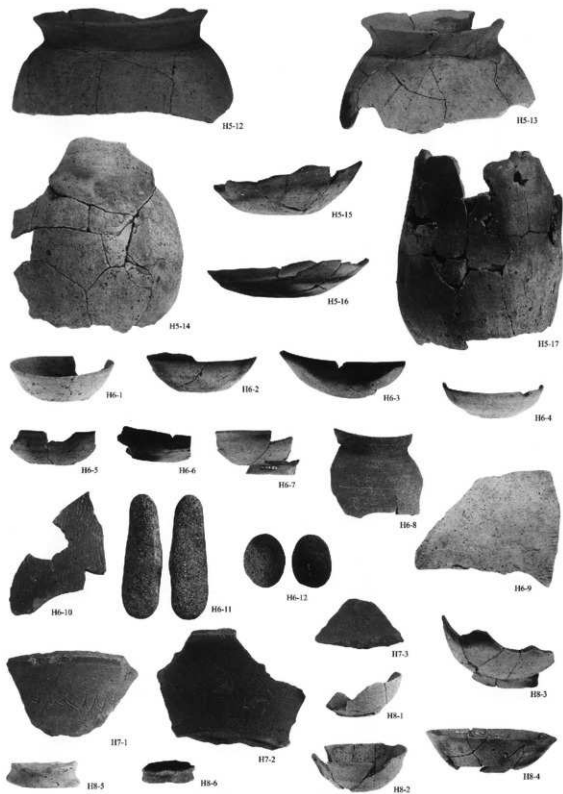
扇田遺跡工事後状況（東から）



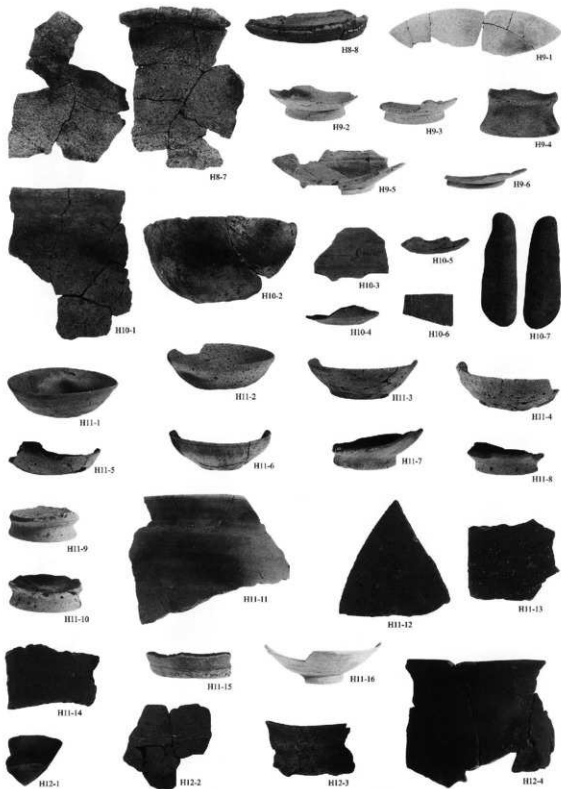
扇田遺跡H1・2・3号住居址遺物



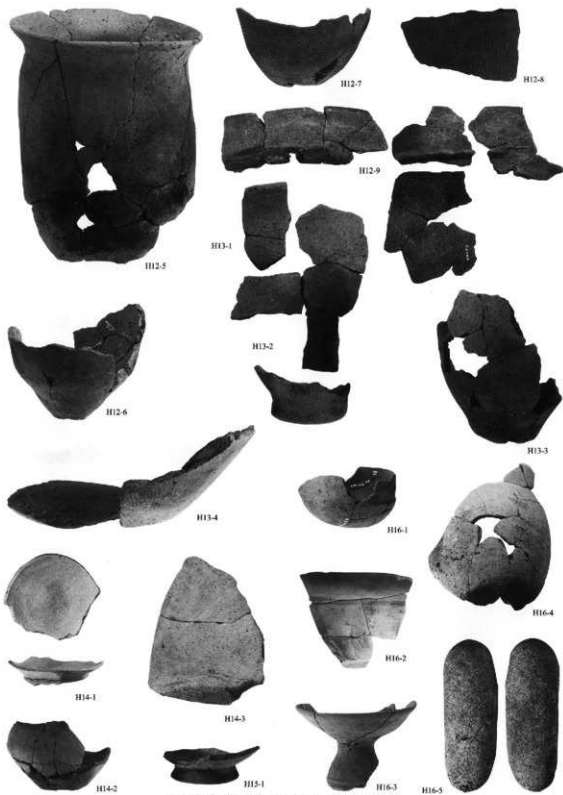
扇田遺跡H3-5号住居址遺物



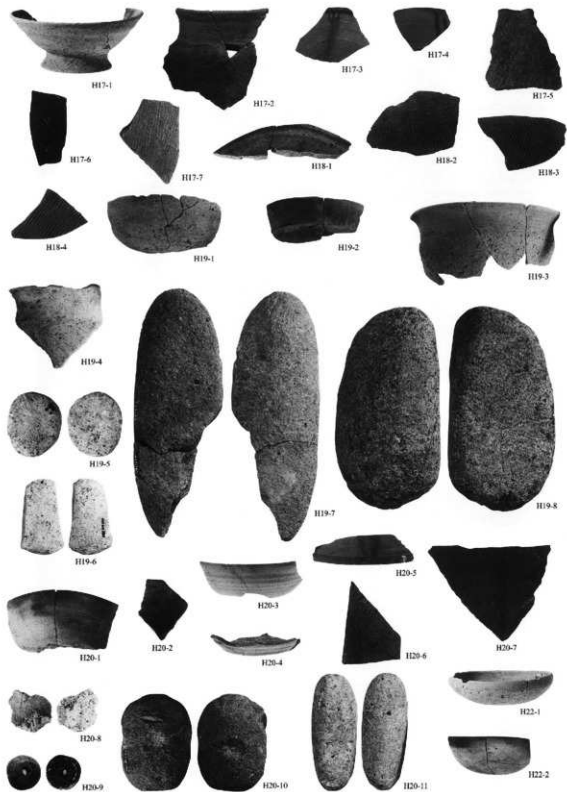
扇田遺跡H 5・6・7・8号住居址遺物



扇田遺跡H 8・9・10・11・12号住居址遺物

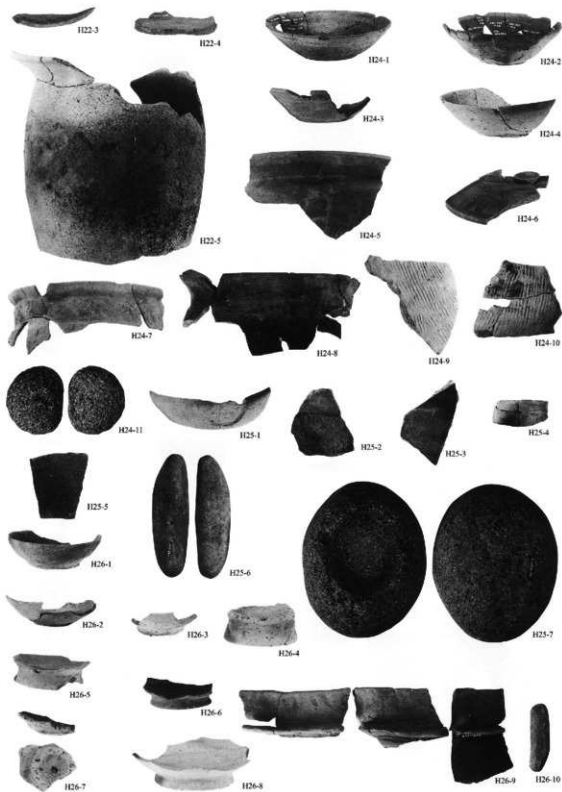


扇田遺跡H12・13・14・15・16号住居址遺物

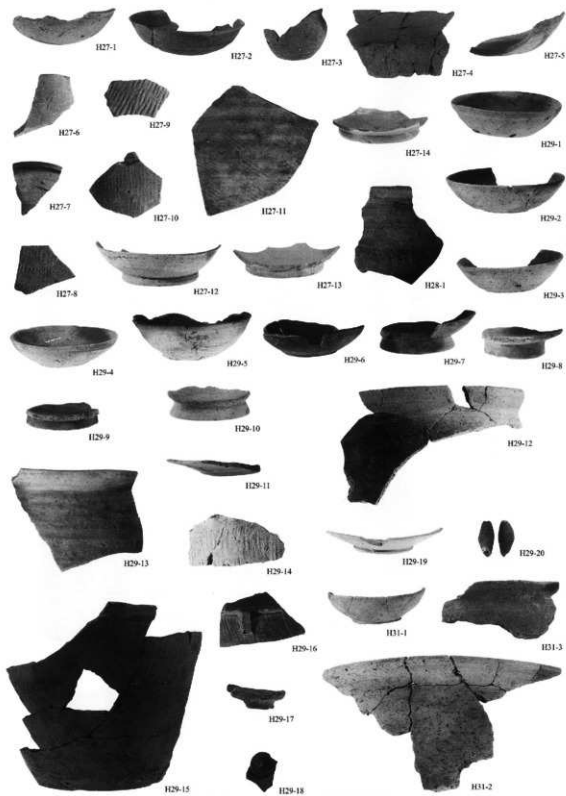


扇田遺跡H17・18・19・20・22号住居址遺物

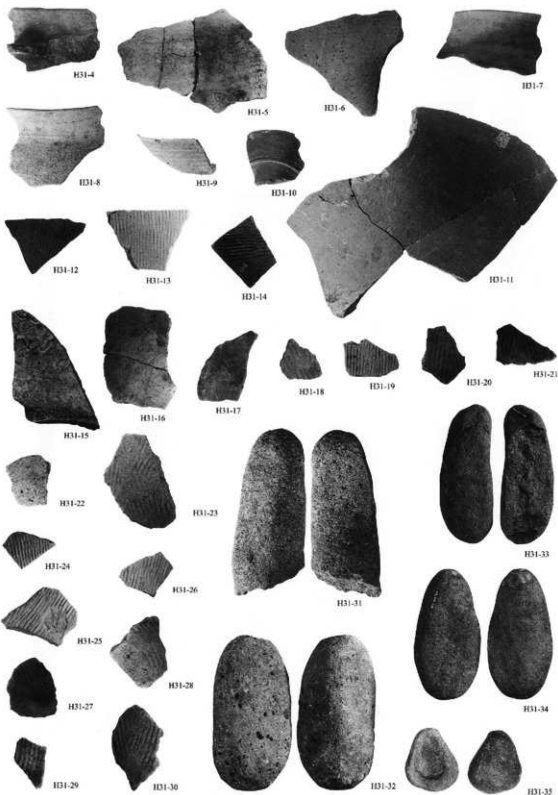




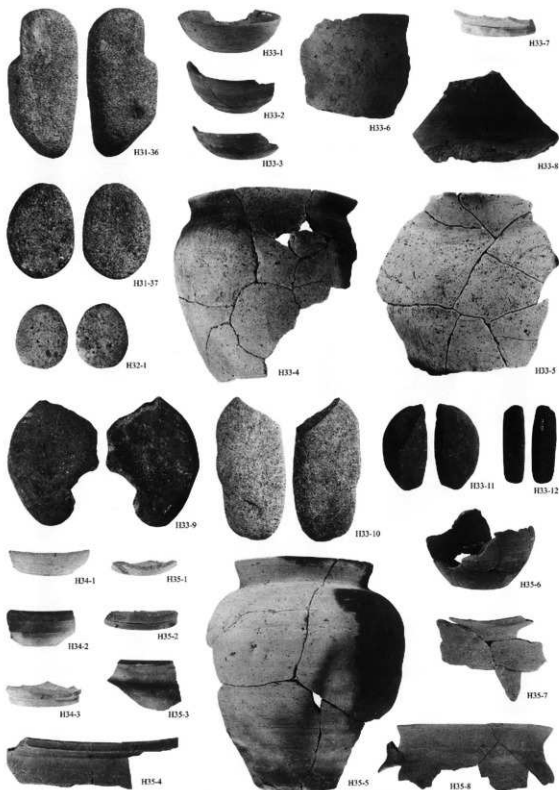
扇田遺跡H22・24・25・26号住居址遺物



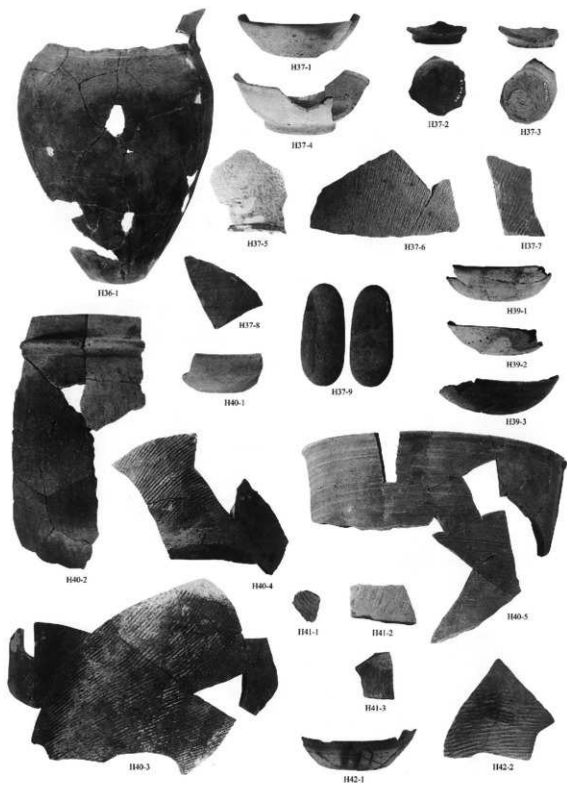
扇田遺跡H27・28・29・31号住居址遺物



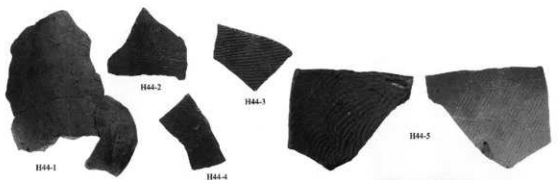
扇田遺跡H31号住居址遺物



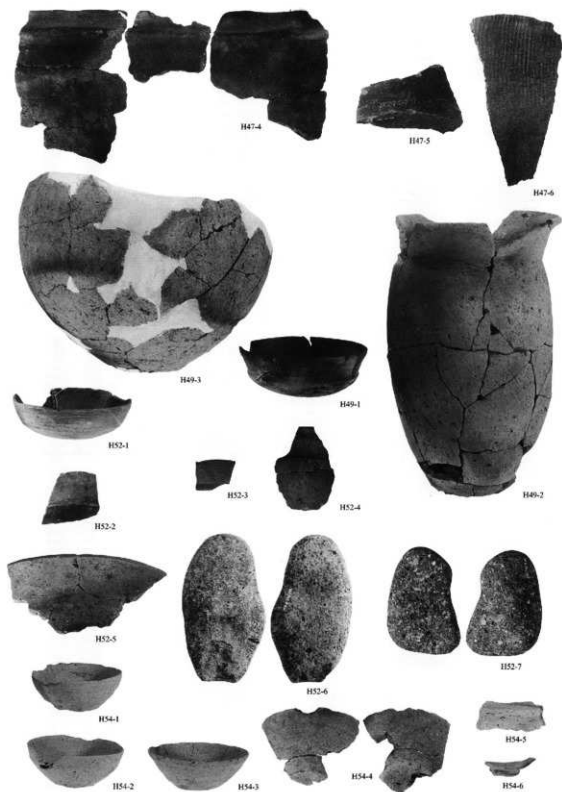
扇田遺跡H31・32・33・34・35号住居址遺物



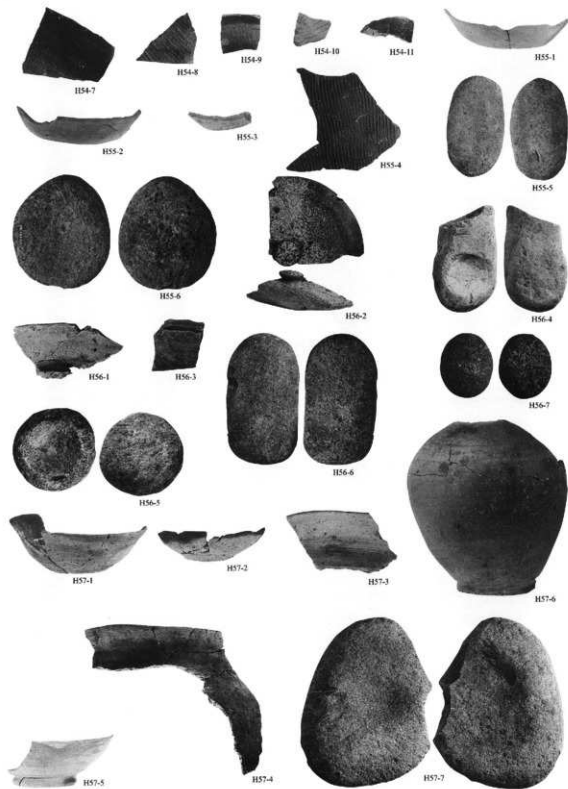
扇田遺跡 H36・37・39・40・41・42号住居址遺物



扇田遺跡H44・45・46・47号住居址遺物

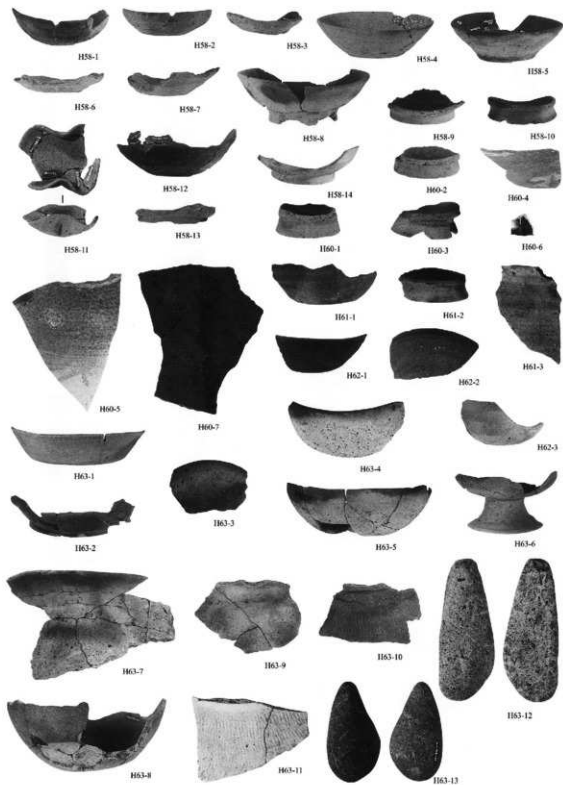


扇田遺跡H47・49・52・54号住居址遺物

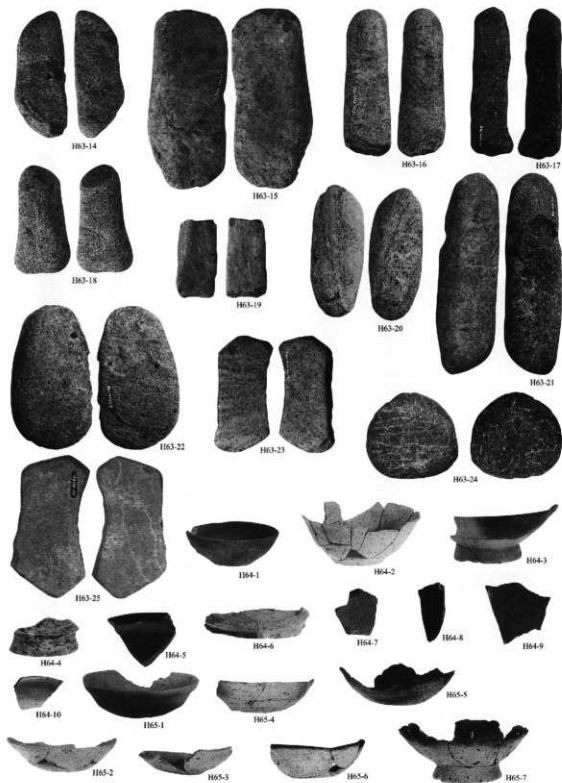


扇田遺跡H54・55・56・57号住居址遺物





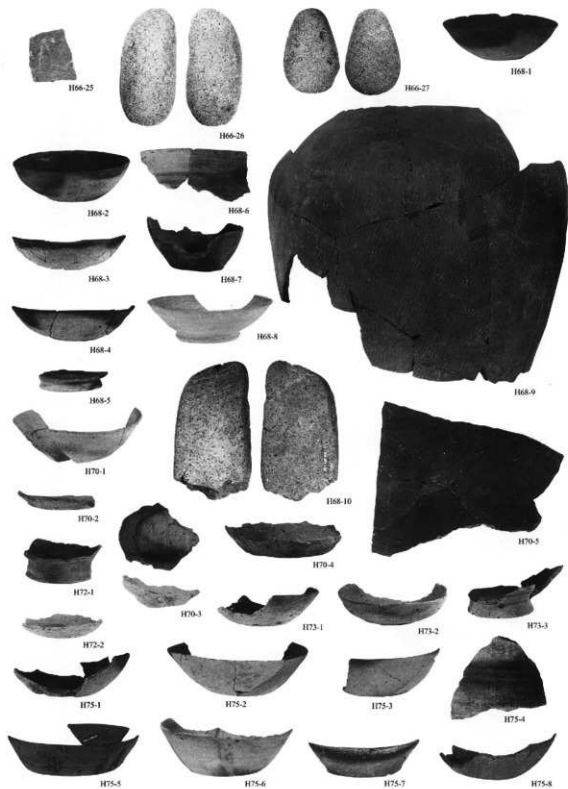
扇田遺跡H58・60・61・62・63号住居址遺物



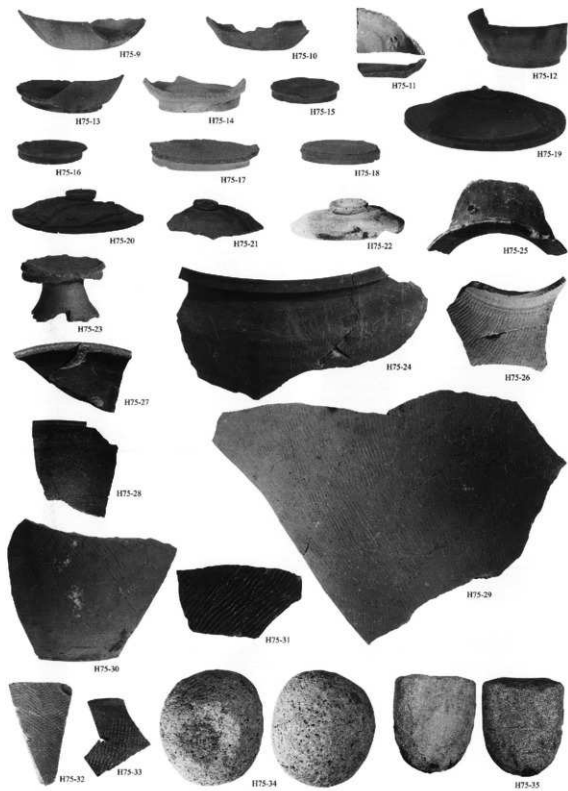
扇田遺跡H63・64・65号住居址遺物



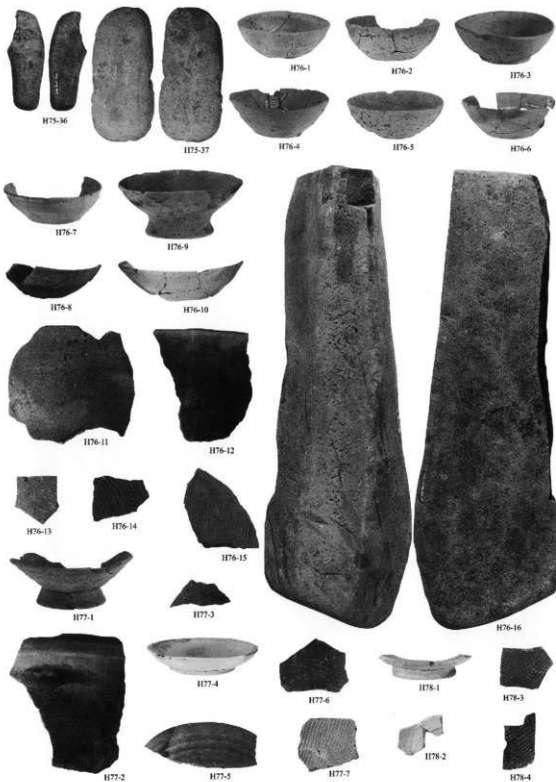
扇田遺跡H65・66号住居址遺物



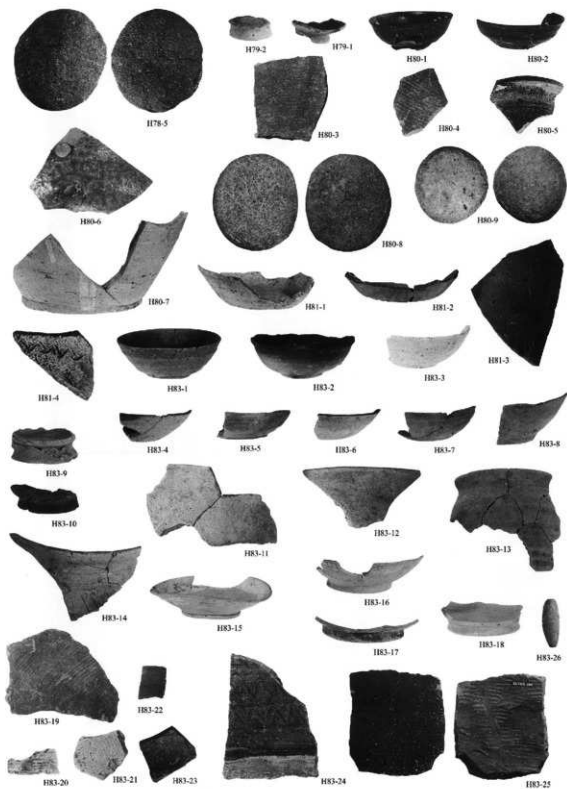
扇田遺跡H66・68・70・72・73・75号住居址遺物



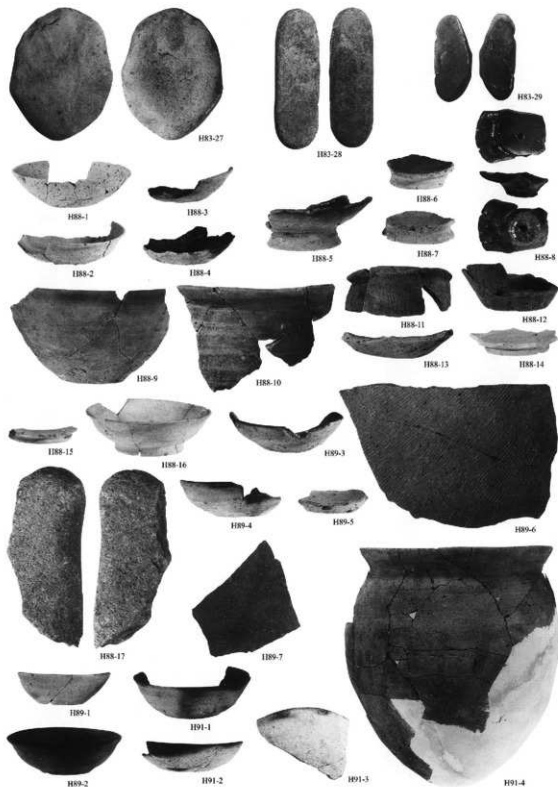
扇田遺跡H75号住居址遺物



扇田遺跡H75・76・77・78号住居址遺物

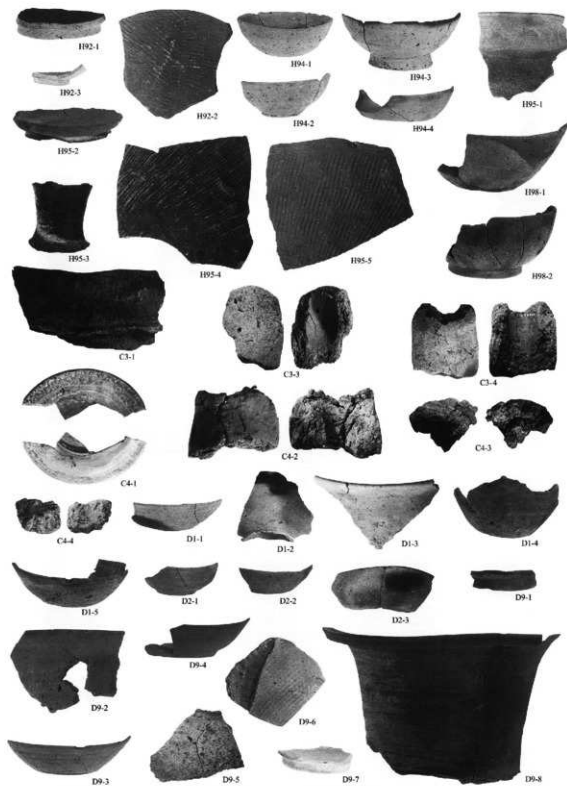


扇田遺跡H78・79・80・81・83号住居址遺物

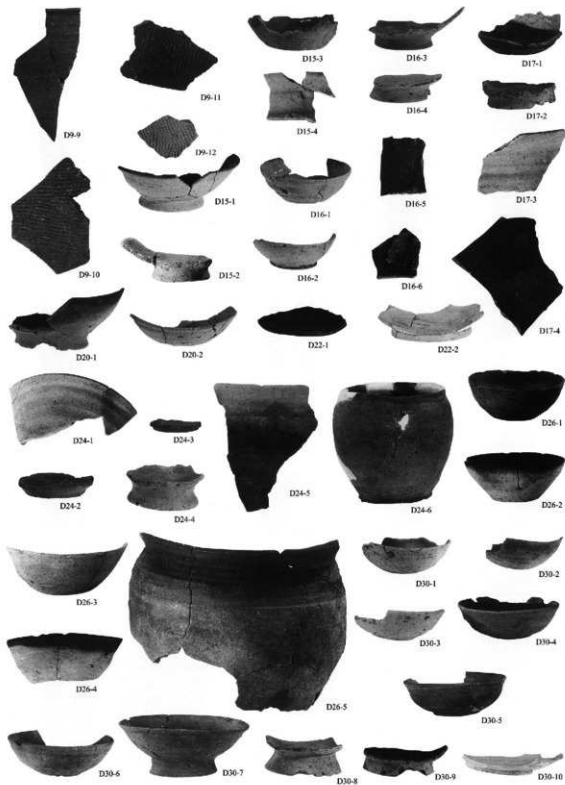


扇田遺跡H83・88・89・91号住居址遺物

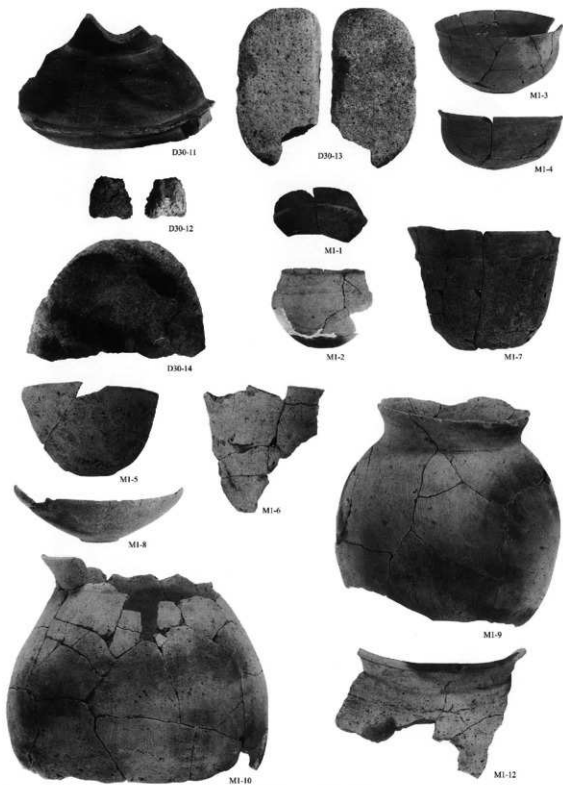




扇田遺跡H92・94・95・98号住居址・C3・4号鍛冶関連遺構・D1・2・9号土坑遺物



扇山遺跡 D 9・15・16・17・20・22・24・26・30号土坑遺物



扇田遺跡 D30号土坑、M1号溝跡遺物



MI-11



MI-14



MI-13



MI-15



MI-16



MI-17



MI-18



MI-19

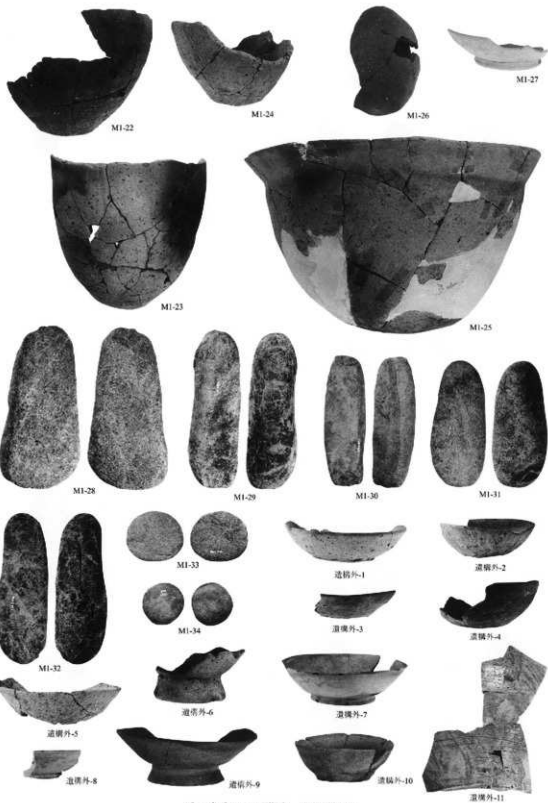


MI-21

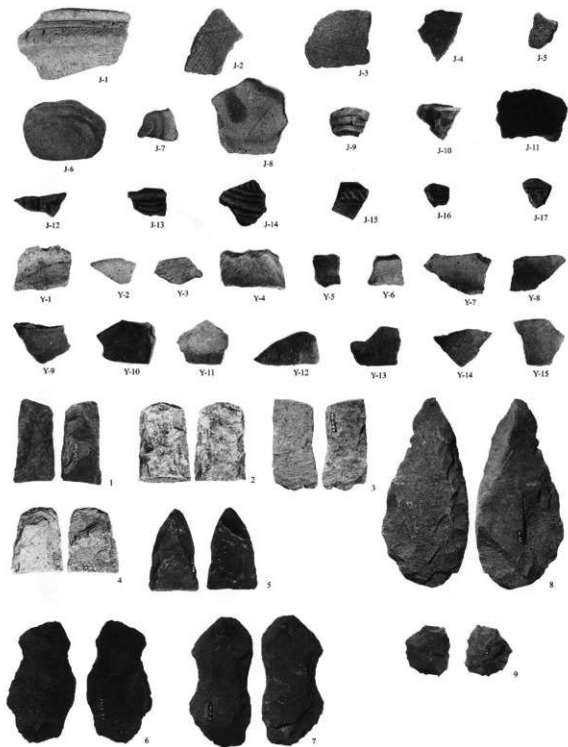


MI-20

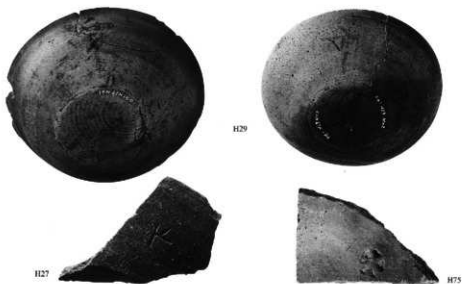
扇田遺跡M 1号溝跡遺物



扇田遺跡M1号溝跡、遺構外遺物



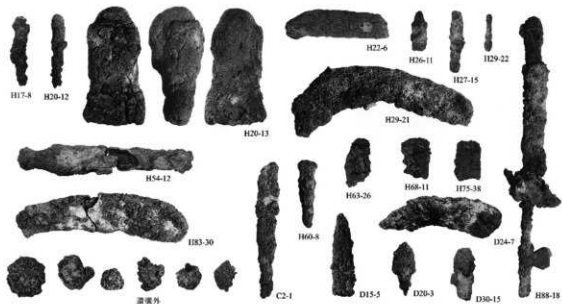
扇田遺跡縄文土器 (J)、弥生土器 (Y)、石器



扇田遺跡H29号住居址墨書土器、H27・75号住居址刻書土器



扇田遺跡玉類



扇田遺跡鉄製品



扇田遺跡C 2・3・4号鍛冶関連遺構鉄滓



扇田遺跡H20号住居址紡錘車、H29・83号住居址管状土錘



---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第135集

開戸田遺跡  
樋村遺跡Ⅲ  
扇田遺跡

2006年3月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市中込3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953  
TEL0267-68-7321

印刷所 御中信社

---

# 報告書抄録

書名	開戸田遺跡、樋村遺跡群 樋村遺跡Ⅲ、扇田遺跡
ふりがな	かいとだいせき、ひむらいせきぐんひむらいせきさん、おうぎだいせき
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第135集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2006.3.31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	開戸田遺跡 (HKI) 樋村遺跡群 樋村遺跡 (HHMⅢ) 扇田遺跡 (OGI)
遺跡所在地	開戸田遺跡—佐久市平賀340-2.3253.3247-2.3247-3.3248-2.3229.3230.3231. 3234-1.3234-2.3158-1.3954.3669-1外平賀バイパス内 樋村遺跡群 樋村遺跡Ⅲ—佐久市平賀2934-3平賀バイパス内 扇田遺跡—佐久市内山字扇田7118-2.7119-2.7120.7124.7125-2.7095-1外 平賀バイパス内
遺跡番号	開戸田遺跡 343 樋村遺跡群 樋村遺跡Ⅲ 344 扇田遺跡 371
経度	開戸田遺跡 139-49-55 樋村遺跡群 樋村遺跡Ⅲ 139-49-29 扇田遺跡 138-30-54
緯度	開戸田遺跡 36-13-47 樋村遺跡群 樋村遺跡Ⅲ 36-13-53 扇田遺跡 36-13-52
調査期間	開戸田遺跡—平成14年10月22～14年12月28日 平成15年4月1日～平成15年5月19日 樋村遺跡群 樋村遺跡Ⅲ—平成15年2月14日～平成15年2月18日 扇田遺跡—平成16年7月5日～平成16年12月17日 平成17年4月1日～平成17年6月17日
調査面積	開戸田遺跡 面的調査2900㎡ トレンチ調査2100㎡(包含層) 樋村遺跡Ⅲ 85㎡ 扇田遺跡2400㎡
調査原因 種別	道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 (国)254号 佐久市平賀バイパス 集落址
主な時代	古墳～平安時代
遺跡概要	開戸田遺跡—住居址(Ⅱ)—古墳時代15軒 平安時代5軒、 掘立柱建物址(F)—3棟 溝跡(M)、特殊遺構(TO)、ピット(P)。 樋村遺跡群 樋村遺跡—住居址(Ⅱ) 古墳時代4軒、土坑(D)—3基 扇田遺跡—住居址(H)—91軒 古墳時代14軒 奈良・平安時代66軒 不明11軒 掘立柱建物址(F)—6棟 炭・鍛冶関連遺構(C)—4基 土坑(D)—30基 ピット(P)